






安全にお使いいただくために必ずお読みください

この取扱説明書には、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本装置を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
その表示と図記号の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。
本書を紛失または損傷したときは、当社のサービス取扱所またはお買い求めになった販売店でお求めください。

本書中のマーク説明

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
 お願い	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本商品の本来の性能を発揮できなかつたり、機能停止を招く内容を示しています。
 お知らせ	この表示は、本装置を取り扱ううえでの注意事項を示しています。
 ワンポイント	この表示は、本装置を取り扱ううえで知っておくと便利な内容を示しています。

ご使用にあたってのお願い

本装置のご利用にあたって、当社のレンタル電話機がご不要となった場合は、局番なしの116番または当社の営業所等にご連絡いただければ、「機器使用料金」は、不要となります。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

ご使用の際は取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

本装置の仕様は国内向けとなっておりますので、海外ではご利用できません。

This equipment is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

本装置のTELポートはアナログ網の仕様と完全に一致していないため、接続される通信機器によっては、正常に動作しないことがあります。

本装置の故障、誤動作、不具合、あるいは停電等の外部要因によって、通信などの機会を逸したために生じた損害等の純粋経済損害につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

本装置を設置するための配線工事および修理には、工事担任者資格を必要とします。無資格者の工事は、違法となりまた事故のもととなりますので絶対におやめください。

本装置を分解したり改造したりすることは、法律で禁止されていますので絶対に行わないでください。

本書に、他社商品の記載がある場合、これは参考を目的としたものであり、記載商品の使用を強制するものではありません。

本書の内容につきましては万全を期しておりますが、お気づきの点がございましたら、当社のサービス取扱所へお申しつけください。

この取扱説明書、ハードウェア、ソフトウェアおよび外観の内容について将来予告なしに変更することがあります。

Windows® 98は、Microsoft® Windows® 98 operating systemの略です。
Windows® 95は、Microsoft® Windows® 95 operating systemの略です。
Windows NT® 4.0は、Microsoft® Windows NT® operating system Version 4.0の略です。
Windows、Windows NTは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
画面の使用に際して米国Microsoft Corporationの許諾を得ています。
AMD、AMD社ロゴマーク、ならびにその組み合わせは、Advanced MicroDevices, Inc.の商標です。
Magic Packet、PCnetはAdvanced Micro Devices, Inc.の商標です。
その他、各会社名、各製品名は各社の商標または登録商標です。
本装置にはRSA Data Security社が著作権を有しているMD5 Message-Digest Algorithmが含まれています。

Copyright に関する情報

Copyright © 1995,1996,1997, and 1998 WIDE Project.

All right reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of the project nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

安全にお使いいただくために必ずお読みください

@(#)COPYRIGHT 8.2 (Berkeley) 3/21/94

All of the documentation and software included in the 4.4BSD and 4.4BSD-Lite Releases is copyrighted by The Regents of the University of California.

Copyright 1979, 1980, 1983, 1986, 1988, 1989, 1991, 1992, 1993, 1994
The Regents of the University of California. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:
This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.
4. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The Institute of Electrical and Electronics Engineers and the American National Standards Committee X3, on Information Processing Systems have given us permission to reprint portions of their documentation.

In the following statement, the phrase "this text" refers to portions of the system documentation.

Portions of this text are reprinted and reproduced in electronic form in the second BSD Networking Software Release, from IEEE Std 1003.1-1988, IEEE Standard Portable Operating System Interface for Computer Environments (POSIX), copyright C 1988 by the Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc. In the event of any discrepancy between these versions and the original IEEE Standard, the original IEEE Standard is the referee document.

In the following statement, the phrase "This material" refers to portions of the system documentation.

This material is reproduced with permission from American National Standards Committee X3, on Information Processing Systems. Computer and Business Equipment Manufacturers Association (CBEMA), 311 First St., NW, Suite 500, Washington, DC 20001-2178. The developmental work of Programming Language C was completed by the X3J11 Technical Committee.

The views and conclusions contained in the software and documentation are those of the authors and should not be interpreted as representing official policies, either expressed or implied, of the Regents of the University of California.

警告

万一、煙が出ている、変な臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、煙が出なくなるのを確認して、当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。お客さまによる修理は危険ですから絶対におやめください。

本装置の通風孔などから内部に金属類や燃えやすい物などの、異物を差し込んだり落としたりしないでください。万一、異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、当社のサービス取扱所にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。

万一、本装置を落としたり、キャビネットを破損した場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、当社のサービス取扱所にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。

万一、内部に水などが入ったり、本装置をぬらした場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、当社のサービス取扱所にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。

本装置を分解・改造したりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。また、改造は法律で禁止されています。

本装置のキャビネットは外さないでください。感電の原因となることがあります。指定以外の内部の点検・調整・清掃・修理は、当社のサービス取扱所にご連絡ください。

発熱・発煙・異臭がする場合、そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。

本装置のそばに花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬用品や水の入った容器、または小さな金属類を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となることがあります。

ふる場や加湿器のそばなど、湿度の高いところでは設置および使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。

AC100Vの商用電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。

電源コードに傷をつけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、束ねたりしないでください。また、重い物をのせたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となることがあります。電源コードが傷んだら、電源プラグをコンセントから抜き、当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

本装置のキャビネットを構成する部品どうしの接合部には手を触れないでください。けがの原因となることがあります。

安全にお使いいただくために必ずお読みください

警告

お客様がご用意された機器を本装置に接続してお使いになる場合は、あらかじめ当社のサービス取扱所に確認してください。確認できない場合は、絶対に接続して使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。

本装置を移動させる場合は、電源プラグをコンセントから抜き、電話機コードを差込口から抜いて、外部の接続線を外したことを確認のうえ、行ってください。電源コードや電話機コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

万一、漏電した場合の感電事故防止のため、必ずアース線を取り付けてください。また、アース線をガス管に接続しないでください。爆発の原因となることがあります。

電源プラグを電源コンセント（AC100V）に差し込むときは、確実に差し込んでください。電源プラグの刃に金属などが触れると、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜くときは、必ず電源プラグの本体を持って抜いてください。電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグは、ほこりが付着していないことを確認してからコンセントに差し込んでください。また、半年から1年に1回は、電源プラグをコンセントから抜いて点検、清掃をしてください。ほこりにより火災・感電の原因となることがあります。

本装置を医療機器や高い安全性が要求される用途では使用しないでください。人が死亡または重症を負う可能性があり、社会的に大きな混乱が発生するおそれがあります。

お使いになる前に（設置環境）

注意

直射日光の当たるところや、ストーブ、ヒータなどの発熱器のそばなど、温度の高いところに置かないでください。内部の温度が上がり、火災の原因となることがあります。

調理台のそばなど油飛びや湯気が当たるような場所、ほこりの多い場所、鉄粉や有毒ガスが発生する場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。また、本装置の上にものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。

振動・衝撃の多い場所に置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。

高い信頼性を要求される、幹線通信機器や電算機システムでは使用しないでください。社会的に大きな混乱が発生するおそれがあります。

お使いのとき

注意

雷が鳴り出したら、電源コードに触れたり、周辺機器の接続をしたりしないでください。落雷により感電の原因となることがあります。

本装置や電源コードを熱器具に近づけないでください。キャビネットや電源コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

本装置の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと本装置の内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

次のような使い方はしないでください。

- じゅうたんや布団の上に置く。
- テーブルクロスなどをかける。
- 本棚、タンスの中、押入の中など風通しの悪い場所に置く。
- あおむけに置く。

長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず乾電池を抜き、電源プラグをコンセントから抜いてください。

電源コードには、延長コードは使わないでください。火災の原因となることがあります。

お手入れをするときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

乾電池は正しくお使いください。使い方を間違えると液もれや破裂することがあります。次の点にご注意ください。

- 保証期間内の単3アルカリ乾電池をお使いください。
(アルカリ以外のマンガン電池などでの動作保証はしていません。)
- 乾電池をショートさせたり、分解したりしないでください。
- 乾電池のプラス(+)、マイナス(-)の方向を確認して入れてください。
- 乾電池の液もれによる装置の故障については保証いたしかねます。
- 新しい乾電池と古い乾電池は混用しないでください。
- 使用済みの乾電池を火中に投げないでください。

本装置に乗らないでください。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。こわれてけがの原因となることがあります。

安全にお使いいただくために必ずお読みください

取り扱いについて

STOP お願い

ベンジン、シンナー、アルコールなどでふかないでください。本装置の変色や変形の原因となることがあります。汚れがひどいときは、薄い中性洗剤をつけた布をよくしぼって汚れをふき取り、やわらかい布でからぶきしてください。

落としたり、強い衝撃を与えないでください。故障の原因となることがあります。

管理者パスワードやESSIDは、必ず変更してください。

- 管理者パスワードを変更しないと、ネットワーク上の誰からでも本装置の設定を行うことができ、セキュリティの面から非常に危険です。
- ワイヤレスLAN機能のご利用にかかわらず、識別用コード（ESSID）を変更しないと、隣接した同一機種（FT3000R-ST）を使用したワイヤレスLANから、アクセスされる可能性があり、セキュリティの面から非常に危険です。

置き場所について

STOP お願い

製氷倉庫など特に温度が下がるところに置かないでください。本装置が正常に動作しないことがあります。

電気製品・AV・OA機器などの磁気を帯びているところや電磁波が発生しているところに置かないでください（電子レンジ、スピーカ、テレビ、ラジオ、蛍光灯、電気こたつ、インバータエアコン、電磁調理器など）。

- 磁気や電気雑音の影響を受けると雑音等が大きくなったり、通信ができなくなることがあります（特に電子レンジ使用時には影響を受けることがあります）。
- テレビ、ラジオなどに近いと受信障害の原因となったり、テレビ画面が乱れることがあります。
- 放送局や無線局などが近く、雑音等が大きいときは、本装置の設置場所を移動してみてください。

硫化水素が発生する場所（温泉地）などでは、本装置の寿命が短くなる場合があります。

本装置を積み重ねて使用しないでください。本装置を2台以上使用する場合、積み重ねて設置すると、故障の原因となるおそれがあります。

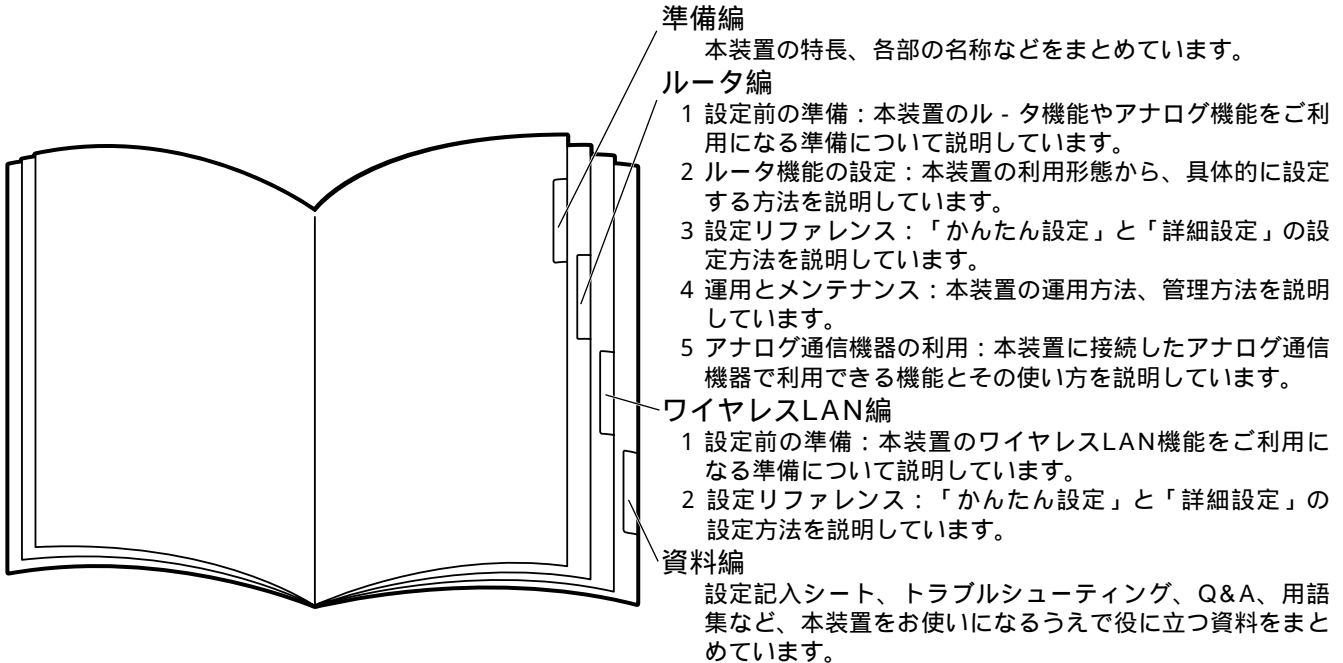
周囲の環境（壁、家具など）によって使用範囲が狭くなる場合があります。

- 本装置とFT3000R-ST（ワイヤレスLANカード）を挿入したパソコン間で通信できる範囲を確かめてください。

本装置のアンテナは床面に対して垂直に立ててください。

この取扱説明書の見方

この取扱説明書の構成



操作説明のページの構成

章タイトル

章ごとにタイトルが付けられています。

タイトル

目的ごとにタイトルが付けられています。

ワンポイント

知っておくと便利な事項、操作へのアドバイスなどの補足説明です。

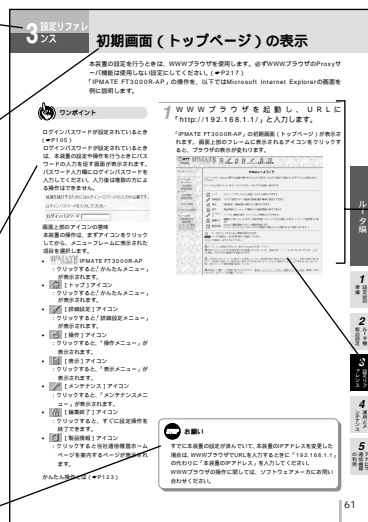
お願いまたはお知らせ

お願い

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本装置の本来の性能を発揮できなかつたり、機能停止を招く内容を示します。

お知らせ

この表示は、本装置を取り扱ううえでの注意事項を示します。



目次

安全にお使いいただくために必ずお読みください.....	2
この取扱説明書の見方	9

準備編

特長	16
各種契約の確認	20
各種回線加入契約の確認	20
インターネットサービスプロバイダ 加入契約の確認	20
セットを確認してください	21
各部の名前	22
スイッチの設定	26
S/T TERMスイッチ、DSUスイッチ、 ISDN Uスイッチ	26
10BASE-T PORT1スイッチ	26

ルータ編

1 設定前の準備

本装置を設定するまでの準備	28
必要な物品の確認	28
設定するまでの手順	29
接続します	30
接続の手順	30
接続上の注意	31
電源を入れます	32
ご使用にあたっての注意	32

2 ルータ機能の設定

利用形態を決める	33
いろいろな利用形態：設定1	34
いろいろな利用形態：設定2	35
いろいろな利用形態：設定3	36
いろいろな利用形態：設定4	38
いろいろな利用形態：設定5	39
いろいろな利用形態：設定6	41
いろいろな利用形態：設定7	42
いろいろな利用形態：設定8	45
便利な機能を設定するには	46
マルチNAT機能を設定するには	47
アクセスサーバ機能を設定するには	49
コールバック機能を設定するには	51
認証を行うには	53
IPフィルタリング機能を設定するには	55
URLフィルタ機能を設定するには	58
マルチルーティング機能を設定するには	59

3 設定リファレンス

初期画面（トップページ）の表示	61
画面の見方	62
画面の流れ	63
設定について	64
かんたん設定	65
かんたん設定の手順	65
「かんたん設定 （インターネットへISDN接続）」画面	66
「かんたん設定 （インターネットへ専用線接続）」画面	67

「かんたん設定（オフィスへISDN接続）」画面	68
「かんたん設定（オフィスへ専用線接続）」画面	69
「かんたん設定（アナログポート）」画面	70
省略値について	71
詳細設定	76
詳細設定の手順	76
詳細設定メニューでの画面の流れ	77
回線情報	78
LAN情報	80
ルーティング情報	82
相手情報	83
ネットワーク情報	85
接続先情報	89
ポートルーティング情報	92
ルーティング情報	94
IPフィルタリング情報	95
静的NAT情報	97
不特定相手情報	98
IPフィルタリング情報	100
PPP受諾認証情報	102
装置情報	103
パスワード情報	105
ProxyDNS情報	106
ホストデータベース情報	109
スケジュール情報	111
月間/週間予約	113
電話番号変更予約	114
疑似TA情報	115
アナログ共通情報	116
アナログポート1/2情報	118
発信規制情報（抑止、発信許可）	120
識別着信情報	121

目次

4 運用とメンテナンス

かんたん操作	123
回線を確認/強制終了する	124
テレホーダイ機能を利用する	125
操作メニュー	126
回線を手動で接続/切断する	127
手動でチャンネルを増加/減少させる	129
通信確認 (ping) をする	130
時刻を設定する	131
テレホーダイ機能を利用する	132
表示メニュー	134
回線接続状況	135
課金情報	136
IP統計情報	137
チャンネル統計情報	138
回線ログ	139
システムログ	140
ルーティング情報	141
現在時刻	142
経過時間情報	142
メンテナンスメニュー	143
バージョン情報	143
PPPフレームトレース	144
エラーログ情報	145
ファームウェア更新	146
オンラインサポート	147
構成定義情報	148
電話番号変更	149
疑似TA機能を使う	150

5 アナログ通信機器の利用

アナログ通信機器をお使いになるにあたって	151
スタンバイモードにする	152
電話をかけるには (発信)	153
電話を受けるには (着信)	154
登録した相手の電話番号によって	
着信時の動作を変えるには (識別着信)	155
内線でお話するには (内線通話)	157
外からの電話を取りつぐには (内線転送)	158
発信者番号通知を行うには	159
INSナンバー・ディスプレイ	
(発信者番号表示サービス)	160
グローバル着信・ダイヤルイン設定を行うには	161

i・ナンバーの設定を行うには	162
サブアドレス設定を行うには	163
接続機器設定 (TELポートのHLC設定) を 行うには	164
ダイヤル桁間タイマ設定を行うには	165
INSボイスワープ/INSボイスワープセレクトを 利用するには	166
フレックスホンサービスを利用するには	167
通話中にかかってきた電話を受ける (INSキャッチホン)	167
3人でお話する (三者通話)	168
通話中に転送する (通信中転送)	169
外の相手の方からの着信を登録した 別の電話番号に転送する (着信転送)	170
リバースパルス送出を行うには	171
電話機を利用して設定を変更するには	172
外線 (ISDN機器) から設定を変更するには	
(無課金)	174
設定変更用暗証番号を設定する	174
外線 (ISDN機器) から設定を変更する	175
疑似フレックスホンを利用するには	176
通話中にかかってきた電話を受ける (疑似キャッチホン)	176
3人でお話する (疑似三者通話)	177
通話中に転送する (疑似通信中転送)	178
外の相手の方からの着信を登録した 別の電話番号に転送する (疑似着信転送)	179

ワイヤレスLAN編

1 設定前の準備

ワイヤレスLANとは	182
このような方や場所にお勧めです	182
通信距離について	183
パソコンをワイヤレスLANでつなぐ	184
ワイヤレスLANを利用するまでの手順	184
FT-3000R-STをパソコンに挿入する	184
パソコンを設定する	185
ネットワークの設定を行う	187

2 設定リファレンス

かんたん設定	190
FT3000R-APの設定 （識別用コード（ESSID）の設定）	190
「かんたん設定」で設定する （ワイヤレスLAN設定）	190
FT3000R-STの設定 （識別用コード（ESSID）を FT3000R-APと合わせる）	191
詳細設定	192
セキュリティ情報設定	192
ワイヤレスLANのエリアを拡張する	193

目次

資料編

設定記入シート（ルータ機能の設定）	196	本装置を壁に取り付ける	228
設定記入シート（TELポートの設定）	198	機器の接続	229
設定記入シート（ワイヤレスLANの設定）	200	本装置のDSUを使用して	
トラブルシューティング（共通機能編）	201	ISDN機器を接続する	229
起動時のトラブル	201	本装置を既設のDSUに接続する	231
回線接続時のトラブル	201	添付CD-ROMの内容について	233
トラブルシューティング（ルータ機能編）	202	用語集	234
回線接続時のトラブル	202	索引	240
IPルータ中継時のトラブル	203	仕様/保守サービスのご案内	244
URLフィルタ機能に関するトラブル	203		
MP機能に関するトラブル	204		
WWWブラウザに関するトラブル	205		
pingに関するトラブル	205		
その他のトラブル	206		
トラブルシューティング			
（ワイヤレスLAN機能編）	207		
ワイヤレスLAN利用時のトラブル	207		
トラブルシューティング			
（アナログ通信機器編）	208		
アナログ通信機器利用時のトラブル	208		
Q&A	209		
ルータ機能	212		
本装置の各種インタフェースについて	212		
ログ情報について	213		
本装置の設定について	213		
WWWブラウザの使用について	217		
パソコンについて	218		
本装置がサポートする機能について	218		
NAT（マルチNAT）について	219		
ネットワーク構成について	220		
セキュリティについて	221		
その他	223		
疑似TAについて	224		
ワイヤレスLAN機能	225		
本装置がサポートする機能について	225		
本装置の設置について	226		
パソコンについて	226		
セキュリティについて	226		
その他	227		
アナログ機能	227		
本装置の各種インタフェースについて	227		
お買い求め時の設定に戻すには /			
付属品・オプションをご利用になるには	228		
お買い求め時の設定に戻す	228		

準備編

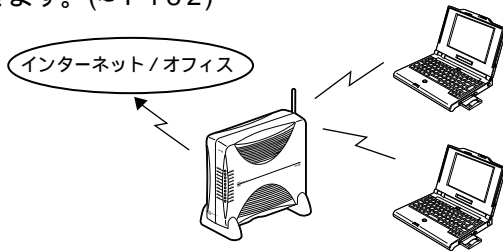
本装置の特長や各部の名称など、ご使用になる前に知っておいていただきたいことをまとめています。必ずお読みください。

特長

IPMATE FT3000R-APは、ISDNルータ、ワイヤレスLANアクセスポイント、HUB、TELポートの機能を備えたオール・イン・ワンのワイヤレスLANルータです。INSネット64回線や高速デジタル専用線（インタフェース64 kbit/s、128 kbit/s）などを利用して、インターネットサービスプロバイダとの接続やLANの相互接続が可能です。

ワイヤレスLANの構築が簡単

FT3000R-ST（ワイヤレスLANカード）を使って、LAN配線不要の快適なワイヤレスLANを構築できます。（☛P182）



- 無線伝送スピード：最大2 Mbit/s
- FT3000R-ST（ワイヤレスLANカード）登録数：最大64台（推奨10台以下）/本装置1台につき

ルータ機能とワイヤレスLANアクセスポイント機能を搭載

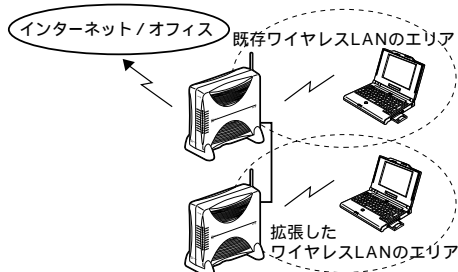
1台でルータ機能とワイヤレスLANアクセスポイント機能を搭載。イントラネットやSOHO、モバイルネットワークを強力にバックアップします。

IPMATE FT3000R-AP

ルータ機能	ワイヤレスLAN アクセスポイント機能
-------	------------------------

ワイヤレスLANエリアを拡張

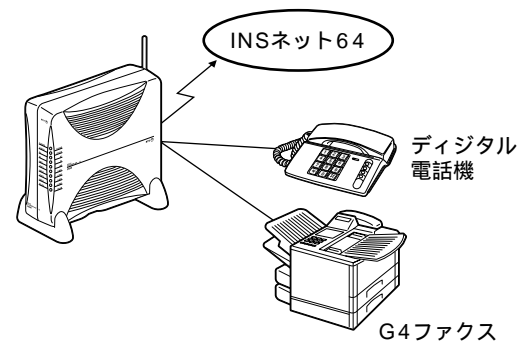
本装置を既存のワイヤレスLAN（同一機種）に追加してワイヤレスLANのエリア（無線通信ができる範囲）を拡張できます。



- ワイヤレスLANのエリアを移動しても、FT3000R-ST側のパソコンの設定を変更せずにご利用いただけます。（ローミング）

INSネット64用通信機器を7台まで接続可能

INSネット64に対応したINSネット64用通信機器を接続できます。（☛P31、230）



DSU内蔵でINSネット64に簡単接続

本装置にはDSUを内蔵しているので、別途DSUを用意する必要がありません。また、スイッチの設定でDSUを切り離して、既設のDSUに本装置を接続することも可能です。（☛P26）

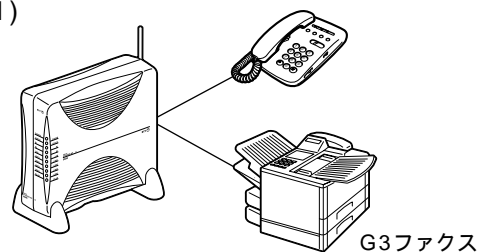
IPMATE FT3000R-AP

↑
DSUを内蔵

アナログ通信機器を2台まで接続可能

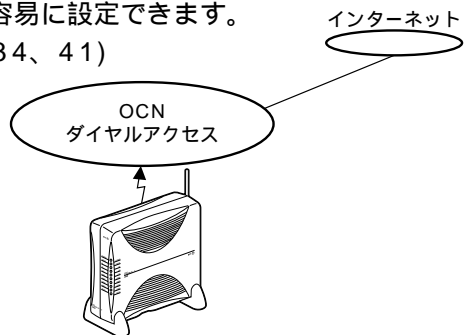
電話機やファクスなどのアナログ通信機器を、2台まで接続できます。また、接続したアナログ通信機器間で内線通話や内線転送が可能です。

（☛P31）



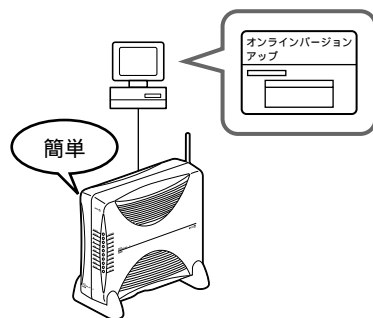
OCNダイヤルアクセス/OCNエコノミーやインターネットサービスプロバイダへの接続が簡単

INSネット64を利用して、OCN(Open Computer Network)ダイヤルアクセスやインターネットサービスプロバイダに接続するときは、容易に設定できます。
(●P34、41)



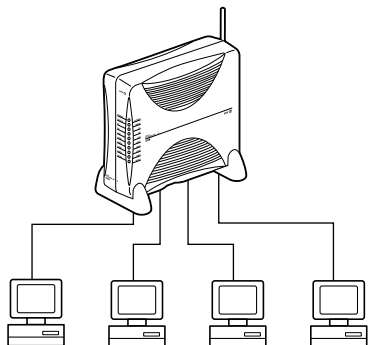
簡単バージョンアップ

WWWブラウザを使って、簡単にファームウェアのバージョンアップを行うことができます。



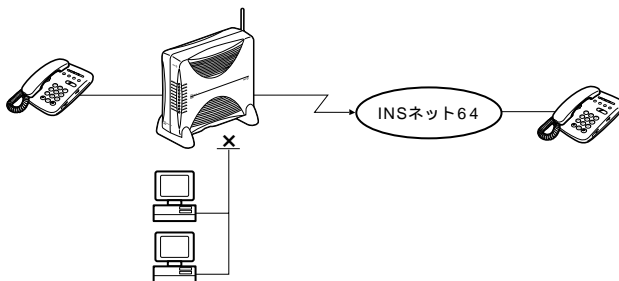
HUB内蔵で有線LAN機器を4台まで直接接続可能

本装置にはHUBを内蔵しているので、有線LAN機器を4台まで直接接続できます。



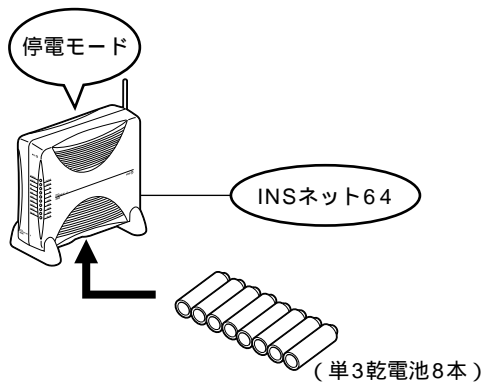
スタンバイモード

データ通信を行わないときは、アナログ通信機器から手動でスタンバイ(省電力)モードへ移行させ、消費電力をおさえることができます。
(●P152)



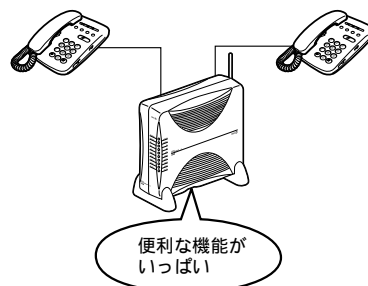
安心の電池動作モード

乾電池をご利用いただければ、突然の停電でも安心して電話での通信ができます。(●P151)



INSネット64の便利な機能をサポート

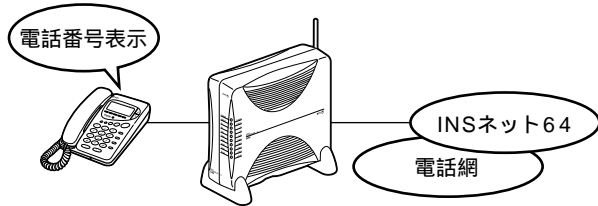
INSネット64の便利な機能をご利用になれます。
<ご利用になれる機能>
ダイヤルイン(●P161)、グローバル着信(●P161)、発信者番号通知(●P159)、INSボイスワープ/INSボイスワープセレクト(●P166)



特長

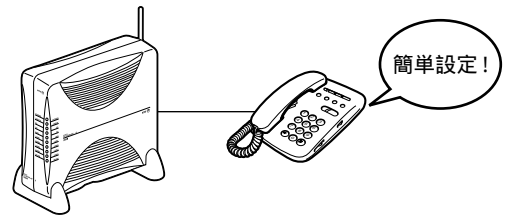
INSナンバー・ディスプレイ(発信者番号表示サービス)に対応

電話をかけてきた相手の方の電話番号(発信者電話番号)や電話番号を通知できない理由を、本装置に接続されたアナログ通信機器に通知し、アナログ通信機器のディスプレイに表示するなどの便利な機能が利用できます。(●P160)
このサービスをご利用になる方は、ナンバー・ディスプレイ対応のアナログ通信機器が必要です。



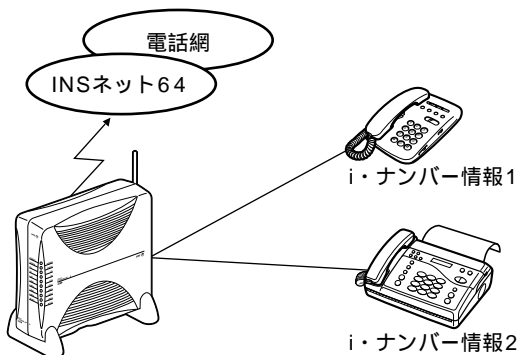
電話機から設定が可能

TELポートに接続した電話機または外の電話機から本装置の一部の設定を変更することができます。(●P172、174)



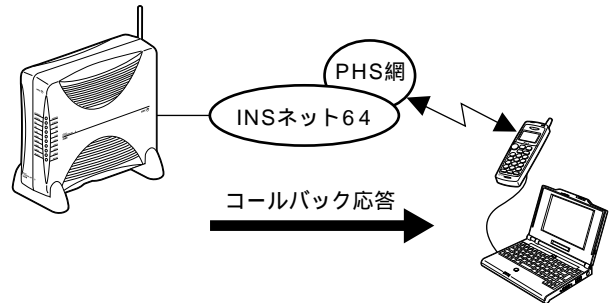
i・ナンバーに対応

本装置に接続された電話機やファクスなどのアナログ通信機器への鳴り分けが可能です。また、データ通信も対応しています。(●P162)



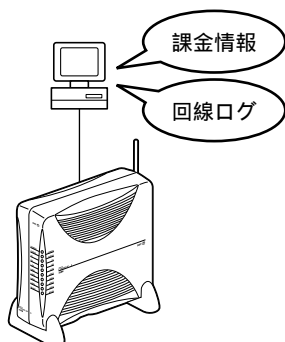
コールバック機能を搭載

あらかじめ登録した相手からの着信があった場合に、本装置から発信し直すことができます。(●P51)



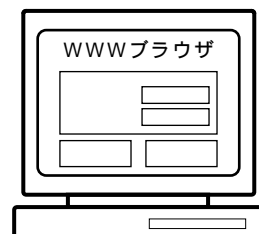
利用状況のチェックが簡単

課金情報などの各種情報を、WWWブラウザの画面や設定ユーティリティでチェックできます。通信エラーの原因や、回線使用料などの管理も簡単にできます。



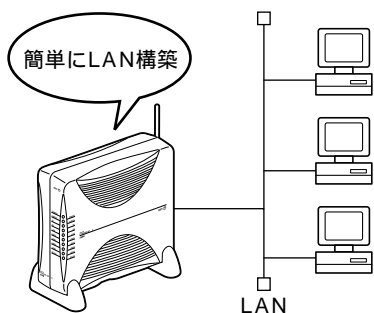
WWWブラウザを使って簡単設定

本装置のルータ設定はWWWブラウザを使うので、お使いのパソコンやOSの種類によらず簡単な操作で行えます。設定するときや各種情報を表示させるとき、コマンドを入力する必要はありません。メニュー選択で簡単に行えます。(●P65)



簡単なLAN構築

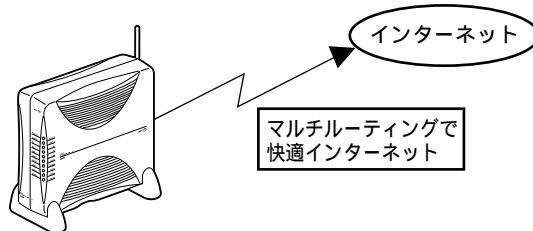
LANの構築は、アドレス割り当てなどの面倒な設定が必要でした。本装置は「アドレス自動割り当て機能(DHCPサーバ機能)」をサポートしているので、LAN構築も簡単にできます。



3種類のマルチルーティングを搭載

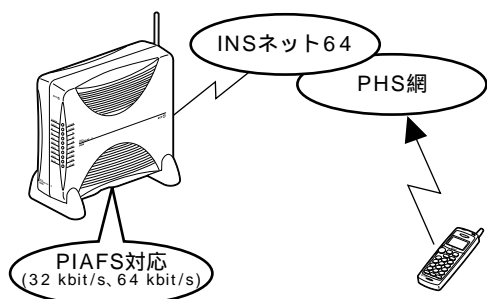
設定した条件によってインターネットサービスプロバイダを変更することができます。(●P59)

- パソコンごとに別々のインターネットサービスプロバイダを利用する。
- 利用目的ごとに別々のインターネットサービスプロバイダに接続する。
- 課金単位でインターネットサービスプロバイダを切り替える。



PIAFS対応通信機器との接続が可能

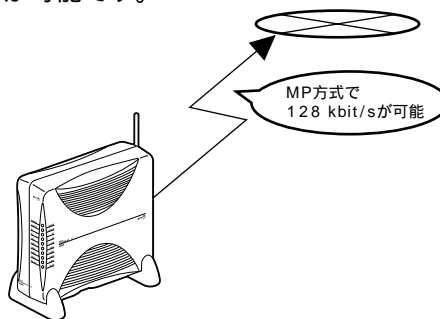
PIAFS(32 kbit/s、64 kbit/s)に対応しているので、PHS対応電話機などのPIAFS対応通信機器からデータ通信を行うことができます。(●P49)



マルチリンクPPP通信

Multilink Protocol(MP)方式によりINSネット64の2つのBチャンネルを使って128 kbit/sの速度で通信できます。

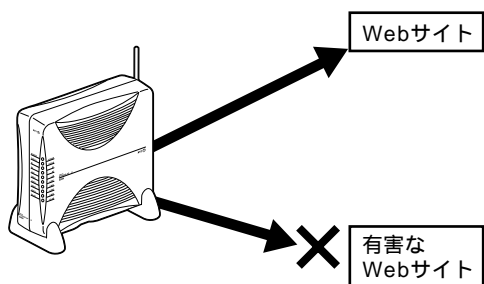
128 kbit/s通信時でもアナログ通信機器への優先着信が可能です。



URLフィルタ機能を搭載

有害なWebサイトなど、特定のURL(Webサイト)へのアクセスを禁止することができます。

(●P58)



IPフィルタリング機能を搭載

インターネットに送信またはインターネットから受信したパケットをIPアドレスとポート番号の組み合わせで制御し、ネットワークのセキュリティを向上させたり、回線への異常課金を防止することができます。(●P55)



各種回線加入契約の確認

本装置では、次の回線に接続できます。詳しくは当社のサービス取扱所へお問い合わせください。

INSネット

- INSネット64
- OCNダイヤルアクセス

高速デジタル専用線

- HSD (インタフェース64 kbit/s、128 kbit/s)
- OCNエコノミー
- DA64/128 (デジタル・アクセス64/128)

INSネット64をご利用のとき

INSネット64をご契約のときは、以下の事項に従ってください。

- インタフェース形態およびレイヤ1起動種別は、「P-MP呼毎」または「P-MP常時」を指定してください。本装置は、「P-P」接続はサポートしていません。
- 通信中着信通知サービスの利用契約をしてください。
MP (マルチリンクプロトコル) 通信中の電話優先着信、およびフレックスホンを正常にご利用になるために必要です。

高速デジタル専用線をご利用のときは

本装置では高速デジタル専用線をご利用の場合はTELポートは使用できません。



お知らせ

本装置では、INSネット64の packets 通信モードでの通信は行えません。

インターネットサービスプロバイダ加入契約の確認

インターネットを利用する場合は、インターネットにアクセスするサービスを提供するインターネットサービスプロバイダに加入してください。

インターネットサービスプロバイダの選択

通信速度が同期 (64 kbit/s)、またはMP (128 kbit/s) のアクセスポイントを持つインターネットサービスプロバイダに加入してください。非同期V.110のアクセスポイントには接続できません。

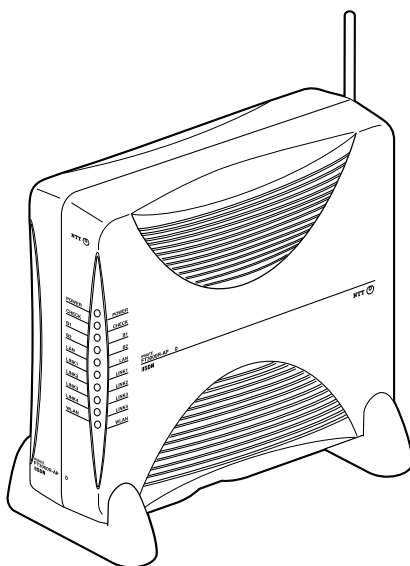
ただし、疑似TA機能ではMP (128 kbit/s) のアクセスポイントには接続できません。

インターネットサービスプロバイダに加入したら

インターネットサービスプロバイダに加入すると、認証ID、認証パスワード、DNSサーバのアドレス、アクセス電話番号等が通知されます。これらの情報は、インターネットにアクセスするための設定を行うときに必要です。

セットを確認してください

本体



IPMATE FT3000R-AP

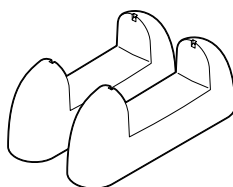
付属品



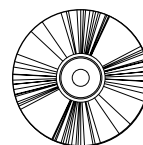
電話機コード
(6ピンモジュラ
約3 m : 1本)



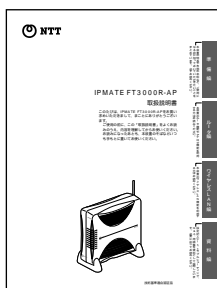
10BASE-Tケーブル
(8ピンモジュラ 約3 m : 1本)
ストレート



縦置スタンド (2個)



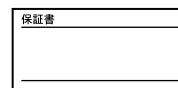
CD-ROM
(1枚)



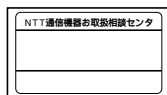
取扱説明書 (1部)



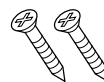
事前準備 (1部)



保証書 (1枚)



NTT通信機器お取扱相
談センターシール (1枚)



壁掛け木ネジ (2本)



お知らせ

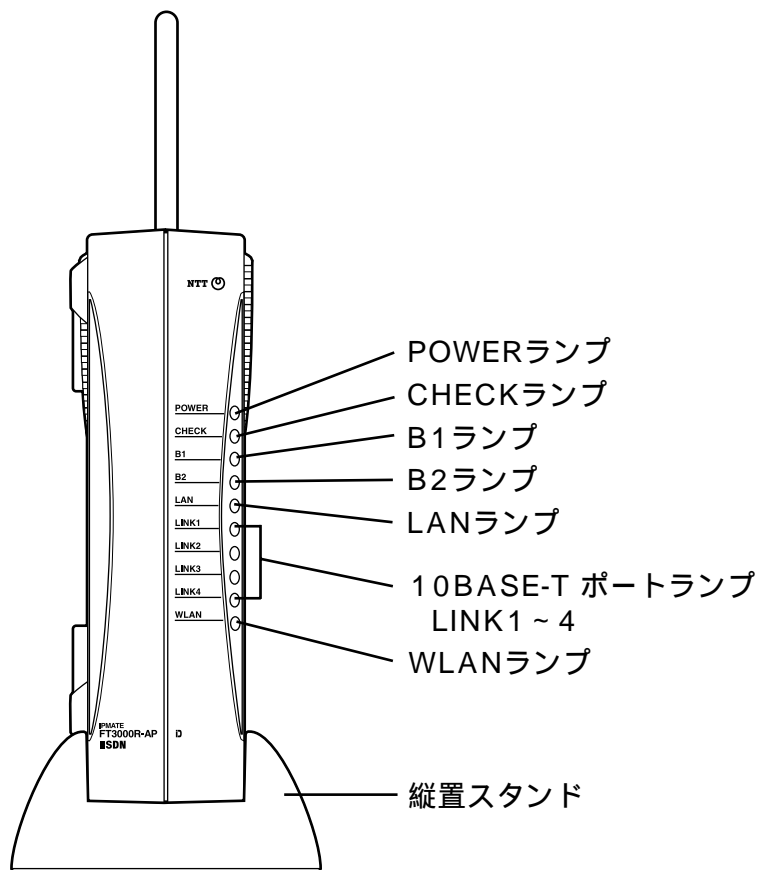
パソコンを10BASE-Tポートに複数台接続する場合は、別途必要な本数分の10BASE-Tケーブルをご用意ください。

CD-ROMの内容については、「添付CD-ROMの内容について (P233)」を参照してください。

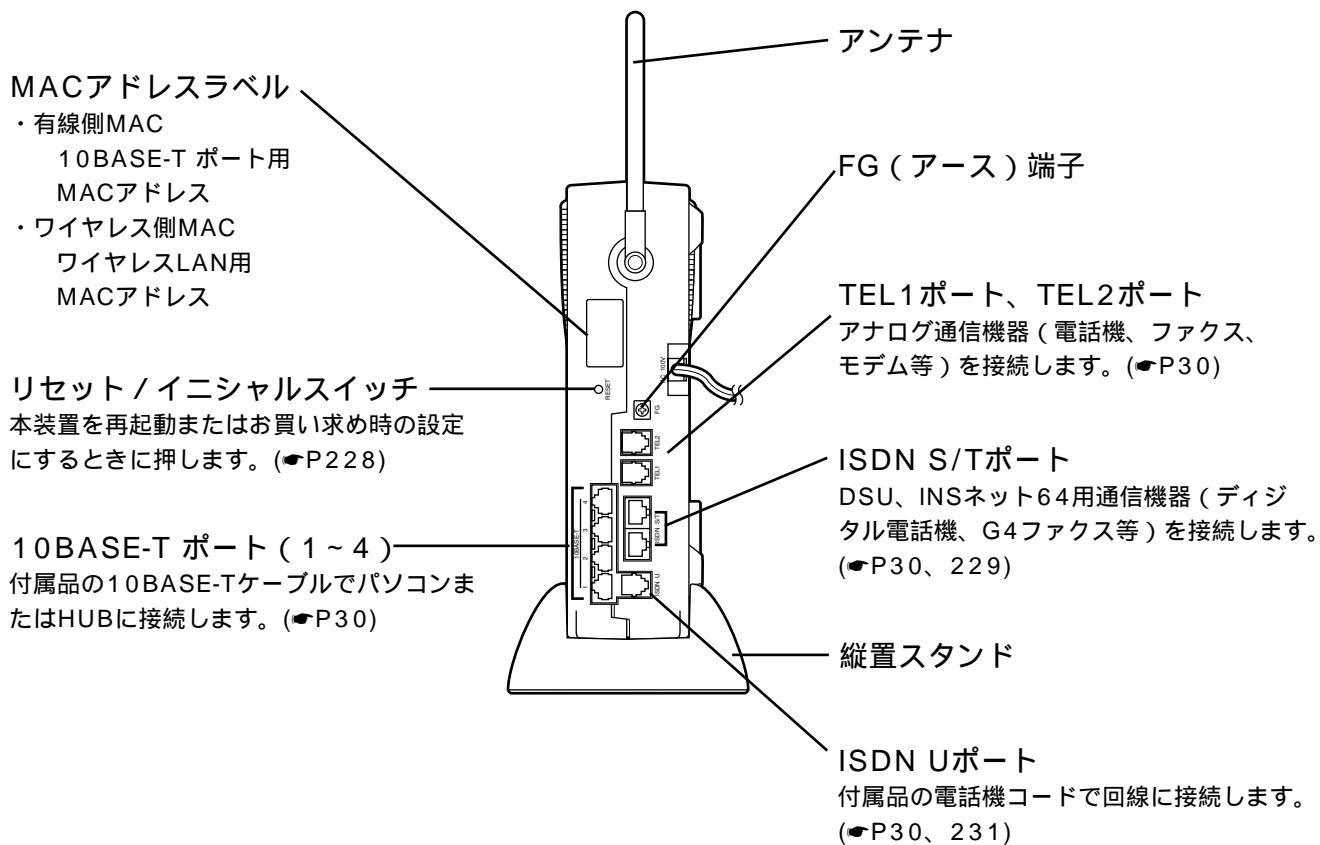
セットに足りないものがあったり、取扱説明書に乱丁・落丁があった場合などは、当社のサービス取扱所へご連絡ください。

各部の名前

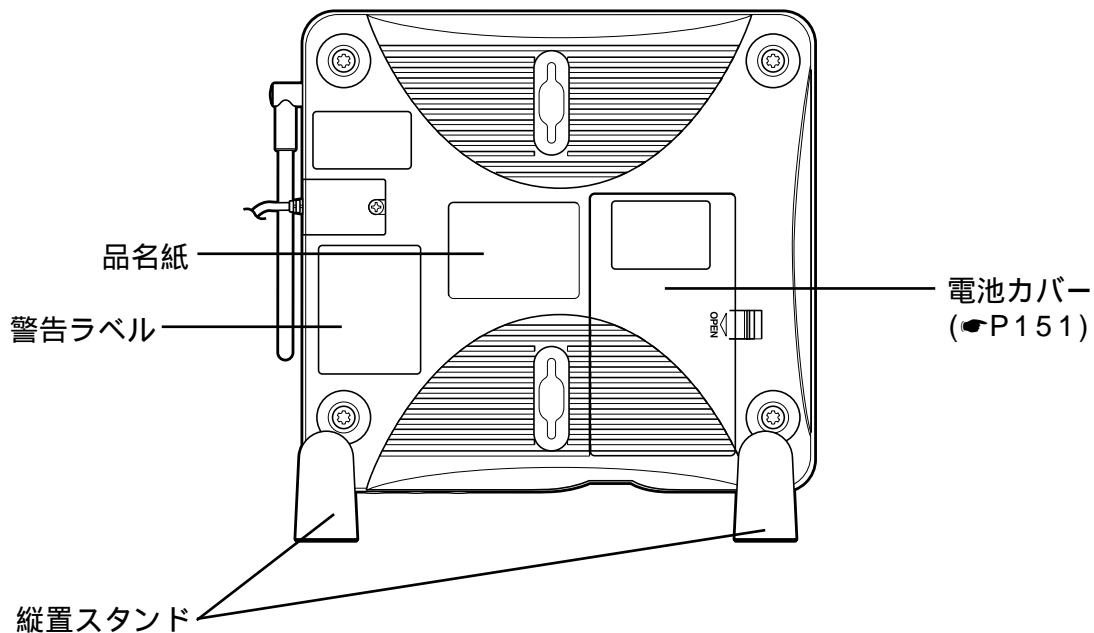
【前面】



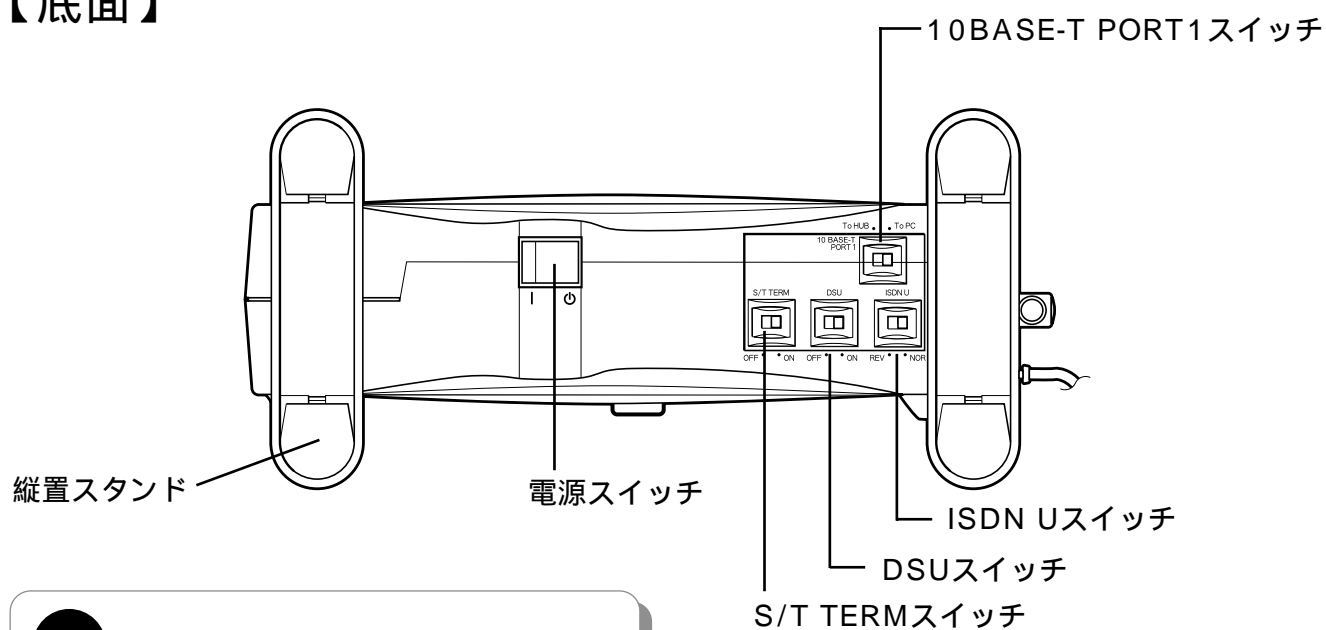
【背面】



【左側面】



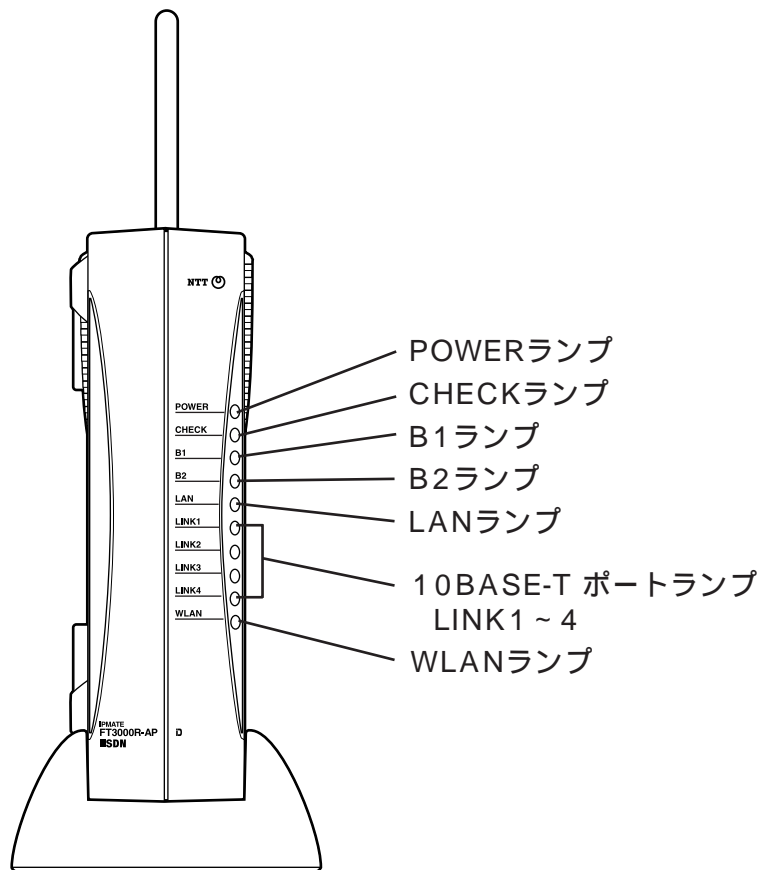
【底面】



STOP お願い

品名紙等は絶対にはがさないでください。ラベルが汚れたり、磨耗して文字が読めなくなったときは、当社のサービス取扱所にご連絡ください。

【ランプ表示】



ランプの種類	ランプのつき方	IPMATE FT3000R-APの状態
POWERランプ	緑点灯	商用電源で動作中です
	緑点滅	乾電池で動作中、またはスタンバイモードです (☞P151、152)
	消灯	電源が入っていません
CHECKランプ	橙点灯	異常が発生しています
	消灯	正常です
B1/B2ランプ	緑点灯	相手装置との接続が完了しました
	緑点滅	通信中(データ通信利用)または通話中(アナログ通信機器利用)です
	橙点滅	回線での通信が不可能です ISDN Uポートに電話機コードが接続されていない、極性が反転している可能性があります
LANランプ	緑点灯	10BASE-Tポートは正常ですが、通信していません
	緑点滅	10BASE-Tポートで通信中です
10BASE-T ポートランプ LINK1~4	緑点灯	ポートにパソコンが接続されています
	緑点滅	ポートでデータを受信中です
	消灯	ポートにパソコンが接続されていません
WLANランプ	緑点灯	ワイヤレスLANは正常に動作中です
	緑点滅	ワイヤレスLANで通信中です
	遅い緑点滅	ワイヤレスLANが利用できない状態です (☞P207)



お知らせ

本装置のランプが異常を示している場合は本装置の状態を確認してください。(☞P201)

WLANランプが遅い緑点滅をしている場合は、FT3000R-APとFT3000R-ST側のパソコンを再起動してください。(☞P207) 停電などで一度電源が切れ、再度通電したか、スタンバイモードから通常モードに切り替えたときに再起動していない可能性があります。

ファームウェア更新時のランプ状態


ランプの種類	ランプのつき方		
	ファーム消去中	ファーム更新中	再起動待ち
POWERランプ	緑点灯	緑点灯	緑点灯
CHECKランプ	緑橙点滅	緑橙点滅	緑橙点滅
B1ランプ	橙点灯	緑橙点滅	緑橙点滅
B2ランプ	橙点灯	橙点灯	緑橙点滅
LANランプ	消灯	消灯	消灯
10BASE-T PORTランプ LINK1~4	不定 1	不定 1	不定 1
WLANランプ	消灯	消灯	消灯

1 不定：ポートにパソコンが接続されていれば緑点灯、接続されていなければ消灯します。



ワンポイント

B1/B2ランプが緑色で点灯または点滅している場合は、通信回線が接続されています。

本体の電源異常が発生したらすべてのランプが消灯して、電源が切れます。このような場合はすぐに電源スイッチもOFF（「」側に倒します）にしてください。（●P201）



お知らせ

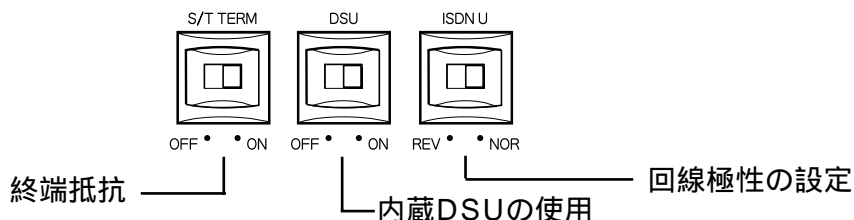
本装置は、電源スイッチをON（「I」側に倒します）にすると、しばらくして自動的に自己診断を行います。自己診断が終了すると、CHECKランプが消えます。

本装置のランプが異常を示している場合は、本装置の状態を確認してください。（●P201）

スイッチの設定

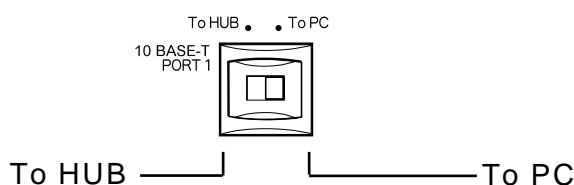
本装置の底面にあるスイッチで、設定を変更することができます。

S/T TERMスイッチ、DSUスイッチ、ISDN Uスイッチ



スイッチ名	お買い求めの時の設定	設定内容	説明
S/T TERMスイッチ	ON	終端抵抗 ON : 終端抵抗ありに設定 OFF : 終端抵抗なしに設定	終端抵抗のあり/なしを設定します (☛P230)
DSUスイッチ	ON	内蔵DSUの使用 ON : 内蔵DSUを使用するに設定 OFF : 内蔵DSUを使用しないに設定	本装置に内蔵のDSUを使用する/使用しないを設定します (☛P229)
ISDN Uスイッチ	NOR	回線極性の設定 NOR : 極性を反転させないに設定 REV : 極性を反転させるに設定	回線の極性を反転させる/させないを設定します

10 BASE-T PORT1スイッチ



お買い求め時	設定内容	説明
To PC	To PC : 10BASE-Tポート1にパソコンを接続する時に設定 To HUB : 10BASE-Tポート1にHUBを接続する時に設定	10BASE-Tポート1にパソコンを接続するか、HUBを接続するかを設定します

STOP お願い

HUBのカスケード接続用ポートと接続する場合は、To PCに設定してください。

ルータ編

本装置のルータ機能やアナログ機能を利用する方はお読みください。

本装置を設定するまでの準備

必要な物品の確認

本装置をお使いになるときは、本装置の付属品の他に次のものがが必要です。

必ずご用意いただくもの

FT3000R-STまたはLANカード/ボード

本装置とパソコンを接続するときにパソコンに装着されていることが必要です。お使いのパソコンに適するLANカード/ボードをご用意ください。

WWWブラウザ

本装置の設定を行うときに必要です。次のWWWブラウザでの正常動作を確認しています。

- Netscape Communicator Version 4.0以降/Netscape Navigator Version 3.0以降
- Microsoft Internet Explorer Version 4.0以降

TCP/IPソフトウェア

TCP/IPによる通信を行うために必要です。以下の例を参考にして用意してください。

Windows® 98/95をお使いになる場合	Windows® 98/95に付属しています	
Windows NT® 4.0をお使いになる場合	Windows NT® 4.0に付属しています	
Macintoshをお使いになる場合	漢字Talk7.1をご利用の場合	「MacTCP」をご用意ください
	漢字Talk7.5および漢字Talk7.5.1をご利用の場合	漢字Talkに付属の「MacTCP」をご用意ください
	漢字Talk7.5.2および漢字Talk7.6.1以降をご利用の場合	漢字Talkに付属の「MacTCP」または、Open Transportをご用意ください

これ以外のOSでも本装置をご利用になれますが、OSに対応したソフトウェアをご用意いただく必要があります。

必要に応じてご用意いただくもの

10BASE-Tケーブル

本装置と2台以上のパソコンを直接接続するときに必要です。付属品として1本は本装置に添付されています。同等品をお買い求めください。

HUB

本装置に5台以上のパソコン等を直接接続するときに必要です。

アース線

本装置には避雷対策回路が内蔵されていますが、アース線を接続することにより効果を高めることができます。



お知らせ

Windows® 98/95は、Microsoft® Windows® 98 Operating SystemおよびMicrosoft® Windows® 95 Operating Systemの略です。Windows NT® 4.0は、Microsoft® Windows NT® Operating System Version 4.0の略です。Mac TCPおよびOpen Transportはなるべく新しいバージョンをご用意ください。新しいバージョンのソフトウェアは各種雑誌やftpサイトなどで入手してください。

設定するまでの手順

本装置は、お買い求め時の設定値（初期値）のままでも、アナログ通信機器を接続してご利用になれますが、本装置をより便利にお使いになるには、本装置の設定が必要です。

ルータ機能を利用する場合

以下の手順で、設定を行うための準備を行ってください。

パソコンにFT3000R-STまたは、LANカード/ボードを新規に装着したときは、FT3000R-STまたは、LANカード/ボードのソフトウェア（ネットワークドライバ）のインストールを行う（詳細は別冊「事前準備」をご覧ください）

パソコンにFT3000R-STまたは、LANカード/ボードを新規に装着したときは、FT3000R-STまたは、LANカード/ボードのソフトウェア（ネットワークドライバ）のインストールが必要です。FT3000R-STまたは、LANカード/ボードの取扱説明書に従って、FT3000R-STまたは、LANカード/ボードのソフトウェアのインストールを行ってください。詳細は、LANカード/ボードのメーカーにお問い合わせください。

パソコンにソフトウェアをインストールする

TCP/IPソフトウェア、WWWブラウザを各ソフトウェアの取扱説明書などを参照し、パソコンにインストールしてください。お使いのパソコンによっては、あらかじめパソコンにインストールされている場合もあります。詳細は、ソフトウェアメーカー、パソコンメーカーにお問い合わせください。

パソコンのネットワークの設定を行う（詳細は別冊「事前準備」をご覧ください）

パソコンにIPアドレス、サブネットマスクを設定します。

ただし、次の場合には、本装置のDHCPサーバ機能により、パソコンにIPアドレス、サブネットマスクが自動的に割り当てられるので、パソコン側の設定は簡単です。

- お使いのパソコンでDHCPクライアント機能を使用される場合

パソコンの電源を切る

本装置とパソコンを接続する（●P30）

FT3000R-STをご利用の方は、接続する必要はありません。

本装置の電源を入れる（●P32）

パソコンの電源を入れる（お使いのパソコンの取扱説明書をご覧ください。）

パソコンのWWWブラウザを起動し初期画面（トップページ）を表示させる（●P61）



お知らせ

本装置がISDN回線または専用線に接続されていなくても、設定は行えます。
パソコンの詳細設定については別冊の「事前準備」をご参照ください。



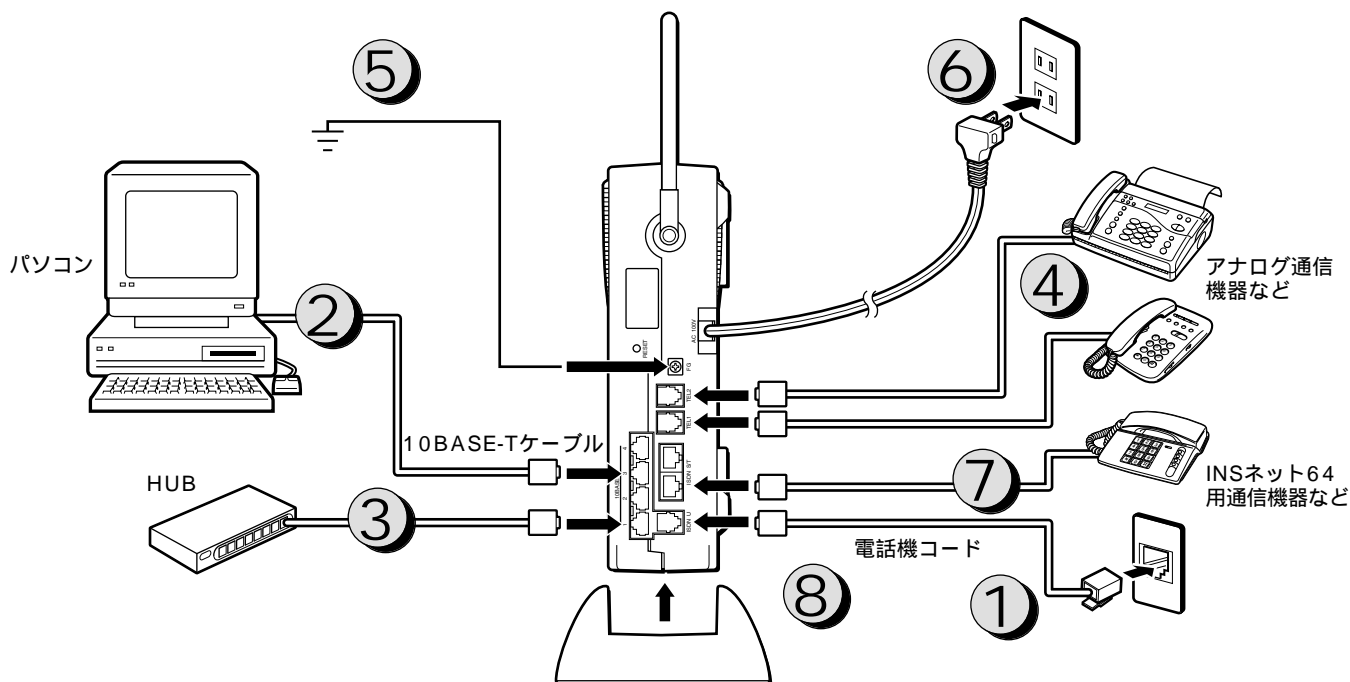
お願い

本装置には、あらかじめプライベートアドレスが設定されています。本装置の設定を行う前に既存のLANへの接続は絶対にしないでください。

接続します

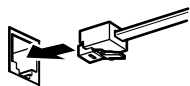
電話回線がモジュラジャック式でないときは工事が必要です。局番なしの116番または当社の営業所等へお問い合わせください。

接続の手順



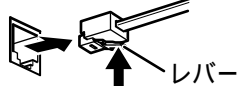
- ① ISDN Uポートと回線用モジュラジャックとの間を、付属品の電話機コードでつなぎます。
- ② はじめてお使いになる場合は、初期設定を行うため、パソコンまたはワークステーションと本装置の10BASE-T PORT (1~4のいずれか)との間を、付属品の10BASE-Tケーブルでつなぎます。ワイヤレスLANだけご利用になる場合は接続する必要はありません。
- ③ 本装置の初期設定後、HUBを接続する場合は、HUBと本装置の10BASE-T PORT1との間を10BASE-Tケーブルでつなぎます。(●P229)
- ④ アナログ通信機器の電話機コードをTEL1ポート、またはTEL2ポートにつなぎます。本装置を高速デジタル専用線をご利用になる場合は接続できません。
- ⑤ FG端子とアース線を取り付けます。(必要に応じて)
- ⑥ 電源プラグを電源コンセント(AC100V)に差し込みます。
- ⑦ INSネット64用通信機器の電話機コードをS/Tポートにつなぎます。
- ⑧ 縦置スタンドに差込みます。

10BASE-Tケーブル
や電話機コードを差し
込むとき



「カチッ」と音がする
まで差し込んでく
ださい。

10BASE-Tケーブルや
電話機コードを引き抜
くとき



レバーを押さなが
ら引き抜いてく
ださい。

STOP お願い

本装置に各種ケーブルを接続する際は、接続する各機器および本装置の電源スイッチをOFFにした状態で行ってください。
10BASE-Tケーブルや、電話機コードを無理に引き抜くとレバーが折れることがあります。

本図は、アナログ通信機器、パソコンなどの接続を概念的に示しています。実際の接続方法は、使用する機器や設置する場所などの使用状況に合わせる必要があるため、本図と異なる場合があります。

接続上の注意

回線との接続

以下の回線以外には接続しないでください。

- INSネット64
- 高速デジタル専用線

パソコンの接続

パソコンと10BASE-Tポートへの接続には、付属品の10BASE-Tケーブルを使用してください。

また、接続するパソコンにはあらかじめLANカード/ボードが装着されていることが必要です。お使いのパソコンに適したLANカード/ボードを装着してください。パソコンを2台以上接続するときは、付属品と同等品をお客様でご用意ください。

電話機・ファクスの接続

TEL1ポート、TEL2ポートには、一般のアナログ回線に接続するプッシュ式(PB)のアナログ通信機器(電話機、ファクス、モデム等)が接続できます。

INSネット64用通信機器の接続

INSネット64用通信機器は最大7台まで接続して使用できます。接続する形態によって各種スイッチの設定・配線方法が異なります。(●P229)

電源との接続

電源プラグはAC100Vの電源コンセントに接続してください。必要に応じてアース線をアースに接続してください。

HUBの接続

本装置にHUBを接続するときは、付属品の10BASE-Tケーブルまたは同等品をご使用ください。(●P229)



お知らせ


ダイヤル式(DP)のアナログ通信機器は使用できません。

切替スイッチが付いているアナログ通信機器をお使いになる場合は、スイッチを「PB」または「トーン」に切り替えてください。

(財)電気通信端末機器審査協会の適合認定を取得しているアナログ通信機器を接続してください。

一般のアナログ回線との仕様の違いにより、お使いいただけないアナログ通信機器もあります。料金管理装置等を接続してご使用になると、通信事業者からの請求料金とは必ずしも一致しない場合があります。

モジュラジャックの配線工事には資格が必要です。局番なしの116番または当社の営業所等へお問い合わせください。

本装置にアナログ通信機器を接続後は、お買い求め時の設定(初期値)のままでも、ご利用になれます。ただし、本装置の電源スイッチがOFF(「」側に倒れている)になっている場合は、お使いになれません。



お願い

屋外に渡る配線は行わないでください。故障の原因になります。

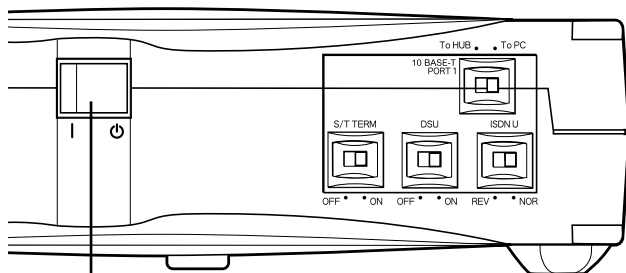
機器の接続に使用するケーブル類は、機器に付属したものをお使いになるか、接続した機器に適合したものをご用意ください。

TEL1ポート、TEL2ポートには1台のアナログ通信機器を接続してください。複数の通信機器を1つのポートに接続すると、使用できないことがあります。

電源を入れます

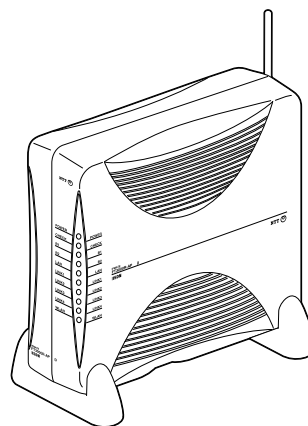
本装置への各機器の接続ができれば、本装置の電源を入れます。各機器が正しく接続されているかランプ表示を確認してください。(●P24)

- 1** 底面の電源スイッチをONにします。
自動的に自己診断が始まります。



「I」側に倒します

- 2** CHECKランプが消えていることを確認します。
電源を入れてしばらくするとCHECKランプが点灯し自己診断が始まります。
自己診断が終了すると、CHECKランプが消えます。



- 3** 本装置の状態を確認します。
LANランプ、B1ランプ、B2ランプの表示内容を確認してください。(●P24)

ご使用にあたっての注意

本装置をルータとして利用する場合、FT3000R-STを挿入したパソコンや10BASE-Tポートに接続されたパソコンからの要求により自動的に回線接続を行います。そのためご利用になる環境、アプリケーション等の条件により、お客様の意図しない発信が行われる場合がありますのでご注意ください。

また本装置の誤った設定により、意図しない発信が行われる可能性がありますので、ご注意ください。

現象例

- Windows NT[®] 4.0を使っているが、ログインするごとに自動的に回線が接続される。(●P203)
 - Windows[®] 98/95を使っているが、約15分ごとに自動的に回線が接続される。(●P203)
- この他、LANや電話回線を使用するアプリケーションをお使いの場合に、自動的に回線が接続されることがあります。



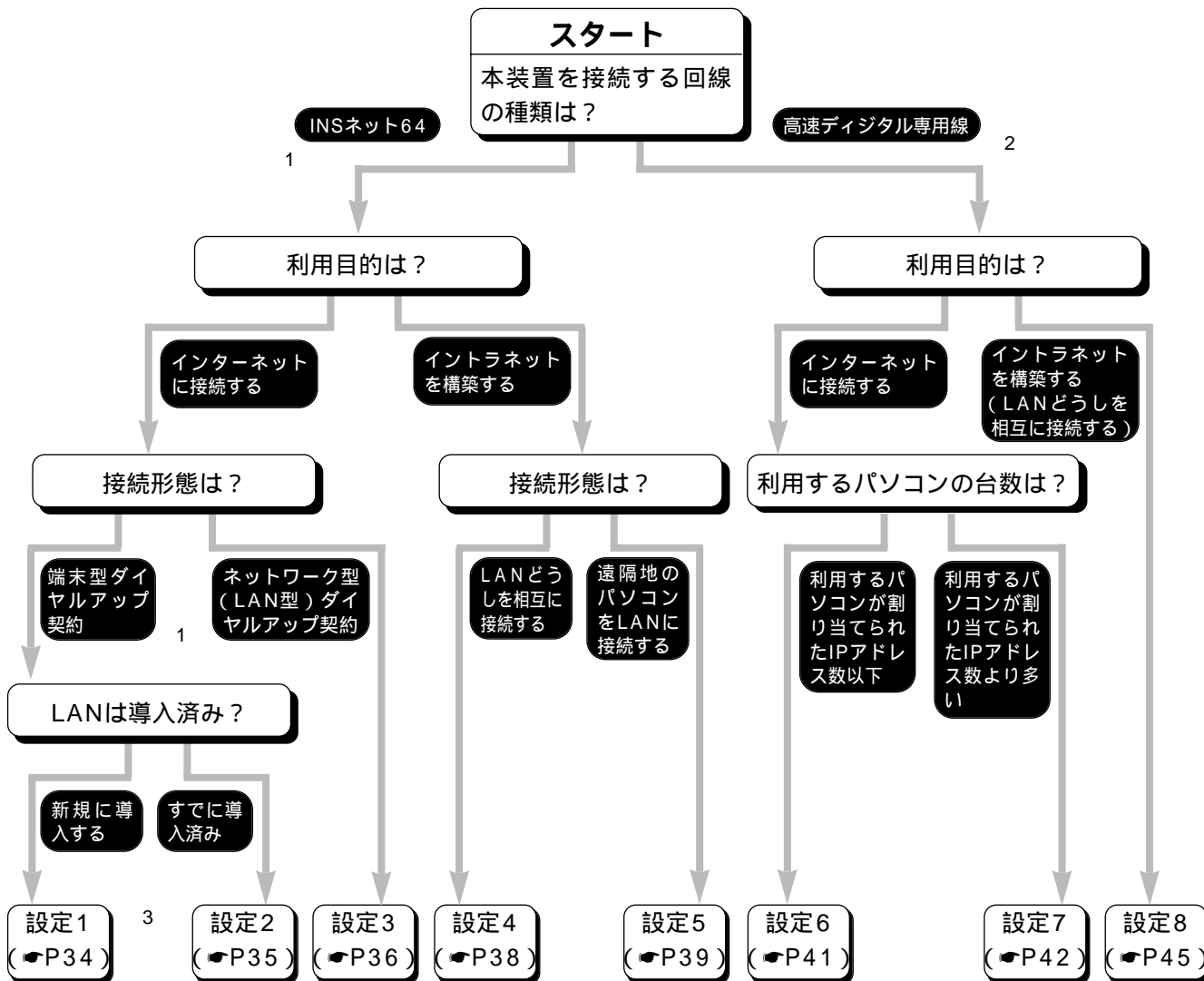
お知らせ

Windows[®] 98/95は、Microsoft[®] Windows[®] 98 Operating SystemおよびMicrosoft[®] Windows[®] 95 Operating Systemの略です。Windows NT[®] 4.0は、Microsoft[®] Windows NT[®] Operating System Version 4.0の略です。

利用形態を決める

本装置をINSネット64に接続する場合と、高速デジタル専用線に接続する場合とでは、設定内容が異なります。また、インターネットに接続するかどうかによっても設定は変わります。

次のチャートに従って、お客様のご利用形態に必要な設定をご確認ください。



1 : OCNダイヤルアクセスを含みます。

2 : OCNエコノミー、DA64/128を含みます。

3 : 本装置に接続するパソコンが1台の場合も含みます。

便利な機能を設定するには

本装置では、設定1～8以外にも便利な機能を設定することができます。(P46)

ワイヤレスLAN機能を設定するには (P190)

本装置で、ワイヤレスLANをご利用いただくための設定です。



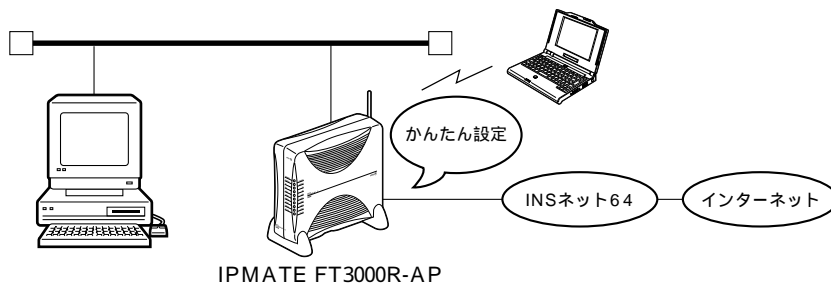
お知らせ

インターネットを利用する場合は、インターネットにアクセスするサービスを提供するインターネットサービスプロバイダに加入してください。

OCNダイヤルアクセス、OCNエコノミーはNTTコミュニケーションズが提供するサービスです。OCNダイヤルアクセス、OCNエコノミーをご利用になるには、NTTコミュニケーションズとの利用契約が必要です。

いろいろな利用形態：設定1

INSネット64を使ってインターネットに端末型ダイヤルアップ接続する場合は、「かんたん設定」で設定します。ご契約のインターネットサービスプロバイダから通知された接続先の電話番号、ユーザ認証ID、ユーザ認証パスワード、DNSサーバのIPアドレスを設定します。本装置に接続するパソコンが1台の場合も、以下の設定で接続できます。



Step1：「かんたん設定(インターネットへISDN接続)」画面を表示する

- ① ブラウザを起動して「IPMATE FT3000R-AP」の初期画面(トップページ)を表示します。(●P61)
- ② 「かんたんメニュー」の「インターネットへ」から[ISDN接続]をクリックします。
「かんたん設定(インターネットへISDN接続)」画面が表示されます。(●P66)

Step2：各項目を設定する

① [必須設定]で以下の項目を入力します。

項目	設定値
接続先の電話番号	アクセス電話番号(半角数字で最大32桁)
ユーザ認証ID	インターネットサービスプロバイダから通知された認証ID(半角英数字で最大32文字)
ユーザ認証パスワード	インターネットサービスプロバイダから通知された認証パスワード(半角英数字で最大32文字)

② 必要に応じて[オプション設定]で以下の項目を入力します。

項目	設定値
DNSサーバ	必要に応じて、インターネットサービスプロバイダに指示されたDNSサーバのIPアドレスを設定

Step3：設定を有効にする

[設定終了]ボタンをクリックします。
本装置が自動的に再起動し、設定が有効になります。

ワンポイント

OCNダイヤルアクセスの場合は同様に設定してください。

お知らせ

ここでの設定は一例を示しています。実際に設定をするときは、お客様の環境に合わせて、行ってください。

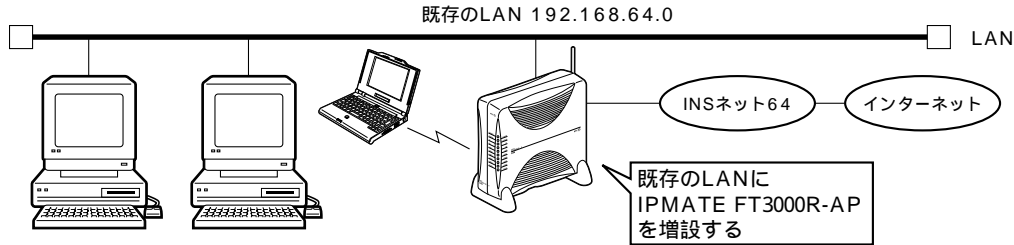
STOP お願い

「詳細設定」を行ったあとに、「かんたん設定」を行うと、「詳細設定」で設定した内容が無効になります。ご注意ください。
ただし、パスワード情報、アナログ情報、ファームウェア更新情報、オンラインサポート情報、ワイヤレスLAN情報は有効です。

いろいろな利用形態：設定2

既存のLANに本装置を導入して、INSネット64を使ってインターネットに端末型ダイヤルアップ接続する場合は、「かんたん設定」で設定します。

ここでは既存のLANのネットワークが「192.168.64.0」、サブネットマスクが「255.255.255.0」、本装置に空いているIPアドレス「192.168.64.64」を割り当てる場合を例にして説明しています。



Step1 : 「かんたん設定(インターネットへISDN接続)」画面を表示する

- 1 ブラウザを起動して「IPMATE FT3000R-AP」の初期画面(トップページ)を表示します。(●P61)
- 2 「かんたんメニュー」の「インターネットへ」から [ISDN接続] をクリックします。
「かんたん設定(インターネットへISDN接続)」画面が表示されます。(●P66)

ワンポイント

本装置のIPアドレスを変更すると、ブラウザ設定の初期画面(トップページ)のURLも変更後のIPアドレスになります。(●P61)

既存のLANにDHCPサーバがある場合には「かんたん設定」で設定を行ったあと、「詳細設定」の「LAN情報設定」画面で「DHCPサーバ機能」を「使用しない」に設定してください。(●P81)

お知らせ

ここでの設定は一例を示しています。実際に設定をするときは、お客様の環境に合わせて、行ってください。

STOP お願い

「詳細設定」を行ったあとに、「かんたん設定」を行うと、「詳細設定」で設定した内容が無効になります。ご注意ください。
ただし、パスワード情報、アナログ情報、ファームウェア更新情報、オンラインサポート情報、ワイヤレスLAN情報は有効です。

Step2 : 各項目を設定する

- 1 [必須設定] で以下の項目を入力します。

項目	設定値
接続先の電話番号	アクセス電話番号(半角数字で最大32桁)
ユーザ認証ID	インターネットサービスプロバイダから通知された認証ID(半角英数字で最大32文字)
ユーザ認証パスワード	インターネットサービスプロバイダから通知された認証パスワード(半角英数字で最大32文字)

- 2 [オプション設定] で以下の項目を入力します。

項目	設定値
IPMATEのIPアドレス	192.168.64.64
ネットマスク	24(255.255.255.0)
DNSサーバ	インターネットサービスプロバイダまたはネットワーク管理者に指示されたDNSサーバのIPアドレス

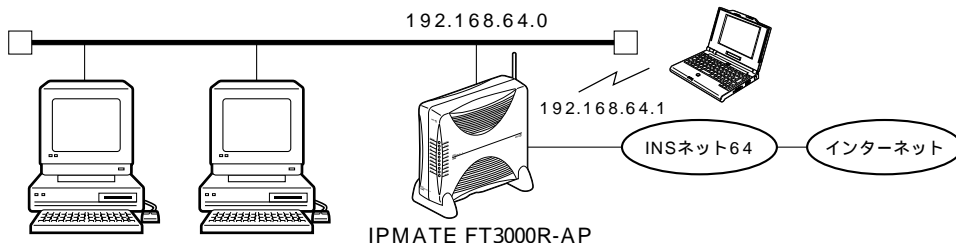
Step3 : 設定を有効にする

[設定終了] ボタンをクリックします。
本装置が自動的に再起動し、設定が有効になります。

いろいろな利用形態：設定3

INSネット64を使って、インターネットへネットワーク型（LAN型）ダイヤルアップ接続するには、次のように設定します。

ここではインターネットサービスプロバイダから通知されたネットワークアドレスが「192.168.64.0」、サブネットマスクが「255.255.255.0」、本装置のIPアドレス「192.168.64.1」を割り当てる場合を例にして説明します。



Step1：「かんたん設定(インターネットへISDN接続)」画面を表示する

- ① ブラウザを起動して「IPMATE FT3000R-AP」の初期画面（トップページ）を表示します。（●P61）
- ② 「かんたんメニュー」の「インターネットへ」から「ISDN接続」をクリックします。
「かんたん設定（インターネットへISDN接続）」画面が表示されます。（●P66）

ワンポイント

INSネット64を使って端末型接続するには（●P34）

本装置のIPアドレスを変更すると、ブラウザ設定の初期画面（トップページ）のURLも変更後のIPアドレスになります。（●P61）

お知らせ

ここでの設定は一例を示しています。実際に設定をするときは、お客様の環境に合わせて、行ってください。

ここでの設定例ではプライベートアドレスを使用していますが、実際にはインターネットサービスプロバイダから、グローバルアドレスが割り当てられますのでそれを使用してください。

Step2：各項目を設定する

- ① [必須設定] で以下の項目を入力します。

項目	設定値
接続先の電話番号	アクセス電話番号（半角数字で最大32桁）
ユーザ認証ID	インターネットサービスプロバイダから通知された認証ID（半角英数字で最大32文字）
ユーザ認証パスワード	インターネットサービスプロバイダから通知された認証パスワード（半角英数字で最大32文字）

- ② [オプション設定] で以下の項目を入力します。

項目	設定値
IPMATEのIPアドレス	192.168.64.1
ネットマスク	24（255.255.255.0）
DNSサーバ	インターネットサービスプロバイダから通知されたDNSサーバのIPアドレス

Step3：設定を有効にする

[設定終了] ボタンをクリックします。
本装置が自動的に再起動し、設定が有効になります。

Step4 : 「LAN情報設定」画面を表示する

- ① 「IPMATE FT3000R-AP」の初期画面（トップページ）で [詳細設定] アイコンをクリックします。
「詳細設定メニュー」が表示されます。
- ② 「詳細設定メニュー」の「ルータ設定」から [LAN情報] をクリックします。
「LAN情報設定」画面が表示されます。（☛P80）

Step5 : 各項目を設定する

- ① [DHCP機能] で以下の項目を入力します。（☛P81）

項目	設定値
ドメイン名広報	インターネットサービスプロバイダから通知されたドメイン名（半角英数字で最大80文字）を設定。省略した場合は、DHCPサーバによる広報を行わない

- ② [更新] ボタンをクリックします。

Step6 : 「ネットワーク情報設定」画面を表示する

- ① 「詳細設定メニュー」の「ルータ設定」から [相手情報] をクリックします。
「相手情報設定」画面が表示されます。
- ② [ネットワーク情報一覧] で「internet」欄の [修正] ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報設定」画面が表示されます。（☛P86）

Step7 : 各項目を設定する

- ① [NAT情報] で以下の項目を入力します。（☛P87）

項目	設定値
NATの使用	使用しない

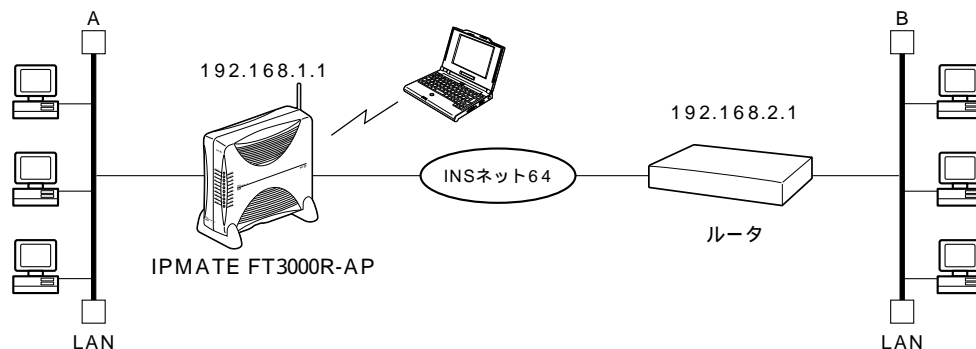
- ② [更新] ボタンをクリックします。
「相手情報設定」画面に戻ります。

Step8 : 設定を有効にする

- ① [更新] ボタンをクリックします。
[設定反映] ボタンが表示されます。
- ② [設定反映] ボタンをクリックします。
設定が有効になります。

いろいろな利用形態：設定4

事業所LANどうしをISDNで接続する場合にも「かんたん設定」で設定できます。ここでは、INSネット64を使って2つの事業所（A、B）のネットワークを接続するとき、A事業所での設定を例に説明します。本装置LAN側のネットワークアドレス/ネットマスクは、A事業所が「192.168.1.0/24」（本装置のIPアドレス：192.168.1.1）、B事業所が「192.168.2.0/24」（相手先ルータのIPアドレス：192.168.2.1）とします。



Step1：「かんたん設定(オフィスへISDN接続)」画面を表示する

- ① ブラウザを起動して「IPMATE FT3000R-AP」の初期画面（トップページ）を表示します。（●P61）
- ② 「かんたんメニュー」の「オフィスへ」から「ISDN接続」をクリックします。
「かんたん設定（オフィスへISDN接続）」画面が表示されます。（●P68）



お知らせ

ここでの設定は一例を示しています。実際に設定をするときは、お客様の環境に合わせて、行ってください。



お願い

相手先のルータの設定が必要です。設定方法については相手先のルータの取扱説明書に従ってください。

Step2：各項目を設定する

[必須設定] で以下の項目を入力します。

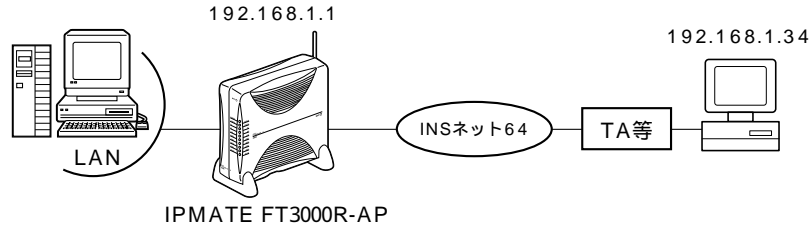
項目	設定値
接続先の電話番号	接続先のISDN番号
ユーザ認証ID (発信)	Bへ接続するための認証ID (半角英数字で最大32文字)
ユーザ認証パスワード (発信)	Bへ接続するための認証パスワード (半角英数字で最大32文字)
ユーザ認証ID (着信)	Bから着信するための認証ID (半角英数字で最大32文字)
ユーザ認証パスワード (着信)	Bから着信するための認証パスワード (半角英数字で最大32文字)
IPMATEのIPアドレス	192.168.1.1
IPMATEのネットマスク	24 (255.255.255.0)
相手ルータのIPアドレス	192.168.2.1
相手ルータのネットマスク	24 (255.255.255.0)

Step3：設定を有効にする

[設定終了] ボタンをクリックします。
本装置が自動的に再起動し、設定が有効になります。

いろいろな利用形態：設定5

INSネット64を使って遠隔地のパソコンから、本装置を経由してLANに接続するには、次のように設定します。
ここでは、本装置のIPアドレスが「192.168.1.1」、遠隔地のパソコンに割り当てるIPアドレスが「192.168.1.34」とする場合を例にして説明します。



Step1 : 「相手情報設定」画面を表示する

- 1 「IPMATE FT3000R-AP」の初期画面（トップページ）で [詳細設定] アイコンをクリックします。
「詳細設定メニュー」が表示されます。（●P76）
- 2 「詳細設定メニュー」の「ルータ設定」から [相手情報] をクリックします。
「相手情報設定」画面が表示されます。（●P83）

Step2 : 「不特定相手情報設定」画面を表示する

- 1 [ネットワーク情報一覧] の「不特定相手着信」で [修正] ボタンをクリックします。
「不特定相手情報設定」画面が表示されます。（●P98）



お知らせ

ここでの設定は一例を示しています。実際に設定をするときは、お客様の環境に合わせて、行ってください。



お願い

接続する遠隔地のパソコンの設定については、パソコンの取扱説明書に従って行ってください。

Step3 : 各項目を設定する

- 1 [基本情報] で以下の項目を設定します。（●P98）

項目	設定値
割当先頭アドレス	192.168.1.34
同時接続許可数	1

- 2 [更新] ボタンをクリックします。

Step4 : 「相手情報設定」画面を表示する

- 1 「詳細設定メニュー」の「ルータ設定」から [相手情報] をクリックします。
「相手情報設定」画面が表示されます。（●P83）

（次ページへ続きます）

(前ページの続きです)

Step5：各項目を設定する

- ① [着信相手識別情報] で以下の項目を指定します。(P83)

項目	設定値
着信許可	する
認証方式	「PAP」または「CHAP」
MP接続	しない
コールバック応答	しない

- ② [更新] ボタンをクリックします。

Step6：受諾認証情報を設定する

- ① 「詳細設定メニュー」の「ルータ設定」から [相手情報] をクリックします。

「相手情報設定」画面が表示されます。

- ② [受諾認証ID情報一覧]の[追加]ボタンをクリックします。

「PPP受諾認証情報」画面が表示されます。

(P102)

- ③ [受諾認証情報] で以下の項目を設定します。(P102)

項目	設定値
受諾認証ID	遠隔地のパソコンから着信するためのID
受諾認証パスワード	遠隔地のパソコンから着信するためのパスワード

- ④ [更新] ボタンをクリックします。
「相手情報設定」画面が表示されます。

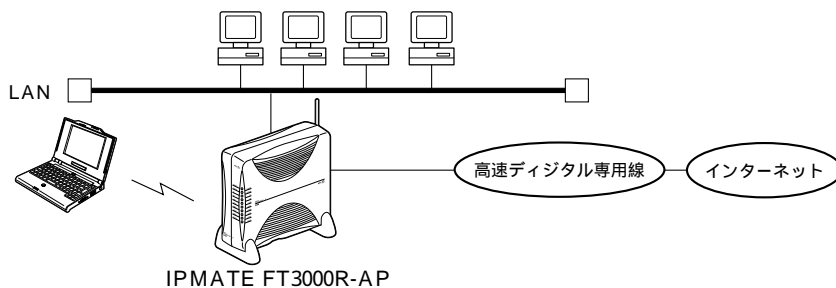
Step7：設定を有効にする

- ① [更新] ボタンをクリックします。
[設定反映] ボタンが表示されます。

- ② [設定反映] ボタンをクリックします。
設定が有効になります。

いろいろな利用形態：設定6

高速デジタル専用線（OCNエコノミー等）を使用してインターネットへ接続するには、「かんたん設定」で設定します。



ここでは、IPアドレスの割り当て台数よりも実際のパソコン台数の方が少ない(5台以内)ときに、インターネットサービスプロバイダよりIPアドレス「172.16.1.216」、サブネットマスク「255.255.255.248」が通知された場合を例にして説明します。(実際のパソコン台数の方が多い場合は●P42)

Step1：「かんたん設定(インターネットへ専用線接続)」画面を表示する

- ① ブラウザを起動して「IPMATE FT3000R-AP」の初期画面（トップページ）を表示します。(●P61)
- ② 「かんたんメニュー」の「インターネットへ」から [専用線接続] をクリックします。
「かんたん設定(インターネットへ専用線接続)」画面が表示されます。(●P67)

Step2：各項目を設定する

[必須設定] で以下の項目を入力します。

項目	設定値
IPMATEのIPアドレス	172.16.1.217
ネットマスク	29 (255.255.255.248)
使用する回線速度	128 kbit/s
DNSサーバ	インターネットサービスプロバイダから通知されたDNSサーバのIPアドレス

Step3：設定を有効にする

[設定終了] ボタンをクリックします。
本装置が自動的に再起動し、設定が有効になります。



ワンポイント

この例ではパソコン側のIPアドレスは、172.16.1.218～172.16.1.222までの5つのうち、1台につき1個を割り当てて設定してください。

スーパーOCN128 kbit/sに接続するには(●P216)



お知らせ

ここでの設定は一例を示しています。実際に設定するときは、お客様の環境に合わせて、行ってください。OCNエコノミーはNTTコミュニケーションズが提供するサービスです。OCNエコノミーをご利用になるには、NTTコミュニケーションズとの利用契約が必要です。OCNエコノミーについての詳細はOCNエコノミーの契約書などをご覧ください。
ここでの設定例では、プライベートアドレスを使用していますが、実際にはインターネットサービスプロバイダから、グローバルアドレスが割り当てられますのでそれを設定してください。

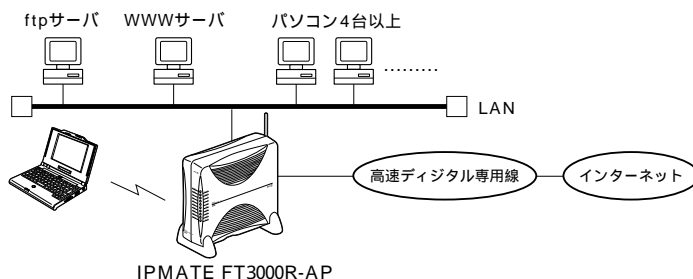


お願い

「詳細設定」を行ったあとに、「かんたん設定」を行うと、「詳細設定」で設定した内容が無効になります。ご注意ください。
ただし、パスワード情報、アナログ情報、ファームウェア更新情報、オンラインサポート情報、ワイヤレLAN情報は有効です。

いろいろな利用形態：設定7

高速デジタル専用線（OCNエコノミー等）を利用してネットワーク型接続を行うときに、利用したいパソコンの台数が多い場合は、マルチNAT機能を利用します。契約時に割り当てられたIPアドレスの数以上のパソコンでインターネットを利用することができます。



ここではインターネットサービスプロバイダより、IPアドレス「172.16.2.216」、サブネットマスク「255.255.255.248」を通知された場合で、本装置LAN側のネットワークアドレス/ネットマスクは「192.168.1.0/24」（本装置のIPアドレス:192.168.1.1）、WWWサーバ「192.168.1.34」はインターネット側に「172.16.2.218」として、ftpサーバ「192.168.1.35」はインターネット側に「172.16.2.219」として公開する場合を例に説明します。この場合、DNSサーバにはインターネットサービスプロバイダより通知されたIPアドレスを設定し、本装置のDHCPサーバ機能を使用する必要があります。

Step1：「かんたん設定(インターネットへ専用線接続)」画面を表示する

- ① ブラウザを起動して「IPMATE FT3000R-AP」の初期画面（トップページ）を表示します。（●P61）
- ② 「かんたんメニュー」の「インターネットへ」から [専用線接続] をクリックします。
「かんたん設定（インターネットへ専用線接続）」画面が表示されます。（●P67）

ワンポイント

スーパー-OCN128kbit/sに接続するには（●P216）

お知らせ

ここでの設定は一例を示しています。実際に設定するときは、お客様の環境に合わせて、行ってください。ここでの設定例では、プライベートアドレスを使用していますが、実際にはインターネットサービスプロバイダから、グローバルアドレスが割り当てられますのでそれを設定してください。

OCNエコノミーはNTTコミュニケーションズが提供するサービスです。OCNエコノミーをご利用になるには、NTTコミュニケーションズとの利用契約が必要です。

OCNエコノミーについての詳細はOCNエコノミーの契約書などをご覧ください。

Step2：各項目を設定する

- ① [必須設定] で以下の項目を入力します。

項目	設定値
IPMATEのIPアドレス	192.168.1.1
ネットマスク	24 (255.255.255.0)
使用する回線	128 kbit/s
DNSサーバ	インターネットサービスプロバイダから通知されたDNSサーバのIPアドレス

- ② [オプション設定] で以下の項目を入力します。

項目	設定値
ドメイン名	必要に応じて接続先またはネットワーク管理者に指示されたドメイン名（半角英数字で最大80文字）を設定。省略した場合は、DHCPサーバによる広報を行わない
アドレス変換	「マルチNAT」を選択
グローバルアドレス	172.16.2.220
アドレス個数	3

Step3 : 設定を有効にする

[設定終了] ボタンをクリックします。
設定が有効になります。

Step4 : 「静的NAT情報設定」画面を表示する

- ① 「IPMATE FT3000R-AP」の初期画面（トップページ）で [詳細設定] アイコンをクリックします。
「詳細設定メニュー」が表示されます。
- ② 「詳細設定メニュー」の「ルータ設定」から [相手情報] をクリックします。
「相手情報設定」画面が表示されます。
- ③ [ネットワーク情報一覧] で「internet」欄の [修正] ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報設定」画面が表示されます。



ワンポイント

OCNエコノミー等利用時にNATを使うには
OCNエコノミー等の場合は、DNSなどのサーバを特定IPアドレスに割り振るので、静的NATを用いてサーバのプライベートアドレスをグローバルアドレスにマッピングし、外部からの通信ができるようになります。

Step5 : 静的NAT情報を設定する

- ① [静的NAT情報一覧] で [追加] ボタンをクリックします。
「静的NAT情報設定」画面が表示されます。
(●P97)
- ② 「静的NAT情報設定」画面で以下の項目を設定します。(●P97)

項目	設定値
プライベートIP情報 (IPアドレス)	192.168.1.1
プライベートIP情報 (ポート番号)	すべて
グローバルIP情報 (IPアドレス)	172.16.2.217
グローバルIP情報 (ポート番号)	すべて

- ③ [更新] ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報設定」画面が表示されます。



お知らせ

OCNエコノミーをご利用の場合は静的NAT情報のルータのIPアドレスをインターネット側に公開する設定が、OCNエコノミー側からの通信確認試験のために必要です。

(次ページへ続きます)

(前ページの続きです)

Step6：WWWサーバのアドレス変換情報を設定する

- ① [静的NAT情報一覧]で[追加]ボタンをクリックします。
「静的NAT情報設定」画面が表示されます。
(☛P97)
- ② 「静的NAT情報設定」画面で以下の項目を設定します。(☛P97)

項目	設定値
プライベートIP情報 (IPアドレス)	192.168.1.34
プライベートIP情報 (ポート番号)	www、http
グローバルIP情報 (IPアドレス)	172.16.2.218
グローバルIP情報 (ポート番号)	www、http

- ③ [更新]ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報設定」画面が表示されます。

Step7：ftpサーバのアドレス変換情報を設定する

- ① [静的NAT情報一覧]で[追加]ボタンをクリックします。
「静的NAT情報設定」画面が表示されます。
(☛P97)
- ② 「静的NAT情報設定」画面で以下の項目を設定します。(☛P97)

項目	設定値
プライベートIP情報 (IPアドレス)	192.168.1.35
プライベートIP情報 (ポート番号)	ftp
グローバルIP情報 (IPアドレス)	172.16.2.219
グローバルIP情報 (ポート番号)	ftp

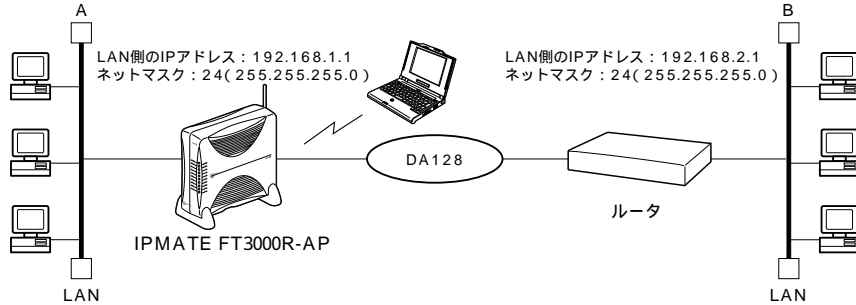
- ③ [更新]ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報設定」画面に戻ります。

Step8：設定を有効にする

- ① [更新]ボタンをクリックします。
「相手情報設定」画面に戻ります。
- ② [更新]ボタンをクリックします。
[設定反映]ボタンが表示されます。
- ③ [設定反映]ボタンをクリックします。
設定が有効になります。

いろいろな利用形態：設定8

事業所LANどうしを高速デジタル専用線で接続する場合にも「かんたん設定」で設定できます。
ここでは、高速デジタル専用線(DA128)を介して2つの事業所(A、B)のネットワークを接続する場合を例に説明します。



ここでは、事業所ネットワーク間をDA128を利用して接続し、本装置(A事業所)側はネットワークアドレス「192.168.1.0」、ネットマスク「255.255.255.0」、本装置のIPアドレス「192.168.1.1」、接続相手(B事業所)側はネットワークアドレス「192.168.2.0」、ネットマスク「255.255.255.0」、ルータのIPアドレス「192.168.2.1」とします。また本装置のLANでDHCPサーバ機能を使用します。

Step1：「かんたん設定(オフィスへ専用線接続)」画面を表示する

- 1 ブラウザを起動して「IPMATE FT3000R-AP」の初期画面(トップページ)を表示します。(●P61)
- 2 「かんたんメニュー」の「オフィスへ」から「専用線接続」をクリックします。
「かんたん設定(オフィスへ専用線接続)」画面が表示されます。(●P69)

ワンポイント

より細かく設定するには「詳細設定」(●P76)で設定することもできます。たとえば使用する回線は、「回線情報設定」画面(●P78)で設定します。

お知らせ

ここでの設定は一例を示しています。実際に設定をするときは、お客様の環境に合わせて、行ってください。

Step2：各項目を設定する

[必須設定]で以下の項目を入力します。

項目	設定値
IPMATEのIPアドレス	192.168.1.1
IPMATEのネットマスク	24(255.255.255.0)
相手ルータのIPアドレス	192.168.2.1
相手ルータのネットマスク	24(255.255.255.0)
使用する回線速度	128 kbit/s

Step3：設定を有効にする

[設定終了]ボタンをクリックします。
本装置が自動的に再起動し、設定が有効になります。

STOP お願い

「詳細設定」を行ったあとに、「かんたん設定」を行うと、「詳細設定」で設定した内容が無効になります。ご注意ください。
ただし、パスワード情報、アナログ情報、ファームウェア更新情報、オンラインサポート情報、ワイヤレスLAN情報は有効です。
接続先のルータの設定が必要です。設定方法については、接続先ルータの取扱説明書に従ってください。

便利な機能を設定するには

本装置では、次のような便利な機能を設定することができます。

マルチNAT機能の設定 (●P47)

LAN内で使用するプライベートアドレスを、接続先のインターネットサービスプロバイダから通知されるグローバルアドレスに変換できます。

アクセスサーバ機能の設定 (●P49)

本装置をリモートアクセスサーバとして使うことができます。遠隔地のデスクトップパソコンやPHS対応電話機を接続した携帯パソコンなど、外部のパソコンから本装置に着信接続することができます。

コールバック機能の設定 (●P51)

あらかじめ本装置で設定しておいた相手の方からのアクセス要求があった場合、いったん回線を切断し、本装置から自動的に相手の方に対して発信し直すことができます。自宅や出張先などの遠隔地から会社のサーバにアクセスする際に通信料金を本装置で管理したい場合などに利用します。本装置側で通信料金を一括管理することもできます。

認証を行うための設定 (●P53)

外部から不正なアクセスを防ぐため、認証機能を設定できます。

IPフィルタリング機能の設定 (●P55)

送受信されたパケットのIPアドレスとポート番号の組み合わせにより、データの送受信を制御することができます。意図しない送信や不正なアクセスを防止したり、アクセスを許可されていない利用者からの接続を拒否することができます。

URLフィルタ機能の設定 (●P58)

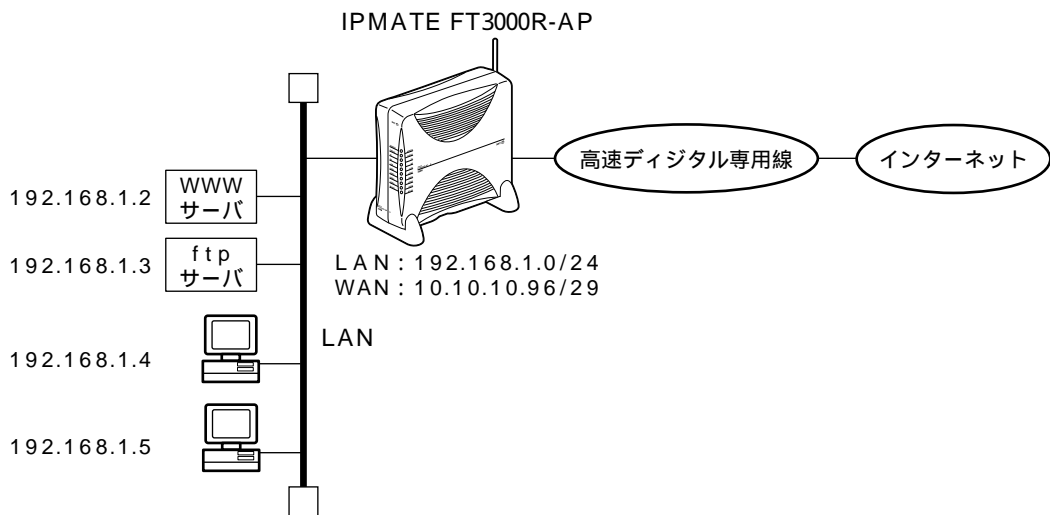
WWWを利用する際に、あらかじめ設定したURLへのアクセスを禁止することができます。

マルチルーティング機能の設定 (●P59)

設定した条件によってインターネットサービスプロバイダなどの接続先を変更することができます。例えば、パソコンごとに別々のインターネットサービスプロバイダを利用（ソースアドレスルーティング機能）したり、電子メールの送受信やWebページの閲覧などの目的ごとに別々のインターネットサービスプロバイダに接続（ポートルーティング機能）したり、課金単位でインターネットサービスプロバイダを切り替えることができます。

マルチNAT機能を設定するには

マルチNAT機能を利用すると、次のようなネットワーク型接続の機器構成の場合に、特定のパソコンのIPアドレスを公開して、外部（インターネット）からのアクセスを可能にすることができます。ここでは、以下の構成を例に説明します。



WWWサーバ、ftpサーバは外部に対してサービスを提供するサーバです。これらのIPアドレスそれぞれに、1つずつグローバルアドレスをつけることにより、外部から、サービスを利用することができます。また、残りのグローバルアドレスをパソコンに設定し、外部と接続することもできます。

通信条件

高速デジタル専用線接続・ネットワーク型接続で、既存LANを利用する。

- 割り当てネットワークアドレス : 10.10.10.96/29
- WWWサーバに割り当てるIPアドレス : 10.10.10.98
- ftpサーバに割り当てるIPアドレス : 10.10.10.99
- パソコンに割り当てるIPアドレス : 10.10.10.100 ~ 102
- ネットワークアドレス/ネットマスク : 192.168.1.0/24
- ブロードキャストアドレス : 192.168.1.255



お知らせ

ここでの設定は一例を示しています。実際に設定をするときは、お客様の環境に合わせて、行ってください。

(次ページへ続きます)

便利な機能を設定するには

(前ページの続きです)

Step 1 : 「かんたん設定」で専用線接続を設定する

① 「かんたんメニュー」で「インターネットへ」から [専用線接続] をクリックします。「かんたん設定 (インターネットへ専用線接続)」画面が表示されます。(●P67)

② [必須設定] を設定し、[設定終了] をクリックします。

Step 2 : 「ルータ設定」でアドレス変換情報を設定する

① 「詳細設定メニュー」で「ルータ設定」の [相手情報] をクリックします。「相手情報設定」画面が表示されます。

② [ネットワーク情報一覧] で設定するネットワーク欄の [修正] ボタンをクリックします。「ネットワーク情報設定」画面が表示されます。(●P86)

③ [NAT情報] で以下の項目を設定します。(●P87)

項目	設定値
NATの使用	マルチNAT
グローバルアドレス	10.10.10.100
アドレス個数	3



お知らせ

ネットワーク型接続でマルチNATを使用する際には、グローバルアドレスの設定が必須となります。なお、端末型接続では、接続時にグローバルアドレスが割り当てられるため、設定は不要です。

④ [静的NAT情報一覧] で [追加] ボタンをクリックします。

画面の指示に従い、[OK] ボタンをクリックします。「静的NAT情報設定」画面が表示されます。

(●P97)

⑤ 以下の項目を指定します。(●P97)

項目	設定値
プライベートIP情報 (IPアドレス)	192.168.1.2
プライベートIP情報 (ポート番号)	www, http
グローバルIP情報 (IPアドレス)	10.10.10.98
グローバルIP情報 (ポート番号)	www, http

⑥ [更新] ボタンをクリックします。「ネットワーク情報設定」画面に戻ります。

⑦ 手順4～6を参考に、以下の情報を設定します。

項目	設定値
プライベートIP情報 (IPアドレス)	192.168.1.3
プライベートIP情報 (ポート番号)	ftp
グローバルIP情報 (IPアドレス)	10.10.10.99
グローバルIP情報 (ポート番号)	ftp

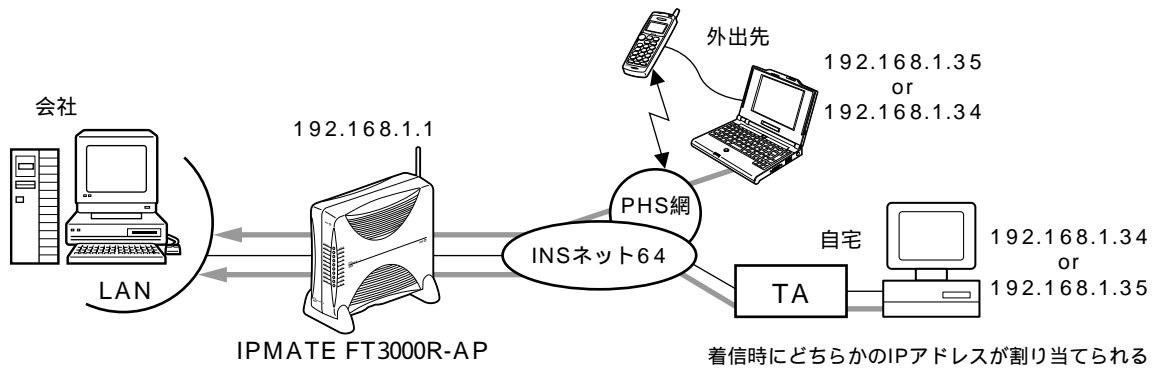
⑧ [更新] ボタンをクリックします。「相手情報設定」画面に戻ります。

⑨ [更新] ボタンをクリックします。[設定反映] ボタンが表示されます。

⑩ [設定反映] ボタンをクリックします。設定が有効になります。

アクセスサーバ機能を設定するには

ISDN回線経由で外部のパソコンから本装置に着信接続する場合、本装置をリモートアクセスサーバとして使うことができます。ここでは、デスクトップパソコン+TAによるISDN経由での接続、ノートパソコン+PHS対応電話機（PIAFSカード）によるINSネット64での接続を例に説明します。



通信条件

外出先：ノートパソコン+PHS対応電話機

- 受諾認証ID : mobile
- 受諾認証パスワード : mobilepass
- PHS対応電話機の電話番号 : 未登録

自宅：デスクトップパソコン+TA

- 受諾認証ID : soho
- 受諾認証パスワード : sohopass
- 自宅の電話番号 : 未登録
- 本社LAN側のネットワークアドレス/ネットマスク : 192.168.1.0/24
- 外部のパソコンに割り当てるIPアドレス : 192.168.1.34、192.168.1.35

お知らせ

ここでの設定は一例を示しています。実際に設定をするときは、お客様の環境に合わせて、行ってください。

Step1：回線情報を設定する

- ① 「詳細設定メニュー」の「ルータ設定」で [回線情報] をクリックします。
「回線情報設定」画面が表示されます。

- ② [回線情報] で以下の項目を指定します。
(P78)

項目	設定値
回線インタフェース	ISDN

[ISDN情報] で以下の項目を指定します。

項目	設定値
着信動作	相手毎に設定

- ③ [更新] ボタンをクリックします。
[設定反映] ボタンが表示されます。

- ④ [設定反映] ボタンをクリックします。

(次ページへ続きます)

便利な機能を設定するには

(前ページの続きです)

Step2 : 不特定の相手と着信接続するために必要な情報を設定する

- ① 「詳細設定メニュー」の「ルータ設定」で「相手情報」をクリックします。
「相手情報設定」画面が表示されます。
- ② [ネットワーク情報一覧]の「不特定相手着信」欄の[修正]ボタンをクリックします。
「不特定相手情報設定」画面が表示されます。
(●P98)
- ③ [基本情報]で以下の項目を設定します。
(●P98)

項目	設定値
割当先頭アドレス	192.168.1.34
同時接続許可数	2

- ④ [更新]ボタンをクリックします。

Step3 : 着信相手を識別するために必要な情報を設定する

- ① 「詳細設定メニュー」の「ルータ設定」で「相手情報」をクリックします。
「相手情報設定」画面が表示されます。
- ② [着信相手識別情報]で以下の項目を指定します。(●P83)

項目	設定値
着信許可	する
認証方式	「PAP」および「CHAP」
MP接続	しない
コールバック応答	しない

- ③ [更新]ボタンをクリックします。
[設定反映]ボタンが表示されますが、続けてStep4の の操作に進んでください。

Step4 : 受諾認証情報を設定する

- ① 「詳細設定メニュー」の「ルータ設定」で「相手情報」をクリックします。
「相手情報設定」画面が表示されます。
- ② [受諾認証ID情報一覧]で[追加]ボタンをクリックします。
「PPP受諾認証情報」画面が表示されます。
(●P102)
- ③ [受諾認証情報]で以下の項目を設定します。
(●P102)

項目	設定値
受諾認証ID	mobile
受諾認証パスワード	mobilepass

- ④ [更新]ボタンをクリックします。
「相手情報設定」画面に戻ります。
- ⑤ 手順2～4を参考にデスクトップパソコン+TAの情報を設定します。

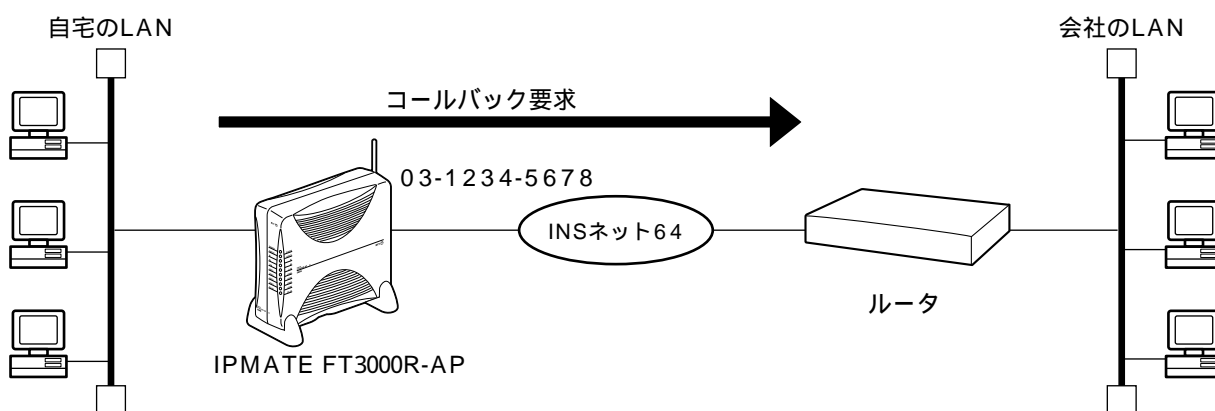
項目	設定値
受諾認証ID	soho
受諾認証パスワード	sohopass

- ⑥ [更新]ボタンをクリックします。
「相手情報設定」画面に戻ります。
- ⑦ [更新]ボタンをクリックします。
[設定反映]ボタンが表示されます。
- ⑧ [設定反映]ボタンをクリックします。
設定が有効になります。

コールバック機能を設定するには

あらかじめ本装置で設定しておいた相手の方からのアクセス要求があった場合、いったん回線を切断し、本装置から自動的に相手の方に対して発信し直すことができます。自宅や出張先などの遠隔地から会社のサーバにアクセスする際に通信料金を本装置で管理したい場合などに利用します。本装置側で通信料金を一括管理することもできます。

ここでは、自宅のパソコンから、すでに設定してある会社のサーバにアクセスする際、コールバックを要求する例（CBCP方式）について説明します。



通信条件

- コールバック方式 : CBCP方式
- コールバック時の電話番号 : 03-1234-5678
- コールバックウェイトタイム : 60秒

参照する情報

- 会社のネットワークの名前 : kaisya
- 接続先の名前 : office



お知らせ

ここでの設定は一例を示しています。実際に設定するときは、お客様の環境に合わせて、行ってください。Windows® 98/95は、Microsoft® Windows® 98 Operating SystemおよびMicrosoft® Windows® 95 Operating Systemの略です。Windows NT® 4.0は、Microsoft® Windows NT® Operating System Version 4.0の略です。



お願い

コールバック発信待ち、またはコールバック着信待ちの状態、同一回線に接続されたISDN機器、および本装置のアナログポートに接続した機器から発信要求があった場合には、コールバック機能が利用できない場合があります。



ワンポイント

本装置のコールバックには次の2方式があります。

- CBCP (Microsoftコールバック対応) 方式
Windows® 98/95、Windows NT® 4.0が備えるダイヤルアップ機能に対応して、着信側の本装置側からダイヤル発信をやり直させることができます。接続相手からの着信要求に対して、いったんISDN回線を接続してから認証を行う必要があるため、相手側に最低限（最初の1通話分）の課金がかかります。
- 無課金方式
呼び出し元からのダイヤル発信要求に含まれる発信元の電話番号を利用して認証を行い、その後、呼び出された側からダイヤル発信をやり直し、ISDN回線を接続します。認証を行うために回線を接続しないので、呼び出し側には課金されません。本装置どうしの接続または本装置とIPMATE 1300RD/1200RDとの接続で利用できます。コールバック応答するには (●P90)

(次ページへ続きます)

便利な機能を設定するには

(前ページの続きです)

Step 1 : コールバックを要求する 接続先の情報を設定する

- ① 「詳細設定メニュー」の「ルータ設定」で
[相手情報] をクリックします。
「相手情報設定」画面が表示されます。
- ② [ネットワーク情報一覧] で [kaisya] 欄の
[修正] ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報設定」画面が表示されます。
- ③ [接続先一覧] で「office」欄の [修正] ボ
タンをクリックします。
「接続先情報設定」画面が表示されます。(●P89)
- ④ [発信情報] で以下の項目を指定します。
(●P90)

項目	設定値
コールバック要求	する
コールバック方式	CBCP
コールバックウェ イトタイム	60秒
コールバック電話 番号	03-1234-5678

- ⑤ [更新] ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報設定」画面に戻ります。
- ⑥ [更新] ボタンをクリックします。
「相手情報設定」画面が表示されます。
- ⑦ [更新] ボタンをクリックします。
[設定反映] ボタンが表示されます。
- ⑧ [設定反映] ボタンをクリックします。
設定が有効になります。



ワンポイント

コールバックウェイトタイムとは
コールバック要求発行後、相手からコールバック着信ま
での待ち時間です。設定された時間が短すぎる場合、コ
ールバックが失敗する場合があります。
CBCP方式でコールバック応答するには
コールバック応答するには、接続先の情報を以下のよう
に設定します。

•通信条件

コールバック方式 : CBCP方式
コールバックウェイトタイム : 10秒

•参照する情報

出張時のネットワークの名前 : outside
接続先の名前 : PHS対応電話機

「ルータ設定」で [相手情報] の [ネットワーク情報]
で出張時のネットワーク名「outside」欄で [修正]
ボタンをクリックする。

[接続先一覧] の接続先名「PHS対応電話機」欄で
[修正] ボタンをクリックする。

[発信者番号識別による着信情報] で以下の項目を指
定する。

項目	設定値
コールバック応答	する
コールバック方式	CBCP
コールバックウェ イトタイム	10秒
コールバック電話 番号	コールバック用の電話番号を入力

[更新] ボタンをクリックすると、「ネットワーク情
報設定」画面に戻ります。

[更新] ボタンをクリックする。

[設定反映] ボタンをクリックすると、設定した内容
が有効になります。

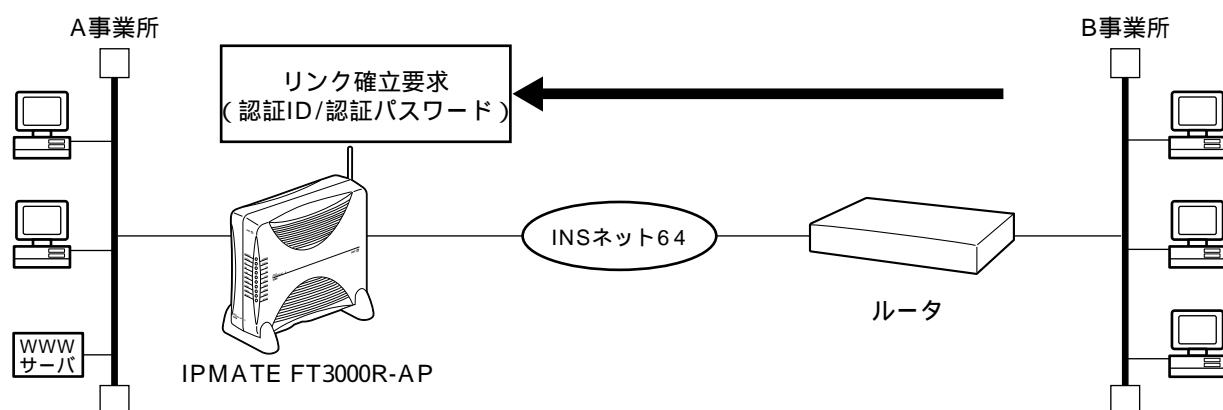


お知らせ

コールバック電話番号およびコールバックサブアドレ
スで設定した番号は、コールバック元に対して通知す
るかけ直し電話番号およびサブアドレスを設定してく
ださい。

認証を行うには

認証とは、外部からの不正なアクセスを防ぐために、アクセスの権利がある相手かどうかをチェックすることです。認証を行うことにより、LANのセキュリティを強化できます。



ここでは、A事業所の本装置の設定で、設定済みの接続先情報に認証IDで特定するための情報を追加する場合を例に説明します。INSネット64回線を介して2つの事業所のネットワークを接続します。一方の事業所でサーバを公開していて、着信接続します。

通信条件

- 受諾認証ID : bjigyou
 - 受諾認証パスワード : bjipass
 - A事業所でサーバを公開している
 - B事業所では電話番号を通知しない設定をしている
- 電話番号から特定できない相手との着信処理

- 認証方式 : PAPおよびCHAP
- MP接続 : しない
- コールバック応答 : しない

参照する情報 (A事業所)

- B事業所のネットワークの名前 : kaisya
- 接続先の名前 : bjigyou



お知らせ

認証IDによる相手識別は以下の場合に必要となります。

- 着信時に発信者番号が通知されない場合
- 同一相手からの着信時の発信者番号が毎回異なる場合

ここでの設定は一例を示しています。実際に設定をするときは、お客様の環境に合わせて、行ってください。

(次ページへ続きます)

便利な機能を設定するには

(前ページの続きです)

Step 1 : 回線接続情報 (A事業所) を設定する

- ① 「詳細設定メニュー」の「ルータ設定」で「回線情報」をクリックします。
「回線情報設定」画面が表示されます。
 - ② [ISDN情報] で以下の項目を設定します。
(●P78)
- | 項目 | 設定値 |
|------|--------|
| 着信動作 | 相手毎に設定 |
- ③ [更新] ボタンをクリックします。
[設定反映] ボタンが表示されますが、続けてStep2の の操作に進んでください。

Step 2 : 着信相手を識別するための必要な情報を設定する

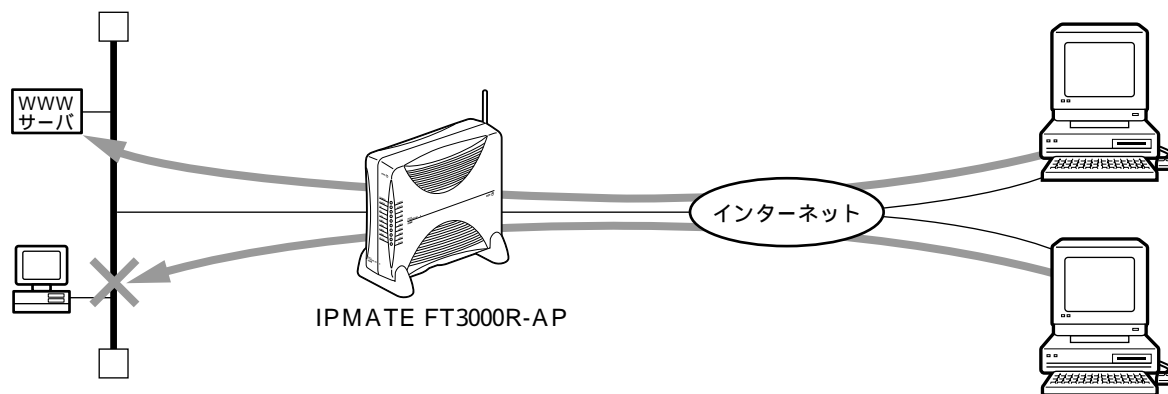
- ① 「詳細設定メニュー」の「ルータ設定」で「相手情報」をクリックします。
「相手情報設定」画面が表示されます。
 - ② [着信相手識別情報] で以下の項目を指定します。(●P83)
- | 項目 | 設定値 |
|----------|----------------|
| 着信許可 | する |
| 認証方式 | 「PAP」および「CHAP」 |
| MP接続 | しない |
| コールバック応答 | しない |
- ③ [更新] ボタンをクリックします。
[設定反映] ボタンが表示されますが、続けてStep3の の操作に進んでください。

Step 3 : 接続先の情報 (B事業所) を設定する

- ① 「詳細設定メニュー」の「ルータ設定」で「相手情報」をクリックします。
「相手情報設定」画面が表示されます。
 - ② [ネットワーク情報一覧] で「kaisya」欄の「修正」ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報設定」画面が表示されます。
 - ③ [接続先一覧] で「bjigyou」欄の「修正」ボタンをクリックします。
「接続先情報設定」画面が表示されます。(●P89)
 - ④ [着信情報] で以下の項目を指定します。
(●P90)
- | 項目 | 設定値 |
|---------|---------|
| 着信許可 | する |
| 認証ID | bjigyou |
| 認証パスワード | bjipass |
- ⑤ [発信者番号識別による着信情報] で以下の項目を指定します。(●P90)
- | 項目 | 設定値 |
|------------|------------|
| 発信者番号による識別 | 番号チェックをしない |
- ⑥ [更新] ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報設定」画面に戻ります。
 - ⑦ [更新] ボタンをクリックします。
「相手情報設定」画面に戻ります。
 - ⑧ [更新] ボタンをクリックします。
[設定反映] ボタンが表示されます。
 - ⑨ [設定反映] ボタンをクリックします。
設定が有効になります。

IPフィルタリング機能を設定するには

IPフィルタリング機能を設定することで、ネットワークのセキュリティを向上できます。



ここでは、すでに設定してある接続先から、LAN上のWWWサーバに対するアクセスを許可し、他のLAN上のパソコンへのアクセスは禁止する場合の設定方法を説明します。さらに、一般的にはLAN上の他のパソコンはインターネット上のWWWサーバに対してアクセスすると想定できるので、そのアクセスには特に制限は付けません。

IPフィルタリング機能を利用するには「フィルタリングの内容」と「フィルタリングの実現方法」を考える必要があります。

フィルタリングの内容

- LAN上のホスト (192.168.1.2/32) をWWWサーバとして利用を許可
- LAN上のホスト (192.168.1.3/32) から任意のWWWサーバへのアクセスを許可
- LAN上のホスト (192.168.1.0/24) からWANの先のDNSの問い合わせは許可
- 上記3つ以外はすべて遮断

フィルタリングの実現方法

- WWWサーバとしての利用を許可するには
192.168.1.2/32のポート80 (www) へのパケットを透過させる
手順 ① 応答パケットを透過させる
- WWWサーバへのアクセスを許可するには
192.168.1.3/32の任意のポートから任意のアドレスのポート80 (www) へのパケットを透過させる
手順 ① 応答パケットを透過させる
- DNSの問い合わせを許可するには
192.168.1.0/24の任意のポートからDNSサーバのポート53 (domain) へのUDP/IPパケットを透過させる
手順 ① 応答パケットを透過させる
- その他をすべて遮断するには
すべてのパケットを遮断する



お知らせ

ここでの設定は一例を示しています。実際に設定をするときは、お客様の環境に合わせて、行ってください。
フィルタリングの内容を考える場合には、LAN上で使用されているIPアドレスやポート番号を対象とします。

(次ページへ続きます)

便利な機能を設定するには

(前ページの続きです)

この例では、優先順位の高い順に設定します。

Step 1 : WWWサーバへのアクセスを透過させる設定を行う (インターネット LAN)

- ① 「詳細設定メニュー」の「ルータ設定」で「相手情報」をクリックします。
「相手情報設定」画面が表示されます。
- ② [ネットワーク情報一覧]で設定するネットワーク欄の[修正]ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報設定」画面が表示されます。
- ③ [IPフィルタリング情報一覧]で[追加]ボタンをクリックします。
「IPフィルタリング情報」画面が表示されます。
(●P95)
- ④ 「IPフィルタリング情報」画面で以下の項目を指定します。(●P95)

項目	設定値
動作	透過
プロトコル	tcp
送信元情報 (IPアドレス)	なにも設定しない
送信元情報 (アドレスマスク)	なにも設定しない
送信元情報 (ポート番号)	なにも設定しない
宛先情報 IPアドレス	192.168.1.2
宛先情報 (アドレスマスク)	32 (255.255.255.255)
宛先情報 (ポート番号)	80 (www、httpのポート番号)
TCP接続要求	対象

- ⑤ [更新]ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報設定」画面に戻ります。

Step 2 : LAN側のWWWへのアクセスを透過させる設定を行う (LAN インターネット)

手順1~5を参考に、「IPフィルタリング情報」画面で以下の項目を指定します。

項目	設定値
動作	透過
プロトコル	tcp
送信元情報 (IPアドレス)	192.168.1.2
送信元情報 (アドレスマスク)	32 (255.255.255.255)
送信元情報 (ポート番号)	80 (www、httpのポート番号)
宛先情報 IPアドレス	なにも設定しない
宛先情報 (アドレスマスク)	なにも設定しない
宛先情報 (ポート番号)	なにも設定しない
TCP接続要求	対象外

Step 3 : インターネットのWWWサーバへのアクセスを透過させる設定を行う (LAN インターネット)

手順1~5を参考に、「IPフィルタリング情報」画面で以下の項目を指定します。

項目	設定値
動作	透過
プロトコル	tcp
送信元情報 (IPアドレス)	192.168.1.3
送信元情報 (アドレスマスク)	32 (255.255.255.255)
送信元情報 (ポート番号)	なにも設定しない
宛先情報 IPアドレス	なにも設定しない
宛先情報 (アドレスマスク)	なにも設定しない
宛先情報 (ポート番号)	80 (www、httpのポート番号)
TCP接続要求	対象

Step4 : インターネットのWWWサーバからの応答パケットを透過させる設定を行う (インターネット LAN)

手順1～5を参考に、「IPフィルタリング情報」画面で以下の項目を指定します。

項目	設定値
動作	透過
プロトコル	tcp
送信元情報 (IPアドレス)	なにも設定しない
送信元情報 (アドレスマスク)	なにも設定しない
送信元情報 (ポート番号)	80 (www、httpのポート番号)
宛先情報 IPアドレス	192.168.1.3
宛先情報 (アドレスマスク)	32 (255.255.255.255)
宛先情報 (ポート番号)	なにも設定しない
TCP接続要求	対象外

Step5 : DNSサーバアドレスのポート53へのUDP/IPパケットを透過させる設定を行う (LAN インターネット)

手順1～5を参考に、「IPフィルタリング情報」画面で以下の項目を指定します。

項目	設定値
動作	透過
プロトコル	udp
送信元情報 (IPアドレス)	192.168.1.0
送信元情報 (アドレスマスク)	24 (255.255.255.0)
送信元情報 (ポート番号)	なにも設定しない
宛先情報 IPアドレス	なにも設定しない
宛先情報 (アドレスマスク)	なにも設定しない
宛先情報 (ポート番号)	53 (domainのポート番号)
TCP接続要求	対象

Step6 : DNSの応答パケットを透過させる設定を行う (インターネット LAN)

手順1～5を参考に、「IPフィルタリング情報」画面で以下の項目を指定します。

項目	設定値
動作	透過
プロトコル	udp
送信元情報 (IPアドレス)	なにも設定しない
送信元情報 (アドレスマスク)	なにも設定しない
送信元情報 (ポート番号)	53 (domainのポート番号)
宛先情報 IPアドレス	192.168.1.0
宛先情報 (アドレスマスク)	24 (255.255.255.0)
宛先情報 (ポート番号)	なにも設定しない
TCP接続要求	対象

Step7 : 残りの通信はすべて遮断する

① 手順1～5を参考に、「IPフィルタリング情報」画面で以下の項目を指定します。

項目	設定値
動作	遮断
プロトコル	すべて
送信元情報 (IPアドレス)	なにも設定しない
送信元情報 (アドレスマスク)	なにも設定しない
送信元情報 (ポート番号)	なにも設定しない
宛先情報 IPアドレス	なにも設定しない
宛先情報 (アドレスマスク)	なにも設定しない
宛先情報 (ポート番号)	なにも設定しない
TCP接続要求	対象

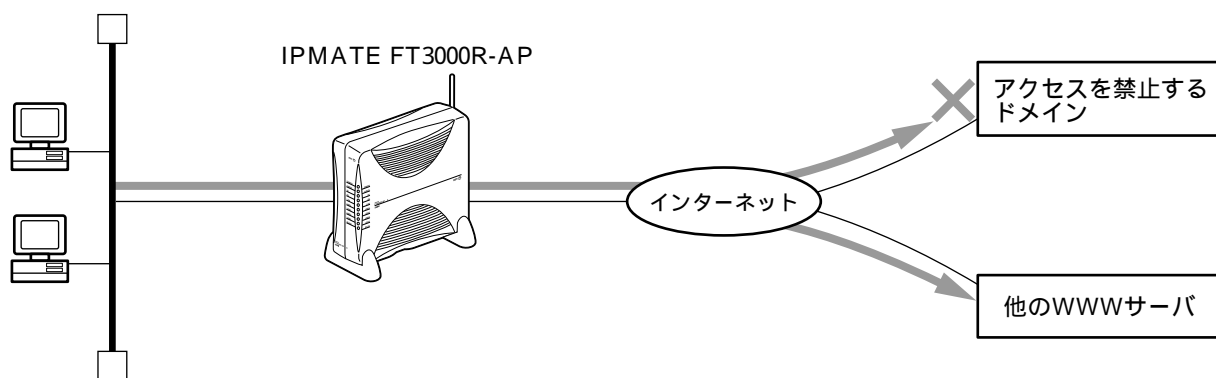
② 「ネットワーク情報設定」画面で [更新] ボタンをクリックします。
「相手情報設定」画面に戻ります。

③ [更新] ボタンをクリックします。
[設定反映]ボタンが表示されます。

④ [設定反映] ボタンをクリックします。
設定が有効になります。

URLフィルタ機能を設定するには

URLフィルタ機能を使うと、特定のURLへのアクセスを禁止できます。URLフィルタ機能を使用する場合は、「ProxyDNS情報」画面で設定します。
ここでは、以下の構成を例に説明します。



通信条件

- アクセスを禁止するドメイン名：www.ntt-east.co.jp



ワンポイント

ワイルドカード「*」でURLを指定するには任意の文字列に代わるワイルドカード「*」を使用することができます。例えば、「www.ntt-east.co.jp」と「ftp.ntt-east.co.jp」の両方をURLフィルタの対象とする場合は「*.ntt-east.co.jp」と指定することで両方を対象にできます。

URLフィルタ機能を使用するにはパソコンのDNSサーバのIPアドレスとして、本装置のIPアドレスを設定してください。



お知らせ

ここでの設定は一例を示しています。実際に設定するときは、お客様の環境に合わせて、行ってください。すでに設定済みの接続先にURLフィルタの設定を追加する例です。

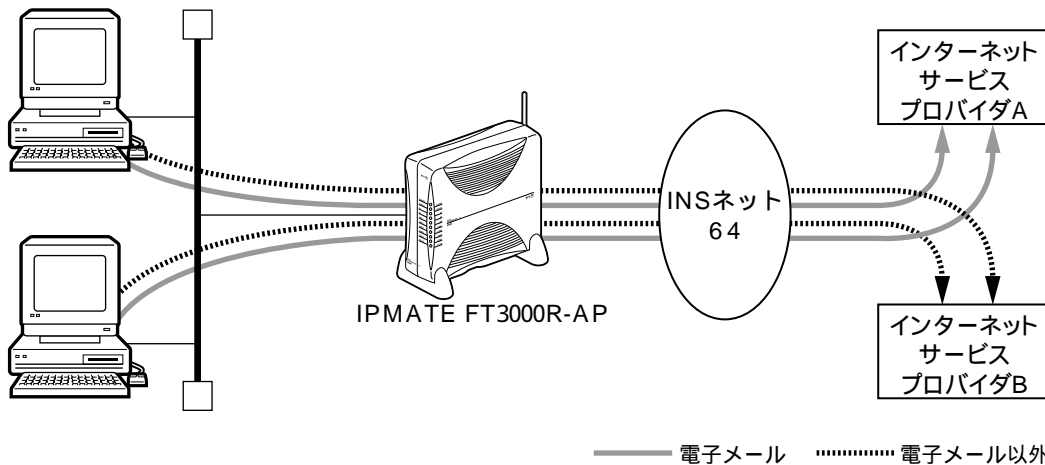
Step1：URLの情報を設定する

- ① 「詳細設定メニュー」の「ルータ設定」で [ProxyDNS情報/URLフィルタ情報] をクリックします。
「ProxyDNS情報」画面が表示されます。
 - ② [順引き情報一覧] の [追加] ボタンをクリックします。
「ProxyDNS情報設定 (順引き)」画面が表示されます。(●P107)
 - ③ 以下の項目を指定します。(●P107)
- | 項目 | 設定値 |
|-------|--------------------|
| ドメイン名 | www.ntt-east.co.jp |
| 動作 | 廃棄する |
- ④ [更新] ボタンをクリックします。
「ProxyDNS情報」画面に戻ります。
 - ⑤ [設定反映] ボタンをクリックします。
設定が有効になります。

マルチルーティング機能を設定するには

マルチルーティング機能を使うと、設定した条件によってインターネットサービスプロバイダなどの接続先を変更することができます。

本装置には、パソコンごとに別々のインターネットサービスプロバイダを利用する（ソースアドレスルーティング機能 ●P90）、目的ごとに別々のインターネットサービスプロバイダに接続する（ポートルーティング機能 ●P90、93）、課金単位でインターネットサービスプロバイダを切り替える（●P90）、という3種類のマルチルーティング機能があります。



ここでは、目的ごとに別々のインターネットサービスプロバイダに接続するポートルーティング機能の設定例について説明します。ポートルーティング機能では、インターネットで利用するアプリケーション（WWW、電子メールなど）ごとに接続先を変えることができます。

例えば電子メールはインターネットサービスプロバイダAで、WWWブラウザはインターネットサービスプロバイダBで利用するといったことも可能です。

通信条件

この例ではポートルーティング機能を利用します。

- 電子メール利用時はインターネットサービスプロバイダAに接続
- インターネットサービスプロバイダAのメールサーバホスト名 : mailhost.provider.ne.jp
- 電子メール以外（WWW利用など）はインターネットサービスプロバイダBに接続
- ネットワーク名(internet)配下の「接続先情報」としてインターネットサービスプロバイダA(接続先名:ISP-A)、インターネットサービスプロバイダB(接続先名:ISP-B)がすでに登録済み



お知らせ

ここでの設定は一例を示しています。実際に設定するときは、お客様の環境に合わせて、行ってください。ProxyDNSを使う設定にする必要があります。（●P106）

（次ページへ続きます）

(前ページの続きです)

Step 1 : マルチルーティング情報 を設定する

- ① 「詳細設定メニュー」の「ルータ設定」で
[相手情報] をクリックします。
「相手情報設定」画面が表示されます。
- ② [ネットワーク情報一覧] で設定するネット
ワーク欄の [修正] ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報設定」画面が表示されます。
- ③ [接続先一覧] で接続先「ISP-A」欄の [修
正] ボタンをクリックします。
「接続先情報設定」画面が表示されます。
- ④ [マルチルーティング] の「ポートルーティ
ング」で [追加] ボタンをクリックします。
「ポートルーティング情報設定」画面が表示されます。
(●P93)
- ⑤ [ポートルーティング情報] で以下の項目を
指定します。(●P93)
電子メール利用時の設定を行います。

項目	設定値
ポート番号	pop3
サーバホスト名	mailhost.provider.ne.jp (イン ターネットサービスプロバイダ から提示されたメールサーバホ スト名)

- ⑥ [更新] ボタンをクリックします。
「接続先情報設定」画面に戻ります。
- ⑦ [更新] ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報設定」画面に戻ります。
- ⑧ [更新] ボタンをクリックします。
「相手情報設定」画面に戻ります。
- ⑨ [更新] ボタンをクリックします。
[設定反映] ボタンが表示されます。
- ⑩ [設定反映] ボタンをクリックします。
設定が有効になります。



お知らせ

この例ではサーバホスト名で設定した以外のDNSへの
要求は、ISP-Bに発信します。

初期画面（トップページ）の表示

本装置の設定を行うときは、WWWブラウザを使用します。必ずWWWブラウザのProxyサーバ機能は使用しない設定にしてください。（●P217）
「IPMATE FT3000R-AP」の操作を、以下ではMicrosoft Internet Explorerの画面を例に説明します。



ワンポイント

ログインパスワードが設定されているとき
（●P105）

ログインパスワードが設定されているときは、本装置の設定や操作を行うときにパスワードの入力を促す画面が表示されます。パスワード入力欄にログインパスワードを入力してください。入力後は複数の方による操作はできません。

処理を続行するためにはログインパスワードの入力が必要です。

ログインパスワードを入力してください

ログインパスワード

画面上部のアイコンの意味

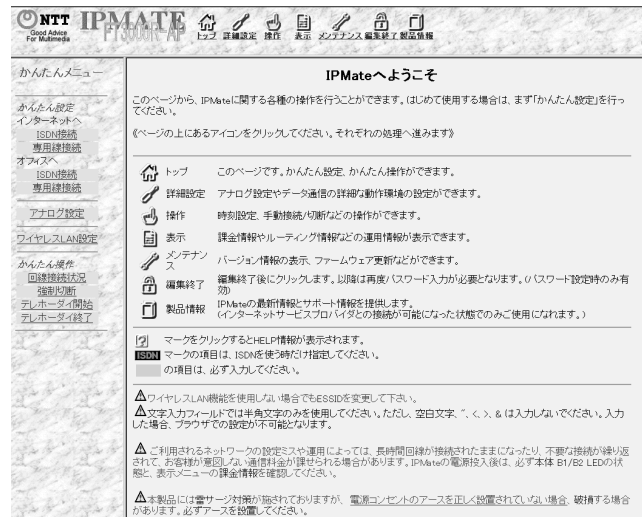
本装置の操作は、まずアイコンをクリックしてから、メニューフレームに表示された項目を選択します。

- IPMATE FT3000R-AP
：クリックすると、「かんたんメニュー」が表示されます。
- [トップ] アイコン
：クリックすると、「かんたんメニュー」が表示されます。
- [詳細設定] アイコン
：クリックすると、「詳細設定メニュー」が表示されます。
- [操作] アイコン
：クリックすると、「操作メニュー」が表示されます。
- [表示] アイコン
：クリックすると、「表示メニュー」が表示されます。
- [メンテナンス] アイコン
：クリックすると、「メンテナンスメニュー」が表示されます。
- [編集終了] アイコン
：クリックすると、すぐに設定操作を終了できます。
- [製品情報] アイコン
：クリックすると当社通信機器ホームページを案内するページが表示されます。

かんたん操作とは（●P123）

1 WWWブラウザを起動し、URLに「http://192.168.1.1/」と入力します。

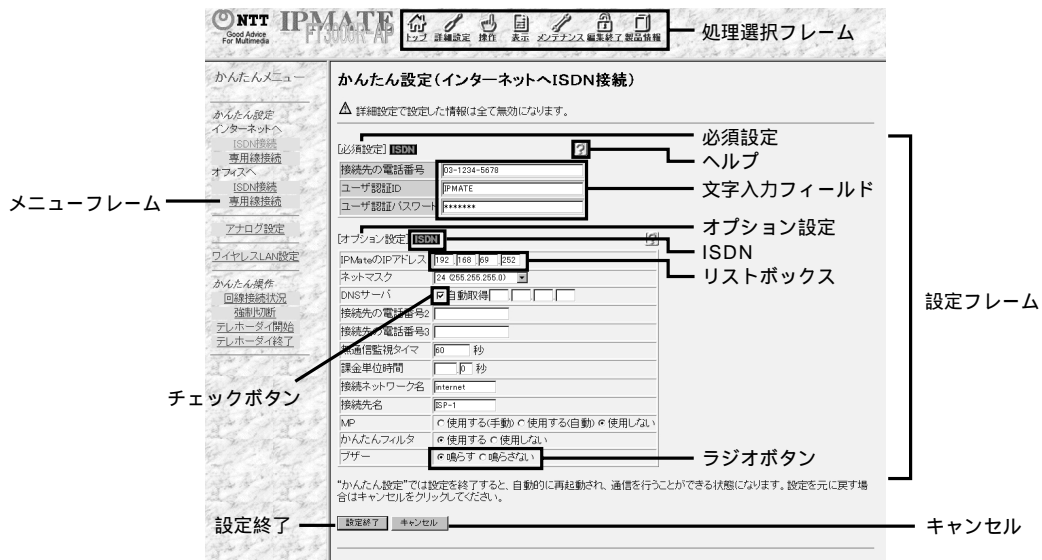
「IPMATE FT3000R-AP」の初期画面（トップページ）が表示されます。画面上部のフレームに表示されるアイコンをクリックすると、ブラウザの表示が変わります。



STOP お願い

すでに本装置の設定が済んでいて、本装置のIPアドレスを変更した場合は、WWWブラウザでURLを入力するときに「192.168.1.1」の代わりに「本装置のIPアドレス」を入力してください。WWWブラウザの操作に関しては、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

画面の見方



処理選択フレーム

アイコンをクリックして、設定する処理を選びます。

メニューフレーム

メニューが表示されます。

設定フレーム

具体的な設定を行います。

ヘルプ

マークをクリックするとHELP情報が表示されます。

ISDN

ISDN接続のときだけ有効な設定項目です。

必須設定

この項目は、必ず入力してください。必須設定は緑色で表示されます。

オプション設定

必要に応じて各項目を設定してください。

ラジオボタン

画面の項目の左にある や のボタンです。 が現在の設定値です。変更するときは をクリックして にします。

チェックボタン

画面の項目の左にある のボタンです。クリックするとチェックマーク になります。チェックマークがつくと選択されたことになります。再クリックすると、チェックマークがはずれます。

文字入力フィールド

画面の入力欄があり、数値やアドレスを入力するときは、入力欄をクリックします。カーソルが表示されて数値やアドレスが入力できるようになります。入力欄には半角英数字のみを使用してください。また空白文字、「」、「<」、 「>」、「&」を入力しないでください。WWWブラウザでの設定ができなくなります。

リストボックス

リストボックスの右にある をクリックすると選択項目が一覧表示されます。設定する項目をクリックするとリストボックスに表示されます。

[設定終了]

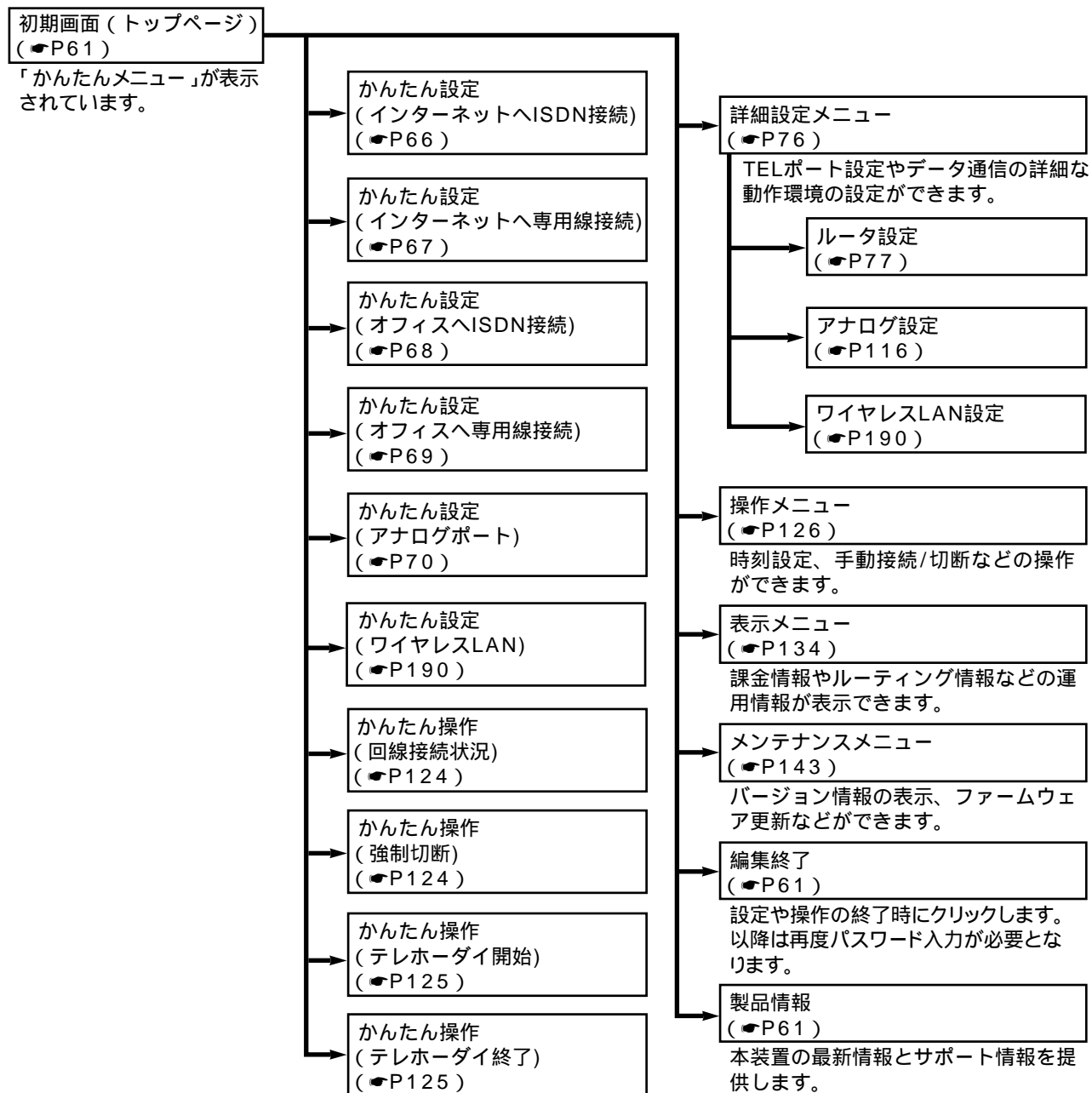
クリックすると設定を終了します。

[キャンセル]

クリックすると、その画面で設定した内容を無効にします。

画面の流れ

各画面は次のような関連になっています。



ワンポイント

製品情報の表示

インターネットサービスプロバイダとの接続が可能な状態の場合にクリックすると表示されます。

設定について

本装置は、お買い求め時の設定（初期値）のままでも、アナログ通信機器を接続してご利用になれます。

しかし、さらにいろいろな機能を利用したり、パソコンを接続して通信を行うためには、各種情報の設定を行う必要があります。

本装置の設定方法には「かんたん設定」と「詳細設定」の2種類があります。

かんたん設定

「かんたん設定」には、「ルータ設定」と「アナログ設定」「ワイヤレスLAN設定」の3つがあります。

「ルータ設定」は、インターネット接続と事業所LANどうしの接続の2つがあり、データ通信の設定を行います。

インターネットへ

インターネットサービスプロバイダとの接続方法により、以下を選択します。

- 「ISDN接続」 : 端末型ダイヤルアップ接続の場合
- 「専用線接続」 : 専用線接続の場合

オフィスへ

事業所LANどうしを接続する方法により、以下を選択します。

- 「ISDN接続」 : ISDN接続の場合
- 「専用線接続」 : 専用線接続の場合

「かんたん設定」で設定する場合は、設定終了時に [設定終了] ボタンをクリックする必要があります。

クリックすると、本装置が再起動され、通話中やデータ通信中の場合は通話およびデータ通信は切断されます。

アナログ設定

- 基本的なアナログ通信機器の設定ができます。

ワイヤレスLAN設定 (P190)

- ワイヤレスLANを利用するための認証コード (ESSID) を設定します。

詳細設定

TELポートの設定や、データ通信の詳細な動作環境の設定ができます。

「詳細設定」で設定する場合は、更新する内容により、再起動が必要かどうか異なります。

ただし、複数の画面で設定が必要な場合、それぞれの画面で設定した情報を [更新] ボタンをクリックして更新しておき、最後に [再起動] ボタンまたは [設定反映] ボタンをクリックすると設定したすべての内容が有効になります。

再起動が必要な場合は [再起動] ボタンが表示され、再起動なしに設定情報を反映できる場合は、[設定反映] ボタンが表示されます。

どちらのボタンが必要かについては、更新情報により、ブラウザ画面に必要なボタンが表示されますので、メッセージに従って処理を進めてください。

なお、クリックするボタンにより、本装置は以下のように動作します。

- { 再起動 } ボタン : 通話中やデータ通信中の場合、通話およびデータ通信は切断されます。
- { 設定反映 } ボタン : 通話中やデータ通信中の場合、通話は切断されません。データ通信は切断されます。

STOP お願い

「詳細設定」を行ったあとに「かんたん設定」を行うと、「詳細設定」で設定した内容が無効になります。ご注意ください。

ただし、パスワード情報、アナログ情報、ファームウェア更新情報、オンラインサポート情報、ワイヤレスLAN情報は有効です。

かんたん設定

「かんたん設定」には通常よく使われる形態の6つのメニューがあります。共通する操作手順は以下のとおりです。



ワンポイント

正しく設定されたか確認するにはインターネットサービスプロバイダとの接続が可能な場合は、初期画面（トップページ）の[製品情報]をクリックして当社のホームページへのリンクをクリックしてください。正しく設定されているときは、当社通信機器ホームページが表示されます。なお、本操作を行った場合は課金の対象になります。

かんたん設定で設定した内容を変更するときは

「かんたん設定」で設定した内容を変更するときは、再度「かんたん設定」により変更する方法をおすすめします。

また、ISDN HSDやインターネット接続 オフィス接続を変更する場合には、本装置をお買い求め時の設定（初期値）に戻したあと、再度「かんたん設定」を行うことによって最適な値が省略値として設定されます。



お知らせ

「かんたん設定」で設定できない項目は、自動的に省略値が適用されます。
(☛P71)



お願い

「かんたん設定」を行う場合は、本装置とLANで接続されたパソコン上でWWWブラウザを起動してください。(☛P61)

「詳細設定」を行ったあとに「かんたん設定」を行うと、「詳細設定」で設定した内容が無効になります。ご注意ください。

ただし、パスワード情報、アナログ情報、ファームウェア更新情報、オンラインサポート情報、ワイヤレスLAN情報は有効です。

かんたん設定の手順

「かんたん設定」は次の手順で行います。設定を行うときは、各設定画面の入力欄に空白文字、「」,「<」,「>」,「&」を入力しないでください。WWWブラウザが正常に動作しなくなり、設定ができなくなります。

1 WWWブラウザを起動して「IPMATE FT3000R-AP」の初期画面（トップページ）を表示します。

2 「かんたんメニュー」の「かんたん設定」から指定のメニューをクリックします。

3 各項目を設定します。

[必須設定]は必ず設定します。必要に応じて[オプション設定]で項目を設定します。

ただし、「かんたん設定(アナログポート)」には[必須設定][オプション設定]の区別はありません。

例:「インターネットへISDN接続」

かんたん設定(インターネットへISDN接続)

△詳細設定で設定した情報は全て無効になります。

必須設定	ISDN	<input checked="" type="checkbox"/>
接続先の電話番号	03-1234-5678	
ユーザ認証ID	IPMATE	
ユーザ認証パスワード	*****	

オプション設定	ISDN	<input checked="" type="checkbox"/>
IPMATEのIPアドレス	192.168.1.1	
ネットマスク	24.255.255.0	
DNSサーバ	<input checked="" type="checkbox"/> 自動取得	<input type="checkbox"/>
接続先の電話番号2		
接続先の電話番号3		
無通信監視タイム	60 秒	
課金単位時間	0 秒	
接続ネットワーク名	Internet	
接続先名	ISP1	
IP	<input type="checkbox"/> 使用する(手動) <input checked="" type="checkbox"/> 使用する(自動) <input type="checkbox"/> 使用しない	
かんたんフィルタ	<input checked="" type="checkbox"/> 使用する <input type="checkbox"/> 使用しない	
ブザー	<input checked="" type="checkbox"/> 鳴らす <input type="checkbox"/> 鳴らさない	

「かんたん設定」では設定を終了すると、自動的に再起動され、通信を行うことができる状態になります。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

設定終了 [キャンセル]

4 [設定終了] ボタンをクリックします。

本装置が自動的に再起動し、「動作可能な状態になりました」が表示され設定が有効になります。

[キャンセル]をクリックすると、設定した内容が無効になります。

5 [トップページに戻る] ボタンをクリックします。

初期画面（トップページ）に戻ります。

6 パソコンを再起動します。

「かんたん設定(インターネットへISDN接続)」画面

INSネット64を使ってインターネットに端末型ダイヤルアップ接続する場合に設定します。(設定例▶P34、35、36)

かんたん設定(インターネットへISDN接続)

△ 詳細設定で設定した情報は全て無効になります。

[必須設定] ISDN

接続先の電話番号	03-1234-5678
ユーザ認証ID	IPMATE
ユーザ認証パスワード	*****

[オプション設定] ISDN

IPMATEのIPアドレス	192.168.169.262
ネットマスク	24 (255.255.255.0)
DNSサーバ	<input checked="" type="checkbox"/> 自動取得 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
接続先の電話番号2	
接続先の電話番号3	
無通信監視タイマ	60 秒
課金単位時間	0 秒
接続ネットワーク名	internet
接続先名	ISP-1
MP	<input type="checkbox"/> 使用する(手動) <input type="checkbox"/> 使用する(自動) <input checked="" type="checkbox"/> 使用しない
かんたんフィルタ	<input checked="" type="checkbox"/> 使用する <input type="checkbox"/> 使用しない
ブザー	<input checked="" type="checkbox"/> 鳴らす <input type="checkbox"/> 鳴らさない

「かんたん設定」では設定を終了すると、自動的に再起動され、通信を行うことができる状態になります。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

設定終了 キャンセル

[必須設定]

接続先の電話番号 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
アクセス電話番号を市外局番から半角数字(最大32桁)で設定します。区切り文字として「-」,「(」,「)」が使えます。

ユーザ認証ID 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
インターネットサービスプロバイダから通知された認証IDを半角英数字(最大32文字)で入力します。

ユーザ認証パスワード 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
インターネットサービスプロバイダから通知された認証パスワードを半角英数字(最大32文字)で入力します。

[オプション設定]

IPMATEのIPアドレス/ネットマスク 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
本装置のIPアドレスとネットマスクを設定します。ただし、既存のネットワークに接続するのでなければ、修正は不要です。
初期値: 192.168.1.1/24 (255.255.255.0)

DNSサーバ 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
必要に応じてインターネットサービスプロバイダまたはネットワーク管理者に指示されたDNSサーバのIPアドレスを設定します。設定された値はDHCPサーバ機能により広報されます。省略するか、「0.0.0.0」を設定した場合は広報を行いません。また、「自動取得」を選択したときには、本装置のIPアドレスがDNSサーバアドレスとして広報され、ProxyDNS情報も設定されます。
初期値: 自動取得

接続先の電話番号2~3(マルチダイヤル)

【ISDN回線使用の場合に設定有効】
[必須設定] で設定したアクセスポイントにつながらないときに、自動的に別のアクセスポイントにダイヤルすることができます。本機能を使用する場合は、電話番号2,3にアクセス電話番号を市外局番から半角数字(最大32桁)で設定します。区切り文字として「-」,「(」,「)」が使えます。

無通信監視タイマ 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
ISDN回線の無通信監視タイマを0~3600秒の範囲で設定します。ここで設定した時間、通信が行われなかった場合は、ISDN回線を自動的に切断します。なお、0を設定した場合、自動切断を行いません。
初期値: 60秒

課金単位時間 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
課金単位時間を0.0~3600.0秒の範囲で指定します。ここで設定した時間は無通信監視による回線切断のときに参照され、同一料金で最大の接続時間を得よう回線切断タイミングを調整します。なお、0を設定した場合、課金単位の調整は行いません。
初期値: 0秒

接続ネットワーク名 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
ネットワークを識別するための名称を半角英数字(最大8文字)で入力します。
初期値: internet

接続先名 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
接続先を識別するための名称を半角英数字(最大8文字)で入力します。
初期値: ISP-1

MP (▶P75) 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
MP機能を使用するかどうかを選択します。「使用する(自動)」を選んだ場合には、データ通信量に応じて適宜増減します。「使用する(手動)」の場合は「操作メニュー」の「手動チャンネル増加」「手動チャンネル減少」を用いてチャンネルの増減を行ってください。
初期値: 使用しない

かんたんフィルタ (▶P75) 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
本装置使用中に起こる不要な異常発信を回避するためのIPフィルタ設定を使用するかどうかを選択します。
初期値: 使用する

ブザー (▶P75)
さまざまな状況に応じてブザー音を鳴らすかどうかを選択します。
初期値: 鳴らす

STOP お願い

本装置のIPアドレスに「0.0.0.0」を設定すると通信ができなくなります。

「かんたん設定(オフィスへISDN接続)」画面

事業所LANどうしをISDNで接続する場合に設定します。(設定例▶P38)

かんたん設定(オフィスへISDN接続)

△ 詳細設定で設定した情報は全て無効になります。

[必須設定] ISDN

接続先の電話番号	03-1234-5678
ユーザ認証ID(発信)	ipmate
ユーザ認証パスワード(発信)	*****
ユーザ認証ID(着信)	IPMATE
ユーザ認証パスワード(着信)	*****
IPMateのIPアドレス	192.168.69.252
IPMateのネットマスク	24.255.255.255.0
相手ルータのIPアドレス	192.168.1.1
相手ルータのネットマスク	24.255.255.255.0

[オプション設定] ISDN

DHCPサーバ機能	<input type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> 使用する DNSサーバ\広報 192.168.1.1
無通信監視タイマ	60 秒
課金単位時間	0 秒
接続ネットワーク名	localnet
接続先名	OFFICE-1
MP	<input type="radio"/> 使用する(手動) <input type="radio"/> 使用する(自動) <input type="radio"/> 使用しない
データ圧縮	<input checked="" type="checkbox"/> VJ
ブザー	<input type="radio"/> 鳴らす <input type="radio"/> 鳴らさない

"かんたん設定"では設定を終了すると、自動的に再起動され、通信を行うことができる状態になります。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

設定終了 キャンセル

[必須設定]

接続先の電話番号 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
アクセスポイントの電話番号を市外局番から半角数字(最大32桁)で設定します。区切り文字として「-」「.」「/」が使えます。

ユーザ認証ID/パスワード(発信) 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
本装置から発信接続する際に用いる認証IDとパスワードを半角英数字(最大32文字)で設定します。

ユーザ認証ID/パスワード(着信) 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
本装置に着信接続する際に用いる認証IDとパスワードを半角英数字(最大32文字)で設定します。

IPMATEのIPアドレス/ネットマスク 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
本装置のIPアドレスとネットマスクを設定します。
初期値: 192.168.1.1/24 (255.255.255.0)

相手ルータのIPアドレス/ネットマスク 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
相手ルータのIPアドレスとネットマスクを設定します。本装置はこの設定で得られたネットワークに対してスタティックルートを設定します。
初期値: 192.168.2.1/24 (255.255.255.0)

[オプション設定]

DHCPサーバ機能 (▶P75) 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
DHCPサーバ機能を使用するかどうかを設定します。
初期値: 使用する
「使用する」を選択した場合は以下の項目を設定します。

• DNSサーバ広報

必要に応じて接続先またはネットワーク管理者に指示されたDNSサーバのIPアドレスを設定します。設定された値はDHCPサーバ機能により広報されます。省略するか、「0.0.0.0」を設定した場合は広報を行いません。
初期値: 192.168.1.1

無通信監視タイマ 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
ISDN回線の無通信監視タイマを0~3600秒の範囲で設定します。ここで設定した時間、通信が行われなかった場合は、ISDN回線を自動的に切断します。なお、0を設定した場合、自動切断を行いません。
初期値: 60秒

課金単位時間 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
課金単位時間を0.0~3600.0秒の範囲で指定します。ここで設定した時間は無通信監視による回線切断のときに参照され、同一料金で最大の接続時間を得よう回線切断タイミングを調整します。なお、0を設定した場合、課金単位の調整は行いません。
初期値: 0秒

接続ネットワーク名 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
ネットワークを識別するための名称を半角英数字(最大8文字)で入力します。
初期値: localnet

接続先名 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
接続先を識別するための名称を半角英数字(最大8文字)で入力します。
初期値: OFFICE-1

MP (▶P75) 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
MP機能を使用するかどうかを選択します。「使用する(自動)」を選んだ場合には、データ通信量に応じて適宜増減します。「使用する(手動)」の場合は「操作メニュー」の「手動チャネル増加」「手動チャネル減少」を用いてチャネルの増減を行ってください。
初期値: 使用しない

データ圧縮 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
送受信するデータを圧縮するかどうかを設定します。データ圧縮のアルゴリズムは、VJ Compressing TCP / IP Headersをサポートします。使用する設定の場合も、実際にデータ圧縮を行うかどうかは、相手ホストとのネゴシエーションで決まります。
初期値: VJ (データ圧縮する)

ブザー (▶P75)
さまざまな状況に応じてブザー音を鳴らすかどうかを選択します。
初期値: 鳴らす

STOP お願い

本装置のIPアドレスに「0.0.0.0」を設定すると通信ができなくなります。

「かんたん設定(オフィスへ専用線接続)」画面

事業所LANどうしを高速デジタル専用線で接続する場合に設定します。(設定例▶P45)

かんたん設定(オフィスへ専用線接続)

△ 詳細設定で設定した情報は全て無効になります。

[必須設定]	
IPMateのIPアドレス	192.168.1.1
IPMateのネットマスク	24.255.255.255.0
相手ルータのIPアドレス	192.168.2.1
相手ルータのネットマスク	24.255.255.255.0
使用する回線速度	<input checked="" type="radio"/> 64Kbit/s <input checked="" type="radio"/> 128Kbit/s

[オプション設定]	
接続ネットワーク名	localnet
DHCPサーバ機能	<input checked="" type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> 使用する DNSサーバ広報 <input type="checkbox"/>
データ圧縮	<input checked="" type="checkbox"/> VJ
ブザー	<input checked="" type="radio"/> 鳴らす <input type="radio"/> 鳴らさない

“かんたん設定”では設定を終了すると、自動的に再起動され、通信を行うことができる状態になります。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

設定終了 キャンセル

[必須設定]

IPMATEのIPアドレス/ネットマスク

本装置のIPアドレスとネットマスクを設定します。
初期値：192.168.1.1/24 (255.255.255.0)

相手ルータのIPアドレス/ネットマスク

相手ルータのIPアドレスとネットマスクを設定します。
本装置はこの設定で得られたネットワークに対してスタティックルートを設定します。
初期値：192.168.2.1/24 (255.255.255.0)

使用する回線速度

使用する回線速度を設定します。
初期値：128Kbit/s

[オプション設定]

接続ネットワーク名

ネットワークを識別するための名称を半角英数字8文字以内で設定します。
初期値：localnet

DHCPサーバ機能 (▶P75)

DHCPサーバ機能を使用するかどうかを設定します。
初期値：使用する
「使用する」を選択した場合は以下の項目を設定します。

• DNSサーバ広報

必要に応じて接続先またはネットワーク管理者に指示されたDNSサーバのIPアドレスを設定します。設定された値はDHCPサーバ機能により広報されます。省略するか、「0.0.0.0」を設定した場合は広報を行いません。
初期値：192.168.1.1

データ圧縮

送受信するデータを圧縮するかどうかを設定します。データ圧縮のアルゴリズムは、VJ Compressing TCP / IP Headers をサポートします。使用する設定の場合も、実際にデータ圧縮を行うかどうかは、相手ホストとのネゴシエーションで決まります。
初期値：VJ (データ圧縮する)

ブザー (▶P75)

さまざまな状況に応じてブザー音を鳴らすかどうかを選択します。
初期値：鳴らす

STOP お願い

本装置のIPアドレスに「0.0.0.0」を設定すると通信ができなくなります。

「かんたん設定(アナログポート)」画面

TELポートを利用するかやナンバー・ディスプレイを利用するかを設定します。

かんたん設定(アナログポート) **ISDN**

アナログポート1	接続機器	<input type="radio"/> 電話 <input type="radio"/> なし
	ナンバー・ディスプレイ	<input type="radio"/> 使用する <input type="radio"/> 使用しない
アナログポート2	接続機器	<input type="radio"/> 電話 <input type="radio"/> なし
	ナンバー・ディスプレイ	<input type="radio"/> 使用する <input type="radio"/> 使用しない

“かんたん設定”では設定を終了すると、すぐに設定が反映されます。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

接続機器 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
アナログポートを使用しない場合は、「なし」を設定してください。

初期値：電話

ナンバー・ディスプレイ

【ISDN回線使用の場合に設定有効】
ナンバー・ディスプレイ機能を使用するかどうかを設定します。

初期値：使用しない



注意

「ナンバー・ディスプレイ」を「使用する」に設定した場合には、「アナログ共通情報」画面(●P116)で「外線リング音」、「内線リング音」の設定を、また「識別着信情報」画面(●P121)で「識別リング音」の設定を「リング音1」に設定することをおすすめします。それ以外の設定(「リング音2」「リング音3」)を行った場合には、外線着信、内線着信、識別着信が正常に動作しないことがあります。

「ナンバー・ディスプレイ」を「使用する」に設定してもお使いになるアナログ通信機器がナンバー・ディスプレイに対応していない場合や、ナンバー・ディスプレイを利用しない設定になっている場合は、誤鳴動や雑音(モデム信号)が聞こえるなど、正常に動作しないことがあります。

省略値について

「かんたん設定」を行うときは自動的に省略値が適用されます。

かんたん設定（インターネットへISDN接続）

（ ○：可能 ×：不可能）

項目	適用される省略値	かんたん設定での設定可否
自動ダイヤル	使用する	×
着信動作	相手毎に設定	×
課金制御	する（1週間で3000円を超えると発信抑止）	×
無通信監視タイマ	60秒	
課金単位時間	なし	
課金情報クリア	毎週金曜日 00:00	×
接続ネットワーク名	internet	
接続先名	ISP-1	
接続先のサブアドレス	なし	×
DHCPサーバ機能 • 割当て先頭IPアドレス • 割当てアドレス数 • DNSサーバのIPアドレス	使用する 本装置のIPアドレス、ネットマスクから求めたネットワークアドレス+232 「自動取得」指定時は、本装置のIPアドレス	×
ProxyDNS情報（順引き） • ドメイン名 • ネットワーク名 ProxyDNS情報（逆引き） • ドメイン名 • ネットワーク名	* internet any internet	×
アドレス変換（NAT）	マルチNATを使用 アドレス割当てタイマ：5分	×
MP	使用しない	
かんたんフィルタ	使用する	
ダイナミックルーティング • RIP送信（LAN側） • RIP受信（LAN側） • RIP送信（WAN側） • RIP受信（WAN側）	送信しない 受信しない 送信しない 受信しない	×
スタティックルーティング • LAN側 • WAN側	なし デフォルトルートを設定する（メトリック値：1）	×
データ圧縮	VJ Compressing TCP/IP Headers：使用する	×
ブザー • 課金制御通知音 • 回線接続音 • 回線エラー通知音 • 課金単位時間通知音 • 装置起動音	鳴らす 鳴らす 鳴らす 鳴らさない 鳴らす	×



お知らせ

MP機能を「使用する（自動）」に設定した場合、以下の値が適用されます。

- アナログ使用時縮退：する
- トラフィックによる増減：する
- 回線増加条件：回線使用率90%、猶予時間10秒
- 回線削除条件：回線使用率40%、猶予時間60秒

かんたん設定（インターネットへ専用線接続）

（ ○：可能 ×：不可能）

項目	適用される省略値	かんたん設定での設定可否
接続ネットワーク名	internet	
DHCPサーバ機能 • 割当て先頭IPアドレス • 割当てアドレス数	使用する 本装置のIPアドレス、ネットマスクから求めたネットワークアドレス+2 32	×
アドレス変換（NAT）	使用しない	
かんたんフィルタ	使用しない	×
ダイナミックルーティング • RIP送信（LAN側） • RIP受信（LAN側） • RIP送信（WAN側） • RIP受信（LAN側）	送信しない 受信しない 送信しない 受信しない	×
スタティックルーティング • LAN側 • WAN側	なし デフォルトルートを設定する（メトリック値：1）	×
データ圧縮	VJ Compressing TCP/IP Headers：使用する	×
ブザー • 課金制御通知音 • 回線接続音 • 回線エラー通知音 • 課金単位時間通知音 • 装置起動音	鳴らす 鳴らす 鳴らす 鳴らさない 鳴らす	×



お知らせ

アドレス変換でマルチNAT使用時のアドレス割当てタイマは5分が設定されます。（▶P87）

かんたん設定（オフィスへISDN接続）

（ ○：可能 ×：不可能）

項目	適用される省略値	かんたん設定での設定可否
自動ダイヤル	使用する	×
サブアドレス	なし	×
不特定相手着信	許可しない	×
課金制御	する（1週間で3000円を超えると発信抑止）	×
無通信監視タイマ	60秒	
課金単位時間	なし	
課金情報クリア	毎週金曜日 00:00	×
接続ネットワーク名	localnet	
接続先名	OFFICE-1	
該当接続先への着信許可	許可する	×
DHCPサーバ機能 • 割当て先頭IPアドレス • 割当てアドレス数	使用する 本装置のIPアドレス、ネットマスクから求めたネットワークアドレス+232	
アドレス変換（NAT）	使用しない	×
MP	使用しない	
かんたんフィルタ	使用しない	×
ダイナミックルーティング • RIP送信（LAN側） • RIP受信（LAN側） • RIP送信（WAN側） • RIP受信（WAN側）	送信しない 受信しない 送信しない 受信しない	×
スタティックルーティング • LAN側 • WAN側	なし 相手ルータのIPアドレス、ネットマスクを元にスタティックルートを設定する	×
データ圧縮	VJ Compressing TCP/IP Headers：使用する	
ブザー • 課金制御通知音 • 回線接続音 • 回線エラー通知音 • 課金単位時間通知音 • 装置起動音	鳴らす 鳴らす 鳴らす 鳴らさない 鳴らす	×

かんたん設定（オフィスへ専用線接続）

（ ○：可能 ×：不可能）

項目	適用される省略値	かんたん設定での設定可否
接続ネットワーク名	localnet	
DHCPサーバ機能 • 割当て先頭IPアドレス • 割当てアドレス数	使用する 本装置のIPアドレス、ネットマスクから求めたネットワークアドレス+232	
アドレス変換（NAT）	使用しない	×
かんたんフィルタ	使用しない	×
ダイナミックルーティング • RIP送信（LAN側） • RIP受信（LAN側） • RIP送信（WAN側） • RIP受信（WAN側）	送信しない 受信しない 送信しない 受信しない	×
スタティックルーティング • LAN側 • WAN側	なし 相手ルータのIPアドレス、ネットマスクを元にスタティックルートを設定する	×
データ圧縮	VJ Compressing TCP/IP Headers：使用する	
ブザー • 課金制御通知音 • 回線接続音 • 回線エラー通知音 • 課金単位時間通知音 • 装置起動音	鳴らす 鳴らす 鳴らす 鳴らさない 鳴らす	×



ワンポイント

MP (マルチリンクプロトコル) 機能とは MP方式のアクセスポイントを持つインターネットサービスプロバイダに接続するときなどに、B1、B2チャンネルを使用し、帯域幅を拡張してデータ通信を行うようにする機能です。

かんたんフィルタについて

[オプション設定] で、かんたんフィルタを「使用する」に設定したときは、次のIPフィルタ設定を使用します。

Windows[®] 98/95やWindows NT[®] 4.0などでMicrosoft Networkを使用しているとき、ネットワーク設定により定期的に不要な異常発信を行わないように、NetBIOS over TCPが使用するTCPおよびUDPのサービスポートの137から139を遮断するフィルタを設定します。

ping (ICMP echo) などのコマンドにより不要な異常発信を行わないように、ICMPプロトコルによる不要な異常発信を抑止するフィルタを設定します。回線が接続状態のときはICMPパケットを透過させます。

時刻取得やシステムログ出力により、不要な異常発信を行わないように、time/sntpやsyslogによる発信を抑止するフィルタを設定します。回線が接続状態のときは、これらのパケットを透過させます。

アドレス変換機能 (NAT) とは

NAT (Network Address Translation) は、プライベートアドレス (社内LAN等のプライベートネットワークだけで利用できるIPアドレス) とグローバルアドレス (インターネット接続時に利用するアドレス) を変換する機能です。この機能を使うと、プライベートアドレスが自動的にグローバルアドレスに変更され、インターネットへ接続できます。

ブザーについて

「かんたん設定」で「鳴らす」に設定すると、以下の場合にブザーを鳴らします。

「鳴らさない」に設定すると一切ブザーは鳴りません。

個々に設定する場合やそれぞれのブザー音については、「詳細設定」の「装置情報」を参照してください。(●P103)

- 課金制御通知音
- 課金単位時間通知音
- 回線接続音
- 装置起動音
- 回線エラー通知音



お知らせ

Windows[®] 98/95は、Microsoft[®] Windows[®] 98 Operating SystemおよびMicrosoft[®] Windows[®] 95 Operating Systemの略です。Windows NT[®] 4.0は、Microsoft[®] Windows NT[®] Operating System Version 4.0の略です。

正しく設定されたか確認するには

インターネットサービスプロバイダとの接続が可能な場合は、初期画面 (トップページ) の [製品情報] アイコンをクリックして当社ホームへのリンクをクリックしてください。正しく設定されているときは、当社通信機器ホームページが表示されます。

なお本操作を行った場合は課金の対象になります。

かんたん設定で設定した内容を変更するときは

「かんたん設定」で設定した内容を変更するときは、再度「かんたん設定」により変更する方法をお勧めします。また、ISDN HSDやインターネット接続 オフィス接続を変更する場合には、本装置をお買い求め時の設定 (初期値) に戻したあと、再度「かんたん設定」を行うことによって最適な値が省略値として設定されます。

DHCP機能をサポートするパソコンをお使いの場合はDHCP機能をサポートするパソコンをお使いの場合は、パソコン側での以下の設定は不要になります。

- IPアドレス
- サブネットマスク
- デフォルトゲートウェイのIPアドレス
- DNSサーバのIPアドレス
- ドメイン名

なお、DHCPクライアントへのIPアドレスの割り当ては、自分のサブネットの2番目のホスト番号から32個となります。割り当てるIPアドレスが本装置のIPアドレスと重複する場合は、そのIPアドレスは割り当てません。

STOP お願い

「詳細設定」のあとに、「かんたん設定」を行うと、「詳細設定」で設定した内容は無効になります。ご注意ください。

ただし、パスワード情報、アナログ情報、ファームウェア更新情報、オンラインサポート情報、ワイヤレスLAN情報は有効です。

次の3種類のIPアドレスを使用しないでください。(●P213)

- すでに同一LAN上で使用されているIPアドレス
 - ネットワークアドレスを示すIPアドレス
 - ブロードキャストアドレスを示すIPアドレス
- また、IPアドレスに「0.0.0.0」を設定すると通信できなくなります。

設定が終了したら、パソコンを再起動してください。設定内容を設定記入シート (●P196) に記入し保管しておいてください。特にIPアドレスを設定した場合は、忘れないようにしておいてください。

詳細設定

「詳細設定」では、複雑なネットワーク環境でインターネットにアクセスするときなどに細かい設定を行います。また、「かんたん設定」で設定した情報を各種詳細情報設定画面で変更することもできます。

「かんたん設定」を行わずに「詳細設定」だけで本装置を設定するときは、「詳細設定メニュー」の項目を選択して設定してください。

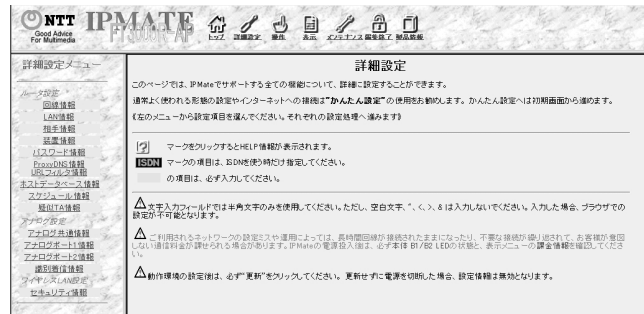
詳細設定の手順

次の手順で詳細設定を行います。設定を行うときは、各設定画面の入力欄に空白文字、「」、「<」、「>」、「&」を入力しないでください。WWWブラウザが正常に動作しなくなり、設定ができなくなります。

1 WWWブラウザを起動して「IPMATE FT3000R-AP」の初期画面（トップページ）を表示します。

2 [詳細設定] アイコンをクリックします。

「詳細設定メニュー」が表示されます。



ワンポイント

正しく設定されたか確認するにはインターネットサービスプロバイダとの接続が可能な場合は、初期画面（トップページ）の「製品情報」アイコンをクリックして当社のホームページへのリンクをクリックしてください。正しく設定されているときは、当社通信機器ホームページが表示されます。

なお、本操作を行った場合は課金の対象になります。

[設定反映] ボタンが表示されないときには設定を反映させるまでの流れ（P77）を参考に、各設定ページで [更新] ボタンをクリックし、[設定反映] ボタンを表示させてください。

STOP お願い

「詳細設定」を行ったあとに「かんたん設定」を行うと、「詳細設定」で設定した内容は無効になります。ご注意ください。

ただし、パスワード情報、アナログ情報、ファームウェア更新情報、オンラインサポート情報、ワイヤレスLAN情報は有効です。

3 「詳細設定メニュー」から指定のメニューをクリックします。

クリックしたメニューに対応した設定画面が表示されます。

4 各項目を設定します。

必要に応じて、[修正] ボタンや [追加] ボタンなどで、別の画面を呼び出して、設定します。

5 [更新] ボタンをクリックします。

設定した内容を無効にするには [キャンセル] をクリックします。

6 [設定反映] ボタンをクリックします。

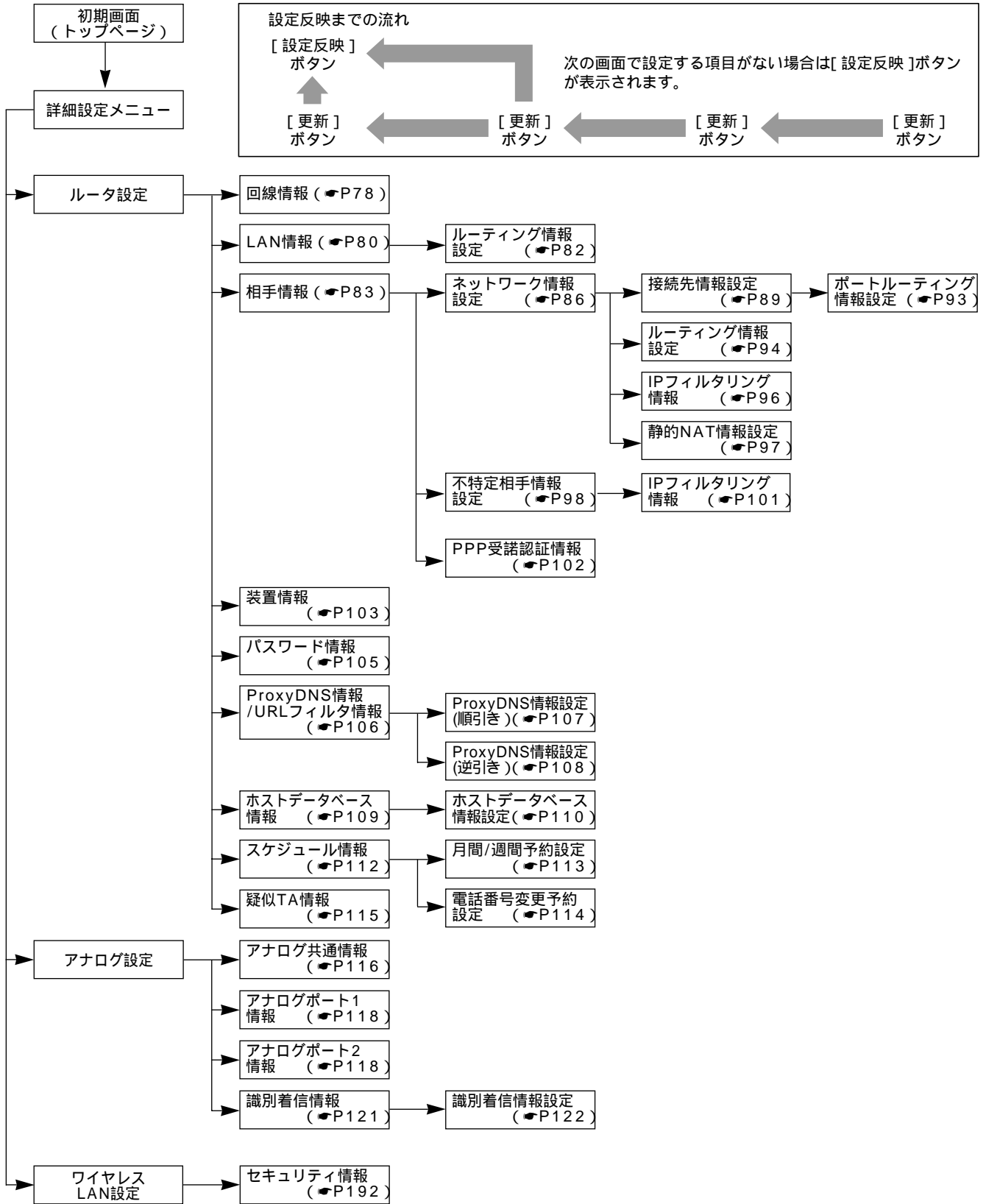
設定した内容が反映されます。
回線インターフェースの設定を行う場合は [再起動] ボタンをクリックします。

7 [トップページに戻る] ボタンをクリックします。

初期画面（トップページ）に戻ります。

8 パソコンを再起動します。

詳細設定メニューでの画面の流れ



ルータ編

- 1 設定前の準備
- 2 ルータ機能の設定
- 3 設定リファレンス
- 4 運用とメンテナンス
- 5 アナログ通信機器の利用

回線情報

「詳細設定メニュー」で [回線情報] をクリックすると、「回線情報設定」画面が表示されます。WANの回線インタフェースで使用するプロトコルや接続条件に関する情報を設定します。

「回線情報設定」画面

[回線情報]

回線インタフェース

使用する回線を選択します。

INSネット64を使用する場合は「ISDN」、DA64などの高速デジタル専用線を使用する場合は「HSD (64 kbit/s)」、DA128などの高速デジタル専用線やOCNエコノミー等を使用する場合は「HSD (128 kbit/s)」を選択します。

初期値：ISDN

[ISDN情報]

自動ダイヤル 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
通信データ発生時に自動的にダイヤルするかどうかを設定します。

自動ダイヤルを装置全体として禁止したいときに「すべて禁止」を選択します。「すべて禁止」を選択した場合は、いかなる通信データ発生時にも自動的にダイヤルしません。「相手毎に設定」を選択した場合には、相手情報の「ネットワーク情報設定」で設定します。

初期値：相手毎に設定

着信動作

【ISDN回線使用の場合に設定有効】

着信を装置全体として禁止したいときに「すべて禁止」を選択します。「すべて禁止」を選択した場合は、データ通信の着信をすべて拒否し、発信専用となります。「相手毎に設定」を選択した場合には、相手情報のネットワーク情報の「接続先情報設定」で設定します。

初期値：相手毎に設定

自局番号チェック

【ISDN回線使用の場合に設定有効】

着信を許可する自局番号を2つまで設定できます。

初期値：しない

「する」を選択した場合は以下の項目を設定します。

● 着信を許可する番号1/2

着信を許可する番号として「電話番号を指定」、「i・ナンバー情報1」、「i・ナンバー情報2」のいずれかを選択します。

電話番号を指定

：電話番号を市外局番から半角数字（最大32桁）で入力します。区切り文字として「-」、「（」、「）」が使えます。

i・ナンバー情報1/2：i・ナンバー情報1またはi・ナンバー情報2での着信を許可します。電話番号を入力しても無効です。

サブアドレス

：自局番号チェックを行うサブアドレスが設定できます。半角英数字（最大19桁）で入力します。電話番号を指定する場合、i・ナンバー情報1/2を選択した場合のいずれも有効になります。

● グローバル着信

グローバル着信を利用するかしないかを選択します。



お知らせ

OCNエコノミーはNTTコミュニケーションズが提供するサービスです。OCNエコノミーをご利用になるには、NTTコミュニケーションズとの利用契約が必要です。

発信者番号通知 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
 発信者番号通知の動作設定を選択します。通常は「INSネット64申込内容に従う」で問題ありません。

初期値：INSネット64申込内容に従う

「する」を選択した場合は、以下の項目を設定します。

- 通知する電話番号
 相手の方に通知する電話番号を市外局番から半角数字（最大32桁）で入力します。区切り文字として「-」、「（」、「）」が使えます。
- 通知するサブアドレス
 サブアドレスを通知するときに半角英数字（最大19桁）で入力します。

回線接続保持タイマ【ISDN回線使用の場合に設定有効】
 無通信監視タイマによる切断を無効とする時間を0～24時間の範囲で設定します。通信時間監視タイマを設定した時刻から設定時間が経過するまでの間、無通信状態が続いても、無通信監視タイマによる切断は行われません。このタイマは「操作メニュー」で「テレホーダイ開始」をクリックすることにより有効になります。

初期値：2時間

課金制御 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
 通信総時間と課金合計金額による自動発信制限を行うかどうかを設定します。「0」または空白を設定した場合は、その機能は無効になります。なお、課金情報は目安ですので、通信事業者からの請求料金とは必ずしも一致しません。

初期値：する（金額3000円、発信抑止）

「する」を選択した場合には以下の項目を設定します。

- 時間
 上限時間：課金制御を行う上限時間を0～999時間の範囲で設定します。
 制御動作：課金制御時の本装置の動作を設定します。
- 金額
 上限金額：課金制御を行う上限金額を0～999999円の範囲で設定します。
 制御動作：課金制御時の本装置の動作を設定します。



ワンポイント

出局番号チェックを行う場合、サブアドレスだけを設定しておく、電話番号は任意となります。
 課金制御機能で上限時間および上限金額に「0」を入力すると、課金制御は無効となります。



お知らせ

課金制御が参照する課金情報は、月間/週間予約により毎週金曜日にクリアされる設定（お買い求め時）となっています。変更を行う場合は「月間/週間予約設定」画面（●P113）と合わせて行ってください。

発信者番号通知に関する条件については以下のとおりです。

本装置の設定	発信者番号通知する	発信者番号通知しない	INSネット64申込内容に従う
INSネット64契約			
通常通知	通知される	通知されない	通知される 1
通常非通知	通知される	通知されない	通知されない

1 この設定の場合、相手には契約者回線番号が通知されます。

「接続先情報設定」画面のダイヤル1～3で「184」または「186」を付加した場合は、その設定が優先されます。

TELポートでの発信者番号通知の設定は別途必要です。（●P118）

i・ナンバーをご利用になるには、当社との利用契約（有料）が必要です。



注意

自動ダイヤル設定時、本装置は通信が必要になったときに、自動的に回線接続を行います。一定時間通信が行われない場合に、回線は自動的に切断されます。

発信者番号通知を行わない設定にした場合、相手側の設定・条件によっては接続できない場合や、サービスが受けられない場合があります。

1 設定前の準備

2 ルータ機能の設定

3 設定リファレンス

4 運用とメンテナンス

5 アナログ通信機器の利用

LAN情報

「詳細設定メニュー」で [LAN情報] をクリックすると、「LAN情報設定」画面が表示されます。IPアドレスやルーティング情報など、LANに関する情報を設定します。

「LAN情報設定」画面

LAN情報設定

IPアドレス
スタティックルーティング
セカンダリIPアドレス
DHCP
ダイナミックルーティング

[IPアドレス] ?

IPアドレス

ネットマスク

ブロードキャストアドレス

※DHCP 機能使用時、IPアドレスを変更する場合は DHCP 機能の“割当て先頭アドレス”も確認してください。

[セカンダリIPアドレス] ?

IPアドレス

ネットマスク

ブロードキャストアドレス

[ダイナミックルーティング機能] ?

RIP送信 送信しない
 V1で送信する
 V2で送信する

RIP受信 受信しない
 V1で受信する
 V2で受信する

《RIP 送信時は加算するメトリック値を設定してください。》
 メトリック値

《RIP V2使用時で認証/パケットを破棄しない時はRIP V2パスワードを設定してください。》

認証/パケット 破棄する
 破棄しない
 パスワード

[スタティックルーティング情報一覧] ?

宛先IPアドレス 宛先アドレスマスク 中継ルータアドレス メトリック値 修正/削除

[DHCP機能] ?

使用しない
 使用する

DHCPサーバ機能

割当て先頭IPアドレス

割当てアドレス数

リース期間

デフォルトルータ広報

DNSサーバ広報

セカンダリDNSサーバ広報

ドメイン名広報

※“割当て先頭アドレス”がIPv6toのIPアドレスと同じネットワークアドレス内であることを確認してください。

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

[IPアドレス]

IPアドレス/ネットマスク

本装置のLAN側のIPアドレスとネットマスクを設定します。

初期値：192.168.1.1/24 (255.255.255.0)

ブロードキャストアドレス

本装置のLAN側のブロードキャストアドレスを以下から選択します。

- 0.0.0.0
 - 255.255.255.255
 - ネットワークアドレスのホスト部をオール0にしたもの
 - ネットワークアドレスのホスト部をオール1にしたもの
- 通常は「ネットワークアドレス+オール1」から変更する必要はありません。

初期値：ネットワークアドレス+オール1

[セカンダリIPアドレス]

IPアドレス/ネットマスク

LAN側に複数のIPアドレスを使用したい場合は、セカンダリIPアドレスとネットマスクを設定します。

ただし、セカンダリIPアドレスの属するネットワークでは、RIPの送受信およびDHCP機能のサービスは行いません。

初期値：ネットマスク/2(192.0.0.0)

ブロードキャストアドレス

セカンダリIPアドレスのLAN側のブロードキャストアドレスを以下から選択します。

- 0.0.0.0
 - 255.255.255.255
 - ネットワークアドレスのホスト部をオール0にしたもの
 - ネットワークアドレスのホスト部をオール1にしたもの
- 通常は「ネットワークアドレス+オール1」から変更する必要はありません。

初期値：0.0.0.0

[ダイナミックルーティング機能]

RIP送信

RIP情報を送信するかどうかを選択します。なお、送信する設定にすると、30秒ごとにRIP情報を送信します。
初期値：送信しない

RIP受信

RIP情報を受信するかどうかを選択します。
初期値：受信しない

メトリック値

RIP送信時に加算するメトリック値を0～16の範囲で設定します。
初期値：0

認証パケット

RIP V2使用時に、パスワード認証によるRIP情報の交換を行うかどうかを設定します。行わない場合は「破棄する」を選択します。RIP V2では、同一パスワードグループでのみ、RIP情報の交換を行うことができます。
初期値：破棄しない

「破棄しない」を選択した場合は以下の項目を設定します。

• パスワード

パスワード認証によるRIP情報の交換を行うためのパスワードを半角英数字（最大16文字）で設定します。

[スタティックルーティング情報一覧]

現在LAN側に設定されているスタティックルーティングのテーブルが表示されています。スタティックルーティングの定義は装置全体で32個まで設定できます。必要な処理のボタンを選んで次の画面に進んでください。（☛P82）

[DHCP機能]

DHCPサーバ機能

本装置をLAN側ネットワークのDHCPサーバとして使用する場合は、「使用する」を選択します。

初期値：使用する

「使用する」を選択した場合は以下の項目を設定します。

• 割当て先頭IPアドレス

DHCPサーバ機能により、割り当てる連続したアドレス群の先頭のIPアドレスを設定します。

初期値：192.168.1.2

• 割当てアドレス数

DHCPサーバ機能で割り当てるアドレス数を1～32の範囲で指定します。なお、ホストデータベース機能を使用すると特定のDHCPクライアントに対して固有のIPアドレスを割り当てることができます。この場合のIPアドレスは、割当て先頭IPアドレスと割当てアドレス数によって規定される動的割当て範囲である必要はありません。

初期値：32

• リース期間

DHCPサーバ機能により割り当てたIPアドレスを貸し出す期間を、1時間以上、365日未満の範囲で指定します。

初期値：1日

• デフォルトルータ広報

DHCPサーバで広報するデフォルトルータのIPアドレスを設定します。省略するか「0.0.0.0」を設定した場合は、DHCPサーバ機能による広報を行いません。

初期値：192.168.1.1

• DNSサーバ広報

DNSサーバのIPアドレスを設定します。省略するか、「0.0.0.0」を設定した場合は、DHCPサーバ機能による広報を行いません。ProxyDNSを使用する場合は、本装置のIPアドレスを設定します。

初期値：192.168.1.1

• セカンダリDNSサーバ広報

セカンダリDNSサーバのIPアドレスを設定します。省略するか、「0.0.0.0」を設定した場合は広報を行いません。

• ドメイン名広報

ドメイン名を半角英数字（最大80文字）で設定します。省略した場合は、DHCPサーバ機能による広報を行いません。



ワンポイント

RIP機能とは

RIP (Routing Information Protocol) は、TCP/IPネットワークで最も広範囲にわたって利用できるルーティングプロトコルです。定期的にルーティング情報を広報し、他のルータから受信した情報にもとづいて新しい経路を構築します。ルーティング情報にはホップ数（IPルータ経由数）を含み、送信経路として最小ホップ数で到達する経路を選択します。RIPバージョン2（RIP V2）では情報としてネットマスクも含まれます。

DHCPサーバ機能とは

DHCPクライアントに対してIPアドレスなど、次の項目の自動割り当てや広報を行います。

- IPアドレス
- デフォルトゲートウェイのIPアドレス
- ドメイン名
- サブネットマスク
- DNSサーバのIPアドレス

STOP お願い

次の3種類のIPアドレスは使用しないでください。（☛P213）

- 同一LAN上にすでに使用されているIPアドレス
 - ネットワークアドレスを示すIPアドレス
 - ブロードキャストアドレスを示すIPアドレス
- またIPアドレスに「0.0.0.0」を設定すると通信できなくなります。

本装置のDHCPサーバ機能を使用せずに、他のDHCPサーバ機能を利用する場合には、DHCPサーバ側に必ずデフォルトゲートウェイ、DNSサーバのIPアドレスの設定を追加してください。DHCPサーバの設定については、パソコンの取扱説明書に従って行ってください。

ルーティング情報

「LAN情報設定」画面の[スタティックルーティング情報一覧]で[追加]ボタンをクリックすると、「ルーティング情報設定」画面が表示されます。またルーティング情報が設定されていると、[スタティックルーティング情報一覧]に情報が表示され、変更・削除を行うための[修正]ボタン、[削除]ボタンが表示されます。この画面では、ルーティング情報を固定で設定できます。ただし、デフォルトルート指定は装置に1つしか設定できません。

設定手順

設定済みの情報を修正、削除するとき・新規に情報を追加するとき

「詳細設定メニュー」の[LAN情報]をクリックします。

「LAN情報設定」画面が表示されます。

[スタティックルーティング情報一覧]で修正または削除したい情報の[修正]ボタンまたは[削除]ボタンをクリックします。追加する場合には[追加]ボタンをクリックします。

「ルーティング情報設定」画面で情報の修正、追加を行い、[更新]ボタンをクリックします。

設定内容が更新されます。

設定されている情報をすべて削除するとき

「詳細設定メニュー」の[LAN情報]をクリックします。

「LAN情報設定」画面が表示されます。

[スタティックルーティング情報一覧]の[全削除]ボタンをクリックします。

[OK]ボタンをクリックします。

すべての情報が削除されます。

「ルーティング情報設定」画面

ルーティング情報設定

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新内容を反映させるには、「LAN情報設定」画面の更新をクリックしてください。

更新 キャンセル

ネットワーク

「デフォルトルート」または「ネットワーク指定」を選択します。

初期値：ネットワーク指定

宛先アドレスマスク/0 (0.0.0.0)

「デフォルトルート」を選択した場合は以下の項目を設定します。

• 中継ルータアドレス

ネットワーク指定されていない宛先を持つパケット転送先の中継ルータアドレスを入力します。

「ネットワーク指定」を選択した場合は以下の項目を設定します。

• 宛先IPアドレス/宛先アドレスマスク

パケット転送先のIPアドレスとアドレスマスクを入力します。

• 中継ルータアドレス

ネットワーク指定されていない宛先を持つパケット転送先の中継ルータアドレスを入力します。

メトリック値

ここで設定したルーティング情報をRIPで送信する場合のメトリック値を指定します。

初期値：1



お知らせ

[スタティックルーティング情報一覧]には、あらかじめ情報が登録されていると、[追加]ボタンだけでなく[修正]ボタンが表示されます。登録されている情報の内容を変更するには、[修正]ボタンをクリックして「ルーティング情報設定」画面に進んでください。

相手情報

「詳細設定メニュー」で [相手情報] をクリックすると、「相手情報設定」画面が表示されます。相手先のネットワーク情報や着信相手識別情報などを設定します。

「相手情報設定」画面

[ネットワーク情報一覧]

現在の接続相手のネットワーク情報の一覧です。ネットワークの定義は16個まで設定できます。必要な処理のボタンを選んで次の画面に進んでください。
(☛P85、98)

[着信相手識別情報]

接続先として登録されていない相手からの着信について利用される情報です。

着信許可 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
接続先として登録されていない相手からの着信を許可するかどうかを指定します。
初期値：しない

認証方式 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
着信時に利用する認証プロトコルを選択します。いずれのプロトコルも選択しなかった場合には、認証は行いません。
初期値：PAP、CHAPともに使用

MP接続 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
着信時にMP接続を受け付けるかどうかを設定します。
初期値：しない
「する」を選択した場合は以下の項目を設定します。

• BAP/BACP利用
MP接続する場合に、BAP/BACP機能を利用するかしないかを設定します。
初期値：しない

コールバック応答 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
着信時にコールバック応答を行うかどうかを指定します。
初期値：しない

[受諾認証ID情報一覧] 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
着信時に受け付ける認証IDの一覧です。32個まで設定できます。ここに設定されていないIIDでも、各接続先情報の受諾認証情報に設定されているIDであれば、着信は受け付けます。必要な処理のボタンを選んで次の画面に進んでください。(☛P102)

(次ページへ続きます)

(前ページの続きです)



ワンポイント

MP (マルチリンクプロトコル) 機能とは
MP方式のアクセスポイントを持つインターネットサービスプロバイダに接続するときなどに、B1、B2チャンネルを使用し、帯域幅を拡張してデータ通信を行うようにする機能です。

コールバック機能とは
電話をかけてきた相手の方に対して、本装置から自動的にかけ直す機能を設定できます。本機能を利用すると、セキュリティを強化できます。また、料金は本装置に課金されるので、一括管理が行えます。

次の2種類があります。

- CBCP (Microsoftコールバック対応) 方式
Windows[®] 98/95、Windows NT[®] 4.0が備えるダイヤルアップ機能に対応して、着信側の本装置側からダイヤル発信をやり直させることができます。
接続相手からの着信要求に対して、いったんISDN回線を接続してから認証を行う必要があるため、相手側に最低限 (最初の1通話分) の課金がかかります。
- 無課金方式
呼び出し元からのダイヤル発信要求に含まれる発信元の電話番号を利用して認証を行い、その後、呼び出された側からダイヤル発信をやり直し、ISDN回線を接続します。
認証を行うために回線を接続しないので、呼び出し側には課金されません。
本装置どうしの接続または本装置とIPMATE 1300RD / 1200RDとの接続で利用できます。



お知らせ

Windows[®] 98/95は、Microsoft[®] Windows[®] 98 Operating SystemおよびMicrosoft[®] Windows[®] 95 Operating Systemの略です。Windows NT[®] 4.0は、Microsoft[®] Windows NT[®] Operating System Version 4.0の略です。



注意

MP機能により2チャンネルを使用して接続を行っている間は、通話料金は1チャンネルの場合の約2倍になります。

ネットワーク情報

「相手情報設定」画面の [ネットワーク情報一覧] で [修正] ボタンまたは [追加] ボタンをクリックすると、「ネットワーク情報設定」画面が表示されます。

設定手順

設定済みの情報を修正、削除するとき・新規に情報を追加するとき

「詳細設定メニュー」の [相手情報] をクリックします。

[相手情報設定] 画面が表示されます。

[ネットワーク情報一覧] で設定を行うネットワーク欄の [修正] ボタンまたは [追加] ボタンをクリックします。

「ネットワーク情報設定」画面が表示されます。

[接続先一覧] [スタティックルーティング情報一覧] [IPフィルタリング情報一覧] [静的NAT情報一覧] の設定を行うには、設定情報の [修正] ボタンまたは [追加] ボタンをクリックすると、各情報設定画面が表示されますので、各項目を設定し、[更新] ボタンをクリックします。削除する場合は、[削除] ボタンをクリックします。

各項目を設定し、[更新] ボタンをクリックします。

設定内容が更新され、[相手情報設定] 画面に戻ります。

設定されている情報をすべて削除するとき

「詳細設定メニュー」の [相手情報] をクリックします。

「相手情報設定」画面が表示されます。

[ネットワーク情報一覧] の [全削除] ボタンをクリックします。

[OK] ボタンをクリックします。

すべての情報が削除されます。ただし、不特定相手情報だけは削除されません。

(次ページへ続きます)

(前ページの続きです)

「ネットワーク情報設定」画面

ネットワーク情報設定

基本情報	接続先情報	MP情報
ダイナミックルーティング NAT情報	スタティックルーティング 静的NAT情報	IPフィルタリング

【基本情報】

ネットワーク名

データ圧縮 VJ
 設定しない
 設定する

WAN側IPアドレス
 相手IPアドレス
 自側IPアドレス

MTUサイズ 1500 バイト
 自動ダイヤル ISDN する しない

《接続先は、各ネットワークの合計で16箇所まで設定でき、複数のプロトコルを利用条件により切替えることができます。》

【接続先一覧】

優先順位	接続先	マルチルーティング	ソースポート	接続制限	電話番号	修正/削除

【MP情報】

MP回線初期リンク数 1

アナログ使用時縮退 する しない
 しない
 する

トラフィックによる増減
 回線使用率 満了時間
 回線増加条件 閾値 % 閾値 秒
 回線削減条件 閾値 % 閾値 秒

受信パケット順序制御 する しない

【ダイナミックルーティング機能】

RIP送信 送信しない
 V1で送信する
 V2で送信する

RIP受信 受信しない
 V1で受信する
 V2で受信する

《RIP 送信時は加算するスリッパ値を設定してください。》
 スリッパ値

《RIP V2使用時に設定パケットを破壊しない時はRIP V2パスワードを設定してください。》
 認証パケット 破壊する 破壊しない
 パスワード

【スタティックルーティング情報一覧】

宛先IPアドレス	宛先アドレスマスク	スリッパ値	修正/削除

【IPフィルタリング情報一覧】

優先順位	動作	プロトコル	送信元IPアドレス/マスク	送信元ポート番号	宛先IPアドレス/マスク	宛先ポート番号	TCP接続要求	修正/削除/移動

【NAT情報】

NATの使用 使用しない NAT C マルチNAT

グローバルアドレス

アドレス数

アドレス割当てタイム 時間

NATセキュリティ 通常 高い

【静的NAT情報一覧】マルチNATを選択時のみ有効

プライベートアドレス	プライベートポート番号	プロトコル	修正/削除

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。
 更新内容を反映させるには、「相手情報設定」画面の更新をクリックしてください。

更新 キャンセル

[基本情報]

ネットワーク名

このネットワークを識別するための名称を半角英数字（最大8文字）で設定します。

データ圧縮

送受信するデータを圧縮するかどうかを設定します。データ圧縮のアルゴリズムは、VJ Compressing TCP / IP Headers をサポートします。使用する設定の場合も、実際にデータ圧縮を行うかどうかは、相手ホストとのネゴシエーションで決まります。

初期値：VJ Compressing TCP / IP Headers 使用する

WAN側IPアドレス

WAN側のIPアドレスを固定して利用するかどうかを設定します。

初期値：設定しない

「設定する」を選択した場合は以下の項目を選択します。

- 相手IPアドレス

WAN側IPアドレスを固定して利用するときに相手IPアドレスを設定します。

- 自側IPアドレス

WAN側IPアドレスを固定して利用するときに自側IPアドレスを設定します。

MTUサイズ

最大パケット送信サイズを576～1500バイトの範囲で設定します。

初期値：1500バイト

自動ダイヤル

【ISDN回線使用の場合に設定有効】

通信データ発生時に自動的にダイヤルするかどうかを選択します。使用する場合は、通信データ発生時に自動的にダイヤルします。

ただし、回線情報で自動ダイヤルを「すべて禁止」としている場合には自動ダイヤルは行いません。

自動ダイヤルを行いたい場合は回線情報の自動ダイヤルを「相手毎に設定」にします。

初期値：しない

[接続先一覧]

現在設定されている接続先の情報です。マルチルーティングを行う場合には、優先順位の1から順に処理され最初に条件が成立した接続先にデータが流れます。接続先の定義は装置全体で16個まで設定できます。必要な処理のボタンを選んで、次の画面へ進んでください。(P89)

[MP情報]

MP回線初期リンク数【ISDN回線使用の場合に設定有効】

回線接続時に接続するチャンネル数を設定します。

初期値：1

アナログ使用時縮退【ISDN回線使用の場合に設定有効】

MPで2本のチャンネルを使用しているときに、アナログ電話がかかってきたり、アナログ電話機のハンドセットをあげたりした場合に、チャンネルを1本に減らしてアナログ通信機器が使えるようにすることができます。これを行う場合には「する」を選択します。

初期値：する

トラフィックによる増減【ISDN回線使用の場合に設定有効】
回線負荷に応じて帯域幅（1B、2B）を自動的にコントロールする機能を使用するかどうかを設定します。

初期値：しない

「する」を選択した場合は以下の項目を設定します。

• 回線増加条件

本機能を使用する場合の回線増加条件を設定します。
設定した回線使用率を超えた状態が「猶予時間」以上続いた時点で、回線の接続を行います。

回線使用率は0～100%、猶予時間は0～3600秒の範囲で指定できます。

• 回線削減条件

本機能を使用する場合の回線削減条件を設定します。
設定した回線使用率を下回った状態が「猶予時間」以上続いた時点で、回線の切断を行います。

回線使用率は0～100%、猶予時間は0～3600秒の範囲で指定できます。

受信パケット順序制御【ISDN回線使用の場合に設定有効】
受信パケットの順序制御を行うかどうかを選択します。
MPを使用すると、パケットの順序が入れ替わって届く場合があります。その順序を正しいものに並べ変えて受信する場合は「する」を選択します。

初期値：しない

[ダイナミックルーティング機能]

RIP送信

RIP情報を送信するかどうかを選択します。なお、送信する設定にすると、30秒毎にRIP情報を送信します。

初期値：送信しない

RIP受信

RIP情報を受信するかどうかを選択します。

初期値：受信しない

メトリック値

RIP送信時に加算するメトリック値を0～16の範囲で設定します。

初期値：0

認証パケット

RIP V2使用時に、パスワード認証によるRIP情報の交換を行うかどうかを設定します。行わない場合は「破棄する」を選択します。RIP V2では、同一パスワードグループでのみ、RIP情報の交換を行うことができます。

初期値：破棄しない

「破棄しない」を選択した場合は以下の項目を設定します。

• パスワード

パスワード認証によるRIP情報の交換を行うためのパスワードを半角英数字（最大16文字）で設定します。

[スタティックルーティング情報一覧]

現在このネットワークに設定されているスタティックルーティングの情報一覧です。スタティックルーティングの定義は装置全体で32個まで設定できます。必要な処理のボタンを選んで次の画面に進んでください。（☛P94）

[IPフィルタリング情報一覧]

現在このネットワークに設定されているIPフィルタリングの情報一覧です。処理は優先順位1から順に行われます。IPフィルタリングの定義は装置全体で32個まで設定できます。必要な処理のボタンを選んで次の画面に進んでください。（☛P95）

[NAT情報]

NATの使用

NATを使用するかどうかを選択します。マルチNATを使うと複数の端末を同時に使用できます。

NATを使用しない場合には、以降の設定は無効です。

初期値：使用しない

グローバルアドレス

本装置のWAN側の連続したIPアドレスの先頭を設定します。

IPアドレスが自動的に割り振られる場合は省略します。

アドレス個数

グローバルアドレスに指定したIPアドレスを先頭として使用する連続したグローバルアドレスの個数を1～16の範囲で設定します。

アドレス割当てタイマ

アドレス変換情報は一定の時間該当する通信が行われないと、自動的に解放されます。解放するための猶予時間を0～24時間の範囲で指定します。0を指定すると、回線が切断されるまで情報は解放されません。

NATセキュリティ

NATに関するセキュリティレベルを設定します。「高い」を選択すると、要求パケットと応答パケットのIPアドレスとポート番号のいずれかが異なる場合は通信不可となります。通信相手（ftpサーバなど）がNATを使用している場合など、要求先とは別アドレスから応答してくるときには「通常」を選択してください。

初期値：高い

[静的NAT情報一覧]

現在設定されている固定のアドレス変換情報です。静的NATの定義は装置全体で32個まで設定できます。必要な処理のボタンを選んで次の画面に進んでください。

（☛P97）



注意

ISDNの場合、RIP情報を送信すると思わぬ課金（定期発信または長時間接続）が発生します。

（次ページへ続きます）

(前ページの続きです)



ワンポイント

MP (マルチリンクプロトコル) 機能とは
MP方式のアクセスポイントを持つインターネットサービスプロバイダに接続するときなどに、B1、B2チャンネルを使用し、帯域幅を拡張してデータ通信を行うようにする機能です。

静的NATとは
マルチNATを使用する場合に、グローバルアドレス/ポート番号とプライベートアドレス/ポート番号を固定で変換する機能です。



お知らせ

回線増加条件は猶予時間の間、設定した回線使用率を連続して上回った場合のみ、帯域が増加します。通信状態によって回線使用率が安定しないため、一時的に設定値を上回っても帯域幅は増加しません。回線削除条件は猶予時間の間、設定した回線使用率を連続して下回った場合のみ、帯域が減少します。通信状態によって回線使用率が安定しないため、一時的に設定値を下回っても帯域幅は減少しません。



STOP お願い

WAN側IPアドレスには、次の3種類のIPアドレスは使用しないでください。(P213)

- すでに使用されているIPアドレス
- ネットワークアドレスを示すIPアドレス
- ブロードキャストアドレスを示すIPアドレス



注意

MP機能により2チャンネルを使用して接続を行っている間は、通話料金は1チャンネルの場合の約2倍になります。

接続先情報

「ネットワーク情報設定」画面の[接続先一覧]で[修正]ボタンまたは[追加]ボタンをクリックすると、「接続先情報設定」画面が表示されます。基本情報、マルチルーティング、発信情報、着信情報、発信者番号識別による着信情報の設定が行えます。

「接続先情報設定」画面

接続先情報設定	
基本情報	マルチルーティング
発信情報	発信者番号識別による着信情報
[基本情報]	
接続先名	IS-P-1
ダイヤル1	電話番号 サブアドレス 相手種別 ISDN
ダイヤル2	電話番号 サブアドレス 相手種別 ISDN
ダイヤル3	電話番号 サブアドレス 相手種別 ISDN
DNSサーバ	<input type="checkbox"/> しない <input checked="" type="checkbox"/> する
MP接続	BAP/BACP利用 <input checked="" type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない ※発信者番号による識別で番号をチェックしない場合は着信相手識別情報の設定が有効
無通信監視タイマ	00 秒
課金単位時間	昼間(月～金) 00:00～19:00 <input type="text"/> 分 <input type="text"/> 秒 夜間(土日の昼間) 19:00～23:00 <input type="text"/> 分 <input type="text"/> 秒 深夜・早朝 23:00～08:00 <input type="text"/> 分 <input type="text"/> 秒
回線接続保持機能	<input checked="" type="checkbox"/> 使用する <input type="checkbox"/> 使用しない
[マルチルーティング]	
ソースアドレスルーティング	ローカルホストIPアドレス <input type="text"/> アドレスマスク 0.0.0.0
ポートルーティング	ポート番号/サブアドレス名 修正/削除 <input type="button" value="追加"/> <input type="button" value="削除"/>
接続制限	<input type="checkbox"/> 指定した時間を超過して接続しない (時間) <input type="checkbox"/> 指定した課金を超過して接続しない (円)
[発信情報]	
送信認証情報	送信認証ID myama 認証パスワード *****
コールバック要求	<input checked="" type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する
	コールバック方式 CBCP コールバックウェイトタイマ 00 秒 コールバック電話番号 コールバックサブアドレス
[着信情報]	
着信許可	<input checked="" type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない
受諾認証情報	認証ID 認証パスワード
[発信者番号識別による着信情報]	
発信者番号による識別	<input checked="" type="checkbox"/> 番号チェックをしない <input type="checkbox"/> 番号チェックをする
チェック番号	電話番号 サブアドレス ※未設定時は基本情報の番号でチェックする
認証方式	BAP/BACP <input checked="" type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する
コールバック応答	コールバック方式 CBCP コールバックウェイトタイマ 00 秒 コールバック電話番号 コールバックサブアドレス
<small>設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。設定を反映させるには、「相手情報設定」画面で更新をクリックしてください。</small>	
<input type="button" value="更新"/> <input type="button" value="キャンセル"/>	

[基本情報]

接続先名

この接続先を識別するための名称を半角英数字(最大8文字)で設定します。この名前は手動接続の際にも使用されます。

ダイヤル1/2/3 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
接続に用いる電話番号を3つまで設定できます。ダイヤル1にかからないときにはダイヤル2に、ダイヤル2にかからないときにはダイヤル3にかかけます。

•電話番号

市外局番から半角数字(最大32桁)で入力します。区切り文字として「-」(「_」)が使えます。

•サブアドレス

サブアドレスを利用する場合は、半角英数字(最大19桁)で入力します。

•相手種別

相手の方の回線種別を選択します。相手種別は送信時

にのみ参照され、着信時は自動認識します。64k PIAFSで着信時には設定したサブアドレスは無視されます。

DNSサーバ

接続の際に使用するDNSサーバのIPアドレスを設定します。ProxyDNSを使用する際に必要となります。省略するか「0.0.0.0」を設定した場合は、自動取得となります。「255.255.255.255」を設定した場合は使用しません。また、このアドレスは相手から要求があったときに、PPPのネゴシエーションの中で相手に受け渡すDNSサーバアドレスとしても使用します。

MP接続

【ISDN回線使用の場合に設定有効】MP接続を行うかどうかを設定します。ただし、発信者番号による識別が行われなかった相手の方からの着信については、「相手情報設定」画面で設定した[着信相手識別情報]が参照されます。

初期値：しない

「する」を選択した場合は以下の項目を設定します。

•BAP/BACP利用

MP接続する場合にBAP/BACP機能の利用をするかしないかを設定します。

無通信監視タイマ 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
ISDN回線の無通信監視タイマを0～3600秒の範囲で設定します。ここで設定した時間、通信が行われなかった場合は、ISDN回線を自動的に切断します。なお、0を設定した場合、自動切断を行いません。
初期値：60秒

課金単位時間

【ISDN回線使用の場合に設定有効】
各時間帯の課金単位時間を0.0～3600.0秒の範囲で指定します。ここで設定した時間は無通信監視による回線切断のときに参照され、同一料金で最大の接続時間を得るよう回線切断タイミングを調整します。なお、0を設定した場合、課金単位の調整は行いません。

•昼間(月～金)

平日の午前8時から午後6時59分59秒までの課金単位時間を設定します。

初期値：0.0秒

•夜間(土・日の昼間)

平日の午後7時から午後10時59分59秒までの課金単位時間を設定します。

初期値：0.0秒

(次ページへ続きます)

(前ページの続きです)

- 深夜・早朝
平日、土・日とも午後11時から翌日の午前7時59分59秒までの課金単位時間を設定します。
初期値：0.0秒

回線接続保持機能 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
回線接続保持機能はテレホーダイ契約されている電話番号向けの機能です。テレホーダイ機能の動作中に、この接続先を回線接続保持の対象とするかどうかを選択します。
初期値：使用しない

[マルチルーティング]

ソースアドレスルーティング 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
ローカルホストIPアドレスによるルーティング設定を行います。

- ローカルホストIPアドレス/アドレスマスク
ここで設定した接続先に送信するローカルホストIPアドレスによって本機能は定義できます。
初期値：アドレスマスク/0(0.0.0.0)

ポートルーティング 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
ポート番号によるルーティング情報一覧です。この接続先に送信するパケットをポート番号(サービス)によって定義できます。ポートルーティングの定義は装置全体で32個まで設定できます。(●P93)

接続制限 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
この接続先に対する発信抑制の指定を接続時間と課金によって行うことができます。なお、課金情報は目安ですので、通信事業者からの請求料金とは必ずしも一致しません。

- 指定した時間を超えて接続しない
接続制限の条件として、0～999時間の範囲で設定します。
- 指定した金額を超えて接続しない
接続制限の条件として、0～9999999999円の範囲で設定します。

[発信情報]

送信認証情報 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
発信時に使用する認証IDとパスワードをそれぞれ半角英数字(最大32文字)で設定します。

コールバック要求 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
コールバック要求を行うかどうかを選択します。
初期値：しない

「する」を選択した場合は以下の項目を設定します。

- コールバック方式
コールバックを行う場合の方式をCBCP/無課金から選択します。Microsoft製品やCBCP方式をサポートしている装置とのコールバックを行う場合は「CBCP」を選択します。本装置どうしの接続または本装置とIPMATE1300RD/1200RDの接続でコールバックを行う場合には「無課金」も選択できます。「無課金」ではコールバック要求側には電話料金はかかりません。
- コールバックウェイトタイム
コールバック要求後の着信待ち時間を0～60秒の範囲で設定します(推奨時間 60秒)。短い時間を設定してコールバックがうまくいかないときは、この時間を長くしてください。
- コールバック電話番号
コールバックで相手側にダイヤルしてもらう電話番号を半角数字(最大32桁)で設定します。区切り文字として「-」,「(」,「)」が使えます。この電話番号は、CBCP方式によるコールバックにのみ有効です。

- コールバックサブアドレス
コールバックで相手側にダイヤルしてもらう電話番号のサブアドレスを半角英数字(最大19桁)で設定します。このサブアドレスは、CBCP方式によるコールバックにのみ有効です。

[着信情報]

着信許可 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
この接続先からの着信を許可するかどうかを設定します。
初期値：しない

受諾認証情報 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
着信時に受け付ける認証IDとパスワードを半角英数字(最大32文字)で設定します。発信者番号によってこの接続先を識別できる場合は、この情報を省略し、代わりに相手情報の受諾認証ID情報を使うことができます。

[発信者番号識別による着信情報]

発信者番号による識別 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
着信時の相手識別の方法には、発信者番号通知を用いる方法と、認証IDを用いる方法があります。発信者番号通知を用いて相手を識別する場合は「番号チェックをする」を選択し、以降の情報を設定します。「番号チェックをしない」場合は、以降の設定はチェックされません。
初期値：番号チェックをする

チェック番号 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
相手識別に参照する情報を設定します。省略時は[基本情報]の設定値を参照します。

- 電話番号
市外局番から半角数字(最大32桁)で設定します。区切り文字として「-」,「(」,「)」が使えます。
- サブアドレス
サブアドレスを半角英数字(最大19桁)で設定します。

認証方式 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
着信時に利用する認証プロトコルを選択します。いずれも選択されないときには、その相手からの着信については認証を行いません。
初期値：PAP、CHAPともに使用

コールバック応答 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
相手からのコールバック要求を受け付けるかどうかを選択します。
初期値：しない

「する」を選択した場合は以下の項目を設定します。

- コールバック方式
コールバックを行う場合の方式をCBCP/無課金から選択します。Microsoft製品やCBCP方式をサポートしている装置とのコールバックを行う場合は「CBCP」を選択します。本装置どうしの接続または本装置とIPMATE1300RD/1200RDの接続でコールバックを行う場合には「無課金」も選択できます。「無課金」ではコールバック要求側には電話料金はかかりません。
- コールバックウェイトタイム
コールバック要求を受け、回線切断後、発信を行うまでの待ち時間を0～60秒の範囲で指定してください(推奨10秒)。短い時間を設定してコールバックがうまくいかないときは、この時間を長くしてください。

●コールバック電話番号

コールバック要求を受け、自側がダイヤルする電話番号を半角数字（最大32桁）で設定します。区切り文字として「-」、「（」、「）」が使えます。この設定を行った場合、着信時に相手の方から通知される電話番号とサブアドレスよりも優先して、設定された番号にコールバックを行います。

●コールバックサブアドレス

コールバック要求を受け、自側がダイヤルする電話番号のサブアドレスを半角英数字（最大19桁）で設定します。



お知らせ

「コールバック要求」の設定で「する」を選択し「コールバック電話番号」および「コールバックサブアドレス」を設定した場合でも、コールバック方式に「無課金」を設定したり、相手が発信者番号通知を許可しなかったりした場合は、この番号は通知されません。

コールバック応答時は、コールバック要求時に相手より通知された通信速度で応答します。

- 64kbit/sで要求された場合には64 kbit/sで応答
 - PIAFSで要求された場合にはPIAFSで応答
- Windows[®] 98/95は、Microsoft[®] Windows[®] 98 Operating SystemおよびMicrosoft[®] Windows[®] 95 Operating Systemの略です。Windows NT[®] 4.0は、Microsoft[®] Windows NT[®] Operating System Version 4.0の略です。Mac TCPおよびOpen Transportはなるべく新しいバージョンをご用意ください。新しいバージョンのソフトウェアは各種雑誌やftpサイトなどで入手してください。



発信者番号通知を行わない設定にした場合、相手側の設定・条件によっては接続できない場合や、サービスが受けられない場合があります。



ワンポイント

マルチルーティング

通常のIPルーティングに加え、ローカルホストIPアドレス、ポート番号および接続制限の組み合わせによるルーティングを行います。

ソースアドレスルーティングとは

すべての接続先に対してソースアドレスルーティングが設定されている状態では、本装置のファームウェア更新や通信確認(ping)等はいけません。必ず1つはソースアドレスルーティングを行わない接続先を定義します。

マルチルーティングの接続制限機能を有効にするには接続制限を行う場合、「ネットワーク情報設定」画面の[接続先一覧]で、優先順位の高い接続先に対して接続制限を設定してください。優先順位の低い接続先に対してだけ接続制限を設定しても有効になりませんのでご注意ください。

コールバック機能とは

電話をかけてきた相手の方に対して、本装置から自動的にかけ直す機能を設定できます。本機能を利用すると、セキュリティを強化できます。また、料金は本装置に課金されるので、一括管理が行えます。次の2種類があります。

- CBCP (Microsoftコールバック対応) 方式
Windows[®] 98/95、Windows NT[®] 4.0が備えるダイヤルアップ機能に対応して、着信側の本装置側からダイヤル発信をやり直させることができます。接続相手からの着信要求に対して、いったんISDN回線を接続してから認証を行う必要があるため、相手側に最低限（最初の1通話分）の課金がかかります。
- 無課金方式
呼び出し元からのダイヤル発信要求に含まれる発信元の電話番号を利用して認証を行い、その後、呼び出された側からダイヤル発信をやり直し、ISDN回線を接続します。認証を行うために回線を接続しないので、呼び出し側には課金されません。本装置どうしの接続または本装置とIPMATE 1300RD / 1200RDとの接続で利用できます。

課金単位時間

この機能を使用するときは、「操作メニュー」の[日付・時刻設定]を用いて本装置の時刻を正しく設定してください。時刻が設定されていない場合、課金単位時間は昼間の値のみが使われます。また、祝日には対応していません。

1 設定前の準備

2 ルータ機能の設定

3 設定リファレンス

4 運用とメンテナンス

5 アナログ通信機器の利用

ポートルーティング情報

「接続先情報設定」画面の[マルチルーティング]で[ポートルーティング]の[追加]ボタンをクリックすると、「ポートルーティング情報設定」画面が表示されます。

設定手順

設定済みの情報を修正、削除するとき・新規に情報を追加するとき

「詳細設定メニュー」の[相手情報]をクリックします。

「相手情報設定」画面が表示されます。

[ネットワーク情報一覧]で設定を行うネットワーク欄の[修正]ボタンをクリックします。

「ネットワーク情報設定」画面が表示されます。

[接続先一覧]の設定を行う接続先の[修正]ボタンをクリックします。

「接続先情報設定」画面が表示されます。

[マルチルーティング]の[ポートルーティング]で修正または削除したい情報の[修正]ボタンまたは[削除]ボタンをクリックします。追加するときは[追加]ボタンをクリックします。

「ポートルーティング情報設定」画面で情報の修正、追加を行い、[更新]ボタンをクリックします。

設定内容が更新されます。

設定されている情報をすべて削除するとき

「詳細設定メニュー」の[相手情報]をクリックします。

「相手情報設定」画面が表示されます。

[ネットワーク情報一覧]の設定を行うネットワーク欄の[修正]ボタンをクリックします。

「ネットワーク情報設定」画面が表示されます。

[接続先一覧]の設定を行う接続先の[修正]ボタンをクリックします。

「接続先情報設定」画面が表示されます。


[マルチルーティング]の[ポートルーティング]で、[全削除]ボタンをクリックします。

[OK]ボタンをクリックします。

すべての情報が削除されます。

「ポートルーティング情報設定」画面

ポートルーティング情報設定

[ポートルーティング情報] 

ポート番号 (番号指定: "その他"を選択時のみ有効です)

サーバホスト名

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。
更新内容を反映させるには、「相手情報設定」画面の更新をクリックしてください。

[ポートルーティング情報]

ポート番号によるルーティングを行います。この接続先に送信するパケットをポート番号(サービス)によって定義できます。

ポート番号

ポートルーティングの対象となるサービスを選択します。「その他」を選ぶと、ポート番号を1～65535の10進数を使用して直接指定することができます。

初期値：ftp

サーバホスト名

ポートルーティングの対象となるホスト名を半角英数字(最大80文字)で設定します。この機能はProxyDNSを使用するときのみ有効です。



ワンポイント

ポートルーティング機能とは

ポート番号によるルーティングを行う機能です。ポート番号(サービス)ごとにパケットを送信する接続先を定義できます。

ポート番号とサービス名の対応は

代表的なサービス名とポート番号は次のように対応しています。

サービス名	ポート番号
ftp-data	20
ftp	21
telnet	23
smtp	25
time	37
domain	53
gopher	70
finger	79
www (http)	80

サービス名	ポート番号
pop3	110
sunrpc	111
ident	113
nntp	119
ntp	123
nbname	137
nbdatagram	138
nbssession	139
snmp	161

サービス名	ポート番号
syslog	514
printer	515
talk	517
route	520
uucp	540

ルーティング情報

「ネットワーク情報設定」画面の[スタティックルーティング情報一覧]で[追加]ボタンをクリックすると、「ルーティング情報設定」画面が表示されます。またルーティング情報が設定されていると、[スタティックルーティング情報一覧]に情報が表示され、変更・削除を行うための[修正]ボタン、[削除]ボタンが表示されます。この画面では、ルーティング情報を固定で設定できます。ただし、デフォルトルート指定は装置に1つしか設定できません。

設定手順

設定済みの情報を修正、削除するとき・新規に情報を追加するとき

「詳細設定メニュー」の[相手情報]をクリックします。

「相手情報設定」画面が表示されます。

[ネットワーク情報一覧]で設定を行うネットワーク欄の[修正]ボタンをクリックします。

「ネットワーク情報設定」画面が表示されます。

[スタティックルーティング情報一覧]で修正または削除したい情報の[修正]ボタンまたは[削除]ボタンをクリックします。追加する場合には[追加]ボタンをクリックします。

「ルーティング情報設定」画面で情報の修正、追加を行い、[更新]ボタンをクリックします。

設定内容が更新されます。

設定されている情報をすべて削除するとき

「詳細設定メニュー」の[相手情報]をクリックします。

「相手情報設定」画面が表示されます。

[ネットワーク情報一覧]で設定を行うネットワーク欄の[修正]ボタンをクリックします。

「ネットワーク情報設定」画面が表示されます。

[スタティックルーティング情報一覧]の[全削除]ボタンをクリックします。

[OK]ボタンをクリックします。

すべての情報が削除されます。

「ルーティング情報設定」画面

ルーティング情報設定

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新内容を反映させるには、「相手情報設定」画面の更新をクリックしてください。

更新 キャンセル

ネットワーク

「デフォルトルート」または「ネットワーク指定」を選択します。

初期値：ネットワーク指定

宛先アドレスマスク/0(0.0.0.0)

「ネットワーク指定」を選択した場合は以下の項目を設定します。

- 宛先IPアドレス/宛先アドレスマスク
パケット転送先のIPアドレスとアドレスマスクを入力します。

メトリック値

ここで設定したルーティング情報をRIPで送信する場合のメトリック値を指定します。

初期値：1



お知らせ

[スタティックルーティング情報一覧]には、あらかじめ情報が登録されていると、[追加]ボタンだけでなく[修正]ボタンが表示されます。[修正]ボタンをクリックすると、メトリック値の変更が行えます。

IPフィルタリング情報

「ネットワーク情報設定」画面の [IPフィルタリング情報] で [追加] ボタンをクリックすると、「IPフィルタリング情報」画面が表示されます。

優先順位1から順にパケットのチェックを行い、すべての条件が合致した場合に定義された動作を行います。

設定手順

設定済みの情報を修正、削除するとき・新規に情報を追加するとき

「詳細設定メニュー」の[相手情報]をクリックします。

「相手情報設定」画面が表示されます。

[ネットワーク情報一覧]で設定を行うネットワーク欄の[修正]ボタンをクリックします。

「ネットワーク情報設定」画面が表示されます。

[IPフィルタリング情報一覧]で修正または削除したい情報の[修正]ボタンまたは[削除]ボタンをクリックします。追加する場合には[追加]ボタンをクリックします。

「IPフィルタリング情報」画面で情報の修正、追加を行い、[更新]ボタンをクリックします。

設定内容が更新されます。

情報の優先順位を変更するとき

「詳細設定メニュー」の[相手情報]をクリックします。

「相手情報設定」画面が表示されます。

[ネットワーク情報一覧]で設定を行うネットワーク欄の[修正]ボタンをクリックします。

「ネットワーク情報設定」画面が表示されます。

[IPフィルタリング情報一覧]の優先順位を変更したい情報に移動先の優先順位を入力し、[移動]ボタンをクリックします。

情報の並び替えが行われます。

設定されている情報をすべて削除するとき

「詳細設定メニュー」の[相手情報]をクリックします。

「相手情報設定」画面が表示されます。

[ネットワーク情報一覧]で設定を行うネットワーク欄の[修正]ボタンをクリックします。

「ネットワーク情報設定」画面が表示されます。

[IPフィルタリング情報一覧]の[全削除]ボタンをクリックします。

[OK]ボタンをクリックします。

すべての情報が削除されます。

(次ページへ続きます)

(前ページの続きです)

「IPフィルタリング情報」画面

IPフィルタリング情報	
動作	<input checked="" type="radio"/> 透過 <input type="radio"/> 透過(接続中のみ) <input type="radio"/> 遮断
プロトコル	すべて <input checked="" type="checkbox"/> (番号指定: <input type="checkbox"/> "その他"を選択時のみ有効です)
送信元情報	IPアドレス <input type="text"/>
	アドレスマスク <input type="text" value="0.0.0.0"/>
	ポート番号 <input type="text"/>
宛先情報	IPアドレス <input type="text"/>
	アドレスマスク <input type="text" value="0.0.0.0"/>
	ポート番号 <input type="text"/>
TCP接続要求	<input checked="" type="radio"/> 対象 <input type="radio"/> 対象外

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。設定を反映させるには、「相手情報設定」画面で更新をクリックしてください。

更新 キャンセル

動作

IPフィルタリングの動作を透過/透過（接続中のみ）/遮断の3つから選択します。

初期値：透過

• 透過

条件と一致した場合にパケットを透過します。

• 透過（接続中のみ）

条件と一致した場合に、ISDN回線が接続されていればパケットを透過し、切断されていれば遮断します。

• 遮断

条件と一致した場合にパケットを遮断します。ただし、フラグメント化されたパケットに対しては正しく遮断されません。

プロトコル

フィルタリング条件としてプロトコルを次の5つから選択します。

- すべて
- ICMP
- TCP
- UDP
- その他

「その他」を選択した場合、プロトコル番号を0～255の10進数で指定します。

初期値：すべて

送信元情報/宛先情報

送信元あるいは宛先のフィルタリング条件を設定します。チェック対象となったパケットのIPアドレスと定義したアドレスマスクの論理積と、定義したIPアドレスとアドレスマスクの論理積が等しい場合に合致したとみなします。

• IPアドレス/アドレスマスク

フィルタリング条件としてのIPアドレスとアドレスマスクを設定します。

初期値：アドレスマスク/0(0.0.0.0)

• ポート番号

フィルタリング条件としてのポート番号を1～65535の10進数または“any”で設定します。“any”を設定した場合はすべてのポート番号をフィルタリングの対象とします。ポート番号を設定しない場合は“any”とみなします。またポート番号を複数指定する場合は「,」で、範囲を指定する場合は「-」で区切ります。送信元情報と宛先情報で合わせて10組まで設定できます。

TCP接続要求

TCPプロトコルでのコネクション接続要求をフィルタリングの対象に含めるかどうかを設定します。

初期値：対象



ワンポイント

ポート番号について (P93)

静的NAT情報

「ネットワーク情報設定」画面の[静的NAT情報一覧]で[追加]ボタンをクリックすると、「静的NAT情報設定」画面が表示されます。

設定手順

設定済みの情報を修正、削除するとき・新規に情報を追加するとき

「詳細設定メニュー」の[相手情報]をクリックします。

「相手情報設定」画面が表示されます。

[ネットワーク情報一覧]で設定を行うネットワーク欄の[修正]ボタンをクリックします。

「ネットワーク情報設定」画面が表示されます。

[静的NAT情報一覧]で修正または削除したい情報の[修正]ボタンまたは[削除]ボタンをクリックします。追加する場合には[追加]ボタンをクリックします。

「静的NAT情報設定」画面で情報の修正、追加を行い、[更新]ボタンをクリックします。

設定内容が更新されます。

設定されている情報をすべて削除するとき

「詳細設定メニュー」の[相手情報]をクリックします。

「相手情報設定」画面が表示されます。

[ネットワーク情報一覧]で設定を行うネットワーク欄の[修正]ボタンをクリックします。

「ネットワーク情報設定」画面が表示されます。

[静的NAT情報一覧]の[全削除]ボタンをクリックします。

[OK]ボタンをクリックします。

すべての情報が削除されます。

「静的NAT情報設定」画面

静的NAT情報設定

プライベートIP情報	IPアドレス	<input type="text"/>
	ポート番号	すべて (番号指定: <input type="text"/> "その他"を選択時のみ有効です)
グローバルIP情報	IPアドレス	<input type="text"/>
	ポート番号	すべて (番号指定: <input type="text"/> "その他"を選択時のみ有効です)
プロトコル		すべて (番号指定: <input type="text"/> "その他"を選択時のみ有効です)

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。
更新内容を反映させるには、「相手情報設定」画面の更新をクリックしてください。

更新 キャンセル

プライベートIP情報

• IPアドレス

LAN側で使用しているプライベートアドレスのうち変換させたいIPアドレスを設定します。IPアドレスは省略不可です。

• ポート番号

LAN側で使用しているポート番号のうち変換させたいポート番号を設定します。

ポート番号を指定する場合は1～65535の範囲で設定します。

初期値：ポート番号 すべて

グローバルIP情報

• IPアドレス

使用できるグローバルアドレスのうち変換させたいIPアドレスを設定します。

• ポート番号

使用できるポート番号のうち変換させたいポート番号を設定します。

ポート番号を指定する場合は1～65535の範囲で設定します。

初期値：ポート番号 すべて

プロトコル

アドレス変換を行うプロトコルを次の7つから選択します。

- すべて
- ESP
- ICMP
- AH
- TCP
- その他
- UDP

「その他」を選択した場合、プロトコル番号を0～255の10進数で指定します。

初期値：すべて



ワンポイント

静的NATとは

マルチNAT機能を使用する場合に、グローバルアドレス/ポート番号とプライベートアドレス/ポート番号を固定で変換する機能です。

ポート番号について(●P93)

不特定相手情報

「相手情報」画面の [ネットワーク情報一覧] の不特定相手着信で [修正] ボタンをクリックすると、「不特定相手情報設定」画面が表示されます。基本情報、MP情報、IPフィルタリング情報を設定できます。

設定手順

「詳細設定メニュー」の [相手情報] をクリックします。

「相手情報設定」画面が表示されます。

[ネットワーク情報一覧] の不特定相手着信欄で [修正] ボタンをクリックします。

「不特定相手情報設定」画面が表示されます。

[IPフィルタリング情報一覧] の設定を行うには、設定情報の [修正] ボタンまたは [追加] ボタンをクリックすると「IPフィルタリング情報」画面が表示されますので、各項目を設定し、[更新] ボタンをクリックして設定内容を更新します。

各項目を設定し、[更新] ボタンをクリックします。

設定内容が更新され、「相手情報設定」画面に戻ります。

「不特定相手情報設定」画面

[基本情報]

割当先頭アドレス 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
接続先として登録されていない相手に対して割り当てる先頭IPアドレスを設定します。割当先頭アドレスを省略した場合は接続先として登録されていない相手からの着信は行われません。

同時接続許可数 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
接続先として登録されていない相手に対する同時接続許可数を設定します。

初期値：1

DNSサーバ 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
相手から要求があったときに、通知するDNSサーバのIPアドレスを設定します。

データ圧縮 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
送受信するデータを圧縮するかどうかを設定します。データ圧縮のアルゴリズムは、VJ Compressing TCP / IP Headers をサポートします。使用する設定の場合も、実際にデータ圧縮を行うかどうかは、相手ホストとのネゴシエーションで決まります。

初期値：VJ Compressing TCP / IP Headers 使用する

無通信監視タイム 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
ISDN回線の無通信監視タイムを0～3600秒の範囲で設定します。ここで設定した時間、通信が行われなかった場合は、ISDN回線を自動的に切断します。なお、0を設定した場合、自動切断を行いません。

初期値：0秒

[MP情報]

MP回線初期リンク数【ISDN回線使用の場合に設定有効】
回線接続時に接続するチャンネル数を設定します。

初期値：1

アナログ使用時縮退【ISDN回線使用の場合に設定有効】
MPで2本のチャンネルを使用しているときに、アナログ電話がかかってきたり、アナログ電話機のハンドセットをあげたりした場合に、チャンネルを1本に減らしてアナログ通信機器が使えるようにすることができます。これを行う場合には「する」を選択します。

初期値：しない

トラフィックによる増減【ISDN回線使用の場合に設定有効】
回線負荷に応じて帯域幅（1B、2B）を自動的にコントロールする機能を使用するかどうかを設定します。

初期値：しない

「する」を選択した場合は以下の項目を設定します。

- 回線増加条件

本機能を使用する場合の回線増加条件を設定します。
設定した回線使用率を超えた状態が「猶予時間」以上続いた時点で、回線の接続を行います。
回線使用率は0～100%、猶予時間は0～3600秒の範囲で指定できます。

- 回線削減条件

本機能を使用する場合の回線削減条件を設定します。
設定した回線使用率を下回った状態が「猶予時間」以上続いた時点で、回線の切断を行います。
回線使用率は0～100%、猶予時間は0～3600秒の範囲で指定できます。

受信パケット順序制御【ISDN回線使用の場合に設定有効】
MPを使用すると、パケットの順序が入れ替わって届く場合があります。その順序を正しいものに並べ変えて受信する場合は「する」を選択します。

初期値：しない

[IPフィルタリング情報一覧]

現在設定されているIPフィルタリングの定義の一覧です。処理は優先順位1から順に行われます。
IPフィルタリングの定義は装置全体で32個まで設定できます。必要な処理のボタンを選んで次の画面に進んでください。（●P101）



ワンポイント

MP（マルチリンクプロトコル）機能とはMP方式のアクセスポイントを持つインターネットサービスプロバイダに接続するときなどに、B1、B2チャンネルを使用し、帯域幅を拡張してデータ通信を行うようにする機能です。

MP通信中、TELポートに着信があった場合には1チャンネル分をTELポートに優先的に割り当て、着信をすることができます。ただし通信中着信通知サービスの利用契約が必要です。通信中着信通知サービスの利用契約はINSネット64に新規に加入するときは無料です。すでにINSネット64をご契約の場合に、新たに通信中着信通知サービスを契約するときは有料になります。



お知らせ

回線増加条件は猶予時間の間、設定した回線使用率を連続して上回った場合のみ、帯域が増加します。通信状態によって回線使用率が安定しないため、一時的に設定値を上回っても帯域幅は増加しません。
回線削減条件は猶予時間の間、設定した回線使用率を連続して下回った場合のみ、帯域が減少します。通信状態によって回線使用率が安定しないため、一時的に設定値を下回っても帯域幅は減少しません。



お願い

割当先頭アドレスには、本装置の同一LAN上で使用できるIPアドレスを設定してください。
ただし、次の3種類のIPアドレスは使用しないでください。（●P213）

- 同一LAN上ですでに使用されているIPアドレス
- ネットワークアドレスを示すIPアドレス
- ブロードキャストアドレスを示すIPアドレス



注意

MP機能により2チャンネルを使用して接続を行っている間は、通話料金は1チャンネルの場合の約2倍になります。

IPフィルタリング情報

「不特定相手情報設定」画面の [IPフィルタリング情報一覧] で [追加] ボタンをクリックすると、「IPフィルタリング情報」画面が表示されます。

優先順位の高い定義より順にバケットのチェックを行い、すべての条件が合致した場合に定義された動作を行います。

設定手順

設定済みの情報を修正、削除するとき・新規に情報を追加するとき

「詳細設定メニュー」の [相手情報] をクリックします。

「相手情報設定」画面が表示されます。

[ネットワーク情報一覧] で不特定相手着信欄の [修正] ボタンをクリックします。

「不特定相手情報設定」画面が表示されます。

[IPフィルタリング情報一覧] の修正または削除したい情報の [修正] ボタンまたは [削除] ボタンをクリックします。追加する場合には [追加] ボタンをクリックします。

「IPフィルタリング情報」画面で情報の修正、追加を行い、[更新] ボタンをクリックします。

設定内容が更新されます。

情報の優先順位を変更するとき

「詳細設定メニュー」の [相手情報] をクリックします。

「相手情報設定」画面が表示されます。

[ネットワーク情報一覧] で不特定相手着信欄の [修正] ボタンをクリックします。

「不特定相手情報設定」画面が表示されます。

[IPフィルタリング情報一覧] の優先順位を変更したい情報に移動先の優先順位を入力し、[移動] ボタンをクリックします。

情報の並び替えが行われます。

設定されている情報をすべて削除するとき

「詳細設定メニュー」の [相手情報] をクリックします。

「相手情報設定」画面が表示されます。

[ネットワーク情報一覧] で不特定相手着信欄の [修正] ボタンをクリックします。

「不特定相手情報設定」画面が表示されます。

[IPフィルタリング情報一覧] の [全削除] ボタンをクリックします。

[OK] ボタンをクリックします。

すべての情報が削除されます。

「IPフィルタリング情報」画面

IPフィルタリング情報

動作	<input checked="" type="radio"/> 透過 <input type="radio"/> 透過(接続中のみ) <input type="radio"/> 遮断	
プロトコル	すべて <input checked="" type="checkbox"/> (番号指定: <input type="checkbox"/> "その他"を選択時のみ有効です)	
送信元情報	IPアドレス	<input type="text"/>
	アドレスマスク	0.0.0.0
	ポート番号[]	<input type="text"/>
宛先情報	IPアドレス	<input type="text"/>
	アドレスマスク	0.0.0.0
	ポート番号[]	<input type="text"/>
TCP接続要求	<input checked="" type="radio"/> 対象 <input type="radio"/> 対象外	

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。設定を反映させるには、「相手情報設定」画面で更新をクリックしてください。

更新 | キャンセル

動作

IPフィルタリングの動作を透過/透過(接続中のみ)/遮断の3つから選択します。

初期値：透過

• 透過

条件と一致した場合にパケットを透過します。

• 透過(接続中のみ)

条件と一致した場合に、ISDN回線が接続されていればパケットを透過し、切断されていれば遮断します。

• 遮断

条件と一致した場合にパケットを遮断します。ただし、フラグメント化されたパケットに対しては正しく遮断されません。

プロトコル

フィルタリング条件としてプロトコルを次の5つから選択します。

- すべて
- ICMP
- TCP
- UDP
- その他

「その他」を選択した場合、プロトコル番号を0～255の10進数で指定します。

初期値：すべて

送信元情報/宛先情報

送信元あるいは宛先のフィルタリング条件を設定します。チェック対象となったパケットのIPアドレスと定義したアドレスマスクの論理積と、定義したIPアドレスとアドレスマスクの論理積が等しい場合に合致したとみなします。

• IPアドレス/アドレスマスク

フィルタリング条件としてのIPアドレスとアドレスマスクを設定します。

初期値：アドレスマスク/0(0.0.0.0)

• ポート番号

フィルタリング条件としてのポート番号を1～65535の10進数または“any”で設定します。“any”を設定した場合はすべてのポート番号をフィルタリングの対象とします。ポート番号を設定しない場合は“any”とみなします。またポート番号を複数指定する場合は「,」で、範囲を指定する場合は「-」で区切ります。送信元情報と宛先情報で合わせて10組まで設定できます。

TCP接続要求

TCPプロトコルでのコネクション接続要求をフィルタリングの対象に含めるかどうかを設定します。

初期値：対象



ワンポイント

ポート番号について (P93)

PPP受諾認証情報

「相手情報設定」画面の [受諾認証ID情報一覧] で [修正] または [追加] ボタンをクリックすると、「PPP受諾認証情報」画面が表示されます。

設定手順

設定済みの情報を修正、削除するとき・新規に情報を追加するとき

「詳細設定メニュー」の [相手情報] をクリックします。

「相手情報設定」画面が表示されます。

[受諾認証ID情報一覧] の修正または削除したい情報の [修正] ボタンまたは [削除] ボタンをクリックします。追加する場合には [追加] ボタンをクリックします。

「PPP受諾認証情報」画面で情報の修正、追加を行い、 [更新] ボタンをクリックします。

設定内容が更新されます。

設定されている情報をすべて削除するとき

「詳細設定メニュー」の [相手情報] をクリックします。

「相手情報設定」画面が表示されます。

[受諾認証ID情報一覧] の [全削除] ボタンをクリックします。

[OK] ボタンをクリックします。

すべての情報が削除されます。

「PPP受諾認証情報」画面

PPP受諾認証情報

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。設定を反映させるには、「相手情報設定」画面で更新をクリックしてください。

[受諾認証情報]

受諾認証ID 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
着信時に接続を許可する認証IDを半角英数字（最大32文字）で設定します。

受諾認証パスワード 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
着信時に接続を許可する認証パスワードを半角英数字（最大32文字）で設定します。

装置情報

「詳細設定メニュー」で [装置情報] をクリックすると、「装置情報設定」画面が表示されます。
タイムサーバ情報、システムログ情報、ファームウェア更新情報、オンラインサポート情報を設定します。

「装置情報設定」画面



注意

時刻サーバIPアドレスやシステムログの送信先ホストに本装置のIPアドレスを設定しないでください。お客様の意図しない発信が行われることがあります。

[タイムサーバ情報]

タイムサーバ

ネットワーク上のタイムサーバから時刻情報を取得して、本装置の内部時計を自動的に設定するかどうかを選択します。

初期値：使用しない

「使用する」を選択した場合は以下の項目を設定します。

- プロトコル
本機能を使用する場合のプロトコルを選択します。
初期値：TIMEプロトコル
- 時刻サーバIPアドレス
時刻情報を取得するタイムサーバのIPアドレスを設定します。
- 自動日付・時刻設定間隔
定期的に自動設定する間隔を設定します。0～10日あるいは0～10時間の範囲で設定できます。0を設定すると、起動（再起動）時のみ時刻情報を取得します。

[システムログ情報]

システムログ送信

本装置は、syslog形式でシステムログサーバにシステム情報を送信することができます。

初期値：送信しない

「送信する」を選択した場合は以下の項目を設定します。

- 送信先ホスト
システムログを送信する相手のIPアドレスを設定します。

[ブザー音設定]

さまざまな場面にに応じてブザーを鳴らすことができます。
[TEST] ボタンをクリックするとブザー音の試し聞きができます。

課金制御通知音（ピロピロピロピロ・・・）

課金制御で設定した値を超え、再度接続したときに鳴ります。

初期値：あり

回線接続音（ピロ）

回線が接続されたときに鳴ります。

初期値：あり

回線エラー通知音（ピーピーピーピー）

接続に失敗したときまたは接続中に異常切断されたときに鳴ります。

初期値：あり

課金単位時間通知音（ピッ）

回線接続中に課金単位時間の設定値を経過するごとに鳴ります。

初期値：なし

装置起動音（ピロロ）

本装置の電源を入れたときに鳴ります。

初期値：あり

（次ページへ続きます）

(前ページの続きです)

[ファームウェア更新情報]

転送元ホスト名

更新ファームウェアが存在するホスト名を半角英数字(最大128文字)で設定します。ドット表記のIPアドレスを設定することもできます。ただし、通常は変更の必要はありません。

ProxyDNSが設定されていない場合、ホスト名指定によるファームウェア更新は行えません。

ログインID

ファームウェア更新用のログインIDを半角英数字(最大16文字)で設定できます。ただし、通常は変更の必要はありません。

ログインパスワード

ファームウェア更新用のパスワードを半角英数字(最大32文字)で設定できます。通常は、管理者のメールアドレスをここに記述します。

ファイルロケーション

更新用ファームウェアのファイルロケーションを半角英数字(最大80文字)で設定できます。ただし、通常は変更の必要はありません。

SNMPエージェント機能

SNMPエージェント機能を使用すると、SNMPマネージャの動作している他のシステムから本装置の状態を監視することができます。SNMPエージェント機能を使用する場合は「使用する」をチェックし、以下の項目も設定してください。

初期値：使用しない

ルータ管理者

本装置の管理者名を40文字以内の半角英数字で設定してください。ただし、空白文字は使えません。“_”や“.”で代用してください。

機器名称

本装置の名称を32文字以内の半角英数字で設定してください。ただし、空白文字は使えません。

機器設置場所

本装置の設置場所を72文字以内の半角英数字で設定してください。ただし、空白文字は使えません。

SNMPホスト1/2

SNMPによるアクセスを許可するホストを設定してください。ホストは2つまで指定できます。“publicとする”をチェックすると、コミュニティ名“public”で任意のホストからのアクセスを許可します。コミュニティ名を変えたい場合やホストを限定したい場合は、“指定する”をチェックし、コミュニティ名・IPアドレス・トラップ送信可否を指定してください。

初期値：Publicとする(SNMPホスト1) 指定しない(SNMPホスト2)

• コミュニティ名

SNMPにより情報交換するグループのコミュニティ名を32文字以内の半角英数字で設定してください。

• IPアドレス

SNMPによるアクセスを許可するホストのIPアドレスを設定してください。“0.0.0.0”を指定すると、任意のホストからのアクセスを許可します。

• トラップ

このSNMPホストに対してトラップを送信する場合は、“送信する”をチェックしてください。ただし、任意のホスト(0.0.0.0)を指定している場合は、トラップの送信は行われません。

初期値：送信しない

[オンラインサポート情報]

オンラインサポート接続【ISDN回線使用の場合に設定有効】
オンラインサポート接続をするかどうかを指定します。センタ側からのオンラインサポート接続を許可する場合には「する」、拒否する場合には「しない」を選択します。オンラインサポート接続を許可するときにセンタ電話番号と暗証番号のいずれもが設定されていない場合、MACアドレスが認証に使用されます。

初期値：する

「する」を選択した場合は以下の項目を設定します。

• センタ電話番号

オンラインサポートを受け付ける相手電話番号を市外局番から半角数字(最大32桁)で指定します。区切り文字として「-」(「(」(「)」)が使えます。

• 暗証番号

オンラインサポートを受け付ける相手との暗証番号を半角数字(最大19桁)で指定します。



ワンポイント

オンラインサポートとは

ISDN回線に接続された遠隔地(リモート側)の本装置を、管理者側(センタ側)の本装置を使用して直接設定する機能です。ただし、高速デジタル専用線(HSD)では使用できません。



お知らせ

課金単位時間通知音は、「かんたん設定」で設定を変更しても変わりません。「詳細設定」の「ブザー音設定」で変更してください。

オンラインサポート中は、ISDN回線は接続されたままとなります。無通信監視タイマによる自動切断は行われません。設定終了後は必ずオンラインサポートを終了し回線が切断されたことを確認します。

オンラインサポート機能を利用する際には、センタ側とリモート側に本装置を使用します。ただし、バージョンが異なる場合、設定できない項目もあります。

センタ側の電話番号および暗証番号はセキュリティ確保のために設定しておく必要があります。「ルータ設定」の「装置情報」で指定してください。

オンラインサポート機能を利用する際には、ユーザ間情報通知サービスのご契約が必要です。

⚠ 注意

オンラインサポート機能を使用する際の発信にはINSネット64のユーザ間情報通知サービスを使用するため、1回の発信につき1メッセージ分の料金が通信料金とは別にかかります。

パスワード情報

「詳細設定メニュー」で [パスワード情報] をクリックすると、「パスワード情報設定」画面が表示されます。本装置を操作する際のパスワードを設定します。

「パスワード情報設定」画面

パスワード情報設定

新しいログインパスワード	*****
ログインパスワードの確認	*****

《設定以外のサービスについてもパスワードの問い合わせが必要な場合は以下のチェックをしてください。》

- 操作 (手動接続/切断、テレホータイなどのISDN回線の運用)
- 表示 (課金情報、ルーティング情報などの運用情報の表示)
- メンテナンス/バージョン情報の表示、ファームウェア更新など

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

新しいログインパスワード

「新しいログインパスワード」を半角英数字（1～16文字）で設定します。

ログインパスワードの確認

もう一度、「新しいログインパスワード」で入力したパスワードを入力します。

操作・表示・メンテナンス

操作時にログインパスワードの入力を必要とする項目にチェックマークを付けます。



お知らせ

ログインパスワード入力後、10分間は操作を行えません。10分経過後は、操作を継続して行おうとすると、ログインパスワード入力画面が再度表示され、ログインパスワードの再入力が必要になります。なお、操作をただちに終了させたい場合には、メニュー画面上部の [編集終了] アイコンをクリックしてください。本設定画面で設定した内容は、[更新] をクリックすると有効になります。



お願い

パスワードを忘れてしまった場合、ログインパスワードの入力画面を解除するには本装置をお買い求め時の設定に戻す必要があります。(●P228) ログインパスワード入力欄に空白文字、「”」、「<」、 「>」、「&」を入力しないでください。

ProxyDNS情報

「詳細設定メニュー」で [ProxyDNS情報/URLフィルタ情報] をクリックすると、「ProxyDNS情報」画面が表示されます。ProxyDNS情報とURLフィルタの設定ができます。

設定手順

設定済みの情報を修正、削除するとき・新規に情報を追加するとき

「詳細設定メニュー」の [ProxyDNS情報/URLフィルタ情報] をクリックします。

「ProxyDNS情報」画面が表示されます。

[順引き情報一覧] または [逆引き情報一覧] で修正または削除したい情報の [修正] ボタンまたは [削除] ボタンをクリックします。追加する場合には [追加] ボタンをクリックします。

「ProxyDNS情報設定(順引き)」画面または「ProxyDNS情報設定(逆引き)」画面で情報の修正、追加を行い、[更新] ボタンをクリックします。

設定内容が更新されます。

情報の優先順位を変更するとき

「詳細設定メニュー」の [ProxyDNS情報/URLフィルタ情報] をクリックします。

「ProxyDNS情報」画面が表示されます。

[順引き情報一覧] または [逆引き情報一覧] で優先順位を変更したい情報に移動先の優先順位を入力し、[移動] ボタンをクリックします。

情報の並び替えが行われます。

設定されている情報をすべて削除するとき

「詳細設定メニュー」の [ProxyDNS情報/URLフィルタ情報] をクリックします。

「ProxyDNS情報」画面が表示されます。

[順引き情報一覧] または [逆引き情報一覧] で [全削除] ボタンをクリックします。

[OK] ボタンをクリックします。

すべての情報が削除されます。

「ProxyDNS情報」画面

ProxyDNS情報

このページではProxyDNSとURLフィルタの設定ができます。URLフィルタは順引き情報で設定します。

[順引き情報](#)
[逆引き情報](#)

[順引き情報一覧] ?

優先順位	ドメイン名	動作	DNSサーバアドレス/ ネットワーク名	修正/削除

[逆引き情報一覧] ?

優先順位	ネットワークアドレス	動作	DNSサーバアドレス/ ネットワーク名	修正/削除

更新した情報は、設定反映後に有効になります。

[ホストデータベース情報へ>](#)

[順引き情報一覧]

ProxyDNS機能の順引き情報の一覧です。順引き情報はドメイン名によりDNSサーバを切り替える範囲を指定する場合に使用します。(最大32件) URLフィルタ機能を利用する場合はここを設定します。必要な処理のボタンを選んで次の画面に進んでください。

(●P107)

[逆引き情報一覧]

ProxyDNS機能の逆引き情報の一覧です。逆引き情報はIPアドレスによりDNSサーバを切り替える範囲を指定する場合に使用します。(最大32件) 必要な処理のボタンを選んで次の画面に進んでください。

(●P108)

「ProxyDNS情報設定(順引き)」画面

ProxyDNS情報設定(順引き)

URLフィルタ機能を使用する場合は、ドメイン名に対象URLを指定し、動作で廃棄するを選択します。

ドメイン名

動作

- 廃棄する
- 接続先のDNSサーバへ問い合わせる
- ネットワーク名
- 設定したDNSサーバへ問い合わせる

DNSサーバアドレス

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。設定を反映させるには、「ProxyDNS情報」画面で設定反映をクリックしてください。

ドメイン名

対象とするドメイン名の範囲を半角英数字（最大80文字）で指定します。範囲指定には、次のように、「*」または「?」が使用できます。ドメイン名のチェックには大文字 / 小文字の区別はありません。

* : 0文字以上の任意の文字に一致する

? : 1文字の任意文字に一致する



ワンポイント

ProxyDNSの機能

- DNSサーバの自動切り替え機能
パソコンに本装置のIPアドレスをDNSサーバとして登録しておくと、接続先によって問い合わせるDNSサーバを自動的に切り替えます。
- DNSサーバ機能
ホストデータベース情報にホスト名とIPアドレスのペアを登録しておくと、ProxyDNSは該当ホスト名へのアクセスを登録されたIPアドレスへのアクセスとして切り替えます。
- URLフィルタ機能
特定のドメイン名（範囲指定も可）へのアクセスを禁止することができます。この機能は順引き情報設定で設定します。

URLフィルタとして機能させるには

「ProxyDNS情報設定(順引き)」画面で以下のように設定します。

この機能は順引き情報設定にて設定します。

ドメイン名に特定のURLのドメイン名を入力します。

動作で「廃棄する」を選択します。

[更新]ボタンをクリックします。

情報が設定されます。

動作

対象ドメインに対する動作を指定します。以下の3つの動作から選ぶことができます。

- 廃棄する
該当ドメインの転送を無効にするフィルタを設定します。URLフィルタとして利用する場合はこれを指定します。
 - 接続先のDNSサーバへ問い合わせる
ネットワーク名
接続先情報で設定されたDNSサーバへ問い合わせる場合、どのネットワークで使用するかを設定します。設定したネットワークに複数の接続先が登録されている場合は、マルチルーティングと優先順位に従って接続先を決定します。
 - 設定したDNSサーバへ問い合わせる
DNSサーバアドレス
特定のDNSサーバへ問い合わせる場合、問い合わせるDNSサーバのIPアドレスを設定します。
- 初期値：廃棄する

(次ページへ続きます)

(前ページの続きです)

「ProxyDNS情報設定(逆引き)」画面

ProxyDNS情報設定(逆引き)

IPアドレス

アドレスマスク

動作

廃棄する

接続先のDNSサーバへ問い合わせ

ネットワーク名

設定したDNSサーバへ問い合わせ

DNSサーバアドレス

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。
設定を反映させるには、「ProxyDNS情報」画面で設定反映をクリックしてください。

IPアドレス

対象とするネットワークの範囲をアドレスマスクとの組み合わせで設定します。

アドレスマスク

対象とするネットワークの範囲をネットワークアドレスとの組み合わせで設定します。

初期値：0(0.0.0.0)

動作

対象ドメインに対する動作を指定します。以下の3つの動作から選ぶことができます。

- 廃棄する
 - 該当ネットワークの転送を無効にするフィルタを設定します。
 - 接続先のDNSサーバへ問い合わせ
 - ネットワーク名
 - 接続先情報で設定されたDNSサーバへ問い合わせる場合、どのネットワークで使用するかを設定します。設定したネットワークに複数の接続先が登録されている場合は、マルチルーティングと優先順位に従って接続先を決定します。
 - 設定したDNSサーバへ問い合わせ
 - DNSサーバアドレス
 - 特定のDNSサーバへ問い合わせる場合、問い合わせるDNSサーバのIPアドレスを設定します。
- 初期値：廃棄する

ホストデータベース情報

「詳細設定メニュー」で[ホストデータベース情報]をクリックすると、「ホストデータベース情報」画面が表示されます。登録されているホストデータベース情報の確認および修正、削除ができます。

設定手順

設定済みの情報を修正、削除するとき

- 「詳細設定メニュー」の[ホストデータベース情報]をクリックします。
- 「ホストデータベース情報」画面が表示されます。
- 修正または削除する情報の[修正]ボタンまたは[削除]ボタンをクリックします。
- 「ホストデータベース情報設定」画面が表示されます。
- 各項目を入力し、[更新]ボタンをクリックします。
- 設定内容が更新されます。

新規に情報を追加するとき

- 「詳細設定メニュー」の[ホストデータベース情報]をクリックします。
- 「ホストデータベース情報」画面が表示されます。
- 情報が入力されていない項目の[修正]ボタンをクリックします。
- 「ホストデータベース情報設定」画面が表示されます。
- 各項目を入力し、[更新]ボタンをクリックします。
- 設定内容が追加されます。

設定されている情報すべてを削除するとき

- 「詳細設定メニュー」の[ホストデータベース情報]をクリックします。
- 「ホストデータベース情報」画面が表示されます。
- [全削除]ボタンをクリックします。
- [OK]ボタンをクリックします。
- すべての情報が削除されます。

「ホストデータベース情報」画面

ホストデータベース情報

ホスト名	IPアドレス	MACアドレス	Wake-up-ID	修正	削除
1	-	-	-	修正	削除
2	-	-	-	修正	削除
0	-	-	-	修正	削除
4	-	-	-	修正	削除
5	-	-	-	修正	削除
6	-	-	-	修正	削除
7	-	-	-	修正	削除
8	-	-	-	修正	削除
9	-	-	-	修正	削除
10	-	-	-	修正	削除
11	-	-	-	修正	削除
12	-	-	-	修正	削除
25	-	-	-	修正	削除
26	-	-	-	修正	削除
27	-	-	-	修正	削除
28	-	-	-	修正	削除
29	-	-	-	修正	削除
30	-	-	-	修正	削除
31	-	-	-	修正	削除
32	-	-	-	修正	削除

全削除

更新した情報は、設定反映後に有効になります。

設定反映

< ProxyDNS/URLフィルタ情報へ > スケジュール情報へ >

ホスト名、IPアドレス、MACアドレスを組み合わせ設定します。(最大32件)

本設定を行うと、設定済みのMACアドレスを持つパソコンには、常に固定のIPアドレスが配付されます。このため、静的NAT機能やIPフィルタリング機能をご利用の場合や、外部からアクセスされるサーバをLAN内に設置する場合に、すべてのパソコンを本装置のDHCPサーバ機能で管理することができます。

ホストデータベース情報を設定すると、同一LAN上のパソコンの電源ON/OFFを操作(リモートパワーオン機能)できたり、不要なDNS問い合わせによる発信を防止できます。

(次ページへ続きます)

(前ページの続きです)

「ホストデータベース情報設定」画面

ホストデータベース情報設定

?

ホスト名

IPアドレス

MACアドレス

Wake-up-ID

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。設定を反映させるには、「ホストデータベース情報」画面で設定反映をクリックしてください。

更新 キャンセル

ホスト名

登録するパソコンのホスト名を半角英数字（最大80文字）で入力します。

IPアドレス

登録するパソコンのIPアドレスを設定します。

MACアドレス

「ホスト名」で指定された名前のパソコンのMACアドレスを設定します。

Wake-up-ID

「ホスト名」で指定された名前のパソコンのキー番号を半角英数字（最大19文字）で設定します。



ワンポイント

パソコン側のMACアドレスを調べるには

- Windows[®] 98/95の場合
winipcfgコマンドで調べることができます。
- Windows NT[®] 4.0の場合
ipconfigコマンドで調べることができます。
- Macintoshの場合
OSのバージョンごとに確認方法が異なりますのでパソコンの取扱説明書を参考にしてください。

リモートパワーオン機能を利用するには

遠隔地のパソコンやISDN機器（INSネット64用通信機器）から、電源投入を行いたいパソコンのキー番号（ホストデータベースに設定した「Wake-up-ID」）を相手側サブアドレスに指定し、本装置にダイヤルしてください。本装置では遠隔地からの発信要求を受け付けると、対象のパソコンに対して電源投入指示を行います。

Wake-up-IDとは

「ホスト名」で指定された名前のパソコンに対し電源投入指示を行うためのキー番号のことです。



お知らせ

Windows[®] 98/95は、Microsoft[®] Windows[®] 98 Operating SystemおよびMicrosoft[®] Windows[®] 95 Operating Systemの略です。Windows NT[®] 4.0は、Microsoft[®] Windows NT[®] Operating System Version 4.0の略です。

LAN上のパソコンからは、リモートパワーオン機能はご利用できません。

FT3000R-STを挿入したパソコンはリモートパワーオン機能はご利用できません。



お願い

キー番号には、実際に存在するISDN機器のサブアドレスを設定しないでください。

スケジュール情報

「詳細設定メニュー」で[スケジュール情報]をクリックすると、「スケジュール情報」画面が表示されます。スケジュール予約情報を設定できます。発着信の制御や課金情報のクリアを定期的に行うように設定できます。また、指定した日に接続先の電話番号などを変更することができます。

設定手順

設定済みの情報を修正、削除するとき

「詳細設定メニュー」の[スケジュール情報]をクリックします。

「スケジュール情報」画面が表示されます。

[月間/週間予約一覧]または[電話番号変更予約一覧]で修正または削除したい情報の[修正]ボタンまたは[削除]ボタンをクリックします。

「月間/週間予約設定」画面または「電話番号変更予約設定」画面で情報の修正を行い、[更新]ボタンをクリックします。

設定内容が更新されます。

新規に情報を追加するとき

「詳細設定メニュー」の[スケジュール情報]をクリックします。

「スケジュール情報」画面が表示されます。

[月間/週間予約一覧]または[電話番号変更予約一覧]で、情報が入力されていない項目の[修正]ボタンをクリックします。

「月間/週間予約設定」画面または「電話番号変更予約設定」画面で各項目を入力し、[更新]ボタンをクリックします。設定内容が追加されます。

設定されている情報をすべて削除するとき

「詳細設定メニュー」の[スケジュール情報]をクリックします。

「スケジュール情報」画面が表示されます。

[月間/週間予約一覧]または[電話番号変更予約一覧]で[全削除]ボタンをクリックします。

[OK]ボタンをクリックします。

すべての情報が削除されます。

(次ページへ続きます)

(前ページの続きです)

「スケジュール情報」画面

スケジュール情報

このページでは、スケジュール予約情報を設定できます。発着信の制御や課金情報のクリアを定期的に実行するように設定できます。また、指定した日に接続先の電話番号などを変更することができます。

△ スケジュール機能を使用するには、正しい時刻が設定されているか確認してください。現在の時刻は Fri Jan 2 04:00:28 1970 です。

月間/週間予約 電話番号変更予約

【月間/週間予約一覧】

＼ 動作	予約時刻	終了時刻	周期	修正/削除	
1	課金情報クリア	00:00	-	毎週金曜	修正 削除
2	-	-	-	修正 削除	
3	-	-	-	修正 削除	
4	-	-	-	修正 削除	
5	-	-	-	修正 削除	
6	-	-	-	修正 削除	
7	-	-	-	修正 削除	
8	-	-	-	修正 削除	
9	-	-	-	修正 削除	
10	-	-	-	修正 削除	
11	-	-	-	修正 削除	
12	-	-	-	修正 削除	
13	-	-	-	修正 削除	
14	-	-	-	修正 削除	
15	-	-	-	修正 削除	
16	-	-	-	修正 削除	

全削除

【電話番号変更予約一覧】

＼ 実行日時	電話番号変更情報	修正/削除
1	-	修正 削除
2	-	修正 削除
3	-	修正 削除
4	-	修正 削除

全削除

更新した情報は、設定反映前に有効になります。

設定反映

< ホストデータベース情報へ 疑似TA情報へ >

[月間/週間予約一覧]

現在設定されている月間または週間の予約情報の一覧です。必要な処理のボタンを選んで次の画面に進んでください。(☛P113)

[電話番号変更予約一覧]

現在設定されている電話番号変更の予約情報の一覧です。必要な処理のボタンを選んで次の画面に進んでください。(☛P114)

STOP お願い

電話番号変更予約を設定する前に、必ず本装置の時刻設定を「操作メニュー」から行ってください。スケジュール情報で設定された動作は、本装置の時刻設定が正しく行われていない場合は、設定したとおりに動作しません。

- 「装置情報設定」画面(☛P103)の[タイムサーバ情報]
- 「現在時刻」画面(☛P142)の表示時刻

月間/週間予約情報の初期値として設定されている「課金情報クリア」は、回線情報の課金制御との組み合わせによって「1週間で3000円を超えると発信抑止」が設定されています。この設定を修正または削除する場合は、「回線情報設定」画面の課金制御と合わせて設定してください。(☛P79)

月間/週間予約

「月間/週間予約設定」画面

月間/週間予約設定

動作 発信抑止

予約時刻 : 毎日
 毎週 日曜日 月曜日 火曜日 水曜日
 木曜日 金曜日 土曜日
 毎月 日

終了時刻 :

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。
設定を反映させるには、「スケジュール情報」で設定反映をクリックしてください。

動作

発信抑止/着信抑止/テレホーダイ/課金情報クリア/強制切断/スタンバイモードへ移行/通常モードへ移行の中から予約する処理動作を選択します。

• 予約/終了時刻を指定

- 発信抑止 : 指定した時間内は発信を抑止します。
- 着信抑止 : 指定した時間内は着信を抑止します。
- テレホーダイ : 指定した時間内はテレホーダイ機能が動作します。

• 予約時刻のみ指定

- 課金情報クリア : 指定した日時・時間に課金情報をクリアします。
- 強制切断 : 指定した日時・時間に回線を強制切断します。
- スタンバイモードへ移行 : 指定した日時・時間に本装置をスタンバイモードにします。
- 通常モードへ移行 : 指定した日時・時間に本装置を通常モードにします。

初期値 : 発信抑止

予約時刻

選択した動作を実行(開始)する時刻と実行周期を設定します。

- 毎日
毎日、予約時刻に設定した動作を行います。
- 毎週
週に一度、予約時刻に設定した動作を行います。
- 毎月
月に一度、予約時刻に設定した動作を行います。

終了時刻

選択した動作を終了する時刻を設定します。動作として発信抑止/着信抑止/テレホーダイを選択した場合にのみ設定可能です。ここで予約時刻よりも早い時刻を指定した場合、それは翌日の時刻になります。

電話番号変更予約

「電話番号変更予約設定」画面

電話番号変更予約設定

実行日時 年月日時分

電話番号変更情報	変更前1	変更後1
	変更前2	変更後2
	変更前3	変更後3
	変更前4	変更後4

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。
設定を反映させるには、「スケジュール情報」画面で設定反映をクリックしてください。

更新 キャンセル

実行日時

電話番号を変更する日時（24時間制）を西暦で指定します。

電話番号変更情報

変更前と変更後の電話番号をそれぞれ市外局番から半角数字（最大32桁）で入力します。区切り文字として「-」、「(」、「）」が使えます。



ワンポイント

電話番号変更予約の利用例

< 設定例 > 大阪の局番4桁変更時に利用する

実行日時 : 1999年1月1日2時0分

電話番号変更情報 : 変更前06-123-4567
/変更後06-6123-4567



注意

指定時刻にデータ通信を行っていると、いったん通信が切断され、設定反映されます。

疑似TA情報

「詳細設定メニュー」で [疑似TA情報] をクリックすると、「疑似TA情報」画面が表示されます。疑似TA情報を設定することができます。

「疑似TA情報」画面

疑似TA情報 ISDN

疑似TAの使用 使用しない 使用する

同時アクセス数 1

アクセス制限 全て許可する 下記のパソコンのみ許可する

IPアドレス [] [] [] []

アドレスマスク 0 0 0 0 0

強制切断タイマ 10 時間

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新 キャンセル

疑似TAの使用

疑似TAを使用するかどうかを設定します。

初期値：使用する

同時アクセス数

疑似TAで使用するISDNのBチャンネルの数を設定します。

初期値：2

アクセス制限

疑似TAを使用できるパソコンを指定します。

初期値：全て許可する

- 全て許可する
本装置の同一LANのパソコン全てで疑似TAを利用できます。
- 下記のパソコンのみ許可する
疑似TAを利用できるパソコンをIPアドレスとアドレスマスクで指定します。

強制切断タイマ

初期値：10時間

疑似TAを利用した通信時間を0～24時間で制限します。0を設定した場合、切断されません。



ワンポイント

疑似TAとは
LANで接続されたパソコンから仮想ダイヤルアップアダプタを通じてISDNのBチャンネルへ直接接続できる機能です。



お知らせ

パソコン側はMicrosoft® Windows®のダイヤルアップネットワークにおけるVPN（仮想プライベートネットワーク）機能を使用します。（☛P150）



お願い

IPアドレスには、本装置の同一LAN上で使用できるIPアドレスを設定してください。

ただし、次の2種類のIPアドレスは使用しないでください。（☛P213）

- ネットワークアドレスを示すIPアドレス
- ブロードキャストアドレスを示すIPアドレス

アナログ共通情報

「詳細設定メニュー」で [アナログ共通情報] をクリックすると、「アナログ共通情報」画面が表示されます。TEL1ポートとTEL2ポートに共通する情報を設定できます。

「アナログ共通情報」画面

アナログ共通情報 ISDN

このページでは、アナログポート1,2に共通する情報を設定できます。

網契約関連設定 装置動作設定

[網契約に関連する設定項目] ?

電話番号

フレックスホン
 フレックスホン
 疑似フレックスホン
 三者通話 使用しない 使用する
 通信中転送 使用しない 使用する

着信転送
 使用しない
 着信転送
 疑似着信転送
 契約者番号の転送先
 ポート1のダイヤルインの転送先
 ポート2のダイヤルインの転送先
 鳴り分け番号1の転送先
 鳴り分け番号2の転送先
※グローバル着信ありの場合の転送先は契約者番号の転送先に設定してください
 転送元トーキ あり なし
 転送トーキ あり なし
※疑似着信転送を使用する場合、転送先/転送トーキの指定は無効になります

・ナンバー
 使用しない
 使用する
 [・ナンバー情報1]
 鳴り分け番号1
 動作モード ポート1のみ着信
 [・ナンバー情報2]
 鳴り分け番号2
 動作モード ポート2のみ着信

[装置の動作に関連する設定項目] ?

設定変更用暗証番号

ダイヤル相間タイム 5秒

フッキング時間 早い 標準 遅い

#機能ボタン使用 する(1回入力) する(2回入力) しぬ

外線リング音 リング音1

内線リング音 リング音2

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

[網契約に関連する設定項目]

電話番号 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
 契約者回線番号を市外局番から半角数字（最大32桁）で入力します。区切り文字として「-」が使用できます。

フレックスホン 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
 フレックスホンまたは疑似フレックスホンを使用するかを選択します。

初期値：フレックスホン

● 三者通話（P168、177）

三者通話をするかどうかを選択します。

初期値：使用しない

● 通信中転送（P169、178）

通信中転送をするかどうかを選択します。

初期値：使用しない

着信転送（P170、179）

着信転送または疑似着信転送をするかどうかを選択します。

初期値：使用しない

「着信転送」または「疑似着信転送」に設定した場合は以下の項目を設定します。

● 契約者番号の転送先

転送先を市外局番から半角数字（最大32桁）で入力します。区切り文字として「-」が使用できます。

● ポート1のダイヤルインの転送先

TEL1ポートのダイヤルインの転送先を市外局番から半角数字（最大32桁）で入力します。区切り文字として「-」が使用できます。

● ポート2のダイヤルインの転送先

TEL2ポートのダイヤルインの転送先を市外局番から半角数字（最大32桁）で入力します。区切り文字として「-」が使用できます。

● 鳴り分け番号1の転送先

鳴り分け番号1の転送先を市外局番から半角数字（最大32桁）で入力します。区切り文字として「-」が使用できます。

● 鳴り分け番号2の転送先

鳴り分け番号2の転送先を市外局番から半角数字（最大32桁）で入力します。区切り文字として「-」が使用できます。

● 転送元トーキ（P170）

転送元トーキ（転送先の相手の方へのメッセージ）の有無を選択します。

初期値：なし

● 転送トーキ（P170）

電話をかけてきた相手の方へのメッセージの有無を選択します。

初期値：なし

i・ナンバー (●P162) 【ISDN回線使用の場合に設定有効】

i・ナンバー機能を使用するかどうかを選択します。

初期値：使用しない

「使用する」に設定した場合は以下の項目を設定します。

[i・ナンバー情報1/2]

● 鳴り分け番号1/2

鳴り分け番号1/2を市外局番から半角数字(最大32桁)で入力します。区切り文字として「-」「()」「」が使用できます。

この設定は省略可能です。

● 動作モード

i・ナンバー情報1/2で着信があったとき、着信するポートを選択したり、着信拒否することができます。

ポート1のみ着信：TEL1ポートのみ着信

ポート2のみ着信：TEL2ポートのみ着信

両ポート着信：TEL1、2ポートともに着信

着信拒否：TEL1、2ポートともに着信しない

初期値：ポート1のみ着信(i・ナンバー情報1)

ポート2のみ着信(i・ナンバー情報2)

[装置の動作に関連する設定項目]

設定変更用暗証番号 【ISDN回線使用の場合に設定有効】

外線からの設定変更時に使用する暗証番号(0から9までの半角数字4桁)を設定できます。

ダイヤル桁間タイマ 【ISDN回線使用の場合に設定有効】

アナログポートに接続した電話機やファクスから発信したときに、最後のダイヤル入力からINSネット64に発信するまでの時間を設定できます。

初期値：5秒

フッキング時間 【ISDN回線使用の場合に設定有効】

電話機のキャッチボタン(またはフックボタン、フラッシュボタンなど)が正常に動作しない場合にフッキングの認識時間を設定できます。

初期値：標準

#機能ボタン使用 (●P153、165)

【ISDN回線使用の場合に設定有効】

Ⓜ ボタンをダイヤル発信機能ボタンとして使用するかどうかを設定します。

初期値：する(1回入力)

外線リング音 【ISDN回線使用の場合に設定有効】

外線着信音を選択できます。

初期値：リング音1(リーン・リーン)

内線リング音 【ISDN回線使用の場合に設定有効】

内線通話の着信音を選択できます。

初期値：リング音2(リンリン・リンリン)



ワンポイント

着信音の種類

着信音は次の3種類から選択できます。

リング音1：「リーン・リーン」

リング音2：「リンリン・リンリン」

リング音3：「リンリンリン・リンリンリン」

転送トーク、転送元トークのメッセージ内容

転送トーク(電話をかけてきた相手の方に流れます)

：「ただいま電話を転送しますのでそのままお待ちください。」等

転送元トーク(転送先の相手の方に流れます)

：「電話が転送されます。」等

こんな場合には

ダイヤル桁間タイマが短いと相手の方につながらない場合があります。ダイヤル桁間タイマを長く設定してください。

フッキングとは

電話機のフックスイッチを押すことです。約1秒以上押し続けると電話が切れることがあります。コードレスホンや多機能電話機などをお使いのときは、キャッチボタン(またはフックボタン、フラッシュボタンなど)を押します。



お知らせ

三者通話、通信中転送、着信転送をご利用になる場合は「アナログ共通情報」画面の「電話番号」に契約者回線番号を必ず設定してください。

フレックスホンをご利用になるには、当社との利用契約(有料)が必要です。

「アナログポート1/2情報」画面でグローバル着信を「する」に設定した場合は、契約者番号の転送先は、

「契約者番号の転送先」に設定してください。

「アナログ共通情報」画面でi・ナンバーを「使用する」に設定した場合は、契約者回線番号の転送先は

「鳴り分け番号1の転送先」に設定してください。また、

i・ナンバー契約時に追加された番号の転送先は

「鳴り分け番号2の転送先」に設定してください。

i・ナンバーをご利用になるには、当社との利用契約(有料)が必要です。

アナログポート1/2情報

「詳細設定メニュー」で [アナログポート1情報] または [アナログポート2情報] をクリックすると、それぞれの「アナログポート情報」画面が表示されます。TELポートごとの情報を設定できます。

「アナログポート1/2情報」画面

[網契約に関連する設定項目]

ダイヤルイン番号 (●P161)

【ISDN回線使用の場合に設定有効】

ダイヤルイン番号を市外局番から半角数字 (最大32桁) で設定します。区切り文字として「 - 」 「 (」 「) 」 が使えます。

グローバル着信なしで契約した場合は、契約者回線番号をダイヤルイン番号として設定できます。

グローバル着信 (●P161) 【ISDN回線使用の場合に設定有効】

グローバル着信をするかどうかを設定します。

初期値：する

発信者番号通知 (●P159) 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
発信するとき、発信者番号を着信者側に通知するかどうかを設定できます。

ダイヤル番号または、鳴り分け番号を通知する場合は、「ダイヤルイン番号」に通知する電話番号を設定してください。

●通知する

発信者番号を相手に通知します。

●通知しない

発信者番号を相手に通知しません。

●INSネット64申込内容に従う

INSネット64申込時の契約内容に従います。

初期値：INSネット64申込内容に従う

キャッチホン (●P167)

【ISDN回線使用の場合に設定有効】

キャッチホンを使用するかどうかを選択します。疑似キャッチホンを使用する場合は、「疑似キャッチホン」を選択してください。

初期値：使用しない

[装置の動作に関連する設定項目]

接続機器 (●P164) 【ISDN回線使用の場合に設定有効】

ポートに接続する機器を選択します。そのポートを使用しない場合は「なし」を設定します。ファクスを接続する場合、着信音を鳴らさずに着信する無鳴動着信機能を持ったファクスをご利用のときは、「FAX (無鳴動強制着信)」または「FAX (無鳴動識別着信)」を設定できます。「FAX (無鳴動強制着信)」が設定された場合は、着信時、常に無鳴動着信処理を行います。

「FAX (無鳴動識別着信)」が設定された場合は、相手からFAX通信が指定された (高位レイヤ整合性) ときのみ無鳴動着信処理を行います。

初期値：電話

サブアドレス(●P163)【ISDN回線使用の場合に設定有効】
サブアドレス番号を半角英数字(最大19桁)で入力します。

発信/着信選択 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
発信または着信専用機器として設定できます。
初期値: 発信

受話音量 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
受話音量(小、中、大)を選択します。
初期値: 小

リバースパルス送出(●P171) 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
リバースパルスを送出するかどうかを選択します。
初期値: 送出不しい

フレックスホン自動切替 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
フレックスホンを利用して通話中に相手の方が電話を切
断した場合、自動的に保留になっていた方と通話できる
ように設定できます。
初期値: 使用しない

通信前情報通知 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
アナログポートに接続した機器で「ナンバー・ディス
プレイ」「モデムダイヤルイン」「アナログダイヤルイン」
を使用するか設定します。
初期値: 使用しない

[発信規制情報設定] 【ISDN回線使用の場合に設定有効】
規制したい局番や電話番号を登録しておき、その番号に
対して外線発信を規制することができます。



ワンポイント

発信者番号が正常に表示されない場合は
「使用モード設定」を「モード2」に設定してください。



お知らせ

ナンバー・ディスプレイ機能を使用する場合は、一
般のアナログ回線との仕様の違いにより、正常に表
示されないアナログ通信機器もあります。

グローバル着信を「する」に設定した場合は、「ア
ナログ共通情報」画面の契約者番号の転送先は、
「契約者番号の転送先」に設定してください。

INSキャッチホンをご利用になるには、当社との利
用契約(有料)が必要です。

「発信/着信選択」で「発信のみ」に指定しても、内
線通話・内線転送は行えます。

i・ナンバーをご利用になるには、当社との利用契
約(有料)が必要です。



お願い

i・ナンバーを「使用する」に設定した場合、ダイヤ
ルインおよびグローバル着信の設定は無効になりま
す。

注意

「通信前情報通知」を「ナンバー・
ディスプレイを使用する」に設定
した場合には、「アナログ共通情
報」画面(●P116)の「外線リン
グ音」・「内線リング音」および「識
別着信情報」画面(●P121)の
「識別リング音」の設定を「リン
グ音1」に設定することをおすす
めします。それ以外の設定(「リン
グ音2」「リング音3」)を行った場
合には、外線着信、内線着信、識別
着信が正常に動作しないことがあ
ります。

お使いになるアナログ通信機器
がナンバー・ディスプレイに対
応していない場合や、ナンバー
・ディスプレイを利用しない設
定になっている場合は、誤鳴動
や雑音(モデム信号)が聞こえ
るなど、正常に動作しないこと
があります。

1 設定前
の準備

2 ルータ機
能の設定

3 設定リ
フ
ア
レ
ン
ス

4 運用とメ
ンテナ
ンス

5 アナ
ログ
通信
機器
の利
用

発信規制情報（抑止）

「アナログポート 1 情報」または「アナログポート 2 情報」の [発信規制情報設定] で抑止電話番号の [追加] ボタンをクリックすると「外線発信抑止番号設定」画面が表示されます。

「外線発信抑止番号設定」画面

発信規制情報設定(アナログポート1)

[外線発信抑止番号設定] ⓘ

抑止番号

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。
設定を反映させるには、「アナログポート1情報」画面で更新をクリックしてください。

更新 キャンセル 前に戻る

[外線発信抑止番号設定]

各 TEL ポートごとに発信を規制する番号を指定します。
局番や電話番号を登録します。

抑止番号

外線発信を抑止したい番号を半角数字（最大32桁）で入力します。

区切り文字として「-」が「()」が使えます。

発信規制情報（発信許可）

「アナログポート 1 情報」または「アナログポート 2 情報」の [発信規制情報設定] で発信許可電話番号の [追加] ボタンをクリックすると「外線発信許可番号設定」画面が表示されます。

「外線発信許可番号設定」画面

発信規制情報設定(アナログポート1)

[外線発信許可番号設定] ⓘ

許可番号

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。
設定を反映させるには、「アナログポート1情報」画面で更新をクリックしてください。

更新 キャンセル 前に戻る

[外線発信抑止番号設定]

各 TEL ポートごとに発信を許可する番号を指定します。
局番や電話番号を登録します。

許可番号

外線発信を抑止したい番号を半角数字（最大32桁）で入力します。

区切り文字として「-」が「()」が使えます。

識別着信情報

「詳細設定メニュー」で [識別着信情報] をクリックすると、「識別着信情報」画面が表示されます。
「識別着信情報設定」画面で設定すると、登録された相手の方から電話がかかってきたとき、着信するTELポートを指定したり、着信を拒否することができます。TEL1・2ポート共通で10件まで設定できます。

設定手順

設定済みの情報を修正、削除するとき・新規に情報を追加するとき

「詳細設定メニュー」の[識別着信情報]をクリックします。

「識別着信情報」画面が表示されます。

[識別着信情報一覧]で修正または削除したい情報の[修正]ボタンまたは[削除]ボタンをクリックします。追加する場合には[追加]ボタンをクリックします。デフォルト定義の修正を行う場合は、デフォルト定義欄の[修正]ボタンをクリックします。

「識別着信情報設定」画面で情報の修正、追加を行い、[更新]ボタンをクリックします。

設定内容が更新されます。

設定されている情報をすべて削除するとき

「詳細設定メニュー」の[識別着信情報]をクリックします。

「識別着信情報」画面が表示されます。

[識別着信情報一覧]で[全削除]ボタンをクリックします。

[OK]ボタンをクリックします。

すべての情報が削除されます。

「識別着信情報」画面

[識別着信共通情報]

識別着信優先リング回数

優先ポートとして指定したポートだけ呼び出すリング音の回数(1~10回)を設定します。指定回数呼び出しでも受話器が取られない場合は、両ポートの呼び出しを行います。

初期値：5回

識別リング音

動作モードを「着信拒否」以外に設定している場合、識別着信用のリング音を選択できます。

初期値：リング音3 (リンリンリン・リンリンリン)

[識別着信情報一覧]

「識別着信情報設定」画面で設定した内容の一覧が表示されます。

デフォルト定義

識別着信する相手先に設定されていない相手の方からの着信時の動作を設定できます。

(次ページへ続きます)

(前ページの続きです)

「識別着信情報設定」画面

識別着信情報設定

[識別着信情報] ⓘ

識別定義名	<input type="text"/>
相手電話番号	<input type="text"/>
相手サブアドレス	<input type="text"/>
動作モード	[両ポート着信]

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。設定を反映させるには、「識別着信情報」画面で更新をクリックしてください。

更新 キャンセル 前に戻る

「識別着信情報」画面の [識別着信情報一覧] で [追加] ボタンをクリックすると「識別着信情報設定」画面が表示されます。識別着信情報を設定します。

[識別着信情報]

識別定義名

登録する相手の方の名前を半角英数字（最大16文字）で入力します。

相手電話番号

登録する相手の方の電話番号を市外局番から半角数字（最大32桁）で入力します。区切り文字として「-」、「(」、「)」が使えます。

相手サブアドレス

サブアドレス番号を半角英数字（最大19桁）で入力します。

動作モード

登録した方から着信があったとき、着信するポートを選択したり、優先して呼出音を鳴らすことなどができます。

- 両ポート着信 : TEL1、2ポートともに着信
- ポート1のみ着信 : TEL1ポートのみ着信
- ポート2のみ着信 : TEL2ポートのみ着信
- ポート1優先 : TEL1ポートを優先して着信
- ポート2優先 : TEL2ポートを優先して着信
- 着信拒否 : TEL1、2ポートとも着信しない

優先着信では、識別着信優先リング回数で設定した回数分だけ呼出音が鳴ってから、もう一方のTELポートも呼出音が鳴ります。

初期値：両ポート着信



ワンポイント

識別リング音の種類

リング音は次の3種類から選択できます。

リング音1 : 「リーン・リーン」

リング音2 : 「リンリン・リンリン」

リング音3 : 「リンリンリン・リンリンリン・リンリンリン」

デフォルト定義とは

識別着信設定が有効な場合、識別着信する相手として登録されている方以外からの着信時の動作を定義します。デフォルト定義の動作モードの初期値は「両ポート着信」です。



お知らせ

識別相手がアナログ回線の場合、当社とのINSナンバー・ディスプレイの利用契約（有料）が必要です。識別着信優先リング回数の設定はデフォルト定義でも有効です。



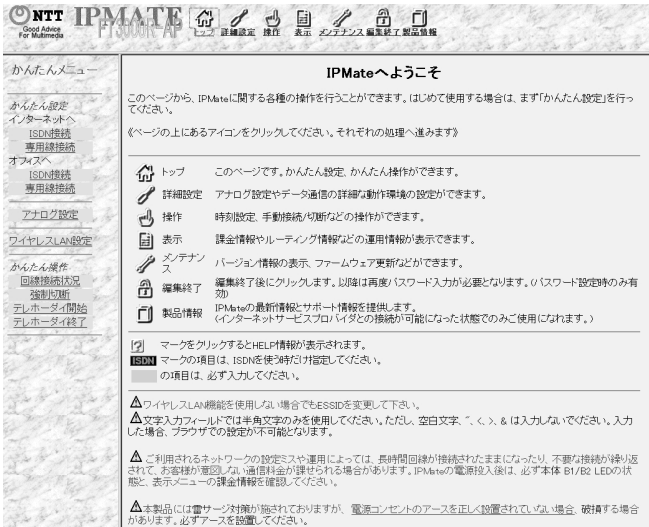
お願い

識別定義名、相手電話番号の設定は必ず行ってください。行わないと、識別定義情報が設定できません。

かんたん操作

「IPMATE FT3000R-AP」の初期画面（トップページ）には、最もよく利用される操作をまとめた「かんたん操作」が表示されます。初期画面（トップページ）からワンクリックするだけで、通信状況の確認や回線の切断、およびテレホーダイ機能の開始と終了という操作を簡単に行うことができます。

かんたん操作



「かんたん操作」のいずれかのボタンをクリックすると、各処理を行う画面が表示されます。

回線接続状況 (P124)

接続中の回線を確認することができます。

強制切断 (P124)

接続中の回線を手動で切断できます。テレホーダイ機能などが設定されていても、強制切断することができます。

テレホーダイ開始 (P125)

設定されているテレホーダイ機能を開始します。

テレホーダイ終了 (P125)

テレホーダイ機能をワンクリックで終了します。

回線を確認/強制終了する

回線の接続状況を確認したり、接続中の回線を手動で強制終了することができます。

回線接続状況を確認

1 「IPMATE FT3000R-AP」の初期画面（トップページ）を表示します。

2 「かんたん操作」の [回線接続状況] をクリックします。

「回線接続状況」画面が表示されます。

【回線接続状況】

チャネル番号	回線状態	接続形態	ネットワーク名 接続先名	電話番号	送信回線使用率	受信回線使用率	通信時間	IPアドレス
B1	通信中	発呼	internet ISP-1	031112222*	1%	100%	0000:00:00:16	172.16.32.45
B2	未使用	-	-	-	-	-	0000:00:00:00	-

回線を手動で強制切断

1 「IPMATE FT3000R-AP」の初期画面（トップページ）を表示します。

2 「かんたん操作」の [強制切断] をクリックします。

下のようなメッセージが表示されます。

ネットワーク:全ネットワーク
接続先:全接続先
上記に対し切断要求を発行しました。

テレホーダイ機能を利用する

テレホーダイ機能は、無通信監視タイマを一定時間停止し、テレホーダイタイマで設定されている時間内は回線を切断しないようにする機能です。

例えばインターネットサービスプロバイダとの接続を継続させておきたいときや、テレホーダイサービス利用時などに便利です。

テレホーダイ機能の開始

1 「IPMATE FT3000R-AP」の初期画面（トップページ）を表示します。

2 「かんたん操作」の [テレホーダイ開始] をクリックします。

下のようなメッセージが表示されます。

以下の時間をテレホーダイタイマに設定して開始しました。

テレホーダイタイマ
2時間

テレホーダイ機能の終了

1 「IPMATE FT3000R-AP」の初期画面（トップページ）を表示します。

2 「かんたん操作」の [テレホーダイ終了] をクリックします。

下のようなメッセージが表示されます。

テレホーダイタイマをキャンセルしました。



ワンポイント

テレホーダイタイマとは「接続先情報設定」画面の無通信監視タイマによる回線の自動切断を無効にし、回線を接続しておく時間を設定します。
初期値：回線接続保持タイマ値

あらかじめ「接続先情報設定」画面で「回線接続保持機能」を「使用する」に設定してください。



お知らせ

回線接続保持機能は、「接続先情報設定」画面で設定します。

(☛P90)

回線接続保持タイマは、「回線情報設定」画面で設定します。

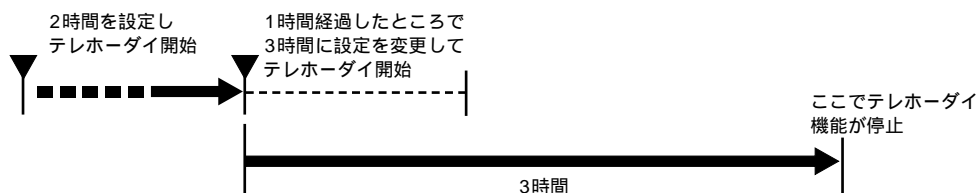
(☛P78)



お願い

テレホーダイ機能を利用中に、テレホーダイタイマの値を変更し、再度テレホーダイを利用した場合は、その時点から設定後の値が有効になります。

例えば、テレホーダイ開始から1時間経過後、テレホーダイタイマを3時間に変更し再度テレホーダイを利用すると、3時間後にテレホーダイ機能が停止します。



「IPMATE FT3000R-AP」の初期画面（トップページ）で画面上部の [操作] アイコンをクリックすると、「操作メニュー」が表示されます。「操作メニュー」では、次のようなISDN回線の運用・管理処理が行えます。

操作メニュー



「操作メニュー」のいずれかのボタンをクリックすると、各処理を行う画面が表示されます。

回線手動接続/切断 (●P127)

指定した接続先に回線を手動で接続できます。また、接続中の回線を手動で切断できます。

手動チャンネル増加/減少 (●P129)

手動でチャンネル数を増加・減少させることができます。MP機能を利用していない場合には、本操作は無効です。

疎通確認 (●P130)

pingによる通信確認を行います。

時刻設定 (●P131)

本装置に時刻を設定します。

テレホーダイ設定/終了 (●P132)

テレホーダイ機能の設定・利用ができます。

回線を手動で接続/切断する

指定した接続先に手動で回線を接続できます。また、接続中の回線を手動で切断できます。

回線を手動で接続

1 「操作メニュー」で [回線手動接続] をクリックします。

「回線手動接続」画面が表示されます。

回線手動接続

このページでは、指定した接続先に回線を手動接続することができます。
《情報一覧より相手を選択して接続をクリックしてください。》
接続ごとに認証IDや認証パスワードを変更する場合には、ワンタイムパスワードの設定を行ってから接続をクリックしてください。

[接続先情報一覧]

ネットワーク名	接続先名	電話番号1	サブアドレス1	電話番号2	サブアドレス2	接続
		電話番号3	サブアドレス3			

[ワンタイムパスワード設定]

送信認証ID

送信認証パスワード

2 接続したい相手先の [接続] ボタンをクリックします。

指定した接続先に回線が接続されます。



ワンポイント

回線接続状況を調べるには
(●P124、135)

ワンタイムパスワードに対応するには
相手がワンタイムパスワードでの接続形態
の場合に、送信する認証IDと認証パスワード
を入力してから [接続] ボタンをクリック
してください。



注意

同一LAN上のパソコンから要求があったときに、本装置は自動的に発信して、回線接続を行います。
また、一定時間通信が行われない場合は、回線は自動的に切断されます。

回線を手動で切断

1 「操作メニュー」で [回線手動切断] をクリック
します。

「回線手動切断」画面が表示されます。

回線手動切断

このページでは、指定した接続中の回線を手動切断することができます。

《情報一覧より相手を選択して切断をクリックしてください。》

[接続先情報一覧]

ネットワーク名 接続先名 電話番号 通信時間 切断

2 接続中、切断したい接続先の [切断] ボタンをク
リックします。

指定した接続先の回線が切断されます。



ワンポイント

回線接続状況を調べるには

(● P124、135)

手動でチャンネルを増加/減少させる

手動でチャンネルの数を増加/減少させることができます。

チャンネル数増加

- 1 「操作メニュー」で[手動チャンネル増加]をクリックします。

MP接続状態になり、2チャンネル使用します。

チャンネル数減少

- 1 「操作メニュー」で[手動チャンネル減少]をクリックします。

MP接続状態を終了し、1チャンネルだけを使用します。



ワンポイント

現在接続中の回線の状況を調べるには
(●P124、135)



お知らせ

1チャンネル使用の状態ですべてのチャンネル数減少操作を行っても、チャンネルの使用状態は変わりません。



STOP お願い

[接続先情報設定] 画面 (●P87) で「MP接続」を「する」に設定されていないと本機能はご利用になれません。



注意

MP機能により、2チャンネルを使用している間は、通話料金は1チャンネルの場合の約2倍になります。



ワンポイント

ping 送信先

パケットの送信先名を半角英数字（最大128文字）で設定します。ドット表記のIPアドレスを設定することもできます。ProxyDNSが設定されていない場合は、ドット表記のIPアドレスのみ設定できます。

 注意

ping送信中は途中で中止できません。またping実行中は、本装置に対してメニューを使用して他の処理を行うことはできません。送信パケットは慎重に設定してください（ping送信を行っている間は回線が切断されなくなります）。

ping実行後、[リトライ]をクリックすると、再度pingが実行されます。

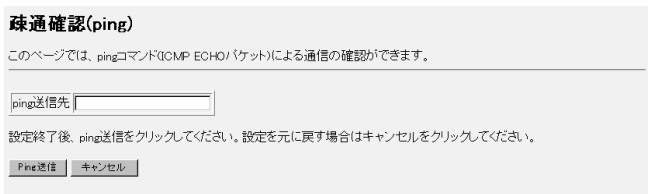
ping実行中は通話料金がかかります。

通信確認（ping）をする

pingコマンド（ICMP ECHOパケット）によるIP接続の確認ができます。

1 「操作メニュー」で[疎通確認]をクリックします。

「疎通確認（ping）」画面が表示されます。



疎通確認(ping)

このページでは、pingコマンド(ICMP ECHOパケット)による通信の確認ができます。

ping送信先

設定終了後、ping送信をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

Ping送信 キャンセル

[キャンセル]をクリックすると、ping送信先の設定が無効になります。

2 「ping送信先」に送信先のIPアドレスを入力し、[ping送信]をクリックします。

pingが実行され、実行状況が表示されます。

ping実行中

```
ping [192.168.1.2]: 56 data bytes
56 bytes from 192.168.1.2: icmp_seq=0 ttl=128 time=41.360
56 bytes from 192.168.1.2: icmp_seq=1 ttl=128 time=7.040
56 bytes from 192.168.1.2: icmp_seq=2 ttl=128 time=5.920
56 bytes from 192.168.1.2: icmp_seq=3 ttl=128 time=5.920
56 bytes from 192.168.1.2: icmp_seq=4 ttl=128 time=5.920
```

リトライ

時刻を設定する

本装置に時刻を設定します。時刻は、パソコンの時刻を設定するか、ネットワーク上のタイムサーバから取得するか、または任意の時刻を設定することができます。

1 「操作メニュー」で [時刻設定] をクリックします。

「時刻情報設定」画面が表示されます。

時刻情報設定

△電源を切りますと時刻は初期値にリセットされます。

時刻の設定	
パソコンから時刻を取得	パソコンの現在時刻 2000年 1月 20日 23時 16分 51秒 <input type="button" value="設定"/>
タイムサーバから時刻を取得	サーバアドレス 設定されていません。 <input type="button" value="設定"/>
任意の時刻を設定	1970年 01月 01日 01時 08分 08秒 <input type="button" value="設定"/>

2 「任意の時刻を設定」を選択する場合、現在の日時を入力します。

3 [設定] をクリックします。

時刻が設定されます。

ネットワーク上のタイムサーバから時刻を取得する場合は、[タイムサーバから時刻を取得]の[設定]をクリックします。あらかじめ「装置情報設定」画面でタイムサーバの設定を行っておいてください。また現在画面表示をしているパソコンから時刻を取得する場合は[パソコンから時刻を取得]の[設定]をクリックします。



ワンポイント

タイムサーバとは
TIMEプロトコル(RFC868)/SNTP
(RFC2030)によるネットワーク上への
時刻情報の配付 (timeサービス) を行
うシステムまたはソフトウェアのことで
す。

自動的に設定させるには (P103)



お知らせ

本装置の電源スイッチをOFFにすると、時刻は初期値に設定されます。



ワンポイント

テレホーダイタイムとは「接続先情報設定」画面の無通信監視タイムによる回線の自動切断を無効にし、回線を接続しておく時間を設定します。
初期値：回線接続保持タイム値

あらかじめ「接続先情報設定」画面で「回線接続保持機能」を「使用する」に設定してください。



お知らせ

回線接続保持機能は、「接続先情報設定」画面で設定します。

(☛P90)

回線接続保持タイムは、「回線情報設定」画面で設定します。

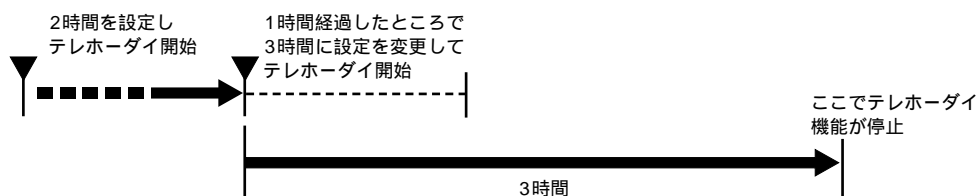
(☛P78)



お願い

テレホーダイ機能を利用中に、テレホーダイタイムの値を変更し、再度テレホーダイを利用した場合は、その時点から設定後の値が有効になります。

例えば、テレホーダイ開始から1時間経過後、テレホーダイタイムを3時間に変更し再度テレホーダイを利用すると、3時間後にテレホーダイ機能が停止します。



テレホーダイ機能を利用する

テレホーダイ機能は、無通信監視タイムを一定時間停止し、回線接続保持タイムで設定されている時間内は回線を切断しないようにする機能です。

例えばインターネットサービスプロバイダとの接続を継続させておきたいときや、テレホーダイサービス利用時などに便利です。

テレホーダイ機能の設定

1 「操作メニュー」で [テレホーダイ設定] をクリックします。

「テレホーダイ設定」画面が表示されます。

テレホーダイ設定

設定した時間内は回線の自動切断を行いません。このため、テレホーダイなどのサービスを利用する場合に便利です。
時間を設定し「テレホーダイ開始」を選択してください。初期値は「回線情報設定」の回線接続保持タイムで設定した値が設定されています。

現在のタイム状況: 0分

テレホーダイタイム 時間

開始する場合はテレホーダイ開始をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

回線接続保持タイムを再起動後も有効にする場合は、「回線情報設定」の回線接続保持タイムで設定する必要があります。

2 テレホーダイタイムの時間を入力します。

テレホーダイ機能の開始

1 「操作メニュー」で[テレホーダイ設定]をクリックします。

下のような画面が表示されます。

テレホーダイ設定

設定した時間内は回線の自動切断を行いません。このため、テレホーダイなどのサービスを利用する場合に便利です。時間を設定し「テレホーダイ開始」を選択してください。初期値は「回線情報設定」の回線接続保持タイムで設定した値が設定されています。

現在のタイム状況: 0分

テレホーダイタイム 時間

開始する場合はテレホーダイ開始をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

回線接続保持タイムを再起動後も有効にする場合は、「回線情報設定」の回線接続保持タイムで設定する必要があります。

2 [テレホーダイ開始] ボタンをクリックします。

テレホーダイ機能がはたらきます。テレホーダイ機能の開始から、テレホーダイタイムで設定されている時間が経過するまで、無通信監視タイムによる回線の切断は行われません。

以下の時間をテレホーダイタイムに設定して開始しました。

テレホーダイタイム

時間

テレホーダイ機能の終了

1 「操作メニュー」で[テレホーダイ終了]をクリックします。

テレホーダイ機能を停止します。回線接続保持タイムがキャンセルされます。

テレホーダイタイムをキャンセルしました。

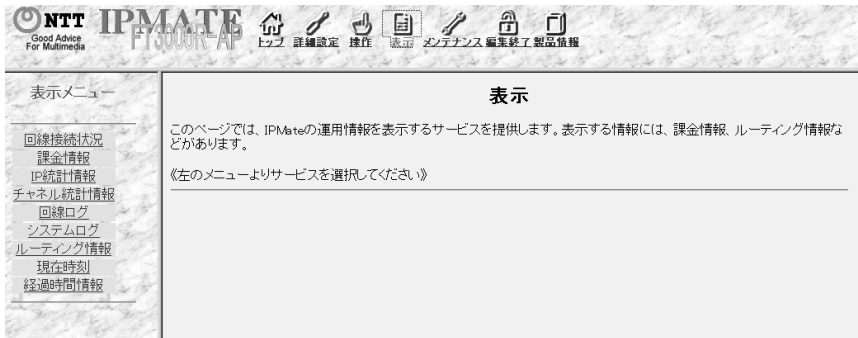


お知らせ

無通信監視タイムは、「接続先情報設定」画面で設定します。(P89)

「IPMATE FT3000R-AP」の初期画面（トップページ）で画面上部の [表示] アイコンをクリックすると「表示メニュー」が表示されます。「表示メニュー」から、課金情報やルーティング情報などの運用情報が表示できます。次の情報を表示できます。

表示メニュー



「表示メニュー」のいずれかのボタンをクリックすると各情報の詳細が表示されます。

回線接続状況 (●P135)

現在の回線状況を表示します。

課金情報 (●P136)

データ通信とアナログ通信の回線使用料金を表示します。

IP統計情報 (●P137)

回線を介した通信ごとのプロトコルの内訳を表示します。

チャネル統計情報 (●P138)

回線状況を表示します。

回線ログ (●P139)

回線接続に関する情報を表示します。

システムログ (●P140)

回線の発着信ログ情報を表示します。

ルーティング情報 (●P141)

ルーティングテーブルを表示します。

現在時刻 (●P142)

本装置に設定されている時刻を表示します。

経過時間情報 (●P142)

本装置の電源を入れてから、または再起動してからの経過時間を表示します。

回線接続状況

「表示メニュー」の [回線接続状況] をクリックすると、現在の接続先の回線状況が表示されます。

【回線接続状況】

チャンネル番号	回線状態	接続形態	ネットワーク名 接続先名	電話番号	送信回線使用率	受信回線使用率	通信時間	IPアドレス
B1	未使用	-	-	-	-	-	0000.00:00:00	-
B2	未使用	-	-	-	-	-	0000.00:00:00	-

チャンネル番号

本装置内部で使用するチャンネルの論理的な番号です。実際の回線のB1、B2チャンネルとは必ずしも一致するものではありません。

回線状態

現在の回線の接続状態（通信中/MP通信中/アナログ通信中/未使用）です。

接続形態

回線の接続形態（発呼/着呼）です。

ネットワーク名/接続先名

回線接続中は接続先の名称が表示されます。

電話番号

回線接続中は接続先のダイヤル番号が表示されます。着信した相手の発信番号が通知されない場合、何も表示されません。

送信回線使用率

回線を送信に使用している割合です。

受信回線使用率

回線を受信に使用している割合です。

通信時間

回線が接続されてから現在までの経過時間です。

IPアドレス

接続先のIPアドレスです。

課金情報

「表示メニュー」の[課金情報]をクリックすると、本装置の電源を入れてからのデータ通信とアナログ通信の課金情報が表示されます。またデータ通信では接続先別に課金情報が表示されます。

【データ通信課金情報】

通信総時間	0000.00:00:00
課金合計金額	0 円
ネットワーク名	-
接続先名	-
時間	0000.00:00:00
金額	0 円
ネットワーク名	-
接続先名	-
時間	0000.00:00:00
金額	0 円
ネットワーク名	-
接続先名	-
時間	0000.00:00:00
金額	0 円

【接続先別データ通信課金情報】

ネットワーク名	接続先名	時間	金額
---------	------	----	----

【アナログポート課金情報】

通信総時間	0000.00:00:00
課金合計金額	0 円
時間	0000.00:00:00
金額	0 円
電話番号	-
時間	0000.00:00:00
金額	0 円
電話番号	-
時間	0000.00:00:00
金額	0 円
電話番号	-

【疑似TA課金情報】

通信総時間	0000.00:00:00
課金合計金額	0 円

課金情報クリア

通信課金情報は、他通信事業者との網間接続使用ユーザにとっては正しい課金値とはなりません。また通信時間は、網からトーン/アナウンスしている時間を含みます。

【データ通信課金情報】

データ通信（ワンポイント）について、以下の情報を表示します。

通信総時間

データ通信時間の累計です。

課金合計金額

データ通信料金の累計です。

最長通信

1回のデータ通信の最長時間と接続先です。

最高課金

1回のデータ通信の最高料金と接続先です。

最終接続

最新のデータ通信にかかった時間、料金、接続先です。

【接続先別データ通信課金情報】

データ通信の接続先別に通話時間と通信料金を表示します。

【疑似TA課金情報】

疑似TAの機能を利用した通信について、以下の情報を表示します。

通信総時間

疑似TA通信時間の累計です。

課金合計金額

疑似TA通信料金の累計です。

【アナログポート課金情報】

アナログ通信（ワンポイント）について、以下の情報を表示します。

通信総時間

アナログ通信時間の累計です。

課金合計金額

アナログ通信料金の累計です。

最長通信

1回のアナログ通信の最長時間と接続先です。

最高課金

1回のアナログ通信の最高料金と接続先です。

最終接続

最新のアナログ通信にかかった時間、料金、接続先です。

課金情報クリア

[課金情報] クリア

[課金情報クリア] をクリックすると、現在保持している課金情報をすべてクリアします。



ワンポイント

通信総時間（dddd.HH:MM:SS）の見方

ddddはトータル日数、HHは時間、MMは分、SSは秒となります。

データ通信とは

この取扱説明書では、ワイヤレスLANまたは10BASE-T PORTを使用して行う通信のことです。

アナログ通信とは

この取扱説明書では、TEL1ポート、TEL2ポートを使用して行う通信のことです。



お知らせ

通信時間は網からトーン/アナウンスしている時間を含みます。

料金は目安ですので、通信事業者からの請求料金と一致しないことがあります。

本装置の電源を切ると、課金情報はクリアされます。本装置は、お買い求め時の状態で月間/週間予約（P113）により、課金情報が毎週金曜日（00時00分）でクリアされる設定になっています。

IP統計情報

「表示メニュー」の [IP統計情報] をクリックすると、回線を介した通信のプロトコルごとの内訳が表示されます。

【IP統計情報】

```
tcp:
  772 packets sent
    378 data packets (28422 bytes)
    0 data packets (0 bytes) retransmitted
    0 resends initiated by MTU discovery
    312 ack-only packets (7 delayed)
    0 window probe packets
    0 window update packets
    82 control packets
  858 packets received
    484 acks (for 383726 bytes)
    152 duplicate acks
    0 acks for unsent data
    151 packets (64457 bytes) received in-sequence
    0 completely duplicate packets (0 bytes)
    0 old duplicate packets
    0 packets with some dup. data (0 bytes duped)
    158 out-of-order packets (0 bytes)
    0 packets (0 bytes) of data after window
    0 window probes
    0 window update packets
    0 packets received after close
    0 discarded for bad checksums
    0 discarded for bad header offset fields
    0 discarded because packet too short
  2 connection requests
    151 connection accepts
    0 bad connection attempts
    0 listen queue overflows
    150 connections established (including accepts)
    152 connections closed (including 0 drops)
    0 connections updated cached RTT on close
    0 connections updated cached RTT variance on close
    0 connections updated cached ssthresh on close
    0 embryonic connections dropped
    392 segments updated rtt (of 392 attempts)
    0 retransmit timeouts
    0 connections dropped by retransmit timeout
    0 persist timeouts
    0 connections dropped by persist timeout
    0 keepalive timeouts
    0 keepalive probes sent
    0 connections dropped by keepalive
  3 correct ADP header predictions
  148 correct data packet header predictions
udp:
  87 datagrams received
    0 with incomplete header
    0 with bad data length field
    0 with bad checksum
    0 dropped due to no socket
    82 broadcast/multicast datagrams dropped due to no socket
    0 dropped due to full socket buffers
    0 not for hashed pcb
    15 delivered
  3 datagrams output
ip:
  1282 total packets received
  0 bad header checksums
  0 with size smaller than minimum
  0 with data size < data length
  0 with header length < data size
  0 with data length < header length
  0 with bad options
  0 with incorrect version number
  0 fragments received
  0 fragments dropped (dup or out of space)
  0 fragments dropped after timeout
  0 packets reassembled ok
  353 packets for this host
  0 packets for unknown/unsupported protocol
  0 packets forwarded
  245 packets not forwardable
  0 redirects sent
  776 packets sent from this host
  0 packets sent with fabricated ip header
  0 output packets dropped due to no bufs, etc.
  0 output packets discarded due to no route
  0 output datagrams fragmented
  0 fragments created
  0 datagrams that can't be fragmented
icmp:
  0 calls to icmp_error
  0 errors not generated ' cuz old message was icmp
  0 messages with bad code fields
  0 messages < minimum length
  0 bad checksums
  0 messages with bad length
  0 message responses generated
```

以下のプロトコルに関する統計情報が表示されます。

- tcp
TCPに関するプロトコル統計情報です。
- udp
UDPに関するプロトコル統計情報です。
- ip
IPに関するプロトコル統計情報です。
- icmp
ICMPに関するプロトコル統計情報です。



お知らせ

これらの情報は保守用のものです。トラブル復旧の際などにお役立てください。
本装置の電源を切ると、IP統計情報はクリアされます。

チャンネル統計情報

「表示メニュー」の [チャンネル統計情報] をクリックすると、回線の接続情報が表示されます。

【チャンネル統計情報】

```
call setup count = 0  
call busy count = 0  
call error count = 0  
called accept count = 0  
called reject count = 0
```

call setup count

発信回数です（接続に失敗した回数を含む）。

call busy count

発信先が話中で接続に失敗した回数です。

call error count

話中以外で発信（接続）に失敗した回数です。

called accept count

着信を受けた回数です。

called reject count

着信したが接続を拒否した回数です。



お知らせ

これらの情報は保守用のものです。トラブル復旧の際などにお役立てください。

本装置の電源を切ると、チャンネル統計情報はクリアされます。

データ通信に関する情報のみカウントします。

回線ログ

「表示メニュー」の [回線ログ] をクリックすると、回線接続に関する情報が表示されます。

【回線ログ】

ログ番号	発生時刻	チャンネル	ログ内容
01	1998/11/10 01:00:38	-	発信ログ IPパケットの転送が発生しました。 Protocol:TCP 128.1.2.146(32783)->192.168.1.1(21)
02	1998/11/10 01:16:44	B1ch	回線エラー発生 [詳細コード=00/00/82a9] エラーが発生しました。
03	1998/11/10 05:21:15	B1ch	発信失敗 [詳細コード=00/00/8085] エラーが発生しました。

ログ番号

ログが記録された順に付与される番号です。

発生時刻

ログが記録された時刻です。

チャンネル

ログが記録された現象が発生したチャンネルです。

ログ内容

回線の接続と接続失敗理由に関する情報です。



ワンポイント

「回線エラー発生 [詳細コード = XX/XX/8090] エラーが発生しました」のログ
相手がPPPの切断手順を行わずに回線を切断したことを表示します。
本装置の異常ではありません。



お知らせ

これらの情報は保守用のものです。トラブル復旧の際などにお役立てください。
本装置の電源を切ると、回線ログ情報はクリアされます。
データ通信に関する情報のみが記録されます。

システムログ

本装置では接続先や接続時間の情報などをsyslog形式で採取できます。
「表示メニュー」の[システムログ]をクリックすると、接続先や接続時間の情報などが表示されます。

【システムログ】

```
Jan 01 09:00:10 init: system startup now.
Jan 01 11:22:40 enabled: system configuration restarted
Jan 01 11:24:02 enabled: system configuration restarted
```

時刻

ログを採取した日付、時刻が表示されます。

上の例では、“Aug 25 20 : 21 : 24”は“8月25日の20時21分24秒”を意味します。

種別

init : システムの状態をあらわします。

protocol : データ通信が行われた契機（開始、終了等）を意味します。

analog : アナログ通信が行われた契機（発信、着信等）を意味します。

契機

- connect : 接続したことを意味します。
 - connect A to B : 発信によりAからBに接続ができた。
 - connect A from B : 着信によりBからAに接続ができた。
- disconnect : 切断したことを意味します。
 - disconnect A to B : Bとの接続を切断した。
 - disconnect A from B : Bから切断された。

通話時間

通話時間を“time = ”以降に表示します。

time = dddd.HH : MM : SS

dddd : トータルの日数

HH : 時

MM : 分

SS : 秒

通話時間は、その通信（接続から切断まで）にかかった時間です。

課金情報

通話料金を“charge = ”以降に表示します。単位は円です。

例) charge = 100yen

通話料金が100円使用したことを意味します。



ワンポイント

syslogサーバとは

システム情報の記録を行うシステムまたはソフトウェアのことです。

採取内容の転送

採取内容は、syslogサーバへ転送することができます。

- syslogサーバの指定方法（P103）



お知らせ

これらの情報は保守用のものです。トラブル復旧の際などにお役立てください。

上記表示は一例を示しています。お客さまの使用環境によっては表示と異なります。

本装置の電源を切ると、システムログ情報はクリアされます。

通話時間、課金情報は回線を切断後に採取できます。料金は目安ですので、通信事業者からの請求料金と一致しないことがあります。

ルーティング情報

「表示メニュー」の [ルーティング情報] をクリックすると、本装置のルーティングテーブルが表示されます。

【ルーティング情報】

Routing tables

```
Internet:
Destination Gateway      Flags Refs Use Netif Expire
127.0.0.1    127.0.0.1    UH   0 14 lo0
192.168.88.88 link#1       UC   0 0
192.168.88.88 link#1       UHLW 1 1
192.168.88.250 0:0:0:0:0:0:0:1 lan0 798
```

Destination

宛先IPアドレスが表示されます。

Gateway

宛先へ送信するための中継ホストのIPアドレスが表示されます。

Flags

経路の状態が表示されます。属性は次のとおりです。

U : up状態

G : ゲートウェイ経由

H : ホストエントリ

L : アドレス変換を連動させられるアドレス

W : クローンした結果として作成されたルート

S : 手動で追加された

C : 使用時にプロトコル専用の新しいルートを生成する

Refs

現在アクティブに使用されている数です。

Use

経路に送信されたパケット数です。

Netif

インタフェース名称です。

Expire

arpで生成された経路の削除時間(秒)です。



お知らせ

これらの情報は保守用のものです。トラブル復旧の際などにお役立てください。

現在時刻

「表示メニュー」の[現在時刻]をクリックすると、本装置に設定されている時刻が表示されます。
表示形式は「曜日・月・日・時・分・秒・西暦」です。

【現在時刻】

Thu Jan 20 12:38:01 2000



ワンポイント

時刻の設定を変更するには(●P131)

経過時間情報

「表示メニュー」の[経過時間情報]をクリックすると、本装置の電源を入れてからの経過時間が表示されます。
表示形式は「日・時・分・秒」です。

【経過時間情報】

0000.02:38:50

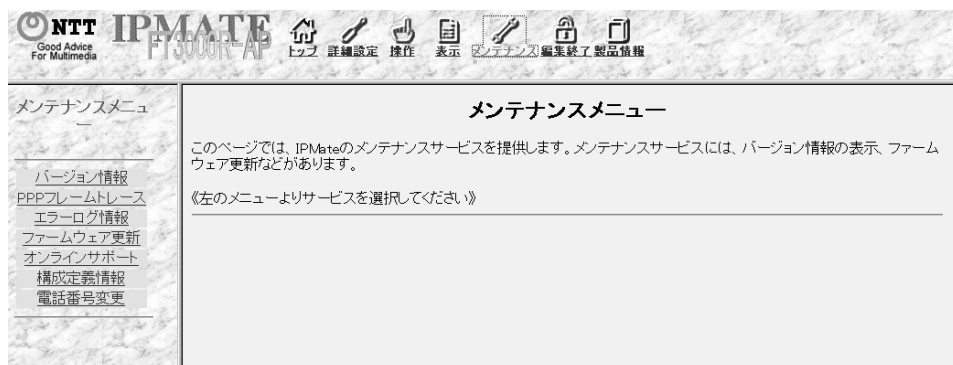


お知らせ

本装置の電源を切ると、経過時間情報はクリアされま
す。

「IPMATE FT3000R-AP」の初期画面（トップページ）で画面上部の [メンテナンス] アイコンをクリックすると、「メンテナンスメニュー」が表示されます。「メンテナンスメニュー」では、本装置のバージョン情報などを表示したり、ファームウェアの更新が行えます。

メンテナンスメニュー



「メンテナンスメニュー」から項目をクリックすると処理画面が表示されます。

バージョン情報

本装置のバージョンを表示します。

PPPフレームトレース (●P144)

回線接続ネゴシエーションの情報を表示します。

エラーログ情報 (●P145)

エラーログを表示します。

ファームウェア更新 (●P146)

ファームウェアの更新を行います。

オンラインサポート (●P147)

オンラインサポートを実行します。

構成定義情報 (●P148)

構成定義情報の退避および復元を行います。

電話番号変更 (●P149)

スケジュール情報の「電話番号変更予約設定」画面で設定した電話番号を手動で変更します。



ワンポイント

オンラインサポートとは (●P147)

遠隔地の「IPMATE FT3000R-AP」を設定/操作する機能です。

バージョン情報

「メンテナンスメニュー」の [バージョン情報] をクリックすると、バージョン情報が表示されます。

【バージョン情報】

```
IPMATE FT3000R-AP
有線MACアドレス:#####
無線MACアドレス:#####
ROM:1.3
FIRM:V1.00
```


エラーログ情報

「メンテナンスメニュー」の [エラーログ情報] をクリックすると、エラーログ情報が表示されます。

【エラーログ情報】

```
[0] Error Log
flag =0,mode=00,unit=80
System down information
down_code [00000000,00000000]
Logging time
Thu Aug 5 14:07:57 1999
Reg save information
usp=004b3610,ssize=16,vec=2,sr=0104,pc=00285fa,vecoff=c009
Register
a0[0000000a] a1[00000000] a2[00000000] a3[00000000]
a4[00000000] a5[00000001] a6[00000000] a7[ffffffe]
a8[004b365e] a9[004b3654] a10[004b365e] a11[00000000]
a12[ffffff00] a13[ffffff00] a14[004b3664]
a15[ffffff00]
Detail information:
[ffff000] [00285fa] [000e2051]
```



お知らせ

通常、本エラーログ情報は記録されませんが、エラーログ情報が記録されている場合は、情報を採取のうえ、当社のサービス取扱所またはお買い求めになった販売店へご連絡ください。



ワンポイント

ファームウェアの更新にかかる時間は回線やネットワークの状況により異なりますが約20分が目安です。

ファームウェア更新時のランプの状態は (●P25)



お知らせ

インターネットに接続ができない環境(専用線接続など)でお使いの場合には、局番なしの116番または当社の営業所等へご相談ください。

別のftpサーバからファームウェアを更新するときは、「装置情報設定」画面の[ファームウェア更新情報](●P104)で設定内容を変更してください。

本装置のご案内ホームページではファームウェアの更新に関する情報をご覧になれます。

現在のファームウェア版数より古い版数に更新するときは、定義情報がお買い求め時の状態に戻ります。



お願い

ファームウェアの更新中に停電などで本装置の電源が切れると、ファームウェアを格納するメモリが破壊され本装置が正常に動作しなくなる可能性がありますので、ファームウェアの更新は、乾電池をセットした状態で行うことをおすすめします。万一、ファームウェアの更新中に電源が切れてしまった場合には、再度電源を入れ直して動作確認を行ってください。正常に動作しない場合は、当社のサービス取扱所またはお買い求めになった販売店へお問い合わせください。

ファームウェア更新

インターネットに接続されていると、「メンテナンスメニュー」からファームウェアの更新を行うことができます。バージョンアップしたファームウェアは、本装置のご案内ホームページにアップロードしていく予定です。ホームページは、初期画面(トップページ)の[製品情報]アイコンをクリックして、当社ホームページから、ご覧になれます。

(<http://www.ntt-east.co.jp/ced>)

(<http://www.ntt-west.co.jp/kiki>)

1 インターネットに接続できることを確認してください。

2 「メンテナンスメニュー」の[ファームウェア更新]をクリックします。

以下の情報をもとにファームウェアを更新します。情報に誤りがない場合はOKボタンをクリックしてください。

【注意】ファームウェアの更新中は電源を切らないでください。以後、正常に動作しなくなる可能性があります。

転送元ホストIPアドレス	ログインID	ログインパスワード	ファイルロケーション

OK

3 ファームウェア更新情報を確認したら[OK]ボタンをクリックします。

4 「正常終了」のメッセージが表示されたら[OK]ボタンをクリックします。

これでファームウェアの更新は完了です。

STOP お願い

本機能は高速デジタル専用線 (HSD、DA64/128) では使用できません。本機能を使用しての発信には、INS ネット64のユーザー間情報通知サービスを使用するため、1回の発信につき1メッセージ分の料金が通信料金とは別にかかります。また、INS ネット64回線を契約するときは、ユーザー間情報通知サービスを「着信許可」としてください。

オンラインサポート中は、INS ネット64回線は接続されたままとなります。無通信監視タイマによる自動切断は行われません。設定終了後は必ずオンラインサポートを終了し回線が切断されたことを確認してください。

暗証番号にはリモート側の「IPMATE FT3000R-AP」に設定された暗証番号を指定してください。一致しない場合は接続できません。

オンラインサポートで設定できる項目はセンタ側の「IPMATE FT3000R-AP」にある項目のみに限定されます。センタ側とリモート側で機種が異なる場合、およびファームウェアの版数が異なる場合は、設定できない項目があります。センタ側の電話番号および暗証番号はセキュリティ確保のために設定しておく必要があります。「詳細設定メニュー」の「ルータ設定」の「装置情報」で指定してください。お買い求め時の状態では、暗証番号が設定されていないので、リモート側の「IPMATE FT3000R-AP」の10BASE-Tポート用MACアドレスを暗証番号として指定します。

オンラインサポート

本装置を遠隔地から設定する機能です。INS ネット64回線に接続された遠隔地 (リモート側) の「IPMATE FT3000R-AP」を、管理側 (センタ側) の「IPMATE FT3000R-AP」を使用して直接設定できます。

1 「メンテナンスメニュー」で [オンラインサポート] をクリックします。

「オンラインサポート」画面が表示されます。

2 リモート側の電話番号と暗証番号を指定します。

3 [オンラインサポート開始] ボタンをクリックします。

4 正常に接続されたあとは、センタ側の「IPMATE FT3000R-AP」を設定するのと同様の手順でリモート側の設定を行うことができます。

5 [オンラインサポート終了] ボタンをクリックすると、オンラインサポートを終了します。

構成定義情報

「メンテナンスメニュー」の[構成定義情報]をクリックすると、新しいブラウザ画面で「構成定義情報」画面が表示されます。この新しいページをファイルとして保存しておくことで、構成定義情報の退避および復元ができます。

構成定義情報

このページでは、構成定義情報の退避および復元ができます。

構成定義情報の退避
ブラウザの機能を使ってこのページを名前をつけてファイルへ保存してください。

構成定義情報の復元
保存したファイルをブラウザで開き、下の復元ボタンをクリックしてください。
現在の IPAddr の IPアドレスと保存時のIPアドレスが異なると、復元できません。保存時のIPアドレスは 192.168.1.1 です。

```
clear all
men 0 line isdn mod4
men 0 isdn global accept
men 0 isdn number 0 any
men 0 isdn number 1 any
men 0 isdn numbersend default
men 0 isdn l1call charge 3000 yes
men 0 isdn l1call time 0d yes
men 0 isdn accept enable
men 0 isdn autodial enable
men 0 isdn keepline 0
lan 0 ip address 192.168.1.1/24 0
lan 0 ip rip off def 0 off
lan 0 ip dhcp info time 1d
lan 0 ip dhcp service off
inseer pop auth type any
inseer pop mp use off
inseer pop mp bap use off
inseer pop mp order off
inseer pop mp resource analog off
```

構成定義情報の退避

- 1 WWWブラウザの機能を使って、ファイル名を付けてパソコンへ保存します。

構成定義情報の復元

- 1 保存したファイルをWWWブラウザで開きます。
- 2 [復元] ボタンをクリックします。

STOP お願い

本装置の現在のIPアドレスと保存時のIPアドレスが異なると、復元できません。

電話番号変更

「メンテナンスメニュー」の [電話番号変更] をクリックすると、[電話番号変更] 画面が表示されます。「スケジュール情報」画面の [電話番号変更予約一覧] に表示されている予約情報の変更を、手動で行うことができます。

1 「メンテナンスメニュー」の [電話番号変更] をクリックします。

電話番号の変更を実行するには、あらかじめスケジュール情報の登録が必要です。(☛P114)

電話番号変更

このページでは、電話番号変更予約情報で設定した電話番号の変更を手動で実施することができます。

※実行日時が赤字で表示されている情報は、既に経過した日時の予約情報です。

《情報一覧より電話番号変更予約情報を選択し、実行してください。》

[電話番号変更予約情報一覧]		
実行日時	電話番号変更情報	実行
-	-	実行
-	-	実行
-	-	実行
-	-	実行

2 変更する電話番号変更予約情報の [実行] ボタンをクリックします。

[設定反映] ボタンが表示されます。

3 [設定反映] ボタンをクリックします。

STOP お願い

実行日時が赤字で表示されている情報は、すでに経過した日時の予約情報です。

疑似TA機能を使う

LAN（ワイヤレスLANも含む）上のパソコンから本装置をTAとして利用できます。パソコンから、NAT機能を使用せずに通信が行えるので、NATを利用すると通信できないアプリケーション（電子会議やインターネットゲームなど）を使用することができます。



ワンポイント

「ダイヤルアップネットワーク」と「仮想プライベートネットワーク」のインストール

「コントロールパネル」の「アプリケーションの追加と削除」で、インストールします。

「Windowsファイルタブ」をクリックします。

「通信」を選択し[詳細]ボタンをクリックします。

「ダイヤルアップネットワーク」と「仮想プライベートネットワーク」にチェックを入れ[OK]ボタンをクリックします。

[OK]ボタンをクリックします。



お知らせ

疑似TA機能を使用する場合は、以下の動作は行えません。

- ・着信
- ・コールバック
- ・MP
- ・課金制御機能
- ・スケジュール機能

疑似TA機能の使用中は、かんたん操作の「強制切断」は使用できません。

アナログ機器で先に通信している場合、疑似TA機能を使えないことがあります。

疑似TA機能で利用できるプロトコルは、TCP/IPのみです。



お願い

作成したダイヤルアップネットワークのプロパティで「データの暗号化を使用する」は選択しないでください。

疑似TA機能は、Windows® 98のダイヤルアップネットワークに含まれる仮想プライベートネットワーク（VPN）の機能を利用します。ご利用になれるパソコンのOSはWindows® 98のみです。疑似TA機能をご利用になる前にあらかじめ、「ダイヤルアップネットワーク」と「仮想プライベートネットワーク」をインストールする必要があります。

ダイヤルアップネットワークの設定

- 1 「マイコンピュータ」をダブルクリックします。
- 2 「ダイヤルアップネットワーク」をダブルクリックします。
- 3 「新しい接続」をダブルクリックします。
- 4 「モデムの選択」から「Microsoft VPN Adapter」を指定し、[次へ]ボタンをクリックします。
- 5 「ホスト名またはIPアドレス」に「本装置のIPアドレス + 半角スペース + 接続先の電話番号」を入力します。

例 192.168.1.1 _03-1234-5678

本装置の	半角	接続先の
IPアドレス	スペース	電話番号

- 6 [次へ]ボタンをクリックします。
- 7 [完了]ボタンをクリックします。
作成したダイヤルアップネットワークのプロパティを開き「サーバの種類」タブをクリックして、各項目を接続先に合わせ設定してください。

接続する

- 1 「ダイヤルアップネットワーク」から上記で設定した接続先を選び、[接続]ボタンをクリックします。
必要により、ユーザ名とパスワードを入力してください。

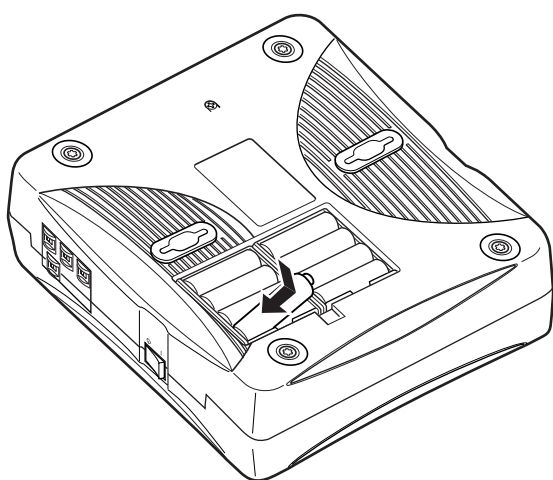
切断する

- 1 タスクトレイの「ダイヤルアップネットワークモニタ」アイコンをダブルクリックします。
- 2 [切断]ボタンをクリックします。
回線が切断されます。

アナログ通信機器をお使いになるにあたって

不意の停電の際にも、乾電池が装着されている場合は、TEL1ポートに接続した電話機での通話ができます。TEL2ポート、10BASE-Tポート、およびワイヤレスLANに接続した機器では通信できません。

電池カバーを開けて単3アルカリ乾電池を8本入れます。
乾電池を入れるときは、プラス(+)・マイナス(-)の向きを確かめて入れてください。
乾電池はお客様で、ご用意願います。



お知らせ

TEL2ポートに接続された通信機器で通話中に停電があった場合でも、その通話が終了するまでは継続されます。

乾電池で動作中はPOWERランプが緑色で点滅(点灯約0.5秒、消灯約2.5秒)します。

乾電池で動作中は以下の機能は動作しません。

- 内線通話 (←P157)
- 内線転送 (←P158)

停電時に電池の残量がなくなると、本装置のTEL1ポートも動作しなくなります。



お願い

保証期間内の単3アルカリ乾電池をお使いください。(アルカリ以外のマンガン電池などでの動作保証はしません)

停電から復旧したときはWLANランプが遅い緑点滅しワイヤレスLAN機能はご利用になれません。

本装置とFT3000R-ST側のパソコンを再起動してください。(←P207)

スタンバイモードにする

スタンバイモードとは、本装置でデータ通信を行わないときに、アナログ通信に必要な最小限の機能のみ動作させて消費電力をおさえる機能です。ただし、スタンバイモードの状態で使用できるのは以下のものだけです。スタンバイモードで動作中の場合はワイヤレスLAN機能はご利用になれません。

通常モードに切り替えたあと、ワイヤレスLAN機能をご利用になる場合は、本装置とFT3000R-ST側のパソコンを再起動してください。

アナログのTEL1、TEL2ポートに接続した電話機、ファクスもしくはモデム

通常モード（全機能動作）とスタンバイモードを切り替えるには、TEL1、TEL2ポートに接続された電話機もしくはファクスより次の操作を行います。なお、設定する前にTEL1、TEL2ポートにプッシュ式（PB）の電話機もしくはファクスが接続されているか確認してください。

スタンバイモードにするには

ハンドセットを取りあげます。

「ツー」という発信音が聞こえます。

アナログ通信機器から **(*)**、**(5)** をダイヤルします。

「ブーブーブー」という話中音が聞こえます。

スタンバイモードに設定されます。

ハンドセットを置きます。

通常モードにするには

ハンドセットを取りあげます。

「ツー」という発信音が聞こえます。

アナログ通信機器から **(*)**、**(6)** をダイヤルします。

「ブーブーブー」という話中音が聞こえます。

通常モードに設定されます。

ハンドセットを置きます。



お知らせ

スタンバイモードで動作中はPOWERランプが緑色で点滅（点灯約2.5秒、消灯約0.5秒）します。

「スタンバイモード」にすると10BASE-Tポートにつないだ機器やワイヤレスLANで通信ができなくなります。



お願い

通常モードに切り替えてすぐは、ワイヤレスLAN機能をご利用になれませんので、本装置とFT3000R-ST側のパソコンを再起動してください。

一般のアナログ回線で使用しているプッシュ式 (PB) の電話機やファクス、モデムなどが使用できます。ダイヤル式 (DP) の電話機は使用できません。

1 ハンドセットを取りあげます。

「ツーン」という発信音が聞こえます。



ワンポイント

リダイヤル機能を利用して発信するには、ハンドセットを取りあげて **(*)** **(8)** を押し、最後にかけた電話番号へリダイヤルで発信します。

サブアドレスを追加して発信するには、相手の方の電話番号 (アドレス) を押したあとに **(*)** を押し、サブアドレスの番号を押します。

例 0312345678*12345

アドレス サブアドレス

アドレス・サブアドレスについて
アドレスの最大桁数は32桁、サブアドレスの最大桁数は19桁で、いずれも数字 (0~9) のみがダイヤルできます。

ファクス・モデムの発信

接続しているファクス、モデムの操作方法に従って操作してください。

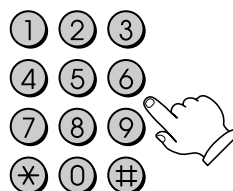
停電のとき

本装置にバックアップ用の乾電池が入っている場合はTEL1ポートに接続した電話機を使うことができます。

発信専用の電話機としてご利用になるには、電話を受けたくない場合には「アナログポート1/2情報」画面で、「発信/着信選択」を「発信のみ」に設定すると、着信を受けつけないようにして、発信専用でご利用になれます。(●P119)

ただし、発信専用の設定になっている場合でも、内線通話や内線転送は行えます。

2 電話番号をダイヤルボタンで押します。



3 相手の方が出たら、お話しください。



4 お話しが終わったら、ハンドセットを置きます。



お知らせ

本装置のお買い求め時の状態では、相手の方のアドレスをダイヤルして **(#)** を1回押しと、すぐに発信する設定になっています。変更したい場合は「#機能ボタン使用」(●P117) の設定を変更してください。

切替スイッチが付いているアナログ通信機器をお使いになる場合は、スイッチを「PB」または「トーン」に切り替えてください。

ダイヤル中に約5秒 (ダイヤル桁間タイマの設定によります) の間隔をあけるとダイヤルの途中でも発信します。続けて電話をご利用になる場合は、ハンドセットを約2秒以上置いてからダイヤルしてください。

電話がかかってくると、TELポートに接続したアナログ通信機器に着信します。お買い求め時の設定では、外から電話がかかってくると、TEL1、TEL2ポートに接続された両方の電話機から着信音が鳴ります。

1 着信音が鳴ります。



2 ハンドセットを取りあげて、相手の方とお話してください。



3 お話が終わったら、ハンドセットを置きます。



ワンポイント

お話し中に別の相手から電話を受けるには (INSキャッチホン・疑似キャッチホン)

外の相手の方とお話し中に別の相手の方からの電話を受けることができます。

INSキャッチホン (●P167)

疑似キャッチホン (●P176)

かかってきた電話を転送するには (着信転送・疑似着信転送)

かかってきた電話を外の相手の方に転送することができます。

着信転送 (●P170)

疑似着信転送 (●P179)

着信音を変えるには

「アナログ共通情報」画面で変えられます。

(●P117)

停電のとき

本装置にバックアップ用の乾電池が入っている場合は、TEL1ポートに接続した電話機を使うことができます。

着信専用の電話機としてご利用になるには電話をかけたくない場合には、「アナログポート1/2情報」画面で、「発信/着信選択」を「着信のみ」に設定すると、発信を受けつけないようにして、着信専用でご利用になれます。(●P119)

ただし、着信専用の設定になっている場合でも、内線通話や内線転送は行えます。

登録した相手の電話番号によって着信時の動作を変えるには (識別着信)

「識別着信情報設定」画面に登録された相手の方から電話がかかってきたとき、着信するTELポートを指定したり、着信を拒否することができます。TEL1、TEL2ポート共通で10件まで設定できます。お買い求め時は、識別着信を行わない設定になっています。

設定する

「識別着信情報設定」画面で、識別定義名、相手電話番号、相手サブアドレス、動作モード(着信時の動作)を設定します。(☛P121)

動作モードは、相手の方の電話番号ごとに次の6種類から選択できます。

動作モード	説明
両ポート着信	着信時、両方のポートに接続された電話機の着信音が鳴ります。
ポート1優先 ポート2優先	着信時、指定したポートに接続された電話機を優先して着信音が鳴ります。
ポート1のみ着信 ポート2のみ着信	着信時、指定したポートに接続された電話機だけ、着信音が鳴ります。
着信拒否	着信しません。



ワンポイント

着信音を変えるには「識別着信情報」画面で変えられます。(☛P121)



お知らせ

発信者が番号を通知しない(発信者番号通知なし)で電話をかけてきた場合、または識別着信情報に登録されていない相手の方が電話をかけてきた場合は、「識別着信情報」画面の「デフォルト定義」で指定された動作を行います。(☛P121)

相手の方がアナログ回線の場合にはサブアドレスは設定しないでください。

識別着信設定時、「識別着信情報」画面で、識別着信優先リング回数(初期値:5回)を設定すると、設定した回数だけ着信音が鳴っている間に応答しないと、もう一つのTELポートに接続されている機器にも着信音が鳴ります。(☛P121)

識別相手がアナログ回線の場合、当社とのINSナンバー・ディスプレイの利用契約(有料)が必要です。

(次ページへ続きます)

登録した相手の電話番号によって着信時の動作を変えるには (識別着信)

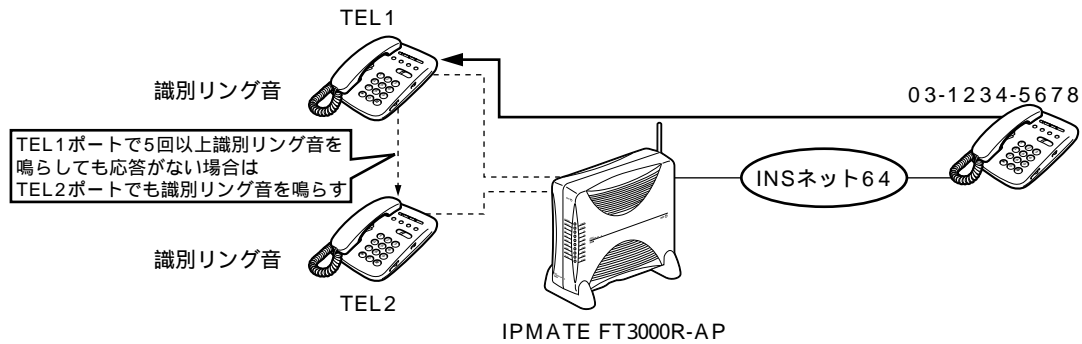
(前ページの続きです)

識別着信情報設定例

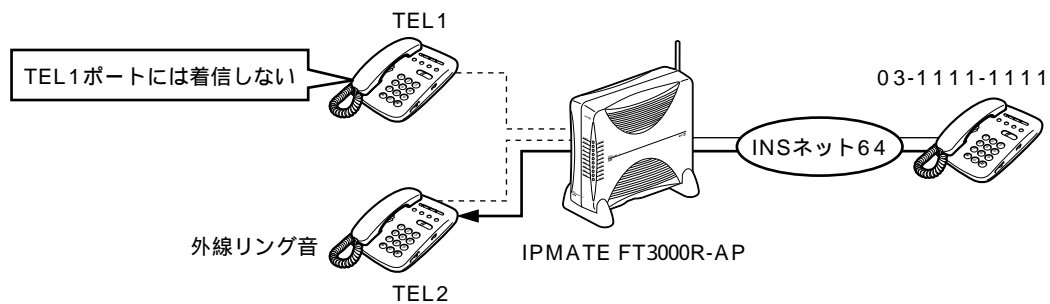
識別定義名	相手電話番号	相手サブアドレス	動作モード
	デフォルト定義		ポート2のみ着信
sikibetu1	03-1234-5678		ポート1優先

- 03-1234-5678からかかってきた場合は、TEL1ポートの電話機から識別リング音を鳴らす。5回以上鳴らしても、応答がない場合は、TEL2ポートの電話機からも識別リング音を鳴らす。
- 03-1234-5678以外の番号からかかってくると、TEL2ポートの電話機から外線音を鳴らす。

- 03-1234-5678からの着信



- 03-1111-1111 (03-1234-5678以外)からの着信



内線でお話するには (内線通話)

他のTELポートに接続された電話機を呼び出して、お話しすることができます。

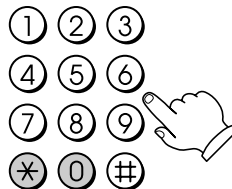
1 ハンドセットを取りあげます。

「ツー」という発信音が聞こえます。



2 (*、0)を押します。

呼出音が聞こえます。



3 呼び出された方が応答したら、お話しください。



4 お話しが終わったら、ハンドセットを置きます。



ワンポイント

内線着信音を変えるには
「アナログ共通情報」画面で変えられます。(P117)



お知らせ

停電中は内線通話はできません。
続けて電話をご利用になる場合は、
ハンドセットを約2秒以上置いてから
ダイヤルしてください。
INSネット64に本装置を接続して
いない場合でも、内線通話は利用で
きます。
相手の方がお話し中のときは、話中
音が聞こえます。

外からの電話を取りつぐには(内線転送)

外の相手の方との電話を他の内線電話機に取りつぎます。TEL1ポート、TEL2ポートのどちらの電話機からも同じ操作で取りつぐことができます。



ワンポイント

フッキングとは
電話機のフックスイッチを押すことです。
約1秒以上押し続けると電話が切れる
ことがあります。コードレスホンや多機
能電話機などをお使いのときは、キャッ
チボタン(またはフックボタン、フラッ
シュボタンなど)を押します。



着信音を変えるには
「アナログ共通情報」画面で変えられます。
(●P117)



お知らせ

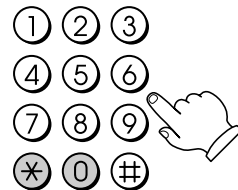
呼出音が聞こえているときにハンド
セットを置いても内線転送されま
す。その後は外の相手の方とのお話
しに戻ることはできません。
呼び出した電話機がお話し中のとき
は、話中音が聞こえます。話中音が
聞こえているときに、フッキングを
すると、外の相手の方との電話に戻
ります。
停電中は内線転送はできません。
相手の方が応答しなかった場合は、
フッキングすると外の相手の方との
お話しに戻ることができます。
続けて電話をご利用になる場合は、
ハンドセットを2秒以上置いてから
ダイヤルしてください。

1 お話し中に、外の相手の方に待っていただくよう 伝え、1回フッキングします。

外の相手の方は、保留(無音)になります。

2 (＊)、(0)を押します。

「ブルル、ブルル...」という呼出音が聞こえます。



3 呼び出された方が応答したら、転送することを伝 えます。

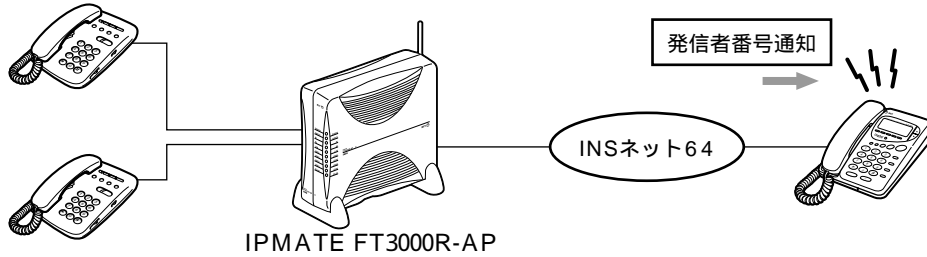


4 ハンドセットを置きます。



発信者番号通知を行うには

INSネットサービスでは、発信するとき、発信者番号（契約者回線番号またはダイヤルイン番号）を相手の方に通知するかどうかをINSネット64の契約と本装置の設定の組み合わせにより選ぶことができます。発信者番号を通知する契約をされた場合でも、TEL1ポート、TEL2ポートそれぞれについて通知しないように設定できます。（●P118）お買い求め時は、INSネット64の契約に従う設定になっています。



INSネット64契約	本装置の設定		INSネット64	
	発信者番号通知する	発信者番号通知しない	申込内容に従う	
通常通知	通知される 1	通知されない	通知される 2	
通常非通知	通知される 1	通知されない	通知されない	

- 1 通知する発信者番号は、ダイヤルイン番号に設定した番号が通知されます。（●P118）ダイヤルイン番号の設定を省略した場合は、契約者回線番号が通知されます。
- 2 通知する発信者番号は、契約者回線番号が通知されます。



ワンポイント

「通常通知」または「通常非通知」を契約している場合の発信者番号通知の優先順位はINSネット64契約よりも本装置の設定（「通知する」「通知しない」）が優先し、本装置の設定よりも「184」「186」のダイヤルによる操作が優先します。

ダイヤル操作	通常発信			「184」のダイヤルによる操作			「186」のダイヤルによる操作		
	通知する	通知しない	INSネット64申込内容に従う	通知する	通知しない	INSネット64申込内容に従う	通知する	通知しない	INSネット64申込内容に従う
INSネット64契約	通常通知	通知される	通知されない	通知されない			通知される		
	通常非通知		通知されない						



お知らせ

「184」または「186」を相手の方の電話番号の前に付加した場合は、本装置の設定に関わらず、電話をかけるたびに通知するまたは通知しないを選択できます。

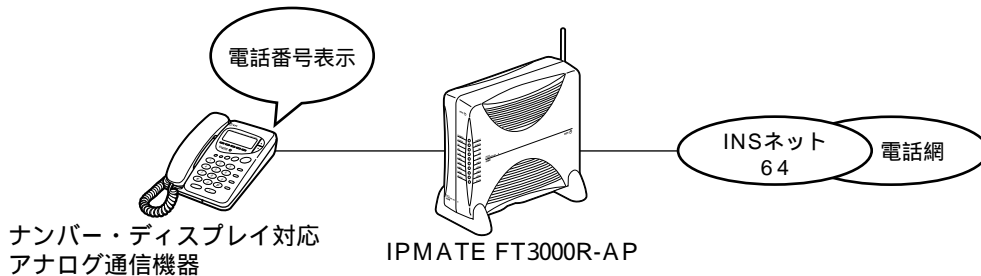
INSナンバー・ディスプレイ (発信者番号表示サービス)

本装置は、ナンバー・ディスプレイ対応のTELポートを備えています。電話をかけてきた相手の方の電話番号（発信者番号）または発信者番号が通知されない理由を、TELポートに接続したアナログ通信機器に通知することができます。

このサービスをご利用になるためには、当社との利用契約（有料）が必要です。

ただし、相手の方がINSネットから発信者番号を通知して電話をかけてきた場合は、未契約でも発信者番号をアナログ通信機器に通知することができます。

ナンバー・ディスプレイをご利用になるには、本装置のTELポートにナンバー・ディスプレイ対応アナログ通信機器を接続してください。また、TELポートごとに、「アナログポート1/2情報」画面の「通信前情報通知設定」で「ナンバー・ディスプレイを使用する」に設定してください。（●P118）



ワンポイント

内線通話で着信した場合には

TELポート番号「01」または「02」が表示されます。

内線転送時には

転送される相手の方の電話番号が表示されます。



お知らせ

ナンバー・ディスプレイ機能を使用する場合は、一般のアナログ回線との仕様の違いにより、正常に表示されないアナログ通信機器もあります。

相手の方がアナログ回線からかけてくる場合、発信者番号を通知させるには、当社とのINSナンバー・ディスプレイの利用契約（有料）が必要です。

ナンバー・ディスプレイにおいて相手の方が電話番号を表示しない契約を結んでいる、または電話番号を表示しない操作をした場合などは、本装置に接続したアナログ通信機器に発信者番号は通知されません。

発信者番号が通知されない主な理由は以下のとおりです。

- 公衆電話からの電話のとき
- かけてきた相手の方が電話番号を表示しない操作をしたとき、または表示しない契約になっているとき
- 相手の方がサービス提供地域外からかけてきたとき

注意

TELポートに接続したアナログ通信機器に発信者番号を表示させるためには、以下の条件を満たす必要があります。

●本装置のTELポートにナンバー・ディスプレイ対応のアナログ通信機器を接続し、アナログ通信機器のナンバー・ディスプレイ機能を「使用する」に設定する。

●アナログ通信機器を接続したTELポートの「アナログポート1/2情報」画面の「通信前情報通知設定」で「ナンバー・ディスプレイを使用する」に設定する。

お使いになるアナログ通信機器がナンバー・ディスプレイに対応していない場合や、ナンバー・ディスプレイを利用しない設定になっている場合は、誤鳴動や雑音（モデム信号）が聞こえるなど、正常に動作しないことがあります。

「アナログポート1/2情報」画面の「通信前情報通知設定」で「ナンバー・ディスプレイを使用する」に設定した場合には、「アナログ共通情報」画面（●P116）で「外線リング音」、「内線リング音」、「識別着信情報」画面（●P121）で「識別リング音」の設定を「リング音1」に設定することをおすすめします。それ以外の設定（「リング音2」「リング音3」）を行った場合には、外線着信、内線着信、識別着信が正常に動作しないことがあります。

ダイヤルイン (P118)

ダイヤルイン (有料) をご契約になると、契約者回線番号に加えて複数の追加番号を持つことができます。これらの番号をダイヤルイン番号といい、TELポートごとにダイヤルイン番号を設定しておくことで、外からダイヤルイン番号を指定して着信するポートを特定することができます。TEL1、TEL2ポートへの着信は、相手の方がINSネット64以外の電話網の場合でも利用することができます。

グローバル着信 (P118)

ダイヤルイン (有料) をご契約になると、「グローバル着信を利用する」の申し込みができます。グローバル着信のご利用によって、経済的にTEL1ポートとTEL2ポートの呼び分けができるようになります。通常、電話をかけると、かけた電話番号は、INSネット64から相手の電話機にも通知されます。

グローバル着信をお申し込みになると、ダイヤルイン番号で電話がかかってきたときは、本装置にダイヤルイン番号が通知されますが、契約者回線番号で電話がかかってきたときは、本装置に電話番号 (契約者回線番号) が通知されなくなります。つまり、電話番号の通知がない電話がかかってきたときは、契約者回線番号の電話だとみなすことができます。したがって、ダイヤルインの追加番号を増やさなくても呼び分けることができ、その分経済的だといえます。お買い求め時は、グローバル着信を行う設定になっています。

相手の方がINSネット64以外の電話網からかけてくる場合でもご利用になれます。

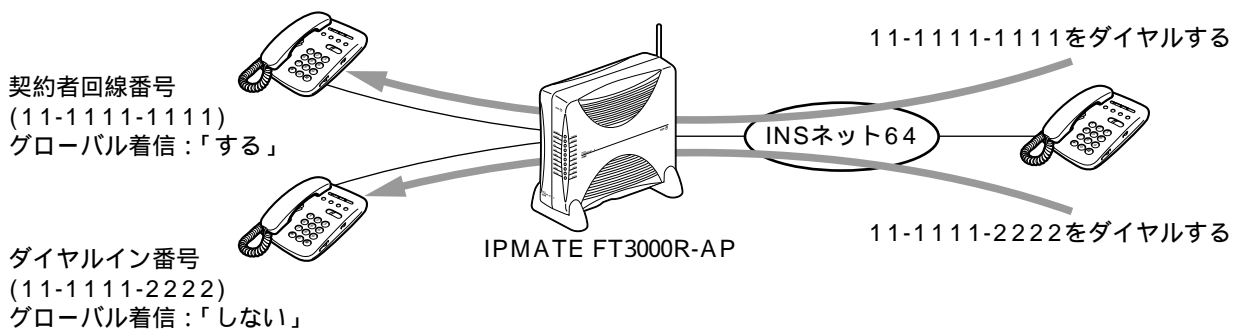
設定する

グローバル着信を利用して、TEL1ポートとTEL2ポートを呼び分けるには、TELポートごとに「アナログポート1/2情報」画面で次のように設定します。(P118)

<例> 契約者回線番号 (11-1111-1111) での着信はTEL1ポートに、ダイヤルイン追加番号 (11-1111-2222) の着信はTEL2ポートにする場合 (ダイヤルインの追加番号を1つ契約し、グローバル着信の利用を申し込んでください。)

「アナログポート1/2情報」画面の設定内容

	TEL1ポート	TEL2ポート
ダイヤルイン番号	設定不要	ダイヤルインの追加番号 (11-1111-2222) を設定する
グローバル着信	「する」に設定する	「しない」に設定する



STOP お願い

グローバル着信をご利用になる場合は、INSネット64をご契約時にダイヤルインの追加番号を1つ契約し、グローバル着信の利用を申し込んでください。

i・ナンバーを「使用する」に設定した場合、ダイヤルインおよびグローバル着信の設定は無効になります。

i・ナンバーの設定を行うには

i・ナンバー

i・ナンバー（有料）をご契約になると、2つの電話番号を持つことができます。相手の方が電話をかけてくると、i・ナンバー情報が通知されます。動作モードの設定によって、i・ナンバー情報ごとにポートを特定することができます。TEL1、TEL2ポートへの着信は、相手の方がINSネット64以外の電話網の場合でも利用することができます。

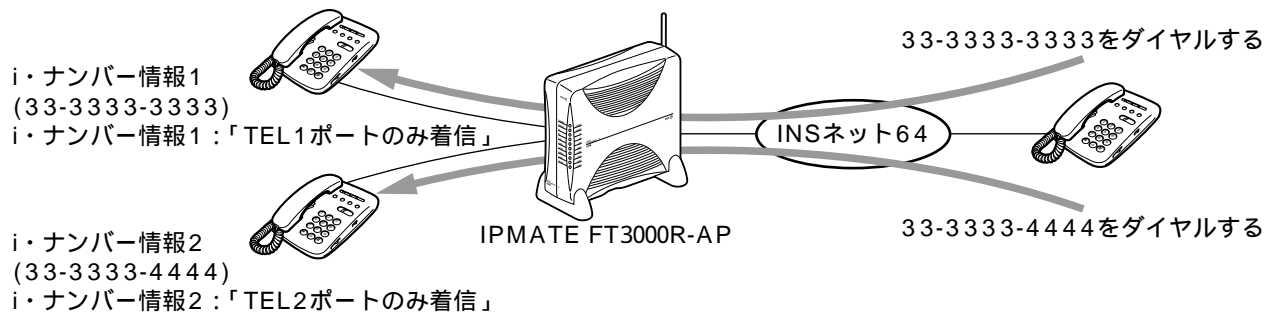
設定する

i・ナンバー（有料）を利用して、TEL1ポートとTEL2ポートを呼び分けるには、「アナログ共通情報」画面で次のように設定します。（●P116）

<例> i・ナンバー情報1（33-3333-3333）での着信はTEL1ポートに、i・ナンバー情報2（33-3333-4444）の着信はTEL2ポートにする場合

「アナログ共通情報」画面の設定内容

	i・ナンバー情報1	i・ナンバー情報2
i・ナンバー	使用する	
動作モード	「TEL1ポートのみ着信」に設定する	「TEL2ポートのみ着信」に設定する

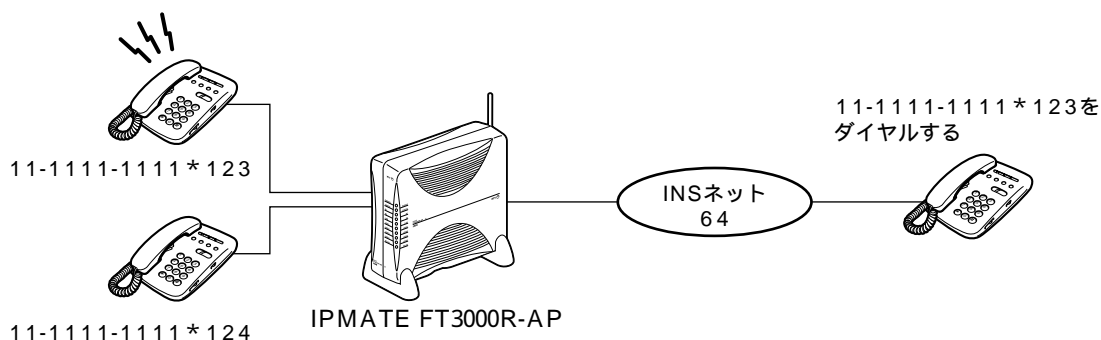


サブアドレス設定を行うには

サブアドレスを設定しておく、外から電話をかけるとき、電話番号に続いてサブアドレスをダイヤルすれば、そのサブアドレスを設定したポートに着信させることができます。サブアドレスは、呼び出す側もINSネット64に加入している場合のみ利用できます。

設定する

「アナログポート1/2情報」画面で、サブアドレス番号を設定します。サブアドレス番号はTEL1ポート、TEL2ポートのそれぞれについて設定できます。(●P119)



本装置サブアドレスの設定と発信側網の違いによる着信動作の関係

		発信側網		
		INSネット64		アナログ回線 (サブアドレス通知なし)
		サブアドレス 通知あり	サブアドレス 通知なし	
サブアドレス設定	なし	×		
	あり			

×：着信不可

：完全に一致するサブアドレスが設定されているTELポート側のみ着信可能

：サブアドレス設定値にかかわらずTEL1ポート側、TEL2ポート側ともに着信可能

接続機器設定（TELポートのHLC設定）を行うには

接続機器としてHLC（高位レイヤ整合性）を設定できます。お買い求め時は、「電話」に設定されています。

次の6種類を設定できます。

- 電話
- モデム
- FAX
- FAX（無鳴動強制着信）
- FAX（無鳴動識別着信）
- なし

設定する

「アナログポート1/2情報」画面で、[装置の動作に関連する設定項目]で「接続機器」を選択します。接続機器は、TEL1ポート、TEL2ポートのそれぞれについて設定できます。（●P118）



ワンポイント

ファクス受信の着信音を設定するには無鳴動着信機能（ファクスを受信したときに、着信音を鳴らさずに応答する機能）を持つファクスをTEL1、またはTEL2ポートに接続しているとき、着信音を鳴らさずにファクスに着信させることができます。「FAX（無鳴動強制着信）」に設定すると、ファクス受信時、必ず無鳴動強制着信処理が行われます。また「FAX（無鳴動識別着信）」に設定すると、ファクス受信時、相手の方からファクス通信を行うという情報がきた（高位レイヤ整合性がFAX）場合のみ、無鳴動着信処理が行われます。それ以外の場合は、鳴動着信処理が行われます。



お知らせ

無鳴動着信機能を使用する場合、ナンバー・ディスプレイは利用できません。接続機器を「なし」に設定すると、そのTELポートは使用できません。Fネット（ファクシミリ通信網）をご利用になるには、NTTコミュニケーションズとの利用契約が必要です。本サービスの詳細につきましてはNTTコミュニケーションズにお問い合わせください。HLC（高位レイヤ整合性）の設定は着信時にのみ利用します。発信時にはHLCは付加されません。



お願い

Fネット（ファクシミリ通信網）をG3ファクスでご利用になる場合には、「通信クラス」を「G3」として契約してください。

ダイヤル桁間タイマ設定を行うには

ダイヤル完了後、発信されるまでの時間を設定することができます。お買い求め時は、5秒に設定されています。

設定する

「アナログ共通情報」画面で、[装置の動作に関連する設定項目] で「ダイヤル桁間タイマ」を設定します。(●P117)

アナログ共通情報 ISDN

このページでは、アナログポート1,2に共通する情報を設定できます。

網契約に関連設定 装置動作設定

[網契約に関連する設定項目]

電話番号

フレックスホン
 フレックスホン
 疑似フレックスホン
 三者通話 使用しない 使用する
 通信中転送 使用しない 使用する

着信転送
 使用しない
 着信転送
 疑似着信転送
 契約者番号の転送先
 ポート1のダイヤルインの転送先
 ポート2のダイヤルインの転送先
 鳴り分け番号1の転送先
 鳴り分け番号2の転送先
※グローバル着信ありの場合の転送先は契約者番号の転送先に設定してください。
 転送元キー あり なし
 転送トキー あり なし
※疑似着信転送を使用する場合、転送先/転送トキーの指定は無効になります。

ドナンバー
 使用しない
 使用する
 [ドナンバー情報1]
 鳴り分け番号1
 動作モード ポート1のみ着信
 [ドナンバー情報2]
 鳴り分け番号2
 動作モード ポート2のみ着信

[装置の動作に関連する設定項目]

設定実用暗証番号

ダイヤル桁間タイマ 5秒

フッキング時間 早い 標準 遅い

#機能ボタン使用 する(1回入力) する(2回入力) しらない

外線リング音 リング音1

内線リング音 リング音2

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。



ワンポイント

こんな場合には
ダイヤル桁間タイマが短いと相手の方につながらない場合があります。ダイヤル桁間タイマを長く設定してください。

ダイヤル桁間タイマ
5、8、10、15、20秒から選択できます。

ダイヤル中に設定時間を過ぎると
ダイヤルの途中でも発信してしまいます。



お知らせ

本装置のお買い求め時の状態では、相手の方のアドレスをダイヤルして☎を1回押すと、すぐに発信する設定になっています。変更したい場合は「#機能ボタン使用」(●P117)の設定を変更してください。

INSボイスワープ/INSボイスワープセレクトを利用するには

INSボイスワープおよびINSボイスワープセレクトは、高性能な着信転送サービスです。INSボイスワープおよびINSボイスワープセレクトをご利用になるには、当社との利用契約（有料）が必要です。

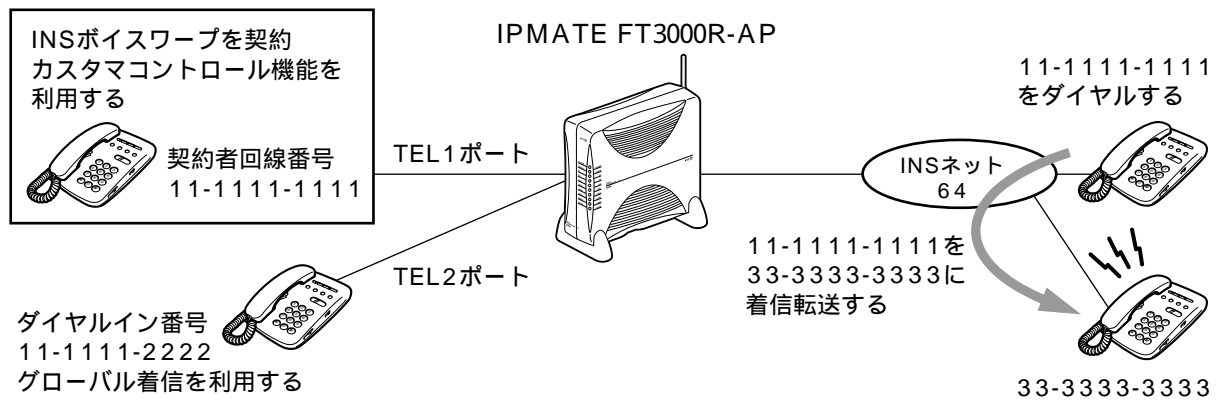
ダイヤルインなどのご契約をされている場合に、このサービスをご利用になるときは、「アナログ共通情報」画面の電話番号に契約者回線番号を設定してください。（▶P116）

ダイヤルインを契約した場合にINSボイスワープのカスタムコントロール機能を利用するTELポートによって以下の設定が必要です。

ダイヤルインを契約しない場合は設定不要です。

ダイヤルインを契約した場合の設定例

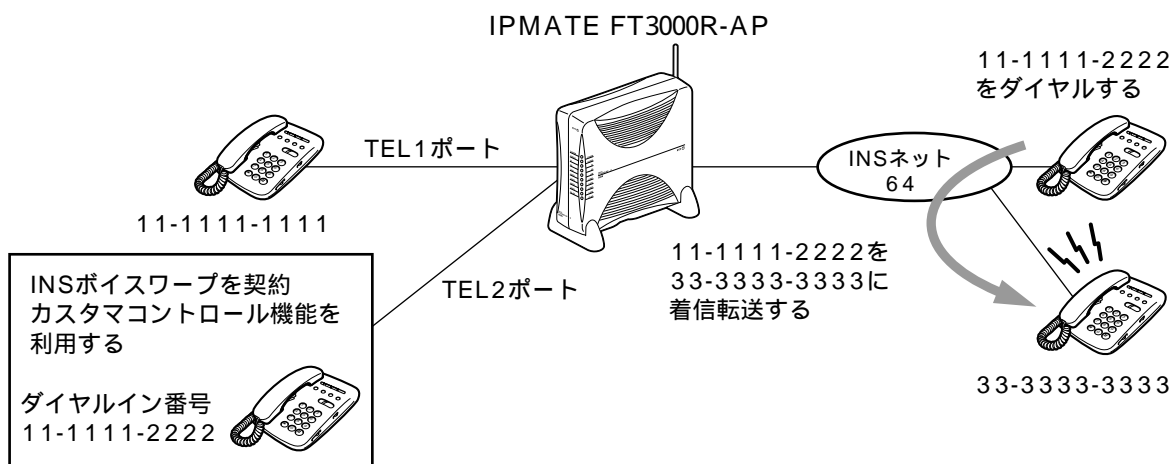
(1) TEL1ポート（契約者回線番号）でINSボイスワープを契約した場合



設定する

「アナログ共通情報」画面で電話番号に契約者回線番号（11-1111-1111）を設定します。

(2) TEL2ポート（ダイヤルイン番号）でINSボイスワープを契約した場合



設定する

「アナログポート2情報」画面でダイヤルイン番号（11-1111-2222）を設定します。

お知らせ

INSボイスワープのカスタムコントロール機能について、詳しくは局番なしの116番または当社の営業所等へお問い合わせください。

本装置では、INSネット64の付加サービスであるフレックスホンサービスを利用することができます。フレックスホンサービスには、次のサービスがあります。

- ・通話中にかかってきた電話を受ける（INSキャッチホン）
- ・3人でお話する（三者通話）
- ・お話し中に外の相手の方に転送する（通信中転送）
- ・外からの電話を登録した別の電話番号に転送する（着信転送）

フレックスホンサービスをご利用になるには、当社との利用契約（有料）が必要です。詳しくは、局番なしの116番または当社の営業所等へお問い合わせください。



ワンポイント

INSキャッチホンを利用するには「アナログポート1/2情報」画面の「キャッチホン」で「キャッチホン」を選択してください。（☛P118）

フッキングとは電話機のフックスイッチを押すことです。約1秒以上押し続けると電話が切れることがあります。

コードレスホンや多機能電話機などをお使いのときは、キャッチボタン（またはフックボタン、フラッシュボタンなど）を押します。

通話中着信通知サービスをご契約のときは通話中着信通知サービスをご契約のときは、空きチャネルがない場合でもINSキャッチホンが行えます。



お知らせ

「アナログポート1/2情報」画面で、接続機器を「モデム」または「FAX」に設定しているポートでは、通信を妨げないようにするため、INSキャッチホンは利用できません。

相手の方とお話しが終わり、ハンドセットを置くと着信音が鳴ります。このときハンドセットを取りあげると保留中の相手の方とお話できます。

INSキャッチホン中は、お話し中の相手の方を他の内線電話機に転送することはできません。

INSキャッチホンでお話し中のTELポート側には新たな着信は受け付けられません。

通話中にかかってきた電話を受ける（INSキャッチホン）

外の相手の方とのお話し中に、別の相手の方からの電話がかかってきたとき、お話し中の相手の方を保留にして、別の相手の方とお話することができます。

INSキャッチホン（フレックスホンサービス）をご利用になるには、当社との利用契約（有料）が必要です。

1 外の相手の方とお話し中に「ププッ、ププッ...」という着信音が聞こえます。

識別着信機能で登録した電話番号から電話がかかってきた場合は「ププッ」という着信音が聞こえます。

2 外の相手の方に待っていただくように伝え、1回フッキングします。

かけてきた相手の方に切り替わります。

3 かけてきた相手の方とお話してください。

4 もう一度フッキングを行うと、前の方とお話できます。

「フレックスホン自動切替」（☛P118）を「使用する」に設定している場合は、相手の方が電話を切ると自動的に前の方とのお話しに戻ります。



ワンポイント

三者通話を利用するには「アナログ共通情報」画面で[フレックスホン]を選択し「三者通話」で「使用する」を選択してください。(●P116)

ミキシングモードを切替モードにするにはミキシングモードで三者通話中に2回フッキングすると切替モードになります。

フッキングとは電話機のフックスイッチを押すことです。約1秒以上押し続けると電話が切れることがあります。コードレスホンや多機能電話機などをお使いのときは、キャッチボタン(またはフックボタン、フラッシュボタンなど)を押します。



お知らせ

三者通話でお話し中の場合は、新たな着信は受け付けられません。相手の方とお話しが終わり、ハンドセットを置くと、着信音が鳴ります。このとき、ハンドセットを取りあげると保留中の相手の方とお話しできます。

3人でお話する(三者通話)

外の相手の方とお話し中に、別の相手の方に電話をかけ、お話し中の相手の方と電話をかけた方を切り替えながらお話しすることができます(切替モード)。

また、外の相手の方とお話し中に、別の相手の方に電話をかけ、3人でお話しすることができます(ミキシングモード)。

切替モードでお話する

- 1 お話し中に、外の相手の方に待っていただくように伝え、1回フッキングします。

「ブブブ…」という音を確認してください。

- 2 別の相手の方の電話番号をダイヤルボタンで押します。

- 3 相手の方が出たらお話しください。

- 4 待っていただくように伝え、1回フッキングすると、前の方とお話しすることができます。

- 5 お話しが終わったら、ハンドセットを置きます。

ミキシングモードでお話する

- 1 お話し中に、外の相手の方に待っていただくように伝え、1回フッキングします。

「ブブブ…」という音を確認してください。

- 2 別の相手の方の電話番号をダイヤルボタンで押します。

- 3 別の相手の方が出たら、三者通話にすることを伝え、2回フッキング(素早く2回押す)します。

3人でお話しできるようになります。

- 4 3人でお話しください。

- 5 お話しが終わったら、ハンドセットを置きます。

通話中に転送する（通信中転送）

外の相手の方とお話し中に、お話し中の相手の方を保留にして、別の相手の方に電話をかけて取りつぐことができます。

1 お話し中に、外の相手の方に待っていただくように伝え、1回フッキングします。

「プププ…」という音を確認してください。
相手の方は保留になります。

2 別の相手の方の電話番号をダイヤルボタンで押します。

3 別の相手の方が応答したら、転送することを伝え、1回フッキングします。

4 ハンドセットを置きます。



ワンポイント

通信中転送を利用するには「アナログ共通情報」画面で「フレックスホン」を選択し「通信中転送」で「使用する」を選択してください。
(●P116)

フッキングとは電話機のフックスイッチを押すことです。約1秒以上押し続けると電話が切れることがあります。コードレスホンや多機能電話機などをお使いのときは、キャッチボタン（またはフックボタン、フラッシュボタンなど）を押します。



お知らせ

転送できるのは、着信した場合のみです。こちらから発信した場合は転送できません。

通信中転送でお話し中の場合は、新たな着信は受け付けられません。

外の相手の方からの着信を登録した別の電話番号に転送する（着信転送）

着信転送をご利用いただくには、当社との利用契約（有料）が必要です。外の相手の方からの着信を、登録した別の電話番号に転送することができます。ただし、サブアドレスや特殊番号を指定して転送することはできません。

転送トーキ、転送元トーキ（INSネット64より送られてくる音声によるメッセージ）を設定できます。詳しくは、局番なしの116番または当社の営業所等へお問い合わせください。



ワンポイント

着信転送を利用するには
「アナログ共通情報」画面の「着信転送」
で「着信転送」を選択して転送先を登録
してください。（●P116）

転送トーキ、転送元トーキのメッセージ
内容

- 転送トーキ（電話をかけてきた相手の
方に流れます）...
「ただいま電話を転送しますので、そ
のままお待ちください。」等
- 転送元トーキ（転送先の相手の方に流
れます）...
「電話が転送されます。」等

転送トーキ、転送元トーキを設定するに
は
「アナログ共通情報」画面で設定します。
（●P116）

リバースパルス送出を行うには

リバースパルスは、外から電話がかかってきて通話中に相手の方から電話を切った場合に、本装置がTELポートに接続された機器に対して通話が終了したことを知らせるために送出する信号です。例えば、留守番電話で相手が切断したら同時にメッセージの録音を終了する機能を備えているときに有効です。

設定する

TELポートごとに「アナログポート1/2情報」画面で「リバースパルス送出」の設定を行ってください。(P119)

アナログポート1情報 ISDN

このページでは、アナログポート1に関する情報を設定することができます。

網契約関連設定	装置動作設定	発信規制情報設定
<p>[網契約に関する設定項目]</p> <p>ダイヤルイン番号 <input type="text"/></p> <p>グローバル着信 <input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない</p> <p>発信者番号通知 <input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない <input type="radio"/> 網契約に従う</p> <p>キャッチホン <input type="radio"/> キャッチホン <input type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> 疑似キャッチホン</p>		
<p>[装置の動作に関連する設定項目]</p> <p>接続機器 <input type="radio"/> 電話 <input type="radio"/> モデム <input type="radio"/> FAX <input type="radio"/> FAX(無鳴動強制着信) <input type="radio"/> FAX(無鳴動識別着信) <input type="radio"/> なし</p> <p>サブアドレス <input type="text"/></p> <p>発信/着信選択 <input type="radio"/> 発信 <input type="radio"/> 発信のみ <input type="radio"/> 着信のみ</p> <p>受話音量 <input type="radio"/> 小 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 大</p> <p>リバースパルス送出 <input type="radio"/> 送出する <input type="radio"/> 送出しない</p> <p>フレックホン自動切替 <input type="radio"/> 使用する <input type="radio"/> 使用しない</p> <p>通信前情報通知 <input type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> モデム信号での通知 <input type="checkbox"/> ナンバーディスプレイを使用する <input type="checkbox"/> モデムダイヤルインを使用する 使用モード設定: <input type="text" value="モード1"/> <input type="radio"/> PB信号での通知 <input type="radio"/> アナログダイヤルインを使用する</p>		
<p>[発信規制情報設定]</p> <p>外線発信を抑制する局番または電話番号</p> <p><input type="checkbox"/> 発信抑制電話番号 <input type="text"/> <input type="button" value="追加/削除"/> <input type="button" value="追加"/></p> <p><input type="button" value="全削除"/></p> <p>外線発信を許可する局番または電話番号</p> <p><input type="checkbox"/> 発信許可電話番号 <input type="text"/> <input type="button" value="追加/削除"/> <input type="button" value="追加"/></p> <p><input type="button" value="全削除"/></p>		
<p>設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。</p> <p><input type="button" value="更新"/> <input type="button" value="キャンセル"/></p>		

STOP お願い

接続したアナログ通信機器がリバースパルスを認識する機能を備えていない場合は、リバースパルスを送出する設定を行わないでください。誤動作する場合があります。

電話機を利用して設定を変更するには

本装置のTELポートに接続したプッシュ式（PB）電話機から以下の設定ができます。

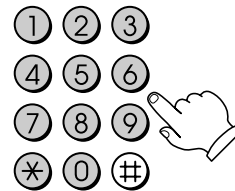
- 時計設定（●P173）
- IPアドレス設定（●P173）
- スタンバイモードの設定（●P152）
- 着信転送の設定（●P170）
- ナンバー・ディスプレイの設定（●P160）
- TELポートの接続機器の設定（●P164）

1 ハンドセットを取りあげます。

「ツー」という発信音が聞こえます。ただし、INSネット64に本装置を接続していないときは話中音が聞こえます。



2 *、0、*とダイヤルボタンで押し、続けて機能番号（●P173 ワンポイント）を押します。



ダイヤル操作後、「ピッピッ」という音と「ブ-ブ-ブ-」という話中音が聞こえます。

3 ハンドセットを置きます。



お知らせ

手順3で「ピッピッ」という音の鳴る回数は、設定した機能によって異なります。（回数は操作で入力した最後の数字です。）
正常に設定できなかった場合は、話中音だけが聞こえます。

外線（ISDN機器）から設定を変更するには（無課金）

外線（ISDN機器）から本装置に電話をかけて、以下の設定ができます。

- スタンバイモードの設定（●P152）
- 着信転送の設定（●P170）
- ナンバー・ディスプレイの設定（●P160）
- TELポートの接続機器の設定（●P164）

設定変更用暗証番号を設定する

外線（ISDN機器）から設定を変更するには、4桁の暗証番号が必要です。「アナログ共通情報」画面で設定変更用暗証番号の設定を行ってください。

アナログ共通情報 ISDN

このページでは、アナログポート1,2に共通する情報を設定できます。

網契約関連設定
装置動作設定

[網契約に関連する設定項目]

電話番号

フレックスホン
 フレックスホン
 疑似フレックスホン
 三者通話 使用しない 使用する
 通信中転送 使用しない 使用する

着信転送
 使用しない
 着信転送
 疑似着信転送
 契約者番号の転送先
 ポート1のダイヤルインの転送先
 ポート2のダイヤルインの転送先
 鳴り分け番号1の転送先
 鳴り分け番号2の転送先
※グローバル着信ありの場合の転送先は契約者番号の転送先に設定してください
 転送元一キ あり なし
 転送ト一キ あり なし
※疑似着信転送を使用する場合、転送先/転送ト一キの指定は無効になります

ナンバー
 使用しない
 使用する
 [・ナンバー情報1]
 鳴り分け番号1
 動作モード
 [・ナンバー情報2]
 鳴り分け番号2
 動作モード

[装置の動作に関連する設定項目]

設定変更用暗証番号

ダイヤル桁間タイム

フッキング時間 早い 標準 遅い

#機能ボタン使用 する(1回入力) する(2回入力) しない

外線リング音

内線リング音

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。



お知らせ

外線（ISDN機器）からの設定変更をやめたい場合は、設定変更用暗証番号を削除してください。



お願い

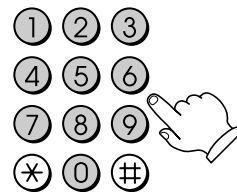
サブアドレスを使用するので、発信側はサブアドレスを指定できるISDN機器（電話、PHS対応電話機等）である必要があります。

設定変更用暗証番号は「アナログ設定」の「アナログポート1・2情報」画面の「サブアドレス」の設定と別のものを設定してください

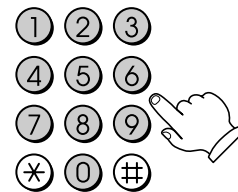
外線 (ISDN機器) から設定を変更する

外出先から本装置へ電話をかけます。受話器をとって、ツーという発信音が聞こえたら、以下の操作を行ってください。

1 本装置の契約者回線番号またはダイヤルイン番号を押します。



2 サブアドレスとして設定変更用暗証番号を押し、続けて機能番号 (ワンポイント) を押します。



3 ダイヤル操作後、呼出音を確認した時点で受話器を置いてください。



ワンポイント

機能番号一覧

スタンバイモード	機能番号
通常モード	8001
スタンバイモード	8002
着信転送	
しない	6001
する	6002
ナンバー・ディスプレイ	
使用しない	41P1
使用する (モード1)	41P2
使用する (モード2)	41P3
接続機器	
なし	40P1
電話	40P2
モデム	40P3
FAX	40P4
FAX(無鳴動強制着信)	40P5
FAX(無鳴動識別着信)	40P6

「P」には、設定を変更するTELポート番号 (1または2) を入れます。



お知らせ

設定変更用暗証番号を間違えた場合は、以下のメッセージが聞こえます。「おかけになった電話番号にはあなたと通信できる機器が接続されていません」
正常に設定できなかった場合は、話中音が聞こえます。

疑似フレックスホンを利用するには

本装置では、INSネット64の付加サービスであるフレックスホンサービスを契約せずに次の機能を疑似的に利用する事ができます。

- ・通話中にかかってきた電話を受ける（疑似キャッチホン）
- ・3人でお話する（疑似三者通話）
- ・お話し中に外の相手の方に転送する（疑似通信中転送）
- ・外からの電話を登録した別の電話番号に転送する（疑似着信転送）



ワンポイント

疑似キャッチホンを利用するには「アナログポート1/2情報」画面の「キャッチホン」で「疑似キャッチホン」を選択してください。（●P118）

フッキングとは電話機のフックスイッチを押すことです。約1秒以上押し続けると電話が切れることがあります。コードレスホンや多機能電話機などをお使いのときは、キャッチボタン（またはフックボタン、フラッシュボタンなど）を押します。



お知らせ

「アナログポート1/2情報」画面で、接続機器を「モデム」または「FAX」に設定しているポートでは、通信を妨げないようにするため、疑似キャッチホンは利用できません。相手の方とお話しが終わり、ハンドセットを置くと着信音が鳴ります。このときハンドセットを取りあげると保留中の相手の方とお話できます。疑似キャッチホン中は、お話し中の相手の方を他の内線電話機に転送することはできません。疑似キャッチホンでお話し中は新たな着信は受け付けられません。データ通信中、他のアナログポート使用中は、電話をかけてきた相手の方に話中音が聞こえ、疑似キャッチホンはご利用できません。疑似キャッチホン中は、他のアナログポートやデータ通信はご利用できません。

通話中にかかってきた電話を受ける（疑似キャッチホン）

外の相手の方とお話し中に、別の相手の方からの電話がかかってきたとき、お話し中の相手の方を保留にして、別の相手の方とお話することができます。

1 外の相手の方とお話し中に「ププッ、ププッ…」という着信音が聞こえます。

識別着信機能で登録した電話番号から電話がかかってきた場合は「ププッ」という着信音が聞こえます。

2 外の相手の方に待っていただくように伝え、1回フッキングします。

かけてきた相手の方に切り替わります。

3 かけてきた相手の方とお話してください。

4 もう一度フッキングを行うと、前の方とお話できます。

「フレックスホン自動切替」を「使用する」に設定している場合は、相手の方が電話を切ると自動的に前の方とのお話しに戻ります。

3人でお話する（疑似三者通話）

外の相手の方とお話し中に、別の相手の方に電話をかけ、お話し中の相手の方と電話をかけた方を切り替えながらお話しすることができます（切替モード）。

また、外の相手の方とお話し中に、別の相手の方に電話をかけ、3人でお話しすることができます（ミキシングモード）。

切替モードでお話する

1 お話し中に、外の相手の方に待っていただくように伝え、1回フッキングします。

「ププブ…」という音を確認してください。

2 別の相手の方の電話番号をダイヤルボタンで押します。

3 相手の方が出たらお話しください。

4 待っていただくように伝え、1回フッキングすると、前の方とお話しすることができます。

5 お話しが終わったら、ハンドセットを置きます。

ミキシングモードでお話する

1 お話し中に、外の相手の方に待っていただくように伝え、1回フッキングします。

「ププブ…」という音を確認してください。

2 別の相手の方の電話番号をダイヤルボタンで押します。

3 別の相手の方が出たら、三者通話にすることを伝え、2回フッキング（素早く2回押す）します。

3人でお話できるようになります。

4 3人でお話しください。

5 お話しが終わったら、ハンドセットを置きます。



ワンポイント

疑似三者通話を利用するには「アナログ共通情報」画面で[疑似フレックスホン]を選択し、「三者通話」で「使用する」を選択してください。（●P116）

ミキシングモードを切替モードにするにはミキシングモードで三者通話中に2回フッキングすると切替モードになります。

フッキングとは電話機のフックスイッチを押すことです。約1秒以上押し続けると電話が切れることがあります。コードレスホンや多機能電話機などをお使いのときは、キャッチボタン（またはフックボタン、フラッシュボタンなど）を押します。



お知らせ

疑似三者通話でお話し中の場合は、新たな着信は受け付けられません。相手の方とお話しが終わり、ハンドセットを置くと、着信音が鳴ります。このとき、ハンドセットを取りあげると保留中の相手の方とお話しできます。データ通信中、他のアナログポート使用中は別の相手の方にダイヤルすると話中音が聞こえ、疑似三者通話をご利用できません。疑似三者通話中は、他のアナログポートやデータ通信はご利用できません。

通話中に転送する（疑似通信中転送）

外の相手の方とお話し中に、お話し中の相手の方を保留にして、別の相手の方に電話をかけて取りつぐことができます。

1 お話し中に、外の相手の方に待っていただくように伝え、1回フッキングします。

「プププ…」という音を確認してください。
相手の方は保留になります。

2 別の相手の方の電話番号をダイヤルボタンで押します。

3 別の相手の方が応答したら、転送することを伝え、1回フッキングします。

4 ハンドセットを置きます。



ワンポイント

疑似通信中転送を利用するには「アナログ共通情報」画面で[疑似フレックスホン]を選択し、「通信中転送」で「使用する」を選択してください。
(☛P116)

フッキングとは電話機のフックスイッチを押すことです。約1秒以上押し続けると電話が切れることがあります。コードレスホンや多機能電話機などをお使いのときは、キャッチボタン（またはフックボタン、フラッシュボタンなど）を押します。



お知らせ

通信中転送でお話し中の場合は、新たな着信は受け付けられません。
データ通信中、他のアナログポート使用中は、別の相手の方にダイヤルすると話中になり、疑似通信中転送機能はご利用できません。
疑似通信中転送中は、他のアナログポートやデータ通信はご利用できません。

外の相手の方からの着信を登録した別の電話番号に転送する（疑似着信転送）

外の相手の方からの着信を、登録した別の電話番号に転送することができます。ただし、サブアドレスや特殊番号を指定して転送することはできません。



ワンポイント

着信転送を利用するには「アナログ共通情報」画面の「着信転送」で「疑似着信転送」を選択して転送先を登録してください。（☛P116）



お知らせ

疑似着信転送の場合、転送トーキ、転送元トーキの指定は無効になります。

データ通信中、アナログポート使用中は、電話をかけてきた相手の方には、話中音が聞こえ、疑似着信転送機能はご利用できません。

MEMO

ワイヤレスLAN編

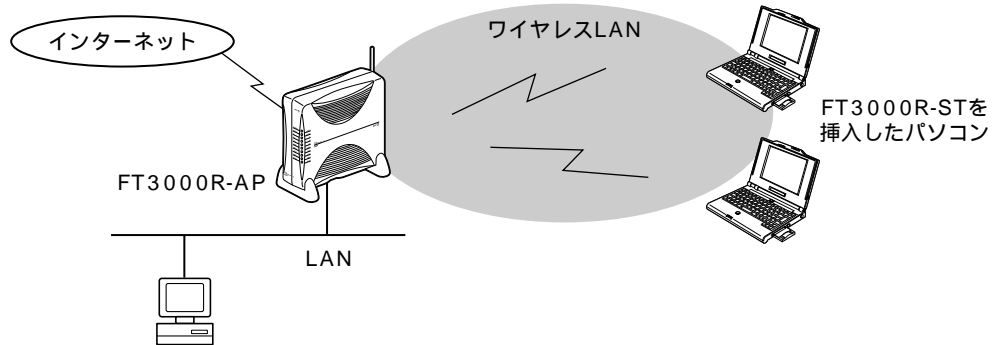
本装置のワイヤレスLAN機能を利用する方はお読みください。

STOP お願い

ワイヤレスLAN機能をご利用にならない場合でも、本装置のESSIDを変更することをお勧めします。
(▶P190)

ワイヤレスLANとは

本装置には、ワイヤレスLANアクセスポイント機能が搭載されています。FT3000R-ST(ワイヤレスLANカード：別売)を挿入したパソコンを利用して簡単にワイヤレスLANを構築できます。アクセスポイント機能とは、FT3000R-STを挿入したパソコンから、本装置にワイヤレスで通信する機能です。LANケーブルで接続したときと同様に運用ができます。(伝送速度は異なります)

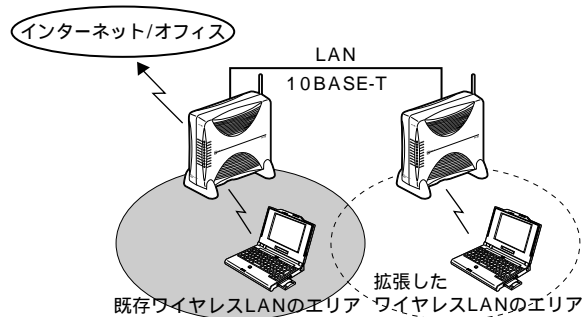


ワイヤレスLANでできること

WWWの閲覧・メール送受信・LANやワイヤレスLANに接続された機器とのファイル共有や周辺機器の共有ができます。

ローミング機能

FT3000R-STを挿入したパソコンを他のFT3000R-APのワイヤレスLANエリアに移動しても設定を変更せずにそのまま、ご利用いただけます。



主な仕様

- 伝送速度
- FT3000R-ST接続数

最大2 Mbit/s でワイヤレス通信

最大64台(推奨10台以下) / FT3000R-AP 1台につき

FT3000R-APをLANに増設して、接続数を増やすことができます。

- セキュリティ

ESSID

FT3000R-AP - FT3000R-STを挿入したパソコン間で、接続する際にID認証を行います。

- 通信可能距離

約100 m (見通し)

使用環境により、通信距離は変わります。

- 通信プロトコル

TCP/IPのみ

- 通信方式

FH - SS (周波数ホッピングスペクトラム拡散) 方式

雑音や妨害に強く、安定性や秘匿性を求めるデータ通信に適しています。

このような方や場所にお勧めです

ワイヤレスLANを導入すると、次のような要望を解決します。

オフィスでは

住居用マンション等で、LANケーブル(10BASE-T等)の配線が困難なオフィス

営業部門等で、LANに機動性を求めるオフィス

配置換えが頻繁で、工事費がかさむオフィス

役員室など、配線で美観を損ねたくない部屋

家庭では

1階と2階などで使用環境が離れていて、配線がわずらわしい方

小さなお子様などがいて、配線に危険を感じている方

コードレス電話機のように、パソコンをいろいろな部屋で利用したい方

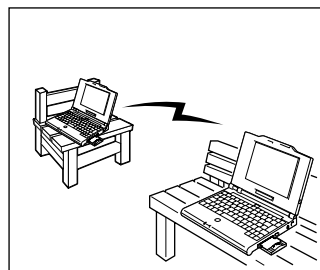
通信距離について

ワイヤレスLANで通信できる範囲は、本装置から見通して約100 mの範囲ですが、設置環境や使用環境により通信距離が変わります。

以下を参考に設置環境や使用環境をご検討ください。

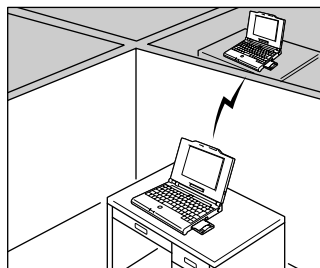
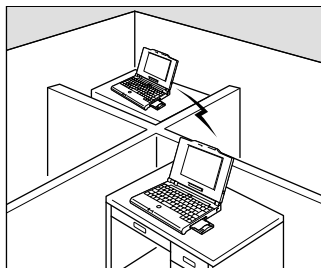
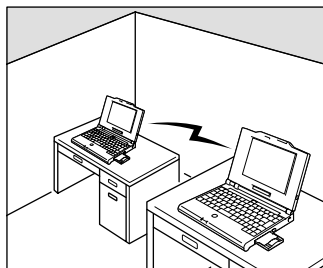
設置環境による影響

屋外で本装置とFT3000R-STを挿入したパソコン間に障害物がなく見通しがある状態を基準（約100 m）に、環境による影響を記載します。



屋内

- パーテーションなどでしきられていない場所：影響小（やや短くなります）
- パーテーションはあるが、天井まではすきまがある場所：影響中（短くなります）
- 天井まで壁でしきられている部屋：影響大（かなり短くなります）



障害物の材質等による影響

- 木材：影響小（やや短くなります）
- プラスティック：影響小（やや短くなります）
- 化学素材：影響小（やや短くなります）
- ガラス：影響小（やや短くなります）
- 水：影響中（短くなります）
- ブロック：影響中（短くなります）
- コンクリート：影響大（かなり短くなります）
- 金属：影響大（かなり短くなります）

電波障害を起こす機器の近く

動作中の電子レンジなど：影響大（かなり短くなります）

通信圏外になると

ワイヤレスLANで通信できる範囲から外れると、FT3000R-STのRXランプが黄点灯、TXランプが消灯します。通信できる範囲にお戻りください。

[圏外時のランプ表示]

- RDY（緑点灯）
- RX（黄点灯）
- TX（消灯）



ワンポイント

通信できる目安は

- マンション等：同一フロアの1戸内
- 一戸建て（木造住宅）：2フロア程度（例．1階と2階）
- 一戸建て（鉄筋住宅）：同一フロア

あくまでも目安ですので、実際には使用環境・設置環境により異なります。

STOP お願い

あらかじめワイヤレスLANをご利用できる範囲を確認してください。
電子レンジの動作中など電波障害が起きている場合は、ワイヤレスによる通信ができない場合があります。

ワイヤレスLANを利用するまでの手順

FT3000R-ST (ワイヤレスLAN子機：別売) をパソコンに挿入してワイヤレスLANをご利用になるまでの設定方法を説明します。

FT3000R-STをパソコンに挿入する

FT3000R-STの設定を行う

ネットワークの設定を行う

WWWブラウザを準備する

FT3000R-STをパソコンに挿入する

1 パソコンの電源をOFFにします。

FT3000R-STはPCMCIA2.0/JEIDA V4.1以降の「hot swapping」に対応していますが、旧型パソコンの場合「hot swapping」に対応していないことがありますので電源をOFFにした状態で、FT3000R-STを挿入してください。

2 FT3000R-STをパソコンのPCカードスロットに奥までしっかり挿入します。



STOP お願い

PCカードの取り付け方 / 取り外し方はお使いのパソコンにより異なります。パソコンの取扱説明書を参照してください。

パソコンのバッテリーが不足した状態では、FT3000R-STの動作が不安定になります。

パソコンに挿入したまま、無線機器部分を強く握ったり、取っ手にしないでください。けが等の事故や故障、破損の原因になることがあります。

パソコンを設定する

FT3000R-STの設定例

FT3000R-STは、Windows® 95、Windows® 98、のOSに対応しています。

本書ではWindows® 98の設定方法について記載します。

Windows® 95をご利用の場合は、FT3000R-STの取扱説明書をご参照ください。

1 PCMCIAドライブを確認する。

コントロールパネルにPCMCIAのアイコンが表示されていれば使用可能です。

アイコンがない場合、Windows® 98のPCMCIAドライブのインストールを行ってください。

2 パソコンの電源がOFFの状態で、FT3000R-STをパソコンに挿入します (P184)

3 パソコンの電源をONにします。

「新しいハードウェアが検出されました」と表示されます。

FT3000R-STが認識され「新しいハードウェアの追加ウィザード」が表示されます。

4 付属の3.5インチフロッピーディスク「FT3000R-ST ドライバディスク」をフロッピーディスクドライブに挿入し、[次へ]ボタンをクリックします。

5 「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する」をクリックし[次へ]ボタンをクリックします。



6 「フロッピーディスクドライブ」をクリックし[次へ]ボタンをクリックします。

「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。 : IPMATE FT3000R-ST」と表示されます。



1 設定前の準備

2 設定リファレンス

ワイヤレスLAN編

(次ページへ続きます)

(前ページの続きです)

7 「ドライバのある場所」:
A:¥FT3000R.INF」が表示されていることを確認し、[次へ] ボタンをクリックします。

ドライバのコピーが始まります。



8 [完了] ボタンをクリックします。

「システム設定の変更」画面が表示されます。



9 「FT3000R-STドライバ」ディスクをフロッピーディスクドライブから取り出し [はい] ボタンをクリックしパソコンを再起動します。

パソコンを再起動後に、ワイヤレスLANがご利用できます。

10 [ESSID] を変更します。

FT3000R-STの設定 (P191) を参照して、ESSIDを変更してください。



お知らせ

FT3000R-STのソフトウェア(ネットワークドライバ)のインストールにはWindows® 98のCD-ROMまたはフロッピーディスクが必要になる場合があります。



お願い

FT3000R-STをWindows® 95またはWindows® 98で使用する場合、他のLANカードと同時に使用する事はできません。また、他のLANカードのドライバがインストールされていると、正常に動作しないことがあります。他のLANカードのドライバを削除してください。FT3000R-STは、パソコンの電源サスペンド機能に対応していません。お使いのパソコンの取扱説明書を参照しパソコンの電源サスペンド機能をOFFにしてください。

ネットワークの設定を行う

TCP/IPのインストール

- 1 [スタート] ボタンをクリックして [設定] を選択し [コントロールパネル] をクリックします。

「コントロールパネル」が表示されます。

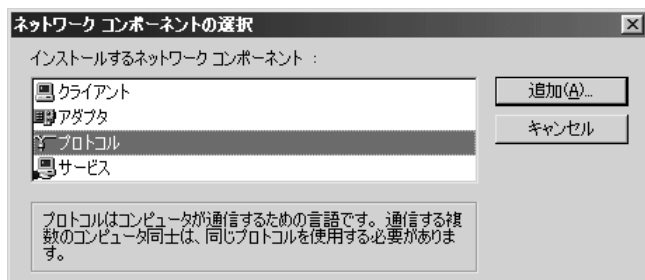
- 2 [ネットワーク] アイコンをダブルクリックします。

「ネットワーク」画面が表示されます。

- 3 「ネットワーク」画面で [ネットワークの設定] タブをクリックします。

- 4 [追加] ボタンをクリックします。

「ネットワークコンポーネントの選択」画面が表示されます。



- 5 「インストールネットワークコンポーネント」にある「プロトコル」をクリックし [追加] ボタンをクリックします。

「ネットワークプロトコルの選択」画面が表示されます。

- 6 「製造元」から「Microsoft」、「ネットワークプロトコル」から「TCP/IP」を選択して [OK] ボタンをクリックします。

TCP/IPの設定

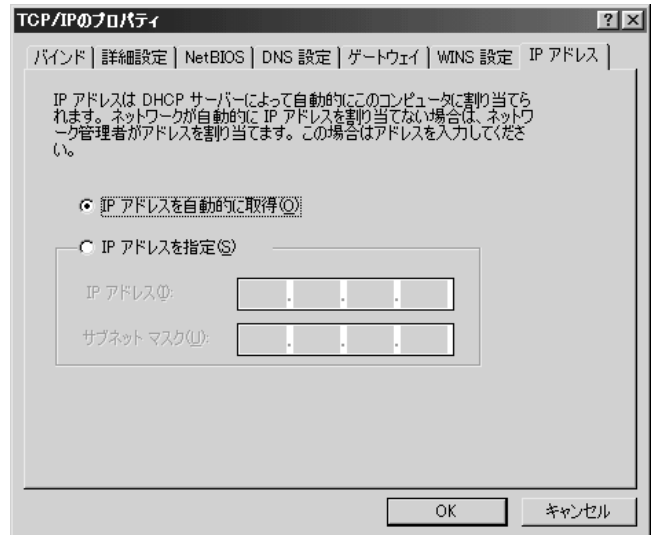
1 「ネットワーク」画面で [ネットワークの設定] タブをクリックします。

2 「現在のネットワークコンポーネント」から「TCP/IP」をクリックし、[プロパティ] ボタンをクリックします。

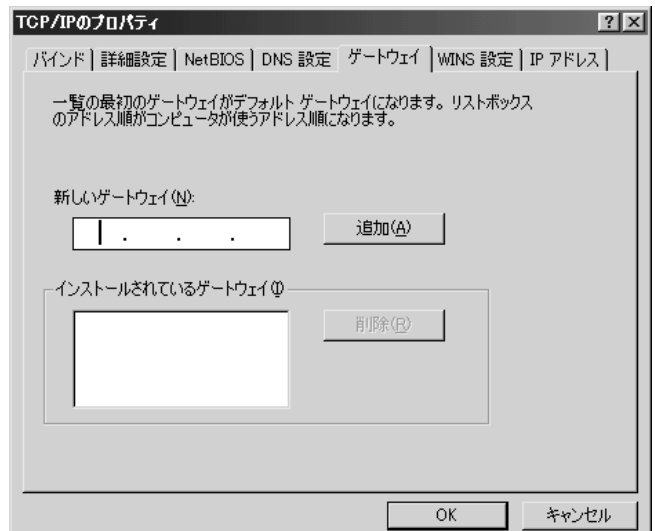
「TCP/IPのプロパティ」画面が表示されます。



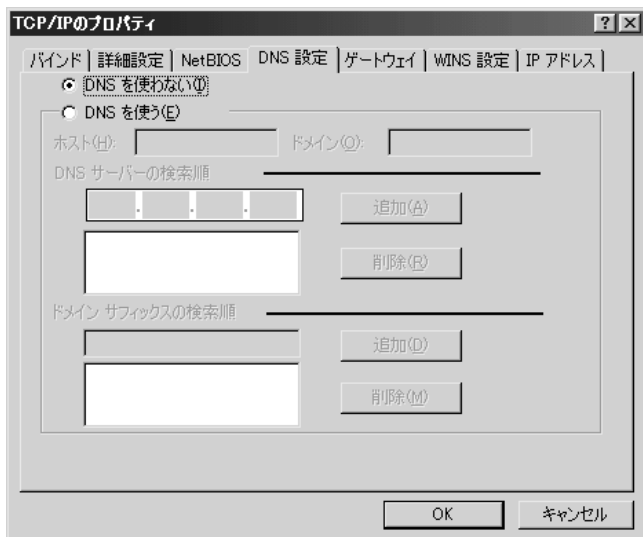
3 「IPアドレス」タブをクリックし「IPアドレスを自動的に取得」をクリックします。



4 「ゲートウェイ」タブをクリックし「インストールされているゲートウェイ」に値が設定されている場合は削除します。

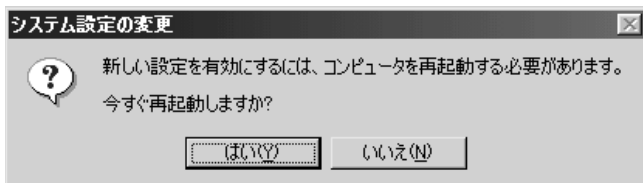


5 「DNS設定」タブをクリックし、「DNSを使わない」をクリックします。



6 [OK] ボタンをクリックします。

次のメッセージが表示されたら、[はい] ボタンをクリックしてパソコンを再起動してください。



ワンポイント

固定IPを利用する（DHCP機能を利用しない）場合「IPアドレス」、「ゲートウェイ」、「DNS設定」で値を指定する必要があります。インターネットサービスプロバイダやネットワーク管理者にそれぞれの値を確認し、別冊「事前準備」の「ネットワークの設定・変更を行う」（P7）を参照してください。



お知らせ

「TCP/IP ダイアルアップアダプタ」を選択しないよう注意してください。

お使いのパソコンによっては、Windows® 98のCD-ROMやフロッピーディスクが必要になります。本装置の電源がOFFになっていると、ワイヤレスLANはご利用になれません。

ワイヤレスLANのエリア（無線が届く範囲）の圏外ではご利用になれません。圏外の場合は、FT3000R-STのLEDが消灯します。あらかじめ、ご利用になれる範囲をご確認ください。

FT3000R-APの設定 (識別用コード(ESSID)の設定)

「かんたん設定」で設定する (ワイヤレスLAN設定)

「かんたん設定」の「ワイヤレスLAN」設定では、FT3000R-STを挿入したパソコンを本装置に接続するための識別用コード(ESSID)を設定します。本装置のESSIDとFT3000R-STを挿入したパソコンのESSIDを同じ設定にしないとワイヤレスLANとして通信できません。

1 かんたんメニューで「ワイヤレスLAN設定」をクリックします。

「かんたん設定(ワイヤレスLAN設定)」が表示されます。

2 ESSIDの項目に、1～32文字(任意の半角英数字)を入力します。

かんたん設定(ワイヤレスLAN設定)

本装置とFT3000R-STを挿入したパソコンで無線接続する際に、下のESSIDで認証を行います。本装置と接続するFT3000R-STを挿入したパソコンも下と同じESSIDを設定して下さい。ESSIDが異なると、無線の通信が行えません。

△ワイヤレスLAN機能を使用しない場合でもESSIDを変更して下さい。

[必須設定]

ESSID

半角英数字、1～32文字

3 [設定終了] ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。

STOP お願い

ESSIDの初期値は「FT3000R」が登録されています。そのまま隣接したFT3000Rを利用したワイヤレスLANからアクセスされる可能性があり、セキュリティの面から非常に危険です。また思わぬインターネット接続の原因になります。

FT3000R-STの設定 (識別用コード(ESSID)を FT3000R-APと合わせる)

接続するFT3000R-STを挿入したパソコンの識別用コード(ESSID)を変更する

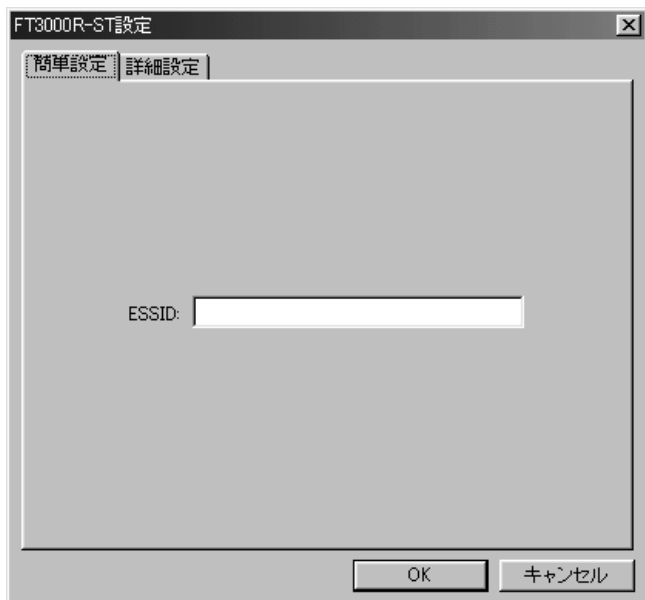
FT3000R-STは、Windows® 95、Windows® 98のOSに対応しています。

本書ではWindows® 98の設定方法について記載します。

Windows® 95をご利用の場合は、FT3000R-STの取扱説明書をご参照ください。

1 [スタート]をクリックして、[プログラム] [FT3000R]をポイントし、[FT3000R-ST設定]をクリックします。

2 [簡単設定]タブをクリックします。



3 [ESSID]に、本装置に設定したESSID(1~32文字)を入力します。

4 [OK]ボタンをクリックします。

「システム設定の変更」画面が表示されます。

5 [はい]ボタンをクリックし、パソコンを再起動します。

1
設定前の
準備

2
設定リファ
レンス

ワイヤレスLAN編



ワンポイント

初めてESSIDを設定する方は
あらかじめ設定ユーティリティをインストールしてください。
詳しくは、FT3000R-STの取扱説明書をご参照ください。

ESSIDを変更する場合は
FT3000R-APのESSIDを変更後、FT3000R-STを挿入したパソコンのESSIDを変更してください



お願い

DHCPサーバ機能をご利用の場合は、ESSIDを変更後パソコンの再起動を行ってください。

セキュリティ情報設定

FT3000R-APと通信できるFT3000R-STを指定できます。
ESSIDの認証に加え、MACアドレスを指定することで、ワイヤレスLAN端末からの不正アクセスに対するセキュリティを更に高めます。

セキュリティ設定

本装置とワイヤレス通信できるFT3000R-STを挿入したパソコンを指定できます。
通信許可にチェックを入れたMACアドレスを持つパソコンからワイヤレス通信ができなくなりますのでご注意ください。

[オプション設定]

ワイヤレス通信 全端末許可 登録端末のみ

ワイヤレス端末登録 No.	通信許可	MACアドレス
0	<input type="checkbox"/>	000000000000
1	<input type="checkbox"/>	000000000000
2	<input type="checkbox"/>	000000000000
3	<input type="checkbox"/>	000000000000
4	<input type="checkbox"/>	000000000000
5	<input type="checkbox"/>	000000000000
6	<input type="checkbox"/>	000000000000
7	<input type="checkbox"/>	000000000000
8	<input type="checkbox"/>	000000000000
9	<input type="checkbox"/>	000000000000
10	<input type="checkbox"/>	000000000000
11	<input type="checkbox"/>	000000000000
12	<input type="checkbox"/>	000000000000
13	<input type="checkbox"/>	000000000000
14	<input type="checkbox"/>	000000000000
15	<input type="checkbox"/>	000000000000
16	<input type="checkbox"/>	000000000000
17	<input type="checkbox"/>	000000000000
18	<input type="checkbox"/>	000000000000
19	<input type="checkbox"/>	000000000000
20	<input type="checkbox"/>	000000000000
21	<input type="checkbox"/>	000000000000
...		
35	<input type="checkbox"/>	000000000000
36	<input type="checkbox"/>	000000000000
37	<input type="checkbox"/>	000000000000
38	<input type="checkbox"/>	000000000000
39	<input type="checkbox"/>	000000000000
40	<input type="checkbox"/>	000000000000
41	<input type="checkbox"/>	000000000000
42	<input type="checkbox"/>	000000000000
43	<input type="checkbox"/>	000000000000
44	<input type="checkbox"/>	000000000000
45	<input type="checkbox"/>	000000000000
46	<input type="checkbox"/>	000000000000
47	<input type="checkbox"/>	000000000000
48	<input type="checkbox"/>	000000000000
49	<input type="checkbox"/>	000000000000
50	<input type="checkbox"/>	000000000000
51	<input type="checkbox"/>	000000000000
52	<input type="checkbox"/>	000000000000
53	<input type="checkbox"/>	000000000000
54	<input type="checkbox"/>	000000000000
55	<input type="checkbox"/>	000000000000
56	<input type="checkbox"/>	000000000000
57	<input type="checkbox"/>	000000000000
58	<input type="checkbox"/>	000000000000
59	<input type="checkbox"/>	000000000000
60	<input type="checkbox"/>	000000000000
61	<input type="checkbox"/>	000000000000
62	<input type="checkbox"/>	000000000000
63	<input type="checkbox"/>	000000000000

設定終了後、設定反映をクリックしてください。設定を元に戻すにはキャンセルをクリックしてください。

[オプション設定]

ワイヤレス通信

MACアドレスを登録したパソコンからのみ、ワイヤレス通信を許可します。不正なワイヤレス接続を防止します。
初期値：全端末許可

- 全端末許可
FT3000R-STを挿入したパソコンであればESSID認証以外規制しません。
- 登録端末のみ
ワイヤレスLAN端末登録で登録したパソコンのみ通信を許可します。

ワイヤレスLAN端末登録

接続するパソコンに挿入したFT3000R-STのMACアドレスを登録します。(最大64台)

- 通信許可
ワイヤレス接続を許可するかしないかを設定します。許可する場合はチェックします。
- MACアドレス
FT3000R-STのMACアドレスを入力します。



ワンポイント

MACアドレスの確認方法

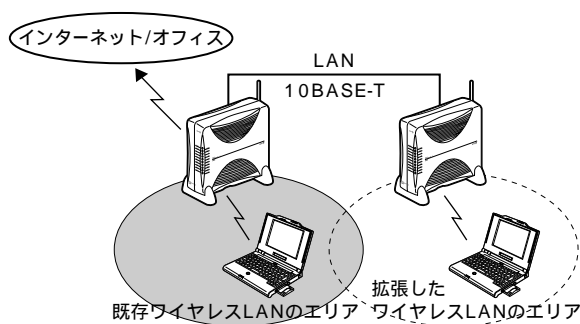
FT3000R-ST裏面のシールで「MAC.XXXXXX(12文字)」を確認してください。

XXXXXX(12文字)がMACアドレスです。

ワイヤレスLANのエリアを拡張する

本装置（FT3000R-AP）をLAN上に追加して、ワイヤレスLANのエリア（無線通信可能な範囲）を拡張することが可能です。

ESSIDの設定で、複数のワイヤレスLANエリアを同一のワイヤレスLANのエリア（ローミング）として運用したり、それぞれ別々のワイヤレスLANとして運用する事が可能です。



追加するFT3000R-APとローミングを行うFT3000R-STを挿入したパソコンで、設定を変更する必要があります。詳しくは当社のサービス取扱所またはお買い求めになった販売店までご連絡ください。

1
準備
設定前の

2
設定リファ
レンス

ワイヤレスLAN編

MEMO

資料編

設定記入シート、トラブルシューティング、Q&A、用語集を資料として説明しています。必要に応じてお読みください。

設定記入シート(ルータ機能の設定)

「かんたん設定」で設定した内容を記入し、保守のための資料として大切に保管してください。下線は初期値です。

商品名	(IPMATE FT3000R-AP)
かんたん設定			
インターネットへISDN接続		インターネットへ専用線接続	
オフィスへISDN接続		オフィスへ専用線接続	
接続先の電話番号	()
ユーザ認証ID(発信)	()
ユーザ認証パスワード(発信)	()
ユーザ認証ID(着信)	()
ユーザ認証パスワード(着信)	()
IPMATEのIPアドレス	()(
IPMATEのネットマスク	()
相手ルータのIPアドレス	()(
相手ルータのネットマスク	()
使用する回線速度	64 kbit/s	128 kbit/s	
DNSサーバ	自動取得		
	()(
DHCPサーバ機能	使用しない		
	使用する		
	DNSサーバ広報	(
)(
)(
)(
接続先の電話番号2	()
接続先の電話番号3	()
無通信監視タイマ	()秒
課金単位時間	()秒
接続ネットワーク名	()
接続先名	()
ドメイン名	()
アドレス変換	使用しない		
	マルチNAT		
	グローバルアドレス	(
)(
)(
	アドレス個数	(
)個	
MP	使用する(手動)	使用する(自動)	使用しない
かんたんフィルタ	使用する	使用しない	
データ圧縮	VJ		
ブザー	鳴らす	鳴らさない	

アナログポート設定

TEL1ポート		
接続機器	<u>電話</u>	なし
ナンバー・ディスプレイ	使用する	<u>使用しない</u>
TEL2ポート		
接続機器	<u>電話</u>	なし
ナンバー・ディスプレイ	使用する	<u>使用しない</u>

各種スイッチ

10 BASE-T
PORT 1

S/T TERM

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
OFF	ON

DSU

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
OFF	ON

ToHUB To PC

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
--------------------------	--------------------------

ISDN U

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
REV	NOR

設定記入シート（TELポートの設定）

「詳細設定メニュー」の「アナログ設定」で設定した内容を記入し、保守のための資料として大切に保管してください。下線は初期値です。

商品名	(IPMATE FT3000R-AP)			
アナログ共通情報				
電話番号	()			
フレックスホン	<u>フレックスホン</u>	疑似フレックスホン		
三者通話	<u>使用しない</u>	使用する		
通信中転送	<u>使用しない</u>	使用する		
着信転送	<u>使用しない</u>	着信転送	疑似着信転送	
契約者番号の転送先	()			
ポート1のダイヤルインの転送先	()			
ポート2のダイヤルインの転送先	()			
鳴り分け番号1の転送先	()			
鳴り分け番号2の転送先	()			
転送元トーキ	<u>あり</u>	なし		
転送トーキ	<u>あり</u>	なし		
i・ナンバー	<u>使用しない</u>	使用する		
鳴り分け番号1	()			
動作モード	<u>ポート1のみ着信</u>	ポート2のみ着信	両ポート着信	着信拒否
鳴り分け番号2	()			
動作モード	ポート1のみ着信	<u>ポート2のみ着信</u>	両ポート着信	着信拒否
設定変更用暗証番号	()			
ダイヤル桁間タイマ	<u>5秒</u>	8秒	10秒	15秒 20秒
フッキング時間	早い	<u>標準</u>	遅い	
#機能ボタン使用	<u>する(1回入力)</u>	する(2回入力)	しない	
外線リング音	<u>リング音1</u>	リング音2	リング音3	
内線リング音	リング音1	<u>リング音2</u>	リング音3	

アナログポート1情報

ダイヤルイン番号	()
グローバル着信	<u>する</u> しない
発信者番号通知	<u>する</u> しない <u>INSネット64申込内容に従う</u>
キャッチホン	<u>キャッチホン</u> <u>使用しない</u> 疑似キャッチホン
接続機器	<u>電話</u> <u>モデム</u> <u>FAX</u> <u>FAX (無鳴動強制着信)</u> FAX (無鳴動識別着信) なし
サブアドレス	()
発信 / 着信選択	<u>発着信</u> 発信のみ 着信のみ
受話音量	<u>小</u> 中 大
リバースパルス送出	送出する <u>送出しない</u>
フレックスホン自動切換	使用する <u>使用しない</u>
通信前情報通知	<u>使用しない</u> モデム信号での通知 PB信号での通知
モデム信号での通知	ナンバー・ディスプレイを使用する モデムダイヤルインを使用する

アナログポート2情報

ダイヤルイン番号	()
グローバル着信	<u>する</u> しない
発信者番号通知	<u>する</u> しない <u>INSネット64申込内容に従う</u>
キャッチホン	<u>キャッチホン</u> <u>使用しない</u> 疑似キャッチホン
接続機器	<u>電話</u> <u>モデム</u> <u>FAX</u> <u>FAX (無鳴動強制着信)</u> FAX (無鳴動識別着信) なし
サブアドレス	()
発信 / 着信選択	<u>発着信</u> 発信のみ 着信のみ
受話音量	<u>小</u> 中 大
リバースパルス送出	送出する <u>送出しない</u>
フレックスホン自動切換	使用する <u>使用しない</u>
通信前情報通知	<u>使用しない</u> モデム信号での通知 PB信号での通知
モデム信号での通知	ナンバー・ディスプレイを使用する モデムダイヤルインを使用する

設定記入シート (ワイヤレスLANの設定)

設定した内容を記入した、保守のための資料として大切に保管してください。下線は初期値です。

ESSID

ESSID

(

) 初期値FT3000R

セキュリティ

ワイヤレス通信

全端末許可

登録端末のみ

ワイヤレス端末登録

No	許可	MACアドレス	No	許可	MACアドレス	No	許可	MACアドレス
0			21			42		
1			22			43		
2			23			44		
3			24			45		
4			25			46		
5			26			47		
6			27			48		
7			28			49		
8			29			50		
9			30			51		
10			31			52		
11			32			53		
12			33			54		
13			34			55		
14			35			56		
15			36			57		
16			37			58		
17			38			59		
18			39			60		
19			40			61		
20			41			62		
						63		

トラブルシューティング（共通機能編）

故障かな？と思ったら、修理を依頼される前に次の点を確認して対処してください。
ランプ表示が正常でない場合は、次の表で確認してください。

起動時のトラブル

トラブルの内容	原因	チェックポイント・対処方法	参照ページ
電源が投入されない	商用電源（100 V）が供給されていない	電源コードがコンセントに接続されているか確認してください	●P30
	電源スイッチがOFFになっている	電源スイッチをONにしてください	●P32
電源スイッチを入れても動作しない ●全ランプが消灯 ●CHECKランプが緑色で点灯 ●LANランプが緑色で点滅	ハードウェア障害のため	当社のサービス取扱所へお問い合わせください	

回線接続時のトラブル

データ通信を行おうとして回線が接続できない場合には、まず以下のチェック項目を確認してください。

本装置のルータ機能をご利用の場合、これで判断できないときには、「表示メニュー」の「回線ログ」画面（●P139）を選択表示させて、失敗理由を確認してください。

トラブルの内容	原因	チェックポイント・対処方法	参照ページ
本装置をISDN回線につないで電源を入れたら、B1/B2のランプが橙色で点滅している	ISDN回線が極性反転している	各種スイッチで極性を切り替えてください	●P26
	ISDNポートが通信不可能な状態です	電話機コードが本装置側と回線モジュール側で正しく装着されているかを確認してください	●P30
ISDN回線が繋がらない	接続先の電話番号、またはサブアドレスが間違っている	接続先の電話番号およびサブアドレスの設定を確認し、正しい設定にしてください (ルータ機能の設定を「詳細設定」で行ったときは「接続先情報設定」画面●P89)	
	接続先が話中である	しばらく待ってから同操作を再度行ってみてください なお、接続先が話中の場合は、回線ログにその旨が記録されます	

トラブルシューティング（ルータ機能編）

回線接続時のトラブル

データ通信を行おうとして回線が接続できない場合には、まず以下のチェック項目を確認してください。

これで判断できない場合には、「表示メニュー」の「回線ログ」画面（●P139）を選択表示させて、失敗理由を確認してください。

トラブルの内容	原因	チェックポイント・対処方法	参照ページ
ISDN回線が繋がらない	「詳細設定」で誤ったルーティング情報を設定した	「LAN情報設定」画面および「ネットワーク情報設定」画面にて、IPアドレス、ルーティング情報設定に誤りがないか確認してください	●P80, 87
	接続相手とのPPPネゴシエーションに失敗した（この場合は電話料金の課金対象になります）	ユーザ認証ID、パスワード、MPの設定を接続相手に許可されるような設定値に変更してみてください なお、PPPネゴシエーションの結果は「回線ログ」画面（●P139）に、動作の詳細な情報は「PPPフレームトレース」画面（●P144）に記録されます	●P86, 89, 90
	回線障害のため	局番なしの113番へご連絡ください	
ISDN回線がつながりっぱなしで切断されない	IPダイナミックルーティング（RIP）が定期（30秒間隔）送信されている	[ダイナミックルーティング機能]のRIP送信を「送信しない」に設定してください	●P81, 87
	実際にデータを連続して送信している	LAN接続しているワークステーションの通信状況やアプリケーションの定期通信の有無を確認してください	
	テレホーダイ機能が動作している	テレホーダイ機能を停止させてください	●P125, 133
	「詳細設定」で誤ったルーティング情報を設定した	「LAN情報設定」画面および「ネットワーク情報設定」画面にて、IPアドレス、ルーティング情報設定に誤りがないか確認してください	●P80, 87
	ISDN回線接続中にパソコンが誤動作した	本装置の電源をOFFにして、回線を切断してください	
	接続先から定期的にデータを受信している	接続先装置が定期的にデータ（RIP、ICMP、Keep Arriveパケット等）を送出していないかどうか確認してください	
HSD回線が繋がらない	速度設定が間違っている	「回線情報設定」画面の[回線情報]の「回線インタフェース」の設定を確認してください	●P78
	「詳細設定」で誤ったルーティング情報を設定した	「LAN情報設定」画面および「ネットワーク情報設定」画面にて、IPアドレス、ルーティング情報設定に誤りがないか確認してください	●P80, 87
	回線障害のため	当社のサービス取扱所へご連絡ください	
発信できない	お買い求め時の設定（初期値）で課金制御（1週間で3000円を超えると発信抑止）が有効になっている	「課金情報」画面の[課金情報クリア]をクリックしてください	●P136

トラブルの内容	原因	チェックポイント・対処方法	参照ページ
Windows NT [®] 4.0を使っているが、ログインするごとに自動的に回線が接続される	Remote Access Service(RAS)機能が動作している (例えば、Remote Access Service(RAS)機能が動作していると、TAから本装置に移行する前まで、インターネットへの自動接続機能を使用している場合、移行後もその機能がルータ環境に引き継がれ、ログインするごとに回線が自動接続してしまう)	以下の手順に従い、Windows NT [®] 4.0の設定を変更してください コントロールパネルの[サービス]をダブルクリックする 「Remote Access Autodial Manager」を選択する Remote Access Autodial Managerをクリックする [停止]をクリックする [スタートアップ]をクリックし、「手動」または「無効」に設定する	
Windows [®] 98/95を使っているが、約15分ごとに回線が自動的に接続される	NetBIOS over TCP/IPにより、Windows [®] 98/95がDNSサーバに定期送信を行っている	「IPフィルタリング情報」画面で、「ポート番号」の「137～139」までをフィルタリングしてください または、以下の手順に従い、Windows [®] 98/95の設定を変更してください コントロールパネルの[ネットワーク]をダブルクリックする [TCP/IP]をクリック後、[プロパティ]をクリックする 開いたウィンドウの「バインド」項目を開く [Microsoftネットワーククライアント]のチェックを外す ウィンドウを閉じる 各画面で[OK]をクリックし、パソコンを再起動する	●P96, 101

IPルータ中継時のトラブル

トラブルの内容	原因	チェックポイント・対処方法	参照ページ
ISDN回線は接続されるが、IP通信ができない	IPフィルタリングやNATの設定、ルーティングの設定が間違っているなど	IPフィルタリングやNATの設定、ルーティングの設定をご利用のネットワーク環境や目的に合致した正しい設定にしてみてください	●P87, 96, 97, 101

URLフィルタ機能に関するトラブル

トラブルの内容	原因	チェックポイント・対処方法	参照ページ
URLフィルタを設定したが、そのURLに接続が可能である	パソコンのDNSサーバ設定が、本装置のIPアドレスになっていない	本装置のIPアドレスがパソコンのDNSサーバアドレスになるような設定を行ってください	●P139
	パソコン側のアプリケーションがサーバのIPアドレスを覚えているため、本装置のProxyDNSが使われていない	回線ログを参照して、パソコンから直接URLのサーバのIPアドレスに接続しているか確認してください この場合、パソコンを再起動してみてください	



お知らせ

Windows[®] 98/95は、Microsoft[®] Windows[®] 98 Operating SystemおよびMicrosoft[®] Windows[®] 95 Operating Systemの略です。Windows NT[®] 4.0は、Microsoft[®] Windows NT[®] Operating System Version 4.0の略です。

トラブルシューティング (ルータ機能編)

MP機能に関するトラブル

トラブルの内容	原因	チェックポイント・対処方法	参照ページ
MP機能利用時に電話をかけようとしたが、かけられなかった	BOD機能を使用していない	BOD機能を使用しないと、帯域に応じたチャンネル制御がoffになっているため、電話をかけようとしたときに1Bチャンネルを解放する処理が行われません 「ネットワーク情報設定」画面または「不特定相手情報設定」画面の[MP情報]の「アナログ使用時縮退」を「する」に設定してください	P86, 99
	電話機のハンドセットを取りあげるタイミングが悪かった	BOD機能により帯域を変更しているときは、Bチャンネルの解放ができません いったん受話器を置いてからもう一度かけ直してください	
MPの設定をしたが、MP(2B)通信ができない	<p>まずは、原因を調べてください</p> <p>「メンテナンスメニュー」の「PPPフレームトレース」をクリックする 表示されたPPPフレームトレース中に、「MP」で始まる文字列がないか調べる</p> <p>「MP」で始まる文字列がない場合は、次の原因が考えられる</p> <ul style="list-style-type: none"> • 本装置のMP通信用の設定がされていない • 接続先がMPをサポートしていない 	<p>「相手情報設定」画面の[着信相手識別情報]の「MP接続」を使用する設定にしてください</p> <p>または、「接続先情報設定」画面の[基本情報]の「MP接続」を「する」に設定してください</p> <p>MPをサポートしている接続先を選んでください</p>	P83, 89

WWWブラウザに関するトラブル

トラブルの内容	原因	チェックポイント・対処方法	参照ページ
WWWブラウザを起動したが設定画面が表示されない	パソコンと本装置の間が正しく接続されていない	以下を確認してください <ul style="list-style-type: none"> ●本装置の電源が入っているか ●LANがつながっているか ●正しいURL(IPアドレス)を指定したか 	●P30, 32,61
WWWブラウザのURLに「192.168.1.1」を指定しているが、初期画面(トップページ)が表示されない	LANが正しく接続されていない	本装置前面のパソコンを接続した10BASE-T PORTランプが点灯していない場合は、本装置とパソコンの間が正しく接続できていません 本装置とパソコンの間が10BASE-Tケーブル(ストレート)で正しく接続されているか確認してください	●P24, 30
	LANカード/ボードを通して、本装置と通信をするべきところをPPP Adapter を使って通信しようとするため、本装置と通信できない Windows [®] 98/95/NT [®] 4.0の場合は、次の条件に当てはまるとき <ul style="list-style-type: none"> ●DHCPサーバ機能を利用し、自動的にIPアドレスなどの情報を取得した ●ダイヤルアップネットワークを使って、インターネットアクセスした経験がある 	パソコンを再起動してLANインタフェースにIPアドレスを割り当ててください	
	パソコンに設定したIPアドレスあるいはサブネットマスクが間違っている	設定したIPアドレスを確認してください	
	WWWブラウザの設定が間違っている <例>Windows [®] 98/95/NT [®] 4.0の場合、WWWブラウザの設定(特にInternet Explorer)で「必要に応じて接続」という設定が有効になっているとき、WWWブラウザ起動ごとにモデム/TAを起動しようとして、本装置と通信できない	WWWブラウザの設定を確認してください	
WWWブラウザの設定でProxyサーバの設定が有効になっている	Proxyサーバを「なし」に変更するか、本装置のIPアドレスに対してProxyが無効になるようにWWWブラウザの設定を変更してください	●P217	
WWWブラウザを起動すると自動的に回線が接続されてしまう	WWWブラウザの設定項目「ホームページ」にインターネット上のURLが設定されている	WWWブラウザの設定を変更してください または、WWWブラウザ起動時のURLの入力欄に何も入力しないでください	●P61

pingに関するトラブル

トラブルの内容	原因	チェックポイント・対処方法	参照ページ
pingを実行しても、インターネット上の機器から応答がない	フィルタリングが設定されている(「かんたん設定」の「かんたんフィルタ」を使用しているため、ICMP(ping)は回線切断時に通さない設定になっている)	疎通確認をする場合は、「IPフィルタリング情報」画面で「動作」を「透過」に設定してください	●P96, 101
pingを実行したが、キャンセルできない	故障ではありません	pingは、一度実行するとキャンセルできません 表示が止まるまでしばらくお待ちください	●P130

トラブルシューティング (ルータ機能編)

その他のトラブル

トラブルの内容	原因	チェックポイント・対処方法	参照ページ
回線に接続できるが、「このサーバに対するDNS項目がありません」というメッセージ、あるいは相当メッセージが表示され、動作しなくなる	DHCPサーバ機能を利用している場合、本装置の設定終了直後、パソコン側にDNSアドレス情報が含まれていないため、IPアドレスを取り出すことができず、メッセージが表示される	DHCP情報(DNSサーバアドレス)の最新情報をパソコンを再起動してパソコン側に反映させてください	◀P81
	DHCPサーバ機能を利用していない場合、パソコンにDNSサーバアドレスが設定されていない	パソコンのネットワーク設定でDNSサーバのアドレスを変更してください	◀P89
本装置のIPアドレスを変更したら、アクセスできなくなった	パソコンのIPアドレスが変更されていない	DHCPサーバ機能を利用している場合は、パソコンの電源を入れ直してください	◀P81
		DHCPサーバ機能を利用していない場合は、各パソコンの設定方法に従い、IPアドレスを含む情報を入力してください このとき、DNSサーバアドレスも忘れずに入力してください	◀P81
設定したIPアドレスがわからなくなった		設定をお買い求め時の状態に戻すことでIPアドレスを初期の状態(192.168.1.1)に戻すことができます ただし、本装置の設定もすべて消えて初期状態に戻ってしまいますので、最初から設定をやり直してください	◀P228
ログインパスワードがわからなくなった		設定をお買い求め時の状態に戻すことで現在設定されているログインパスワードを消去できます ただし、本装置の設定もすべて消えて初期状態に戻ってしまいますので、最初から設定をやり直してください	◀P228
DHCPを使ってWindows® 98/95にDNSアドレスを設定したが、正しく動作しない	Windows® 98/95のDHCPクライアントは、パソコン起動直後にDHCPクライアント機能(アドレスなどの取得機能)が動作しているため、パソコンを再起動しないと設定が更新されない	本装置の設定後、パソコンを再起動してください	
本装置のIPアドレスを変更後、再起動したらまったく動作しなくなった	DHCPの設定を変更していない	「かんたん設定」の場合、IPアドレスを変更すると自動的にDHCPの割当て先頭IPアドレスが変更されますが、「詳細設定」の「LAN情報設定」画面でIPアドレスを変更した場合は、自動的に変更されませんので、DHCP機能でDHCPの割当て先頭IPアドレスを変更してください 下表は「かんたん設定」と「詳細設定」の設定動作の違いを表しています <例>「詳細設定」で本装置のIPアドレスを「192.168.1.1」から「172.32.100.1」に変更した場合は、DHCP先頭アドレス(下表の)も「192.168.1.2」から「172.32.100.2」に変更してください	◀P81

「かんたん設定」と「詳細設定」の設定動作の違い

	変更前		変更後	
	IPアドレス	DHCP先頭IPアドレス	IPアドレス	DHCP先頭IPアドレス
「かんたん設定」でIPアドレスを設定した場合	192.168.1.1	192.168.1.2	172.32.100.1	172.32.100.2
「詳細設定」でIPアドレスを設定した場合	192.168.1.1	192.168.1.2	172.32.100.1	192.168.1.2

トラブルシューティング

(ワイヤレスLAN機能編)

ワイヤレスLAN利用時のトラブル

トラブルの内容	原因	チェックポイント・対処方法	参照ページ
パソコンに認識されない	PCカードスロットに確実に挿入されていない	挿入し直してください	←P184
	PCカードスロットが故障している	他のPCカードスロットに挿入して確認してください	
正常に動作しない	Card Busスロットでの互換性が低い	PCMCIA専用のスロットでご使用ください	
	パソコンのバッテリーが不足している	バッテリーを充電してください	←P184
	他のLANカードのドライバがインストールされている	他のLANカードのドライバを削除してください またWindows® 98/95では複数のLANカードは同時にご利用できません	←P187
	パソコンの電源サスペンド機能がONになっている	パソコンの電源サスペンド機能をOFFにしてください 詳しくはお使いのパソコンの取扱説明書等を参照してください	←P187
「ネットワークコンピュータ」をダブルクリックしても、他のコンピュータが表示されない	Windowsを起動したときに、パスワードを入力していない	起動時にパスワードを入力してください	
	TCP/IPの設定が間違っている TCP/IPがインストールされていない	TCP/IPをインストールしてください 固定IPアドレスを使用するときはIPアドレスが重複しないように設定してください	←P187
	ESSIDの設定が間違っている	同一ワイヤレスLAN内のESSIDはすべて同じにしてください	←P190
	ネットワークの設定が正常にできていない	コンピュータ名やワークグループの設定を確認してください	
ワイヤレスLANで通信できない (pingを実行しても応答がない)	ESSIDの設定が間違っている	同一ワイヤレスLAN内のESSIDはすべて同じにしてください	←P190
	ワイヤレスLANエリア(無線通信が可能な範囲)から圏外になっている	インフラモードの場合 FT3000R-APに近づいてください アドホックモードの場合 他のFT3000R-STを挿入したパソコンに近づいてください	←P227
	ワイヤレスLANの形態(インフラモード/アドホックモード)の設定が間違っている	同一ワイヤレスLAN内の形態の設定はすべて同じにしてください	FT3000R-ST 取扱説明書
ローミングできない	ESSIDの設定が間違っている	移動先のワイヤレスLAN内のESSIDの設定は同じにしてください	←P190
FT3000R-APにワイヤレスLANで接続できない	MACアドレスが登録されていない または通信が許可されていない	FT3000R-APの「セキュリティ情報」で通信許可されているMACアドレスを確認してください	←P192
	停電している	停電時はご利用できません	←P227
アドホックモードで通信できない	ESSIDが間違っている	同一ワイヤレスLAN内のESSIDはすべて同じにしてください	FT3000R-ST 取扱説明書
	TCP/IPの設定が間違っている	アドホックモードのワイヤレスLAN内にDHCPサーバが無い場合は、それぞれのパソコンに固定IPアドレス/ネットマスクを設定してください	FT3000R-ST 取扱説明書
WLANランプが遅い緑点滅している	ワイヤレスLANが正常に動作していない 停電から復旧したスタンバイモードから通常モードに切り替えた	FT3000R-APとFT3000R-ST側のパソコンを再起動してください。	←P24

トラブルシューティング

(アナログ通信機器編)

アナログ通信機器利用時のトラブル

トラブルの内容	原因	チェックポイント・対処方法	参照ページ
発信/着信ができない	電源スイッチがOFFになっている	電源スイッチをONにしてください	●P32
	停電中のため(TEL1ポートは可能)	停電が復旧するまでお待ちいただくか、電池をセットしてお使いください	●P151
	ケーブルの接続が正しくない	TELポートとアナログ通信機器とのケーブルの接続を確認してください	●P30
	着信条件の設定が正しくない	「詳細設定」の場合は「アナログポート1/2情報」画面、設定ユーティリティの場合は「TEL1ポート・TEL2ポート設定」画面で設定を確認してください	●P118
	1つのTELポートに2台以上の電話機、ファクスが接続されている	1つのTELポートには1台だけ接続してください 2台以上接続すると正しく動作しないことがあります	
	ダイヤル式(DPトーン式)のアナログ通信機器を接続している	プッシュ式(PBパルス式)のアナログ通信機器を接続してください	
	ハンドセットが外れている	ハンドセットを戻してください	
	LANに負荷がかかりすぎている	緊急時には本装置に接続されている10BASE-Tケーブルを引き抜いてください	●P30
ハンドセットを取りあげてもまったく音が聞こえない	データ通信でBチャンネルを使用しています	MP機能を利用されている場合には、「BAP/BACP利用」を「する」に設定してください	●P83
電話機から異常な音が出ている	ハンドセットが外れている	ハンドセットを電話機に戻してください 次の条件にあてはまるとき、電話機からハンドセットが外れていることを知らせる警告音が電話機から流れます ・ハンドセットが約2分以上電話機から外れている 警告音は、約3分間鳴り続けます その間は1Bチャンネル分データ通信用に利用することはできませんので、警告音が鳴ったときは、すみやかに上記を確認し、対処してください	
TELポートにモデム経由で接続されている電話機が使えない	モデム経由で接続されている電話機は使えないことがあります (ほとんどのアナログポート付きTA(DSU内蔵)では、アナログポートにかけられる電圧値が、モデム経由(減衰)で電話にたどり着くが、電話機に適する電圧値より低いいため正常に動作しないことがあります)	電話機は必ず別のポートに独立して接続してください	●P30
電話をかけられたとき、呼出音は聞こえるが、(誰がいるはずなのに)誰も応答しない	TEL1、TEL2ポートの設定が出荷時のままで、かつTEL1、TEL2ポートの一方だけに電話機を1台だけ接続しているときに、その電話機(1Bチャンネルのデータ通信も含む)を使用しているため、外からの電話に応答することができない	TEL1、TEL2ポートの一方のみに電話機を接続し、かつもう一方のTELポートに何も接続しない場合は、電話機を接続していないTELポートの設定を、「なし」に設定してください	●P164

ルータ機能

【Question1 本装置の各種インタフェースについて】

質問	参照ページ
Q1-01 本装置のU点インタフェースとは何ですか？	●P212
Q1-02 本装置のDSUを無効にすることはできますか？	●P212
Q1-03 本装置にはDSU折り返し機能はありますか？	●P212
Q1-04 本装置のTELポートごとに電話番号を割り振れますか？	●P212
Q1-05 MP機能を使ってINSネット64を2B同時に利用しているときに電話がかかってくるようになりますか？	●P212
Q1-06 ダイヤルインを使わずに、TELポートに着信の優先順位をつけられますか？	●P212

【Question2 ログ情報について】

質問	参照ページ
Q2-01 どんなログを見ることができますか？	●P213

【Question3 本装置の設定について】

質問	参照ページ
Q3-01 本装置を回線（ISDN/専用線）に接続していなくても設定できますか？	●P213
Q3-02 IPアドレスを設定する場合、使ってはいけないIPアドレスは何ですか？	●P213
Q3-03 FTPだけデータを通すことはできますか？	●P214
Q3-04 WAN側にIPアドレスを割り当てることができますか？	●P214
Q3-05 WAN側にIPアドレスを割り当てないlunumbered設定はできますか？	●P214
Q3-06 本装置のIPフィルタリングは、ポート番号のフィルタリングもできますか？	●P214
Q3-07 発信専用（ルータ機能）になりますか？	●P214
Q3-08 本装置が着信側になったときに、自動的に発信側にIPアドレスを割り当てることができますか？	●P214
Q3-09 無駄な回線接続要求を止めるにはどうすればよいですか？	●P214
Q3-10 IPフィルタリングはどのように設定するのですか？	●P215
Q3-11 スーパーOCN128 kbit/sを利用するには、どのように設定するのですか？	●P216

【Question4 WWWブラウザの使用について】

質問	参照ページ
Q4-01 WWWのProxyサーバは、絶対使ってはいけないのですか？	●P217

【Question5 パソコンについて】

質問	参照ページ
Q5-01 Mac, PC98, DOS/V機が混在している環境で利用できますか？	●P218

【Question6 本装置がサポートする機能について】

質問	参照ページ
Q6-01 複数台のパソコンから同時にインターネットにアクセスできますか？	●P218
Q6-02 データ圧縮機能はついてますか？	●P218
Q6-03 IP以外のプロトコル（例えば、IPX（NetWare））は利用できますか？	●P218
Q6-04 使用状況/稼働状況などが表示できますか？ また、その情報を外部に出力できますか？	●P218
Q6-05 セキュリティはどのように確保するのですか？	●P219
Q6-06 本装置のLANには最大何台のパソコンが接続できますか？	●P219
Q6-07 コールバック機能は、アナログ回線から利用できますか？	●P219

【Question7 NAT (マルチNAT) について】

質問		参照ページ
Q7-01	NAT機能を利用した場合、FTPが使えなくなるのですか？	☛P219
Q7-02	NAT機能を利用した場合、UDPアプリケーション (StreamWorks等) は利用できますか？	☛P219
Q7-03	NATを使っている場合に、IPフィルタリングはどのタイミングで実行されるのですか？	☛P220

【Question8 ネットワーク構成について】

質問		参照ページ
Q8-01	TAからの着信はできますか？	☛P220
Q8-02	PHS対応電話機からの着信はできますか？	☛P220
Q8-03	複数のインターネットサービスプロバイダを利用することができますか？	☛P220

【Question9 セキュリティについて】

質問		参照ページ
Q9-01	発信元の電話番号を区別して着信許可/不許可することができますか？	☛P221
Q9-02	発信専用にできますか？	☛P221
Q9-03	CHAPまたはPAPを行っていますか？	☛P221
Q9-04	特定のパソコンだけをインターネットに接続したくないのですが？	☛P221
Q9-05	特定のパソコンだけをインターネットに接続したいのですが？	☛P222
Q9-06	インターネットからLAN上のサーバにアクセスさせたくないのですが？	☛P222

【Question10 その他】

質問		参照ページ
Q10-01	「端末型接続」と「ネットワーク型接続」の違いは何ですか？	☛P223
Q10-02	WWWブラウザの使用を終了すると回線は自動的に切断されますか？	☛P223
Q10-03	非同期ISDNに対応していますか？	☛P223
Q10-04	本装置を使用し、社内LAN (イントラネット) 経由でインターネットへアクセスはできますか？	☛P223
Q10-05	Proxyサーバは使えますか？	☛P223
Q10-06	DHCPサーバを動かしていますが、問題ありませんか？	☛P223
Q10-07	本装置を利用するにはどんなパソコンが必要ですか？	☛P224
Q10-08	回線接続時、DNSサーバに指定した接続先と異なるところに接続されるのですが？	☛P224
Q10-09	インターネットサービスプロバイダとの接続を128 kbit/sで使用中に、パソコン通信を行えますか？	☛P224
Q10-10	バージョンアップに失敗し、LEDランプが点滅しているのですが？	☛P224

【Question11 疑似TAについて】

質問		参照ページ
Q11-01	疑似TA機能ってなに？	☛P224
Q11-02	TAとはなにが違うの？	☛P224
Q11-03	どんな環境で利用できるの？	☛P225
Q11-04	どうやって使うの？	☛P225
Q11-05	どういうときに使うの？	☛P225
Q11-06	疑似TA機能には無通信監視機能はありますか？	☛P225

ワイヤレスLAN機能

【Question12 本装置がサポートする機能について】

質問		参照ページ
Q12-01	どこのメーカーの無線LANカードでも使えますか？	●P225
Q12-02	IP以外のプロトコルは利用できますか？	●P225
Q12-03	複数台のパソコンからワイヤレスLANを同時に使用できますか？	●P225
Q12-04	無線のスピードは？	●P225
Q12-05	10BASE-Tポートに接続されているパソコンとファイル共有はできますか？	●P225

【Question13 本装置の設置について】

質問		参照ページ
Q13-01	お勧めの設置場所はありますか？	●P226
Q13-02	FT3000R-STを増設してワイヤレスLANを使うエリアの拡大はできますか？	●P226
Q13-03	ワイヤレスで通信できる範囲は、目安としてどれくらいですか？	●P226

【Question14 パソコンについて】

質問		参照ページ
Q14-01	FT3000R-STに対応しているパソコンにはどのような機種がありますか？	●P226
Q14-02	有線のLANカードと同時に使えますか？	●P226

【Question15 セキュリティについて】

質問		参照ページ
Q15-01	FT3000R-STを購入すると、だれでも本装置につなげることができますか？	●P226
Q15-02	購入したときに入れるESSIDとは何を入れれば良いのですか？	●P226
Q15-03	指定したパソコンだけワイヤレスLANをつなげるには？	●P226

【Question16 その他】

質問		参照ページ
Q16-01	本装置のワイヤレスLANには最大何台のパソコンが接続できますか？	●P227
Q16-02	通信圏外になったら？	●P227
Q16-03	停電のときは、ワイヤレスLANを使用できますか？	●P227
Q16-04	インターネットに接続中に、LAN上のパソコンにアクセスできますか？	●P227

アナログ機能

【Question17 本装置の各種インターフェースについて】

質問		参照ページ
Q17-01	本装置を設定する前に、TELポートに電話機を接続して使用できますか？	●P227
Q17-02	これまで使っていた電話番号を電話に、追加番号をファクスに割り当てることができますか？	●P227
Q17-03	本装置は停電中でも電話は使えますか？	●P227

ルータ機能

Question1 本装置の各種インタフェースについて

Q1-01. 本装置のU点インタフェースとは何ですか？

A1-01. 自宅に配線されたケーブルを挿入するためのインタフェースです。
ISDN網は、次の経路をたどります。
[NTTの交換機] [電線] [屋内配線] <DSU-ISDN機器>
屋内配線で設置された口から伸びるケーブルをDSUが受けるインタフェースのことをU点インタフェースといいます。
本装置はDSUを内蔵しています。

Q1-02. 本装置のDSUを無効にすることはできますか？

A1-02. できます。底面スイッチの設定の切り替えが必要です。(●P26)

Q1-03. 本装置にはDSU折り返し機能はありますか？

A1-03. あります。
ISDN回線を新規に申し込む場合には、INSネット64お申込票の「接続する通信機器欄」の「お客さま工事の場合DSU折り返し機能」を「有」に指定してください。

Q1-04. 本装置のTELポートごとに電話番号を割り振れますか？

A1-04. ダイヤルイン契約やi・ナンバー契約、サブアドレスの設定で割り振ることができます。(●P162、163)

Q1-05. MP機能を使ってINSネット64を2B同時に利用しているときに電話がかかってきたらどうなりますか？

A1-05. 電話も受けることができます。
本装置には自動縮退機能が装備されているので、電話用の2Bチャネルのうち1Bチャネルを解放します。
ただし、自動縮退機能を使わない設定になっている場合、あるいは、INSネット64の契約で「通信中着信通知サービス」のご契約をされていない場合は、回線は自動的に縮退されません。

Q1-06. ダイヤルインを使わずに、TELポートに着信の優先順位をつけられますか？

A1-06. つけられます。(●P155)

Question2 ログ情報について

Q2-01. どんなログを見ることができますか？

A2-01. 次の情報を見ることができます。
回線接続状況/課金情報/IP統計情報/チャンネル統計情報/回線ログ/システムログ/ルーティング情報/現在時刻/経過時間情報/バージョン情報/PPPフレームトレース/エラーログ情報/構成定義情報

Question3 本装置の設定について

Q3-01. 本装置を回線 (ISDN/専用線) に接続していなくても設定できますか？

A3-01. できます。

Q3-02. IPアドレスを設定する場合、使ってはいけないIPアドレスは何ですか？

A3-02. 次の3種類のIPアドレスは使わないでください。

- すでに設定されているIPアドレス
IPネットワークでは、IPアドレスが世界中で必ず1つであることを条件に構成されています。プライベートアドレスを使って接続する端末型接続の場合でも、NAT機能を用いて世界中でひとつしかないIPアドレスに変換します。
- ネットワークアドレスを示すIPアドレス
ネットワーク部(そのまま)+ホスト部がすべて0(2進数表記)のIPアドレス
- ブロードキャストアドレスを示すIPアドレス
ネットワーク部(そのまま)+ホスト部がすべて1(2進数表記)のIPアドレス
ネットワーク部/ホスト部の求め方は次のとおりです。

ネットワーク部 = IPアドレス & サブネットマスク (論理積)
ホスト部 = IPアドレス & (not サブネットマスク) (論理積と排他)

例えば、本装置のデフォルトIPアドレスである、「192.168.1.1/255.255.255.0」(24 bit)の場合、ネットワーク部/ホスト部は次のようになります。

ネットワーク部
192.168.1 .1 = 1100 0000.1010 1000.0000 0001.0000 0001
& 255.255.255.0 = 1111 1111.1111 1111.1111 1111.0000 0000

192.168.1 .0 = 1100 0000.1010 1000.0000 0001.0000 0000

ホスト部
192.168.1 .1 = 1100 0000.1010 1000.0000 0001.0000 0001
& !255.255.255.0 = 0000 0000.0000 0000.0000 0000.1111 1111

0 .0 .0 .1 = 0000 0000.0000 0000.0000 0000.0000 0001

よって、この場合のネットワークアドレスとブロードキャストアドレスは次のようになります。

本装置のIPアドレス = 192.168.1.1(ホスト 1番)
ネットワークアドレス = 192.168.1.0 (ホスト部:0000 0000)
ブロードキャストアドレス = 192.168.1.255(ホスト部:1111 1111)

Q3-03. FTPだけデータを通すことはできますか？

A3-03. できます。
この他のプロトコルのデータについてもIPフィルタリングを使うことで、実現できます。(●P96、101、215)

Q3-04. WAN側にIPアドレスを割り当てることができますか？

A3-04. できます。
「詳細設定メニュー」の「ルータ設定」で[相手情報]をクリックし、「相手情報設定」画面の[ネットワーク情報一覧]から「ネットワーク情報設定」画面を表示し、「WAN側IPアドレス」の設定で「設定する」を選択し、かつIPアドレスを入力してください。

Q3-05. WAN側にIPアドレスを割り当てないunnumbered設定はできますか？

A3-05. できます。
unnumbered設定を行う場合、「詳細設定メニュー」の「ルータ設定」で[相手情報]をクリックし、「相手情報設定」画面の[ネットワーク情報一覧]から「ネットワーク情報設定」画面を表示し、「WAN側IPアドレス」の設定で「設定しない」を選択します。

Q3-06. 本装置のIPフィルタリングは、ポート番号のフィルタリングもできますか？

A3-06. できます。
本装置のIPフィルタリングは、IPアドレス/ポート番号/TCP接続要求を対象にするか(TCP/IPのみ)などの設定ができます。フィルタリング動作として、「透過/透過(接続中のみ)/遮断」が選択できます。(●P96、101)

Q3-07. 発信専用になりますか？

A3-07. なります。
「詳細設定メニュー」の「ルータ設定」で[回線情報]をクリックし、「回線情報設定」画面の[ISDN情報]の「着信動作」の設定で「すべて禁止」を選択します。(●P78)

Q3-08. 本装置が着信側になったときに、自動的に発信側にIPアドレスを割り当てることができますか？

A3-08. 最大2つまで割り当てることができます。(●P39)

Q3-09. 無駄な回線接続要求を止めるにはどうすればよいですか？

A3-09. まず、回線ログの表示を行い、発信契機となったパケット情報を得ます。この情報を元にIPフィルタリングを設定します。
<例>「回線ログ」画面に「Protocol:ICMP 192.168.1.3(xxx) 162.71.2.5(yyy)」が複数行表示された場合、このパケットを遮断することで、回線の無駄な発信を止めることができます。
「IPフィルタリング情報」画面の各項目を次のように設定します。(●P96、101)

項目	設定値	
動作	遮断	
プロトコル	ICMP	
送信元情報	IPアドレス	192.168.1.3
	アドレスマスク	32(255,255,255,255)
	ポート番号	なにも指定しない
宛先情報	IPアドレス	164.71.2.5
	アドレスマスク	32(255,255,255,255)
	ポート番号	なにも指定しない
TCP接続要求	どちらでも可	

本装置を再起動し、一定時間放置したあと、再度、回線ログを確認してください。

Q3-10. IPフィルタリングはどのように設定するのですか？

A3-10. IPフィルタリングで設定する項目には、次の3つがあります。

- IPアドレス
- アドレスマスク
- ポート番号

送信元情報・宛先情報のIPアドレスと指定したアドレスマスクの論理積の結果が、指定したIPアドレスと一致した場合に初めて制御対象となります。また、アドレスマスクを工夫することで、設定を簡略化することができます。

<例> 192.168.1.1を対象とする場合

特定の1つのIPアドレスを対象とする場合は、特定のIPアドレス(192.168.1.1)とアドレスマスクで論理積を行った結果が、特定のIPアドレス(= 192.168.1.1)になるようアドレスマスクを設定します。特定のIPアドレスが192.168.1.1の場合は次のように設定します。

IPアドレス	192.168.1.1
アドレスマスク	255.255.255.255

<例> 192.168.1.1～63を対象とする場合

フィルタリング対象とするIPアドレスの最終オクテット1～63を2進数で表示します。

10進数	2進数
1	0000 0001
2	0000 0010
⋮	⋮
62	0011 1110
63	0011 1111

2進数で表示されているオクテットの共通部分を探します。

この場合、左端から2つ(上位2bit)が0で共通しています。つまり上位2bitに1が入らない場合、1～63のいずれかに該当することになります。

上位2bitを残す(1をたてる)形でアドレスマスクを設定します。

この場合、1～63(00xx xxxx)と192(1100 0000)で論理積を行った結果が0になります。それ以外の数の場合、64/128/192になります。よって、設定する内容は次のようになります。

IPアドレス	192.168.1.0
アドレスマスク	255.255.255.192

<例> 192.168.1.30～35を対象とする場合

フィルタリング対象とするIPアドレスの最終オクテット30～35を2進数で表示し、共通部分を探します。

10進数	2進数
30	0001 1110
31	0001 1111
32	0010 0000
33	0010 0001
34	0010 0010
35	0010 0011

(次ページへ続きます)

(前ページの続きです)

すべてのオクテットに共通部分が見つからない場合は、30～31、32～35を別のグループに分けます。

30～31のグループ		32～35のグループ	
30	0001 1110	32	0010 0000
31	0001 1111	33	0010 0001
		34	0010 0010
		35	0010 0011

30～31については左から7つの数字(上位7bit)が共通しています。
よって30～31に対する設定情報は

IPアドレス	192.168.1.30
アドレスマスク	255.255.255.254

となります。

32～35については左から6つの数字(上位6bit)が共通しています。
よって32～35に対する設定情報は

IPアドレス	192.168.1.32
アドレスマスク	255.255.255.252

となります。

Q3-11. スーパーOCN128 kbit/sを利用するには、どのように設定するのですか?

A3-11. 本装置のWAN側のIPアドレスを設定します。

<例>「設定6」(●P41)または「設定7」(●P42)の例でスーパーOCN128 kbit/sを利用する場合、それぞれの設定に加えて次の設定を行ってください。

「詳細設定メニュー」の「ルータ設定」で[相手情報]をクリックし、「相手情報設定」画面の[ネットワーク情報一覧]から「ネットワーク情報設定」画面を表示します。

[WAN側IPアドレス]の設定で「設定する」を選択します。

契約のときにNTTコミュニケーションズより割り当てられたIPアドレスを入力します。

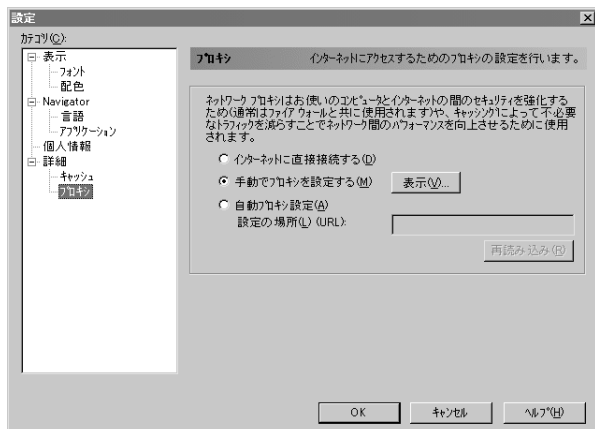
項目	設定
WAN側IPアドレス	設定する
相手IPアドレス	契約時に通知されたIPアドレスのうち、OCNルータWAN側のIPアドレス
自側IPアドレス	契約時に通知されたIPアドレスのうち、お客様ルータWAN側のIPアドレス

Question4 WWWブラウザの使用について

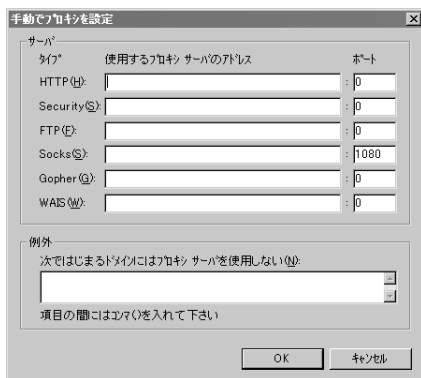
Q4-01. WWWのProxyサーバは、絶対使ってはいけないのですか？

A4-01. 本装置だけをProxyの対象から外す(no Proxy)ことで、ご利用いただけます。
 本装置の設定はWWWブラウザを利用します。WWWブラウザの設定CGIに情報を流し込む段階でProxyサーバを経由すると、入力値が正常に本装置のWWWサーバに伝わらないことがあります。この設定を安定的に行うために、WWWブラウザのProxyサーバ機能は必ず「使用しない」に設定してください。
 ただし、Proxyサーバ形態を利用し、処理の高速化を図りたい場合は、本装置のWWWサーバのみProxyの対象から外します。

- <例> Netscape Communicator version 4.0xJ の場合は、次のように設定してください。
 Netscape Communicatorのメニュー [編集] サブメニュー [設定] を選択します。
 「設定」画面が表示されます。
 [詳細] の **+** をクリックし、表示されたサブメニューから [プロキシ] をクリックします。
 プロキシ情報が表示されます。
 [手動でプロキシを設定する] にチェックを付けます。



- [表示] をクリックします。
 「手動でプロキシを設定」画面が表示されます。



- [次で始まるドメインにはプロキシを使用しない] に本装置のIPアドレスを入力します。
 [OK] をクリックします。
 以上で、設定は完了です。

Question5 パソコンについて

Q5-01. Mac、PC98、DOS/V機が混在している環境で利用できますか？

A5-01. • 有線LAN

IPで通信する限り、どんな機種が混在していても大丈夫です。

LANカード/ボードのインタフェースタイプには 10BASE-5/10BASE-2/10BASE-Tなどがあります。このいずれであっても問題ありませんが、最終的に本装置とは10BASE-Tケーブル(ストレート)で接続することになります。

なお、10BASE-5などから10BASE-Tに変換する場合は、MAU(Media Attachment Unit)を利用し、メディア変換してからご利用ください。

• ワイヤレスLAN

FT3000R-STが動作するパソコンのみです。

Question6 本装置がサポートする機能について

Q6-01. 複数台のパソコンから同時にインターネットにアクセスできますか？

A6-01. できます。

ISDN接続の場合は、かんたん設定(インターネットへISDN接続)で可能です。(●P34)

専用線接続の場合は、IPアドレスの割り当て台数よりも実際のパソコンの台数が多いか少ないかで設定が異なります。(●P41、42)

Q6-02. データ圧縮機能はついてますか？

A6-02. 次の圧縮方式をサポートしています。

• VJ (Van Jacobson) 圧縮

Q6-03. IP以外のプロトコル(例えば、IPX(NetWare))は利用できますか？

A6-03. 利用できません。

本装置はIPのみサポートしています。例えば、以下のプロトコルには対応していません。

• AppleTalk • IPX/SPX • FNA • SNA

Q6-04. 使用状況/稼働状況などが表示できますか？ また、その情報を外部に出力できますか？

A6-04. 「表示メニュー」を使って、次の情報を表示できます。

また、WWWブラウザの印刷機能でプリントすることができます。詳細は、WWWブラウザのヘルプなどをご覧ください。

回線接続状況 (●P124、135)	発着信/MP発着信/割り当てられたIPアドレスなど
課金情報 (●P136)	同時接続台数回線使用料金/最長接続先
IP統計情報 (●P137)	IP/TCP/UDP各プロトコルのパケット情報
チャネル統計情報 (●P138)	回線接続処理/回線接続失敗/話中の回数
回線ログ (●P139)	回線接続契機パケット/回線接続エラーの原因
システムログ (●P140)	回線の発着信ログ情報
ルーティング情報 (●P141)	ルーティングテーブル
現在時刻 (●P142)	本装置に設定された現在時刻
経過時間情報 (●P142)	本装置が起動してからの時間

Q6-05. セキュリティはどのように確保するのですか？

A6-05. 発信者番号チェック、CHAP/PAP、IPフィルタリング、NATなどの機能で確保します。

発信者番号チェック (●P90)	着信時に接続先のISDN番号が登録されているものかどうかを確認します。登録されていない場合は回線は接続されません。
CHAP/PAP (●P83、90)	回線接続のプロトコル(PPP)で、接続を制御するための認証方式です。
IPフィルタリング (●P96、101)	特定IPアドレスのみ透過(逆に遮断)し、必要のない通信を遮断することができます。
NAT (●P87、97)	本装置を介してプライベートとインターネット側のIPアドレスを変換して、外部からアクセスできなくすることができます

Q6-06. 本装置のLANには最大何台のパソコンが接続できますか？

A6-06. ネットワークのルールに従えば、何台でも接続できます。
 例えば、「192.168.1.0/255.255.255.0」のネットワークの場合、「192.168.1.1」～「192.168.1.254」の254台のうち、本装置の1台分を引いた253台までパソコンを接続できます。
 本装置のDHCPサーバ機能を利用した場合は、最大32台までIPアドレスなどの情報を自動的に割り当てられますので、33台以上端末がある場合は、33台目からIPアドレスなどの情報を個別に設定する必要があります。
 ただし、接続台数によりデータ転送速度が落ちる場合があります。

Q6-07. コールバック機能は、アナログ回線から利用できますか？

A6-07. できません。

Question7 NAT(マルチNAT)について

Q7-01. NAT機能を利用した場合、FTPが使えなくなるのですか？

A7-01. 本装置では、NAT機能を利用しても、FTPを使用できます。
 本来のNAT機能では、IP通信の要となるIPヘッダ(ハガキなどの住所/郵便番号)部分に書き込まれているプライベートアドレスをグローバルアドレス(またはその逆)に変換します。
 しかし、FTPの場合、パソコンがIPヘッダの上位層(ハガキでいうと文章)でプライベートアドレス(住所)を伝え、サーバは教えられた「プライベートアドレス」にデータを送信しますが、存在しない(あるいは存在してもサービスを望んでいない)ため、通信は失敗に終わります。
 そこで本装置のNAT機能は、FTP通信を見つけると上位層のプライベートアドレスをグローバルアドレスに書き換えて正しく通信できるようにしています。

Q7-02. NAT機能を利用した場合、UDPアプリケーション(StreamWorks等)は利用できますか？

A7-02. UDP通信はTCP通信と違い、コネクション確立を行わない通信です。このため、大量データ転送を送り込む動画転送アプリケーション(RealAudioなど)に利用されます。
 NAT機能を利用している場合、プライベートアドレスとグローバルアドレスが1対1に対応しないため、外部を起点とした通信は行えません。このため、動画などのサーバを通信起点としたUDPアプリケーションには本来対応できません。しかし、本装置のNAT機能は、回線接続後一定時間内(アドレス割当てタイマ)、かつ、回線切断前であればプライベートアドレスとグローバルアドレスが1対1対応しているため、StreamWorks、RealAudio、VDOLiveには対応しています。
 また、マルチNAT機能(「基本NAT」あるいは「静的NAT」)を利用することで、複数のパソコンが同時に外部接続し、UDPアプリケーションは特定の1台あるいは割り当てられているグローバルアドレスの数のパソコンで楽しむことができます。
 ただし、インターネットホンはご利用いただけません。実は、このアプリケーションもFTP同様、上位層でプライベートアドレスをサーバに送りつけているためです。FTPの場合、データのやりとりが公開されているので対応できますが、インターネットホンはアプリケーション間で互換性がない場合が多く、また、独自仕様の通信を行っているため対応できません。

[本装置のインターネットホンへの対応状況]

- Microsoft Netmeetingの音声/画像通信は利用不可(ただしチャットは可能)
- CU-SeeMeは利用可能

Q7-03. NATを使っている場合に、IPフィルタリングはどのタイミングで実行されるですか？

A7-03. プライベートアドレスを使って行われます。
つまり、LANからインターネット上に向かう場合は、NAT機能でアドレスが変更される前にフィルタリング対象であるかどうかをチェックします。
また、インターネットからLANに向かう場合は、NAT機能でアドレス変換されたあとでフィルタリング対象であるかどうかをチェックします。
どちらの場合でも、遮断処理の対象になったパケットは通信対象から外れますから、不要なパケットが流れて回線接続契機あるいは無通信監視タイマの対象から外れます。

Question8 ネットワーク構成について

Q8-01. TAからの着信はできますか？

A8-01. できます。
Proxy Arpを利用することで、本装置と同じセグメントのIPアドレスをTA(接続されたパソコン)に割り当てすることもできます。

Q8-02. PHS対応電話機からの着信はできますか？

A8-02. 対応しています。(●P49)

Q8-03. 複数のインターネットサービスプロバイダを利用することができますか？

A8-03. マルチルーティング機能を利用することにより利用できます。(●P59)

Question9 セキュリティについて

Q9-01. 発信元の電話番号を区別して着信許可/不許可することができますか?

A9-01. できます。

本装置には、発信者のISDN番号情報をチェックし、着信許可/不許可を制御する発信者番号チェック機能があります。発信者番号チェック機能は、「接続先情報設定」画面の[発信者番号識別による着信情報]で設定します。(●P90)

ただし、不特定相手着信を許可する設定になっている場合は、発信者番号チェック機能は動作しません。(●P98)

Q9-02. 発信専用にできますか?

A9-02. できます。

「詳細設定メニュー」の「ルータ設定」で[回線情報]をクリックし、「回線情報設定」画面の[ISDN情報]の「着信動作」の設定で「すべて禁止」を選択します。(●P78)

Q9-03. CHAPまたはPAPを行っていますか?

A9-03. 行っています。

本装置は2点間で回線を接続するためPPPというプロトコル(手順)で行われます。この処理の途中でCHAP/PAPという認証プロトコルを行っています。

本装置では認証処理は以下のようになっています。

- 発信時
- ・相手を認証する処理は行わない
 - ・相手が認証処理を行ってきた場合は、手順に従いIID/パスワードを送出する
- 着信時
- ・相手を認証する(認証を止めることも可能)
 - ・相手が認証処理を行ってきた場合は、手順に従いIID/パスワードを送出する

Q9-04. 特定のパソコンだけをインターネットに接続したくないのですが?

A9-04. 例えば、IPアドレスが「192.168.1.3」のパソコンから本装置を経由してインターネットへ接続できなくする場合は、「IPフィルタリング情報」画面で次のように設定してください。(●P96、101)

項目		設定値
動作		遮断
プロトコル		すべて(0)
送信元情報	IPアドレス	192.168.1.3
	アドレスマスク	255.255.255.255

特定のプロトコルと特定の接続先は、インターネット接続を許す場合、宛先情報やTCP接続情報を組み合わせて使用してください。

Q9-05. 特定のパソコンだけをインターネットに接続したいのですが？

A9-05. 「IPフィルタリング(詳細設定)」を行うことで実現可能です。
例えば、「192.168.1.0/24」のネットワークのIPアドレスが「192.168.1.3」のパソコンだけにアクセスを許す場合は、「IPフィルタリング情報」画面で次のように設定してください。(●P96、101)

[優先順位 1]

項目		設定値
動作		透過
プロトコル		すべて(0)
送信元情報	IPアドレス	192.168.1.3
	アドレスマスク	255.255.255.255

[優先順位 2]

項目		設定値
動作		遮断
プロトコル		すべて(0)
送信元情報	IPアドレス	192.168.1.0
	アドレスマスク	255.255.255.0

Q9-06. インターネットからLAN上のサーバにアクセスさせたくないのですが？

A9-06. NAT機能を利用することで、実現できます。
NAT機能は本装置を経由してインターネットにアクセスする段階で、元のIPアドレスを別のIPアドレスに振り替えてインターネット上のサーバと通信するための機能です。
パソコンのIPアドレス(プライベートアドレス)を異なるIPアドレス(といってもグローバルアドレス)に変換して通信するので、LANからインターネットに向かってアクセスできても、(IPアドレスの変換テーブルに変換情報がないため)インターネットからLANに向かってアクセスできません。(●P75)
IPフィルタリング機能を使って条件を細かく設定しなくても、インターネットからのアクセスを防ぐことができます。

Question10 その他

Q10-01. 「端末型接続」と「ネットワーク型接続」の違いは何ですか？

A10-01. IPアドレスの割り当て方が違います。

【端末型接続契約】

- TA(モデム)+PC(1台)が接続する契約です
- ダイヤルアップ契約などという場合もあります
- アクセスポイントに接続するごとにIPアドレスが動的に割り当てられます。このため、事前にIPアドレスをパソコンに設定する必要はありません

【ネットワーク型接続契約】

- LANを単位として接続する契約です
- LAN型接続契約などという場合もあります
- DHCPサーバ機能を使用しない場合、事前にIPアドレスを各パソコンに設定しておく必要があります。本装置の場合、パソコン1台しか接続できない端末型接続であっても、NAT機能を用いることでLANごとインターネットに接続することができます(ただし、接続先のインターネットサービスプロバイダがNAT機能の使用を禁止している場合は、利用できません)

Q10-02. WWWブラウザの使用を終了すると回線は自動的に切断されますか？

A10-02. WWWブラウザの使用を終了しただけでは、回線は切断されません。

自動切断機能は、無通信監視タイマで設定されている時間、ISDN回線上にデータがひとつも流れなかったとき、はじめて回線切断処理を行います。このため、WWWブラウザなどのアプリケーションの終了と同時に回線は切断されません。

ただし、本装置の「操作メニュー」で回線手動切断処理を行うと適宜、回線を切断することができます。(●P128)

また、「かんたん操作」の[強制切断]をクリックすると、すべての接続先に切断要求を発行します。(●P124)

Q10-03. 非同期ISDNに対応していますか？

A10-03. 対応していません。

本装置はISDN同期64 kbit/sのみのサポートです。もし、本装置にTAにつながったパソコンを接続させる場合、必ず同期通信できるTAをご利用ください。

Q10-04. 本装置を使用し、社内LAN(イントラネット)経由でインターネットへアクセスはできますか？

A10-04. できます。

社内LANからインターネットへアクセスできるしくみがあれば、ISDN回線経由で社内LANに接続し、そのままインターネットにアクセスできます。

Q10-05. Proxyサーバは使えますか？

A10-05. お使いになれます。

設定方法は、お使いのWWWブラウザごとに異なりますが、同じ設定項目の中に「no Proxy」や「Proxyサーバを使わない」などの項目に本装置のIPアドレスを設定し、本装置のみProxyサーバを使わない設定にしてください。詳しくは、WWWブラウザのヘルプなどをご覧ください。

Q10-06. DHCPサーバを動かしていますが、問題ありませんか？

A10-06. 本装置のDHCPサーバ機能を使わない設定にしていれば問題ありません。

Q10-07. 本装置を利用するにはどんなパソコンが必要ですか？

- A10-07. 次の条件が揃っていれば、ご利用になれます。
- Network Interface Card(NIC)のEthernetアダプタを持っている
 - IPプロトコルをサポートしている

Q10-08. 回線接続時、DNSサーバに指定した接続先と異なるところに接続されるのですが？

- A10-08. すでに接続先のIPアドレスがかわっています。
通常、DNSサーバにホスト名(ced. nttca. com)のIPアドレスを問い合わせるために、回線が接続されますが、このときの回線接続先はDNSサーバに指定したところ (IPアドレス) になります。
その後、その回線を利用したまま通信が行われますが、一度ホスト名とIPアドレスの対応がキャッシュなどに構成されると、回線を接続して検索する必要がなくなるため、IPルーティングで接続先を決定します。このため、DNSサーバで指定された接続先以外の回線に接続されてしまいます。

Q10-09. インターネットサービスプロバイダとの接続を128 kbit/sで使用中に、パソコン通信を行えますか？

- A10-09. できません。
アナログ発着信については縮退することでチャンネル利用の切り替えができますが、データ通信 (パソコン通信) についてはその契機での縮退は行われず、チャンネル利用の切り替えはできません。

Q10-10. バージョンアップに失敗し、LEDランプが点滅しているのですが？

- A10-10. 電源のOFF、ONを行い、正常動作すれば問題ありません。
正常動作しない場合は、装置交換が必要となります。

Question11 疑似TAについて

Q11-01. 疑似TA機能ってなに？

- A11-01. FT3000R-APでTAと同じように通信する機能です。Windows[®] 98のダイヤルアップネットワークの仮想プライベートネットワークの機能を使って、TAを使ったPPP接続と同等の通信を行う機能です。

Q11-02. TAとはなにが違うの？

- A11-02. いろいろ違います。
まず、接続方法が違います。
TAの場合には、一般的にはパソコンのシリアルポートをシリアルケーブルを使って接続します。疑似TA機能は、パソコンのLANポートとFT3000R-APの10BASE-Tポートを10BASE-Tケーブルを使って接続します。
このため、TAはシリアルケーブルで接続した1台のパソコンからしか使えませんが、疑似TAはLANに接続されていますので、LAN上のどのパソコンからでも使うことができます。
また、TAを利用する場合にはシリアルポートの速度によってはISDNの性能を生かしきれない場合がありますが、疑似TAの場合にはパソコンとFT3000R-APの間を10 Mbit/sまたは2 Mbit/sのLANで接続しますから、ISDNの性能を生かしることができます。
いくつか、TAなら可能なことでも疑似TAで不可能なことがありますので注意してください。
- パケット通信はできません。
 - 着信やコールバックはできません。
 - MP通信はできません。
 - 専用線では使えません。
 - 非同期通信はできません。
 - RVS-COMは使えません。
 - ATコマンドの操作はできません。

Q11-03. どんな環境で利用できるの？

A11-03. Windows[®] 98のみで利用できます。

Q11-04. どうやって使うの？

A11-04. TAやモデムでの接続と同じように使います。(●P150)
接続をする場合には、ダイヤルアップネットワークから接続アイコンを選んで接続します。
切断をする場合には、接続ウィンドウから「切断」を選んで切断します。
TAやモデムでの接続と同じです。

Q11-05. どういうときに使うの？

A11-05. NATを利用すると不都合がある場合や、IP以外のプロトコルを利用する場合にお使いください。
プロバイダと端末型ダイヤルアップ契約では、FT3000R-APでNATを使わないと通信できませんが、NATを使ってしまうと通信できないアプリケーションもいくつか存在します。
また、FT3000R-APはIPルータですので、IP以外のプロトコルは利用できません。例えばIPXやNetBEUIなどは利用できません。
疑似TAは通常のTAと同等の通信を提供しますから、NATは使われませんし、Windowsがサポートしているプロトコルであればどのプロトコルでも通信可能です。

Q11-06. 疑似TA機能には、無通信監視機能はありますか？

A11-06. FT3000R-APの疑似TA機能は無通信監視は行いません。
Windows[®] 98の機能を使えばできます。

ワイヤレスLAN機能

Question12 本装置がサポートする機能について

Q12-01. どのメーカーの無線LANカードでも使えますか？

A12-01. 当社のFT3000R-STだけです。

Q12-02. IP以外のプロトコルは利用できますか？

A12-02. 利用できません。
本装置のワイヤレスLAN機能では、IPのみをサポートしています。

Q12-03. 複数台のパソコンからワイヤレスLANを同時に使用できますか？

A12-03. できます。

Q12-04. 無線のスピードは？

A12-04. 最大2 Mbit/sです。
無線のスピードは2 Mbit/sと1 Mbit/sを自動で切り替えます。

Q12-05. 10BASE-Tポートに接続されているパソコンとファイルの共有はできますか？

A12-05. できます。

Question13 本装置の設置について

Q13-01. お勧めの設置場所はありますか？

A13-01. お使いになるパソコンから見通しのできる場所で、電波障害となるような障害物がない場所です。

Q13-02. FT3000R-STを増設してワイヤレスLANを使うエリアの拡大はできますか？

A13-02. できます。
FT3000R-APを既存のLANと10BASE-Tケーブルで接続します。

Q13-03. 無線で通信できる範囲は、目安としてどれくらいですか？

A13-03. 屋外で見通しのできる環境で本装置から約100mです。
ご利用の環境で、通信距離は変わります。

Question14 パソコンについて

Q14-01. FT3000R-STに対応しているパソコンにはどのような機種がありますか？

A14-01. PCMCIA2.1以降のPCカードスロットを持つ、Windows[®]98/95の動作をするAT互換(DOS/V)機またはPC98NXシリーズです。

Q14-02. 有線のLANカードと同時に使えますか？

A14-02. Windows[®]98/95では、LANカードは同時に使用できません。

Question15 セキュリティについて

Q15-01. FT3000R-STを購入すると、だれでも本装置につなげることができますか？

A15-01. つながりません。
ご利用時には必ずESSIDの変更や、接続するパソコンのMACアドレスの指定を行い、セキュリティを高めてください。

Q15-02. 購入したときに入れるESSIDとは何を入れれば良いのですか？

A15-02. あらかじめ本装置の「FT3000R」の文字が登録されています。
ご利用時には必ずESSIDを変更してください。

Q15-03. 指定したパソコンだけワイヤレスLANをつなげるには？

A15-03. できます。
本装置の「セキュリティ情報設定画面」(●P192)で通信できる端末を指定してください。

Question16 その他

Q16-01. 本装置のワイヤレスLANには最大何台のパソコンが接続できますか？

A16-01. 最大64台です。

Q16-02. 通信圏外になったら？

A16-02. 「圏外」になるとFT3000R-STのLEDが「RDY：点灯、RX：点灯、TX：消灯」します。

Q16-03. 停電のときは、ワイヤレスLANを使用できますか？

A16-03. ご利用できません。

Q16-04. インターネットに接続中に、LAN上のパソコンにアクセスできますか？

A16-04. できます。

アナログ機能

Question17 本装置の各種インタフェースについて

Q17-01. 本装置を設定する前に、TELポートに電話機を接続して使用できますか？

A17-01. お使いになれます。

ただし、ダイヤルインをご契約の場合やファクスをご利用になる場合、「詳細設定」では「アナログポート1/2情報」画面（●P118）で設定してください。

Q17-02. これまで使っていた電話番号を電話に、追加番号をファクスに割り当てることができますか？

A17-02. できます。

アナログ回線からISDN回線に変更するときに「同番移行」が可能地域であれば、現在お使いの電話番号をそのまま利用することもできます。

Q17-03. 本装置は停電中でも電話は使えますか？

A17-03. 次の場合に使うことができます。

本装置に乾電池が装着されている場合（●P151）

		TEL1	TEL2
通話中に停電			現在の通話の間のみ可能
停電中	発信		×
	着信		×

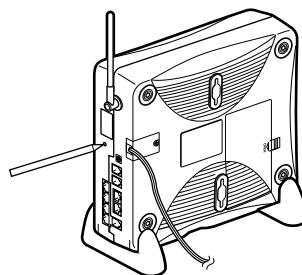
お買い求め時の設定に戻すには / 付属品・オプションをご利用になるには

本装置をお買い求め時の設定（初期値）に戻すことができます。本装置のIPアドレスもお買い求め時の設定に戻ります。

お買い求め時の設定に戻す

以下の場合、リセット/イニシャルスイッチを押しても初期化は行えません。
 ・ファームウェア更新をしているとき（▶P146）

- 1 本装置背面のリセット/イニシャルスイッチを先の細い棒やペンなどで、10秒以上押し続けます。



リセット/イニシャルスイッチを押してから10秒経過すると、ブザーが鳴り、自動的にお買い求め時の設定に戻ります。

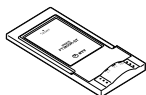


お知らせ

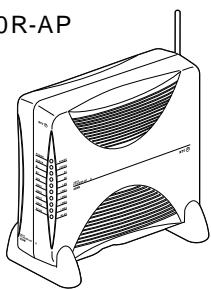
リセット/イニシャルスイッチを押す時間が10秒未満の場合、再起動するだけで構成定義情報はクリアされません。

オプション

ワイヤレスLANカード（オプション）
FT3000R-ST



ワイヤレスLANダイヤルアップルータ（オプション）
FT3000R-AP



お知らせ

あらかじめ、取り付ける場所でワイヤレス通信ができるか確認してください。

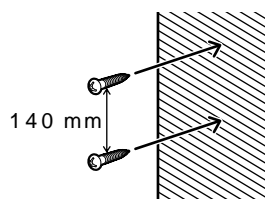
注意

ご使用になる前に、確実に取り付けられているか確認してください。薄いベニヤ板や軟らかい壁などに取り付けると、重みでネジが抜けて本装置が落下し、故障やけがの原因となることがあります。

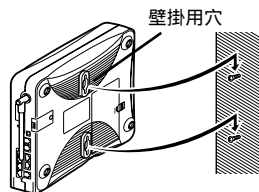
本装置を壁に取り付ける

付属品の壁掛け木ネジをご利用になると、本装置を壁にかけてお使いいただけます。

- 1 取り付け位置を合わせ壁掛木ネジを壁に取り付ける。



- 2 本装置を壁に取り付ける

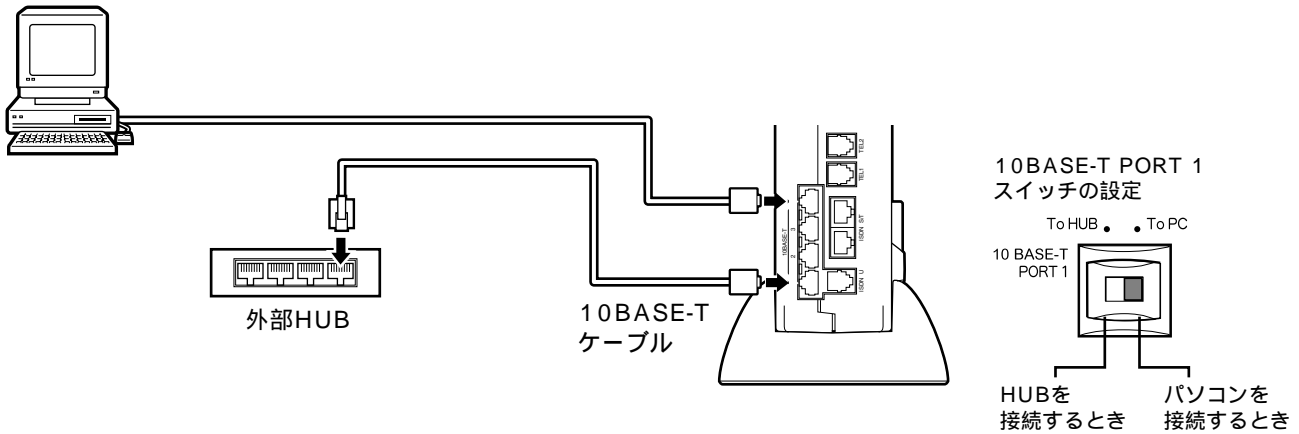


本装置を壁に取り付ける際、上下の矢印の位置にネジを取り付けてください。（140 mm）

10BASE-Tポートに関する補足事項

本装置の10BASE-Tポート1は、外部HUB接続とパソコン接続のどちらにも対応します。10BASE-T PORT1スイッチを切り替えてください。(P26)

本装置の10BASE-Tポート2~4はパソコン接続用です。10BASE-Tポート2~4と外部HUBとを接続する必要がある場合は、外部HUBのカスケードポートに接続してください。HUBの設定についてはHUBの取扱説明書に従って行ってください。

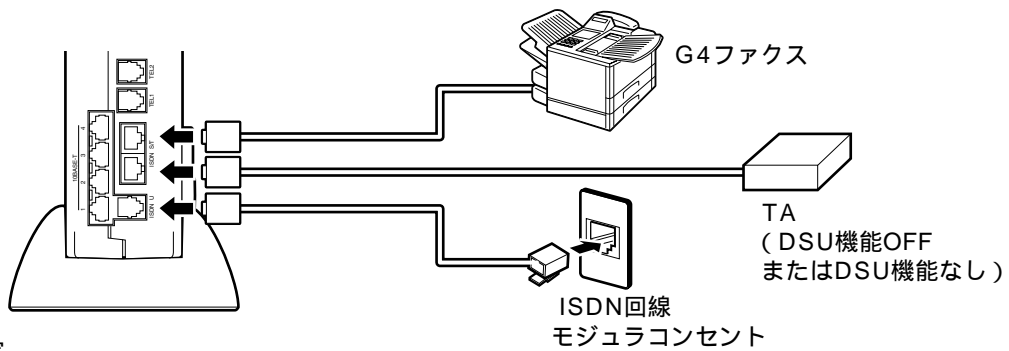


お知らせ

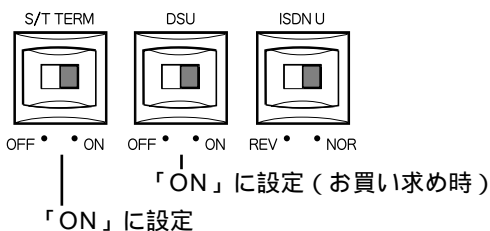
HUBには、外部HUB接続用の切替スイッチ（カスケードスイッチ）を備えているものがあります。

本装置のDSUを使用してISDN機器を接続する

ISDN機器を、本装置のS/Tポートに接続する場合
スイッチはお買い求め時の設定のまま変更する必要はありません。



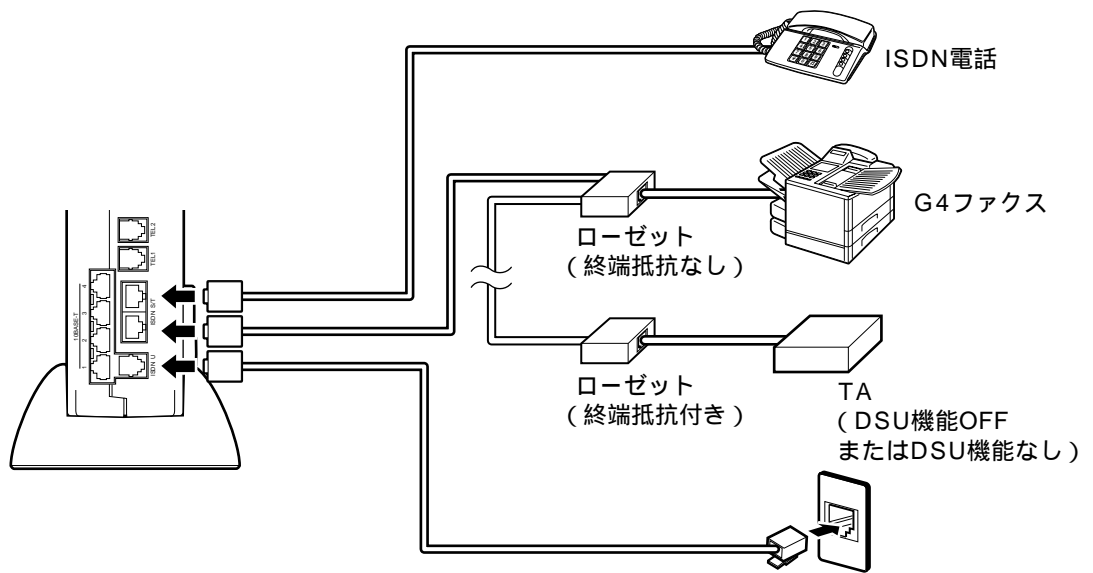
各種スイッチの設定



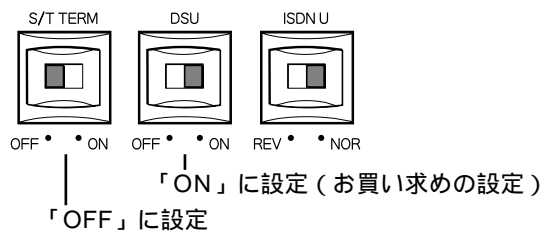
機器の接続

ISDN機器をバス接続する場合（最大7台）

下図のようにバス配線し、本装置の終端抵抗を無効とし、バス配線上の最後尾に位置するローゼットに終端抵抗を備えてください。



各種スイッチの設定

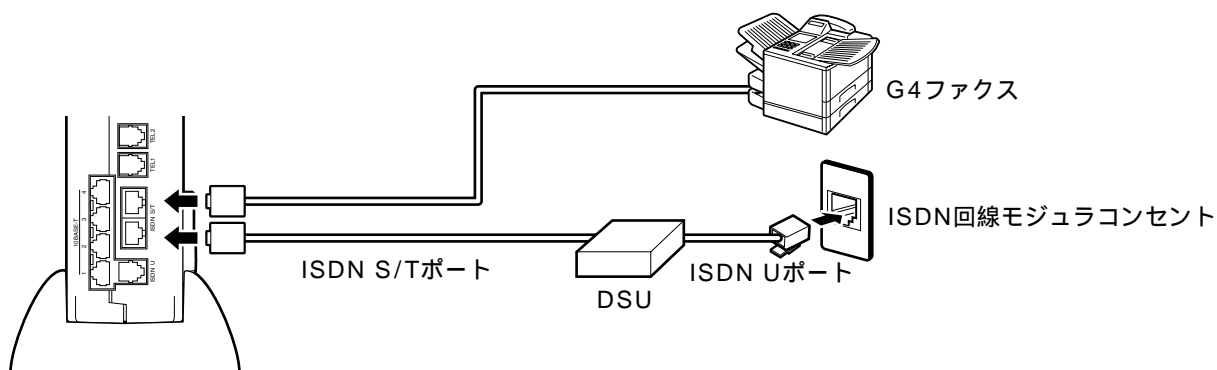
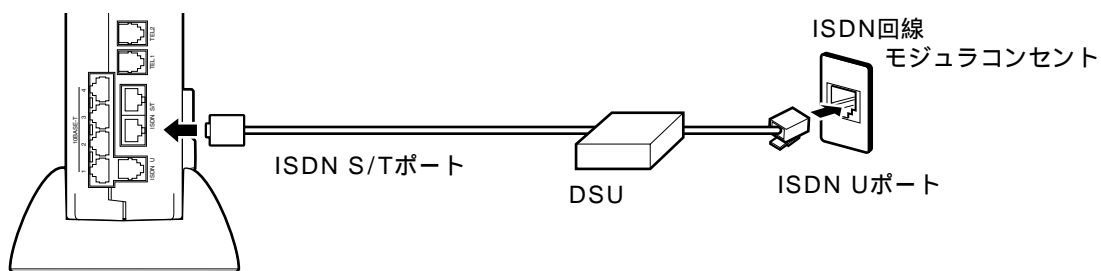


本装置を既設のDSUに接続する

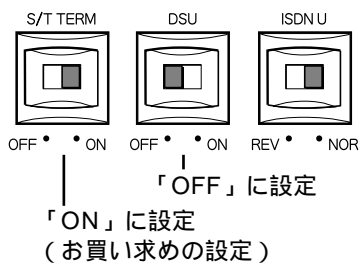
ISDN機器を、本装置のS/Tポートに接続する場合

本装置の内蔵DSUを無効とし、下図のように既存DSUへ接続することができます。

本装置にISDN機器を接続しない、もしくは本装置のS/Tポートに接続する場合、本装置の終端抵抗を有効にしてください。



各種スイッチの設定



注意

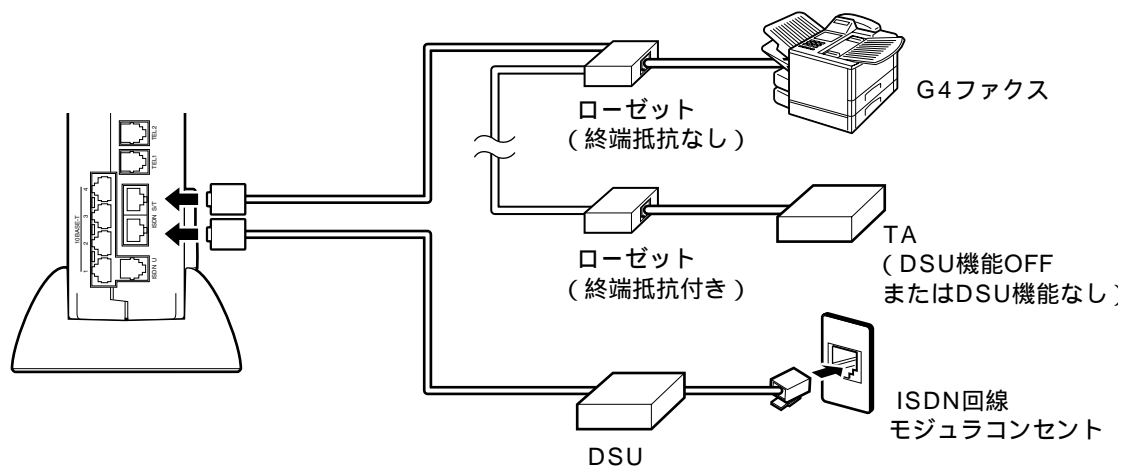
DSUには終端抵抗を備えたTAと一体型の製品があります。その場合の終端抵抗の設定はDSU側取扱説明書の指示に従ってください。

機器の接続

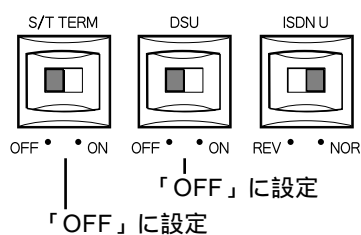
ISDN機器をバス接続する場合（最大7台）

本装置の内蔵DSUを無効とし、下図のように既存DSUへ接続することができます。

下図のようにバス配線し、本装置の終端抵抗を無効とし、バス配線上の最後尾に位置するローゼットに終端抵抗を備えてください。



各種スイッチの設定



バス配線上の最後尾に位置するローゼットに有効となる終端抵抗を備えてください。
バス配線される以外もう片方の本装置のISDN S/Tポートは使用しないでください。

本装置に添付されているCD-ROMの内容を示します。下記ソフトウェアをご使用になる場合は、ソフトウェアの使用許諾事項をお読みになり、記載されている内容に同意の上、お客様の責任においてご使用ください。

添付CD-ROMのフォルダ構成について

Manual・・・電子取扱説明書が入っています。

Acrobat 4・・・電子取扱説明書を閲覧するのに必要なソフトが入っています。

電子取扱説明書（PDFファイル）

IPMATE FT3000R-AP 事前準備

IPMATE FT3000R-AP 取扱説明書

IPMATE FT3000R-ST 取扱説明書

取扱説明書閲覧用ソフトウェア

Adobe® Acrobat® Reader 4.0 Windows版 / Macintosh版

自己解凍ファイルになっています。

添付CD-ROMの使い方

Windows®をお使いの方

CD-ROMをドライブに挿入すると、自動的に本CD-ROMの案内ページが表示されます。

案内ページが表示されない場合は、CD-ROMの「ft3000rwin.exe」を実行してください。

Windows®の設定により、「.exe」が表示されない場合があります。

Macintoshをお使いの方

CD-ROMをドライブに挿入して、CD-ROMの「ft3000rmac」を実行してください。

添付CD-ROMの動作環境

Windows®動作環境

- ・Windows® 98/95、WindowsNT® 4.0ServicePack3以降が正しく動作し、CD-ROMドライブが使用できること
- ・メモリ：Windows® 98/95 16MB以上のRAM、WindowsNT® 4.0 32MB以上のRAM
- ・ハードディスク：15MB以上の空き容量

Macintosh動作環境

- ・漢字Talk7.5.3以降が正しく動作しCD-ROMドライブが使用できること
- ・メモリ：4.5MB以上のアプリケーションメモリ（6.5MB推奨）
- ・ハードディスク：15MB以上の空き容量

注意事項

- ・添付のCD-ROMは著作権上の保護を受けています。
- ・添付のCD-ROMの一部または全部をバックアップ以外の目的でいかなる方法においても無断で複製することは法律で禁じられています。
- ・添付のCD-ROMに収録されているソフトウェアの著作権は、それぞれのメーカー、著作権者にあります。
- ・添付のCD-ROMを使用し、どのようなトラブルが発生した場合であっても当社は一切責任を負いません。利用は個人の責任において行ってください。
- ・Windows、WindowsNTは米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標です。
- ・AdobeおよびAcrobatはアドビシステムズ社の商標です。
- ・その他、各会社名、各製品名は各社の商標及び登録商標です。

アルファベット

BOD機能

(Bandwidth On Demand) …… データ量(トラフィック)に応じて帯域幅(1B、2Bチャネル)を自動的にコントロールする機能です。(●P86、99)

DA64/DA128

(デジタル・アクセス64/128) …… 当社が提供する高速デジタル専用線サービスです。詳細については、局番なしの116番または当社の営業所等へお問い合わせください。

DHCP

(Dynamic Host Configuration

Protocol) ……

端末装置に対して、動的にIPアドレスやネットマスクなどのネットワーク構成情報を割り当てるための機能です。本装置にはDHCPのサーバ機能があるので、DHCPクライアントを持っているパソコンに対して自動的にアドレスを割り当てることができます。

DHCP機能を利用すると、複雑なネットワーク設定(IPアドレスやゲートウェイアドレス等)をDHCPクライアントが動作する各パソコンに対して行うので、ネットワーク環境が変化した場合でも、管理元(DHCPサーバ)の設定を変更することで各パソコン(DHCPクライアント)の設定も変更することができます。本装置では最大32台のパソコンに対してIPアドレスなどの情報を通知できます。

DHCPクライアントプログラムを搭載したOSとしてWindows[®] 98/95、Windows NT[®] 4.0、UNIX(の一部)があります。利用方法や設定方法などは各OSに添付の説明書等を参考にしてください。Windows[®] 98/95ではLANカード/ボードを搭載した直後であれば自動的に動作します。

DHCPサーバ機能 …… DHCPサーバ機能は、DHCPクライアントに対してIPアドレスの自動割り当てを行います。

設定により、以下の情報の広報も行えます。(●P81)

- IPアドレス
- サブネットマスク
- デフォルトルータのIPアドレス
- DNSサーバのIPアドレス
- ドメイン名

DNS

(Domain Name Service) …… ホスト名(あるいは端末名)とIPアドレスを管理したデータベースです。DNSにアクセスすることによって、登録されている世界中の情報が取り出すことができます。例えば、WWWや電子メールで表記されるホスト名は、このデータベースによりIPアドレスに変換されます。WWWブラウザ等のアプリケーションは、DNSによって検索された結果(IPアドレス)を利用して通信できるようになります。

DSU …… 本装置やISDN対応電話などのデジタル通信機器が送受信するデジタル信号と、当社が提供する回線に適したデジタル信号との変換を行う装置です。当社の電話回線とデジタル通信機器の間に接続します。本装置には、DSUは内蔵されています。

ESSID …… 本装置とFT3000R-STを無線接続認証する際に、利用する認証用コードです。本装置とFT3000R-STを挿入したパソコンのESSIDが同じ物以外は無線接続できません。

FH-SS

(周波数ホッピング)

スペクトラム拡散).....雑音や妨害に強く、安定性や秘匿性に優れた無線通信方式です。

FT3000R-STパソコンに挿入する本装置用のワイヤレスLANカードです。

HSD高速デジタル専用線のことで、特定の地点間を専用線で接続し、トラフィック量に関係なく定額で利用できる通信サービスです。

HUB10BASE-Tケーブル(ストレート)を用いたLANを構築する際に使用する接続装置です。

INSキャッチホン当社が提供するサービスのひとつです。利用の際は当社との利用契約(有料)が必要です。通話中に電話を着信した場合、いったん通話を保留にして、あとからかけてきた相手の方と話すことができます。

IP通信プロトコルの一種。インターネットでも使用されています。

IPアドレスIPプロトコルを用いて通信を行う際に接続されたそれぞれの機器を判断するために与えられている識別子です。通常は、ピリオドを挟んだ4つの数字(0~255)で表します。

次のように表します。

xxx.xxx.xxx.xxx (xxxは0から255の10進数)

ISDN1988年に当社が開始した総合デジタル通信網サービスです。本装置がサポートしているINSネット64は基本インタフェースとも呼ばれ、Bチャンネル(64 kbit/s)2本とDチャンネル(16 kbit/s)1本が提供されます。

MP(マルチリンクプロトコル)機能MP(マルチリンクプロトコル)は複数の回線を束ね、回線速度を高速化する技術です。

例えば、ISDN回線(1B、2Bチャンネル)を束ねて1本の128 kbit/s回線に見立てる機能です。回線の通信状況に合わせてMPは空き回線を利用し、複数回線(ISDNの場合、2本)を1本の回線に見立てて回線速度を高速化し、通信状態を良くするプロトコルです。

MP(マルチリンクプロトコル)で束ねる回線数は機種(回線収容数)によって異なりますが、本装置の場合、ISDNを一本収容できますので、64 kbit/sの回線を2本を1本に見立てて128 kbit/sの回線速度を作り出します。回線使用料金は、2本分になります。

MP(マルチリンクプロトコル)を使用するためには、「かんたん設定」(「インターネットへISDN接続」等)または「詳細設定」(「ネットワーク情報設定」等)で各項目の設定を行います。ただし、接続先がMP(マルチリンクプロトコル)をサポートしていない場合や、MP機能のサービスを提供していない場合は、ご利用になれません。

98年2月現在、本装置のMP(マルチリンクプロトコル)は通信状態に関わらず、回線が空いていれば必ず2本を束ねますので、2本を束ねる必要がない場合は、必ずMP(マルチリンクプロトコル)を使用しない設定にしてください。

NAT

(Network Address Translation)アドレス変換機能ともいいます。NATは、プライベートアドレス(社内LAN等のプライベートネットワークだけで利用できるIPアドレス)とグローバルアドレス(インターネット接続時に利用するアドレス)を変換する機能です。この機能を使うと、プライベートアドレスが自動的にグローバルアドレスに変更され、インターネットに接続できます。本装置ではNAT機能を拡張したマルチNATもサポートしています。(P47)

OCN

(オープン・コンピュータ・ネットワーク)・・・NTTコミュニケーションズが提供するインターネット接続サービスです。ダイヤルアクセス接続サービスと専用線接続サービスがあります。

OCNエコノミー・・・・・・・・・・・・・NTTコミュニケーションズの提供するOCNサービスのひとつです。128 kbit/sの専用アクセスラインによるインターネット接続サービスです。

ProxyDNS・・・・・・・・・・・・・相手先ごとに対応するDNSサーバのIPアドレスを自動的に切り換えるサービスです。本装置に接続先ごとのDNSサーバのIPアドレスを設定し、パソコン側のDNSサーバ設定項目に本装置のIPアドレスを設定することにより、自動的にDNSサーバの切り替えが行われます。接続先の切り替えのたびにパソコン側の情報を更新する必要がなくなります。「ProxyDNS情報」画面(●P106)で、[順引き情報一覧]または[逆引き情報一覧]の[修正]または[追加]ボタンをクリックして設定を行ってください。(●P107、108)

RIP

(Routing Information Protocol)・・・RIPとは、TCP/IPネットワークで最も広範囲にわたって利用できるルーティングプロトコルです。定期的にルーティング情報をブロードキャストし、受信した情報に基づいて新しい経路を構築していくものです。ルーティング情報にはホップ数(IPルータ経由数)を含み、送信経路として最小ホップ数で到達する経路を選択します。RIPバージョン2(RIP V2)では情報としてネットマスクも含まれます。

syslogサーバ・・・・・・・・・・・・・システム情報の記録を行うシステムまたはソフトウェアです。

URLフィルタ・・・・・・・・・・・・・あらかじめ設定した特定のURLへのアクセスを禁止する機能です。本機能の設定は、「ProxyDNS情報設定(順引き)」画面(●P107)で行います。

WWWブラウザ・・・・・・・・・・・・・HTTPプロトコルを用いて取得した文字や画像などを表示するためのプロトコルです。Netscape NavigatorやMicrosoft Internet Explorerなどがあります。本装置の設定時に使用する場合は、次のWWWブラウザをご用意ください。

- Netscape Communicator Version 4.0以降/Netscape Navigator Version 3.0以降
- Microsoft Internet Explorer Version 3.0以降

五十音

【ア行】

アイコン・・・・・・・・・・・・・WWWブラウザを使用してルータ機能を設定する際、画面上部のフレームに表示されるボタンです。本装置の操作は、まずアイコンをクリックしてから各メニューの項目を選択して行います。

アクセスポイント機能・・・・・・・・・・・・・ワイヤレスLANと有線LANを接続する機能です。

アドホックモード・・・・・・・・・・・・・本装置を介さずに、FT3000R-STを挿入したパソコン同士で、ワイヤレスLANを構築する機能です。アドホックモードでは1 Mbit/sの通信速度になります。

アドレス変換機能

(マルチNAT)・・・・・・・・・・・・・端末型接続およびネットワーク型(LAN型)接続において、グローバルアドレスとプライベートアドレスの変換を行う機能です。LAN側のプライベートアドレスとインターネットサービスプロバイダから割り当てられたグローバルアドレスを1対1に変換する基本機能と、IPアドレスとポート番号を組合せて変換し、同時に複数のパソコンを接続可能とする

マルチNAT機能があります。ただし、同時に利用できるのは256セッションまでです。

なお、アドレス変換は以下のタイミングで終了します。

- 回線が切断されたとき
- アドレス割当てタイマで設定した時間、通信が行われなかったとき

アドレスマスク……………IPアドレスを持ったパソコン、ホスト、サーバなどのネットワークに接続されている装置のグループを表現するときに使用します。例えばアドレスマスクは、あるネットワーク内の端末全部をまとめて表現したいときなどに便利な書き方です。アドレスマスクには、ネットワーク全体を示すためのネットマスクと、ローカルなネットワーク(サブネット)を示すサブネットマスクなどがあります。また、ネットワークの形態とは無関係にIPアドレスn番からn+m番までの端末を指す場合にも使われます。(ここでnとmは2のべき乗の値になります。)

これらマスク値は「24」などと書き、32bitのIPアドレスの最初の24bit分がマスク値であることを示します。また「255.255.255.0」などのようにドット表記で表現する場合もあります。

例えば、「192.168.2.0」のネットワーク番号はClass Cですから、ネットマスク値は「24(255.255.255.0)」です。

ここでサブネットマスクとして「26(255.255.255.192)」を指定すれば、

- 「192.168.2.0～192.168.2.63」
- 「192.168.2.64～192.168.2.127」
- 「192.168.2.128～192.168.2.191」
- 「192.168.2.192～192.168.2.255」

の4つのサブネットワークが作られます。

さらにここで、 のサブネット内の端末のうち、「192.168.2.192～192.168.2.207」のIPアドレスのIPアドレスを持った16台の端末グループを表現したい場合には、アドレスマスク「192.168.2.192/28(255.255.255.240)」と指定します。

(なお、ネットマスクとサブネットマスクは明確な区別なしに使われることもあります。)

アドレス割当てタイマ……………アドレス変換機能(マルチNAT)の有効となる時間です。(●P87)

インフラモード……………本装置を経由して、ワイヤレスLANと有線LANを同一のLANとして運用する機能です。

【力行】

回線インタフェース……………

- ISDN : INSネット64を示します。
- HSD(64 kbit/s) : DA64などの高速デジタル専用線を示します。
- HSD(128 kbit/s) : DA128やOCNエコノミーなどの高速デジタル専用線を示します。

かんたん設定……………「かんたん設定」(●P65)では、通常よく使われる形態の5つのメニューがあります。「ルータ設定」、「アナログ設定」と「ワイヤレスLAN設定」の3つがあり、「ルータ設定」ではデータ通信の設定、「アナログ設定」では基本的なアナログ通信機器の設定を行うことができます。なお、「かんたん設定」では設定できない情報に省略値が使用されます。(●P71)

かんたん操作……………最もよく利用される操作をまとめたもので、初期画面(トップページ)に表示されます。接続中の回線の確認/強制切断、テレホーダイ機能の開始/終了をワンクリックで行うことができます。

かんたんフィルタ……………「かんたん設定（インターネットへISDN接続）」の[オプション設定]で、「かんたんフィルタ」を「使用する」に設定すると、Windows[®] 98/95やWindows NT[®] 4.0をお使いの場合で、Microsoft Networkをご利用のときに、お客様の設定により定期的に自動発信してしまうという問題を回避するためのIPフィルタ設定を自動的に行うことができます。（●P66）

【サ行】

サブネットマスク……………サブネットマスクは以下の形式です。
xxx.xxx.xxx.xxx（xxxは0～255の10進数）
この設定が省略されるとクラスに従った値に設定されます。

システムログ機能……………syslog形式でシステムログ（syslog）サーバにシステム情報を転送する機能です。（●P140）

詳細設定……………「詳細設定」は、「かんたん設定」で設定した内容を変更する場合や、「かんたん設定」を行わずに最初から細かく指定したい場合に行います。（●P76）

静的NAT機能……………マルチNAT機能を使用する場合に、グローバルアドレス/ポート番号とプライベートアドレス/ポート番号を固定で交換する機能です。（●P97）

ソースアドレスルーティング機能……………マルチルーティングの機能のひとつで、パソコンのIPアドレスごとに接続先を替えることができます。例えば、パソコンが複数台あり、それぞれ別のインターネットサービスプロバイダに接続したい場合に便利です。

【タ行】

ターミナルアダプタ（TA）……………INSネットや高速デジタル専用線に対応するインタフェースを持たないパソコンやアナログ通信機器などを接続するための装置です。

データ圧縮機能……………送受信するデータの圧縮を行う機能です。データ圧縮のアルゴリズムは、Stac LZSとVJ Header Compressをサポートします。（●P68、69、86、98）

タイムサーバ……………TIMEプロトコル（RFC868）/SNTP（RFC2030）の記述によるネットワーク上への時刻情報の配布（timeサービス）を行うシステムまたはソフトウェアです。

テレホーダイ……………当社が提供する「INSテレホーダイ」サービスです。毎月一定額の料金で、ISDN回線をご利用の場合にあらかじめ指定した特定の電話番号への通信料金が、特定時間帯（午後11時から翌午前8時の間）に限り、通信回数や通信時間に関わらず定額となる月極の通信料金引きサービスです。詳しくは、局番なしの116番または当社の営業所等へお問い合わせください。

テレホーダイ機能……………テレホーダイサービスをご利用時に効果のある機能です。無通信監視タイマを一定時間停止し、回線接続保持タイマで設定されている時間内は回線を切断しないようにする機能です。（●P125、132）

【ナ行】

認証……………外部からの不正なアクセスを防ぐために、アクセスの権利がある相手かどうかをチェックする機能です。（●P53）
例えば、銀行のキャッシュカードをCD機に挿入したとき、入力した4桁の数字（暗号）と登録されている暗証番号が正しい場合だけ預貯金を操作できるしくみになっています。これと同じことがネットワークの世界でも行われています。

認証プロトコル……………PPPの認証プロトコル(PAP/CHAP等)です。

ネットワークインタフェース……………IPルーティングを行うための論理インタフェースです。それぞれにIPアドレスを割り振ることができ、本装置はそのアドレスを用いて通信を行います。

【ハ行】

フィルタリング動作……………「ネットワーク情報設定」画面の[IPフィルタリング情報一覧]に表示されている優先順位が高い定義から順にパケットのチェックを行い、すべての条件が合致した場合に限り定義された動作を行います。(●P87、96)

ポートルーティング機能……………ポート番号によるルーティングを行う機能です。ポート番号(サービス)ごとにパケットを送信する接続先を定義できます。(●P92)

ホストデータベース情報……………「ホストデータベース情報設定」画面で、ホスト名、IPアドレス、MACアドレスを組み合わせでホストデータベース情報として設定します。本設定を行うと、設定済みのMACアドレスを持つパソコンには、常に固定のIPアドレスが配布されます。このため、NATのスタティック定義やIPフィルタをご利用の場合や、外部からアクセスされるサーバをLAN内に設置する場合に、すべてのパソコンを本装置のDHCPサーバ機能で管理することができます。また同一LAN上のパソコン電源ON/OFFを操作(リモートパワーオン機能)できたり、不要なDNS問い合わせによる発信を防止できます。

【マ行】

マルチNAT機能……………LAN内で使用されるプライベートアドレスを、相手先(インターネットサービスプロバイダ)から通知されるグローバルアドレスに変換する機能です。

マルチダイヤル機能……………ダイヤルしたアクセスポイントにつながらないときに、自動的に別のアクセスポイントにダイヤルします。ひとつの宛先に対してアクセスポイントを3か所まで登録できます。(●P66、89)

無通信監視タイマ……………回線を自動的に切断するためのタイマです。ISDN回線上に一定時間データ通信がなかったときに回線を切断します。

メトリック値……………RIP情報のホップ数を示します。(●P81、82、87、94)

【ラ行】

ローミング……………複数のFT3000R-APの持つワイヤレスLANのエリアを、FT3000R-STを挿入したパソコンを移動しても、設定変更無しにそのままご利用いただける機能です。

【ワ行】

ワイヤレスLANのエリア……………FT3000R-APとFT3000R-STを挿入したパソコン、またはFT3000R-STを挿入したパソコンどうしを無線で通信できる範囲を本書では、ワイヤレスLANのエリアと表記しています。

数字

- 10BASE-T PORT 22
- 10BASE-T PORTランプ 22、24
- 3人でお話する 168、177

アルファベット

- B1ランプ 22、24
- B2ランプ 22、24
- Bandwidth On Demand 234
- BOD機能 234
- CHECKランプ 22、24
- DA64/128 20
- DHCP
 - DHCPサーバ機能 68、69、81
 - DHCP機能 81
 - DHCP機能をサポートするパソコンを
お使いの場合 75
- Domain Name Service 234
- DSU 234
- Dynamic Host Configuration Protocol 234
- ESSID 190
- FT3000R-ST 184
- HLC 164
- HSD 235
- HUB 28、30
- INS
 - INSナンバー・ディスプレイ 160
 - INSネット64をご利用のとき 20
 - INSボイスワープを利用する 166
 - INSボイスワープセレクトを
利用する 166
- INSネット64を使って
 - 端末型ダイヤルアップ接続する 34
- INSネット64を使って
 - ネットワーク型ダイヤルアップ接続する 36
- IP 235
- IPアドレス 235
- IP統計情報 137
- IPフィルタリング機能 55
- IPフィルタリング情報 95、100
 - IPフィルタリング情報(画面) 96、101
- ISDN
 - ISDN S/Tポート 22
 - ISDN Uポート 22
- i・ナンバー 162
- LAN
 - LAN情報 80
 - LAN情報設定(画面) 80
 - LANランプ 22、24
- MP機能 84、235
- NAT 235
- Network Address Translation 235
- OCN 236
 - OCNエコノミー 33
 - OCNエコノミーをマルチNATで利用する 43
 - OCNダイヤルアクセス 33
- ping 130
- POWERランプ 22、24
- PPP受諾認証情報 102
 - PPP受諾認証情報(画面) 102
- PPPフレームトレース 144
- ProxyDNS
 - ProxyDNS機能 106
 - ProxyDNS情報 106
 - ProxyDNS情報(画面) 106
 - ProxyDNS情報設定・逆引き(画面) 108
 - ProxyDNS情報設定・順引き(画面) 107
- Q&A 218
- RIP 236
 - RIP機能 81
- Routing Information Protocol 236
- syslogサーバ 140
- TCP/IP 187
- TELポートのHLCを設定する 164
- URLフィルタ機能 58
- WLANランプ 22、24
- WWWブラウザ 28、61、236

五十音

【ア行】

相手情報	83
相手情報設定 (画面)	83
アクセスサーバ機能	49
アドレス	
アドレス変換	67
アドレス変換機能	75、237
アドレス割当てタイマ	87
アナログ	
アナログ共通情報	116
アナログ共通情報(画面)	116
アナログポート1/2情報	118
アナログポート1/2情報(画面)	118
アナログ通信	136
アナログ通信機器をお使いになるとき	151
インターネットサービスプロバイダ	20
エラーログ情報	145
遠隔地のパソコンからLANにアクセスする	39
オープン・コンピュータ・ネットワーク	236
お買い求め時の設定に戻す	228
オンラインサポート	147

【カ行】

回線	
回線インタフェース	78
回線を強制切断する	124
回線を手動で接続する	127
回線を手動で切断する	128
回線ログ	139
回線情報	78
回線情報設定 (画面)	78
回線接続	
回線接続状況	135
回線接続状況を確認する	124
回線接続保持機能	90
回線接続保持タイマ	79
外線から設定を変更する	175
設定変更用暗証番号を設定する	175
課金	
課金情報	136
課金制御	79
各種回線加入契約	20

各部の名前	22
画面の流れ	63、77
画面の見方	62
かんたん設定	65
アナログポート (画面)	70
インターネットへISDN接続 (画面)	66
インターネットへ専用線接続 (画面)	67
オフィスへISDN接続 (画面)	68
オフィスへ専用線接続 (画面)	69
かんたん操作	123
かんたんフィルタ	66、75
かんたんメニュー	65
疑似フレックスホン	176
疑似TA	115、150
既存のLANに本装置を増設する	35
キャッチホン	167、176
グローバル着信	161
経過時間情報	142
契約の確認	20
月間/週間予約	113
月間/週間予約設定(画面)	113
現在時刻	142
構成定義情報	148
コールバック	
コールバック応答	83、90
コールバック機能	51
コールバック要求	90

【サ行】

サブアドレス	153
サブアドレスを追加して発信する	153
サブアドレス設定を行う	163
サブネットマスク	238
三者通話	168、177
識別着信	155
識別着信情報(画面)	121
識別着信情報設定(画面)	122
自局番号チェック	78
時刻を設定する	131
自己診断	32
システムログ	140
自動時刻設定	103
自動ダイヤル	78、86
手動でチャンネルを減少する	129
手動でチャンネルを増加する	129
準備	28

仕様	244
詳細設定	76
詳細設定メニュー	76
省略値	71
初期画面(トップページ)	61
スケジュール情報	111
スケジュール情報(画面)	112
スタンバイモード	152
静的NAT	87、97
静的NAT情報	97
静的NAT情報設定(画面)	97
製品情報の表示	63
接続	
接続機器の設定を行う	164
接続上の注意	31
接続制限	90
接続手順	30
接続先情報	89
接続先情報設定(画面)	89
設定記入シート	196
設定手順	29、65
セットの確認	21
専用線を利用する	20
操作メニュー	126
装置情報	103
装置情報設定(画面)	103
【夕行】	
タイムサーバ	103、131
ダイヤルイン	161
ダイヤルイン設定	161
ダイヤル桁間タイマ設定を行う	165
着信	
着信音	117
着信転送	170
チャンネル数	129
チャンネル統計情報	138
通常モード	152
通信確認(ping)する	130
通信中転送	169、178
通信前情報通知	119
通信料金表示をクリアする	136
通話中にかかってきた電話を受ける	167、176
通話中に転送する	169、178
停電	151

データ圧縮	68、69、86、98
データ通信	136
デフォルト定義	121、122
テレホーダイ	238
テレホーダイ機能を開始する	125、133
テレホーダイ機能を終了する	125、133
テレホーダイ機能を設定する	132
電源	
電源を入れる	32
電源スイッチ	23
電池カバー	23
電話を受ける	154
電話をかける	153
電話を取りつぐ	158
電話機を利用して設定を変更する	172
電話番号変更	149
電話番号変更予約	114
電話番号変更予約設定(画面)	114
登録した相手の電話番号によって	
着信時の動作を変える	155
トークメッセージ	117、170
トップページ	61
トラブルシューティング	201

【ナ行】

内線	
内線着信音を変える	157
内線通話	157
内線転送	158
認証	53
認証パケット	81、87
認証プロトコル	83
ネットマスク	67、69、80
ネットワークインタフェース	239
ネットワーク型の接続を行う	42
ネットワーク情報	85
ネットワーク情報設定(画面)	86

【ハ行】

バージョン情報	143
パスワード情報	105
パスワード情報設定(画面)	105
パソコン側のMACアドレスを調べる	110
発信	
発信者番号通知を行う	159

発信者番号表示サービス	160
発信専用電話機として使う	153
発信規制情報	120
必要な物品	28
表示メニュー	134
ファームウェア更新	146
ファクス受信の着信音を設定する	164
ファクス無鳴動着信機能	164
付属品	21
フッキング	158、167、169
不特定相手情報	98
不特定相手情報設定(画面)	98
フレックスホンサービスを利用する	167
フレックスホン自動切替	119、167、176
ポート番号とサービス名の対応	93
ポートルーティング情報	92
ポートルーティング機能	93
ポートルーティング情報設定(画面)	93
保守サービス	247
ホストデータベース情報	109
ホストデータベース情報(画面)	109
ホストデータベース情報設定(画面)	110

【マ行】

マルチNAT	239
マルチNAT機能	47
マルチリンクプロトコル機能	235
マルチルーティング機能	59
無通信監視タイマ	66、68、89、98
メトリック値	82、239
メンテナンスメニュー	143

【ラ行】

リセット/イニシャルスイッチ	22、228
リバースパルス送出を行う	171
利用形態	33
ルーティング情報	82、94、141
ルーティング情報設定(画面)	82、94
ログインパスワード	105
ローミング	16、193

【ワ行】

ワイヤレスLAN	182
----------	-----

仕様/保守サービスのご案内

ハードウェア仕様

適用回線	INSネット64 (ISDN基本インタフェース) 高速デジタル専用線 (インタフェース: 64、128kbit/s)
DSU	DSU機能内蔵 (回線極性反転可、DSU機能切り離し可)
接続コネクタ	1ポート: 6ピンモジュラジャック
適用インタフェース形態	P-MP接続
起動方式	呼毎起動
S/T点	2ポート: 8ピンモジュラジャック
LANインタフェース	4ポート (HUB内蔵) 10BASE-T (IEE802.3: 8ピンモジュラジャック)
アナログポート	2ポート: 6ピンモジュラジャック
表示	LED (POWER, CHECK, B1, B2, LAN, LINK1~4, WLAN)
外形寸法 (mm)	約71(W)×約240(D)×約225(H) アンテナ部、縦置スタンド部除く)
質量	約1.4 kg (乾電池を除く)
使用電源	AC100 V (50/60 Hz)
消費電力	約15 W

ワイヤレスLAN仕様

準拠規格	IEEE802.11 RCR STD-33
伝送方式	FH-SS方式 IEEE802.11に準拠した周波数ホッピングスペクトラム拡散方式
伝信周波数範囲	2.4 GHz帯 2.473 GHz~2.495 GHzの23チャンネル
データ伝送速度	2 Mbit/s、1 Mbit/s (自動切替)
端末間の距離	見通し: 約100 m (環境により異なります)
ワイヤレスLANの最大接続数	64台 (推奨 10台以下)
対応パソコン	FT3000R-STが動作するパソコン

ソフトウェア仕様

ルータ機能に関する仕様

ルーティング対象プロトコル	IP		
ルーティングプロトコル	スタティック、RIP、RIP2 (VLSM対応)		
WANプロトコル	PPP、MP (BAP、BACP)		
データ圧縮	VJ (Van Jacobson) TCPヘッダ圧縮		
セキュリティ	PAP/CHAP (最大32件)、管理パスワード、 IPフィルタ：アドレス/ポート/IN/OUT/発信 (最大32)		
設定手段	WWWブラウザ：かんたん設定/詳細設定		
ロギング	回線ログ、課金情報、PPPフレームトレース、syslog		
回線接続先	登録可能数	16か所	
	同時接続	2か所同時	
回線接続/切断契機	自動、または手動		
アドレス変換機能	マルチNAT		
コールバック	CBCP方式、無課金方式		
PIAFS対応	発信/着信可能		
接続相手識別	発信者番号通知による識別、認証IDによる識別		
不特定相手着信	あり		
簡単/便利機能	テレホーダイ対応		
	マルチダイヤル機能	最大3か所	
	DHCPサーバ機能	最大32台	
	DHCPスタティック機能 (IPアドレス固定)		
	ProxyDNS機能	DNSサーバ自動切り替え機能	
		DNSサーバアドレスの自動取得機能 (RFC1877対応)	
		DNSサーバ機能	
	URLフィルタ機能		
	ProxyARP		
	時刻機能	手動設定、またはTIMEプロトコル/SNTPによる取得	
	マルチルーティング機能	ソースアドレス単位	
		ポート単位	
		課金単位の混在設定可能	
	SNMP	標準MIB対応	
	最適切断タイマ		
	課金制御機能	接続禁止時間設定	
		超過課金アラーム (syslog出力)	
	かんたんフィルタ		
	リモートパワーオン機能 (Wake up on LAN対応機器の遠隔起動)		
	スケジュール機能		
疑似TA機能			
オンラインサポート機能			
ワンタイムパスワード対応	手動回線接続による		
かんたん操作			
ファームウェアバージョンアップ	オンラインバージョンアップ		

準備編

ルータ編

ワイヤレスLAN編

資料編

仕様/保守サービスのご案内

アナログ機能に関する仕様

発着信	ナンバー・ディスプレイ
	ダイヤルイン
	グローバル着信
	i・ナンバー
	FAX無鳴動着信（識別・強制を選択可能）
	識別着信（相手ごとにポート優先、ポート指定、拒否を設定可能）
	リング音選択可（3種類から選択可）
	発信者番号通知選択可
	優先ポート着信選択可
	発着信専用選択可
	ダイヤル桁間タイマ
	リバースパルス送出
フレックスホン対応	キャッチホン/三者通話/通信中転送/着信転送
疑似フレックスホン	キャッチホン/三者通話/通信中転送/着信転送
INSボイスワープ対応	あり
内線機能	内線通話
	内線転送
補助機能	発着信記録（不在時にも相手電話番号記録）
	受話音量調整（3段階に設定可能）
	フッキング時間選択可（3段階に設定可能）

保守サービスのご案内

保証について

保証期間（1年間）中の故障につきましては、「保証書」の記載にもとづき当社が無償で修理いたしますので、「保証書」は大切に保管してください。（詳しくは「保証書」の無料修理規定をご覧ください。）

保守サービスについて

保証期間後においても、引き続き安心してご利用いただける「定額保守サービス」と、故障修理のつど料金をいただく「実費保守サービス」があります。

当社では、安心して通信機器をご利用いただける定額保守サービスをお勧めしています。

保守サービスの種類は

定額保守サービス	毎月一定の料金をお支払いいただき、故障時には当社が無料で修理を行うサービスです。
実費保守サービス	修理に要した費用をいただきます。 （修理費として、お客様宅へおうかがいするための費用および修理に要する技術的費用・部品代をいただきます。） （故障内容によっては高額になる場合もありますのでご了承ください。） 当社のサービス取扱所まで商品をお持ちいただいた場合は、お客様宅へおうかがいするための費用が不要になります。

故障の場合は


故障した場合のお問い合わせは局番なしの113番へご連絡ください。

お話し中調べは

お話し中調べは局番なしの114番へご連絡ください。

その他

定額保守サービス料金については、NTT通信機器お取扱相談センターへお気軽にご相談ください。

NTT通信機器お取扱相談センター： 0120 - 109217

電話番号をお間違えにならないように、ご注意願います。

補修用部品の保有期間について

本商品の補修用性能部品（商品の性能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後、7年間保有しています。

注 意

本製品は、外国為替および外国貿易法が定める規制貨物に該当いたします。
本製品は、国内でのご利用を前提としたものでありますので、日本国外へ持ち出す場合は、同法に基づく輸出許可等必要な手続きをお取りください。


NOTICE

This product, which is intended for use in Japan, is a controlled product regulated under the Japanese Foreign Exchange and Foreign Trade Law. When you plan to export or take this product out of Japan, please obtain a permission, as required by the Law and related regulations, from the Japanese Government.



この取扱説明書は、
エコマーク認定の
再生紙を使用して
います。

使い方等でご不明の点がございましたら、NTT通信機器お取扱相談センタへお気軽にご相談ください。

NTT通信機器お取扱相談センタ： 0120 - 109217

トークニーナ

電話番号をお間違えにならないように、ご注意願います。

©2000 NTTEAST・NTTWEST



本2075-1(2000.2)
IPMATE FT3000R-APトリセツ